実家訪問に湾岸特写! 今月もRENAと中井りん!!

kamipro 紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

enterbrain MOOK

2010
152
特別定価940yen


ジェイソン・"メイヘム"・ミラー
山本"KID"徳郁×福田 力
M・フリードマン×J・ハンセン
藤波辰爾／谷津嘉章
ニック・ディアス／若麒麟
髙阪 剛／菊野克紀

今回の特集は音楽と格闘技です! ♪うふふ〜(ドラゴン調)

NO MUSIC, NO BATTLE

ANNIVERSARY 10th thanks! eb!



格闘聖地・最強のショップ街・武道発祥の地
いざ、水道橋!
後楽園ホール
東京ドーム
JCBホール
都営三田線 水道橋A2
講道館
デポマート
尚武堂
マーシャルワールド
水道橋商会
西口
JR水道橋駅
東口
マクドナルド
バトルロイヤル
チャンピオン
闘魂ショップ
富士そば
フィットネスショップ
神社
東京歯科大
白山通り
闘道館
(1F居酒屋どんたく)
マイペンライ
薬局
マニア館
イサミ
牛角
薬局
神保町↓
アカデミアアーザ
(含む大道塾水道橋同好会)
T-1
テレビ東京系
「開運!なんでも鑑定団」
に当館長が鑑定士として出演
通販歓迎! マスク,ベルト,Tシャツ,ビデオ,本,雑誌,パンフ,CD,フィギュア他...50,000点!
http://www.toudoukan.com 毎日夜9時、連日約100点新入荷商品を更新しています!!
▼携帯からも注文できます!
闘道館 検索
詳しくはWebで!
あなたのお宝、高価買取りいたします!
お持込の場合
営業時間内に当館へ直接お持込ください。その場ですぐ査定→お支払いします!
※一部高額商品は一度お預かりさせていただき、後ほどご連絡する場合もございます。
配送の場合
「商品が多すぎる」「家から遠い」などの場合は、郵送でお送りください。
届き次第24時間以内に査定をして、ご連絡後、指定の口座にすぐ入金します。
※送料はお客様ご負担とさせていただきます。在庫状況により一部買取できない商品もございますので、
お送り頂く前に必ず必ず電話・メールなどでご連絡ください。
事前におおよその買取金額をお知りになりたい場合はメール (info@toudoukan.com)
またはFAX (03-3512-2080) などで具体的なタイトルをお知らせください 早急にお返事いたします。
格闘技プロレス買取販売!世界最強の品揃え!
闘道館
〒101-0061東京都千代田区三崎町2-9-9ナガヤビル5F&6F
TEL・FAX 03-3512-2080 / 営業時間 11:00-21:00 (年中無休)

kamipro

2010 No.152 CONTENTS

表紙写真／望月 研

あの名場面がメロディーとともによみがえる！

特集 闘う音楽



MMA & K-1

MUSIC

PRO-WRESTLING

kamipro Special

Columns



格闘技は止まっているのか？

“魔王”秋山成勲が『UFC120』英国ロンドン大会で現地の英雄に惜しくも敗れた。その激戦の模様は４ページからレポートされているが、今回の試合で秋山は3戦連続となる「ファイト・オブ・ザ・ナイト」（いわゆる大会ベストバウト賞）を獲得。この記録はUFC始まって以来の快挙であるという……。

それにしても、だ。かつては「とりあえず勝つこと」にこだわり、相手を選び、自分の商品価値を磨いてきたのが秋山だった。そのセルフプロデュースぶりが鼻につき、嫌悪感を抱くファンも少なくはなかったが、現在は一回り体格で上回る相手に真っ向から実力勝負を挑み、戦績では負け越しているものの“競技者”としての評価を上げている。

ところが、その秋山成勲の健闘ぶりは、かつて格闘技に熱狂した世間にはまったくも伝えられていない——（試合があったことすら知らない潜在的格闘技ファンは多い）。「とりあえず勝つこと」は“対世間”にとって重要なプロモーションだったのだろうし、さらに言えば、世間は“あの大晦日”で止まったままなのかもしれない。それは秋山成勲にかぎらず、たとえばTBSの格闘技中継でも、格闘技の現在進行形の姿は映し出されていない。そこで繰り返されているのは既存個性の消費にすぎないのだ。

格闘技そのものの露出は“あの大晦日”があった2006年を最後に下降の一途をたどっている。それはフジテレビショックがあった年でもある。それ以降の大晦日を彩ったのは、PRIDEの散開式、桜庭和志vs田村潔司、魔娑斗引退……いずれもゼロゼロ年代の精算であった。吉田秀彦の引退や、ヒョードル敗北も時代の終焉として伝えられてきた。

日本の格闘技は、あのときから止まったままなのか——。いや、我々が目にしているのは、ゼロゼロ年代のままの停止ではないか。2010年下半期の格闘技界は神がかった名勝負が続出し、次世代を担うスターが次々と輩出されている。ゼロゼロ年代の格闘技は脈を打って生き生きと動いているのだ。

「世間に届く、届かない」という議論もあるだろうが、「テレビ格闘技」が崩壊し、そもそも大衆から分衆の時代に移行したいまにおいては新たなモノサシは必要だろう。

破壊と建設。格闘技は死に、格闘技が生まれた。新しい何かが飛び出そうとしているのだ！


FEVER
YAMAHA
Marshall
Marshall



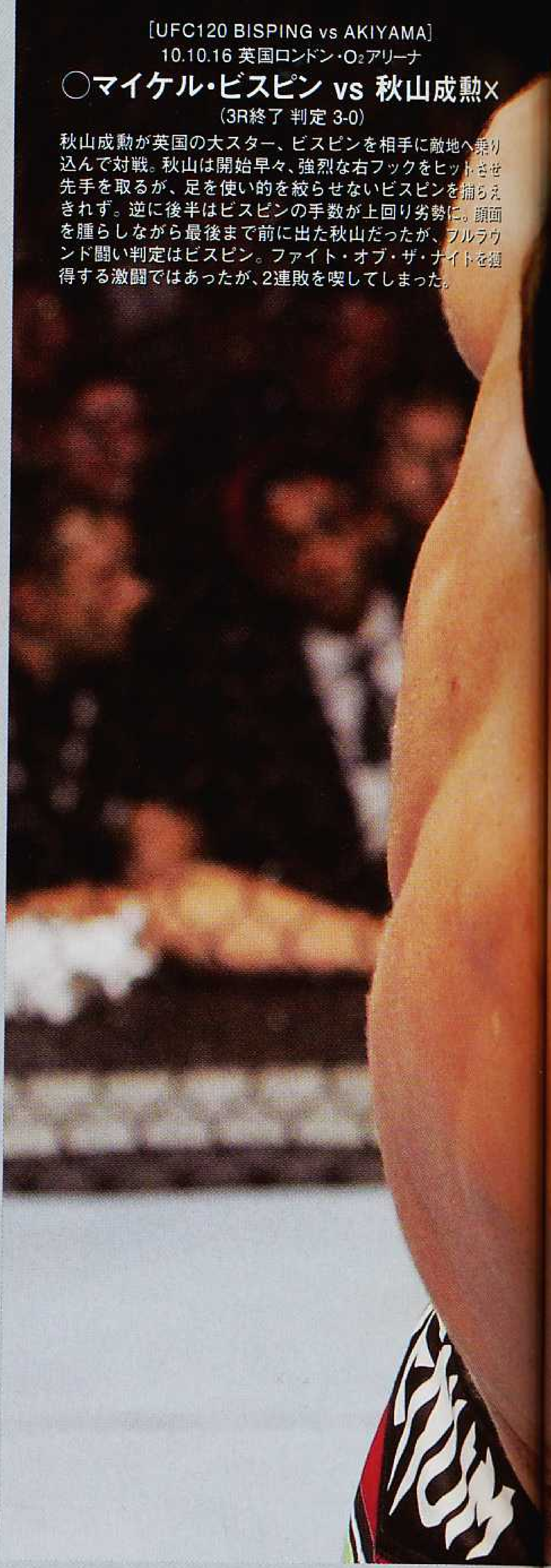
2010.10.16 O_2 ARENA LONDON,UK
UFC120 BISPING vs AKIYAMA

“魔王”ではない 生身の秋山成勲

10.16『UFC120』ロンドン大会。秋山成勲が敵地に乗り込み、地元の英雄マイケル・ビスピンと対戦した。
3試合連続ファイト・オブ・ザ・ナイトを獲得する激闘を展開しながら、判定で敗れた秋山。
そこにいたのは、かつての“魔王”ではなかった――。

文／高橋ターヤン　撮影／Josh Hedges（UFC）　構成／堀江ガンツ

対するUFC首脳陣の信頼は、すでにここまできているのだ。



[UFC120 BISPING vs AKIYAMA]
10.10.16 英国ロンドン・O_2アリーナ
○マイケル・ビスピン vs 秋山成勲×
(3R終了 判定 3-0)
秋山成勲が英国の大スター、ビスピンを相手に敵地へ乗り込んで対戦。秋山は開始早々、強烈な右フックをヒットさせ先手を取るが、足を使い的を絞らせないビスピンを捕らえきれず。逆に後半はビスピンの手数が上回り劣勢に。顔面を腫らしながら最後まで前に出た秋山だったが、フルラウンド闘い判定はビスピン。ファイト・オブ・ザ・ナイトを獲得する激闘ではあったが、2連敗を喫してしまった。

ありとあらゆるものを飲み込みながら、空前絶後の巨大帝国への道を驀進し続けているUFC。93年にコロラド州デンバーで産声を上げた残虐きわまりないこのコンバットスポーツ・イベントは、2001年にズッファ社に買収されて以降、破竹の勢いで成長を続けている。

そしてUFC躍進の原動力となったのは、『ジ・アルティメット・ファイター』(以下、『TUF』)というタイトルのリアリティ番組シリーズである。この『TUF』出身のファイターは、人気・実力を兼ね備えた強力な推進力となってUFC人気を爆発させ、その人気はアメリカだけでなく、世界各地へと広がり続けている。そしてUFCは、PRIDE、エリートXC、WFA、アフリクションといった数々のライバル団体を完膚なきまでに叩き潰し、それらを吸収することでさらに巨大化の一途をたどっている。そして2010年10月16日に、イギリスはロンドンのO2アリーナで開催された『UFC120』は、ある意味その結晶とも言うべき大会であった。

イギリスというアメリカから5500キロ離れたこの国では、いままさにUFCは国民的な人気スポーツにならんとしている。とくにイギリスでのUFC人気を牽引しているのは、『TUF』第3シーズン覇者で、ミドル級のトップコンテンダーであるマイケル・ビスピン。ビスピンはイギリスの国技であるサッカー選手と肩を並べるほどの人気と知名度を誇るセレブ選手で、数々の実力者とアグレッシブな闘いを見せてきたファイター。そんなビスピンが、今回のUFCイギリス大会の顔を務めるのは至極当然のことと言える。

しかしその相手に選ばれたのは、UFC戦績1勝1敗の秋山成勲。キャリアはすでに17戦だが、コアなファンはともかく、ここ数年でUFC人気が一気に爆発したイギリスのライト層にはまったくなじみのない選手であった。しかも秋山は、前戦でビスピンが2年前に下しているクリス・リーベンに一本負けをした選手である。当日会場に詰めかけた多くのファン(UFCヨーロッパ開催では最高の1万7000人以上を集客)は、ビスピンの豪快なKOを目当てに来場していたことだろう。

かといってUFCは決してビスピンの噛ませ犬として秋山を選出したわけではない。秋山は日本のメガイベント出身だけあって大舞台の経験は豊富で、諸々の事情からアウェーでの試合は手なれたもの。世界レベルの柔道家らしく豪快なテイクダウン技術とディフェンス能力を持ち、さらに鋭い打撃と抜群の打たれ強さ、そして2試合連続ファイト・オブ・ザ・ナイトを獲得するほどアグレッシブリーで、ド素人が観ても熱狂できる試合を作れる要素が満載の選手なのだ。失敗の許されないイギリス大会でのメインを、UFC首脳陣がビスピンと秋山に自信を持って任せたことは容易に想像できる。

ちなみにかつてUFCのナンバーシリーズでメインイベンターを務めた日本人は3人のみ。『UFC18』でバス・ルッテンとヘビー級タイトル挑戦権を賭けて闘った髙阪剛。『UFC29』でミドル級王者ティト・オーティズに挑んだ近藤有己。そして『UFC72』でミドル級王座挑戦者決定戦をリッチ・フランクリンと闘った岡見勇信だ。しかしズッファ体制下でのメガイベントのメインに抜擢されたのは秋山が初めてであり、さらに大会名に個人名が入った日本人は秋山が最初となる。秋山に対するUFC首脳陣の信頼は、すでにここまできているのだ。

試合はUFC首脳陣の予想どおり、序盤から激しい打ち合いが続く壮絶な試合に。途中お互いのローブローもあったが、火の出るような強烈な打撃戦を展開しながらも、最後までスポーツマンシップを忘れることがないという、エクストリームスポーツとしてのMMAを世界で展開しようとしているUFCにとっては、まさに100点満点の試合となった。

結果的に秋山は、激しくも爽やかで、それでいて最終的に地元のビスピンに花を持たせるという、まさにUFCが望んだとおりの仕事をこなしたことになる。このことは、日本のメガイベントが最後までコントロールすることができず、その強さと強烈な存在感で「魔王」の異名をほしいままにした秋山成勲でさえ、UFCではミドル級のいち選手でしかないことを、我々日本のファンに強く印象づけた。ここ数戦の秋山の闘いは、かつての〝ヌルヌル事件〟で決して秋山を許すまじと思っている日本の格闘技ファンですら、思わず応援したくなるものだったのではないだろうか?まさに筆者はその一人だ。

秋山は今回の試合で、UFCデビュー戦から3戦連続ファイト・オブ・ザ・ナイトを受賞するUFC史上初の快挙を成し遂げた。この試合結果から、UFCが秋山をリリースすることはないだろう。顔も知られず、言葉も通じないまま異国のオクタゴンに放り込まれても、試合だけで観客をこれだけ熱狂させるファイターは稀有な存在だからだ。

秋山の次戦は、UFCにとって失敗の許されない大会となるであろう。秋山はその期待に応えるファイターなのである。

Z





——いまKJヌーンとの5ラウンドの激闘を終えたばかりですけど、試合の感想を聞かせてください。

暴力柔術が“拳王”KJに殴り勝ち!

NICK DIAZ

ニック・ディアス







「俺も『Dynamite!!』で闘わせてくれ」

10.9ストライクフォース・サンノゼ大会でKJヌーンを破り、見事にウェルター級王座の防衛をはたしたニック・ディアス。その興奮が冷めやらぬ試合直後に、本誌が独占インタビュー。噂される盟友・メレンデスと青木の再戦や、自身の大晦日登場についてなど、気になることを聞いてみた。

聞き手／石井史彦　構成／堀江ガンツ　試合写真／Esthe Lin（STRIKEFORCE）

――いまKJヌーンとの5ラウンドの激闘を終えたばかりですけど、試合の感想を聞かせてください。

ニック　いまの試合を観ていただろう？　観てのとおりのタフファイトだったよ。KJをどうやったら倒せるかって、5ラウンド25分間ずっとトライしてたんだけどね、KOまではできなかった。

――今日の勝因はなんだったと思いますか？

ニック　俺のほうが（ボクサーでもある）KJより、スタンドアップのゲームが優れていたっていうことだよ。試合は判定になったけど、ほとんどスタンドで闘って俺が勝ったんだから、結果がそれを証明しているだろう？

――もともと、スタンドで勝負する作戦だったんですか？

ニック　ああ。トレーニングもボクシングを中心にやっていたし、とにかくスタンドアップでKJをKOすることだけを狙っていたんだ。もちろんKJのあの重いパンチをもらう覚悟でね。

――2回闘ってみて、KJヌーンをどう評価していますか？

ニック　KJはグレートファイターだよ。ただ、ベストは155ポンド（ライト級）で試合をすることじゃないのかい？　スピードのある動きをするので、テイクダウンを取らせてくれないから、ウェルター級でも充分通用するんだけど。俺にとっては相性のいい相手じゃない。すばしっこくてつかまえにくく、パンチはスピードがあるのに、重量級のような重さだ。KJのスピードは大きな武器だし、動きそのものは素晴らしいんだよ。ただ、俺はすべての局面で強くなることを望んでいるから、俺が求める強さとは違うけどね。



［10.10.9 Strikeforce28］
米国カリフォルニア州サンノゼ・HPパビリオン
Strikeforce世界ウェルター級選手権
○ニック・ディアス vs KJヌーン×
（5R終了 判定3-0）
過去に流血TKO負けを喫している因縁のKJヌーンとの雪辱戦。序盤から激しい打撃戦が繰り広げられると、2Rに右目をカットしてまたしても流血を強いられたニック。しかし、初回から通して手数でKJを上回り、王座防衛に成功した。

メイヘムはケージの中ではなくて その裏のほうでぶちのめしてやるよ

——因縁の相手と防衛をはたし、次は誰と闘いたいですか？

ニック　とくに指名することはない。俺のベルトに挑戦したいヤツは誰だって相手してやるよ。

——スコット・コーカーCEOは、次の挑戦者候補としてポール・デイリー、エヴァンゲリスタ・サイボーグの名前を挙げていますが、どう評価していますか？

ニック　そいつらは誰なんだい？　どこのどいつか知らないし、聞いたこともない。俺の視界に入ってきたら、叩きのめしてやるよ。

——階級は上ですが、メイヘム・ミラーはどうですか？

ニック　あいつはケージじゃなくて、その裏のほうでぶちのめしてやるよ（実際、このあとバックステージでニックとメイヘムの乱闘騒ぎが起こった！）。

——先月のDREAMでそのメイヘムが、桜庭和志選手から初めてタップを奪いましたが、その結果についてどう思いますか？

ニック　サクラバは俺のヒーローなんだ。そしてメイヘムのヤツも「サクラバは俺のヒーロー」とか言ってるんだろ？　バカ言ってんじゃないって。自分たちのヒーローが歳をとってから試合を受けて、パンチを入れて、絞め落とすなんて最低なヤツさ。ここアメリカでは、自分がトップレベルの現役ファイターだって認識している人間は、プライムタイムをすぎたシニアとの対戦は避けるものなんだよ。アンフェアだからね。日本ではそれもいいのかもしれないけど、アメリカではオールドマンとは試合をしないんだ。メイヘムが「俺はサクラバから初めてタップを奪った男だ」なんて言ってたら笑われるし、軽蔑されるだけだろうね。

——一時は日本で桜庭和志vsニック・ディアスが観たいなんて声もあったんですけどね。

ニック　それは俺が断るよ。サクラバとは試合をするより、一緒にトレーニングをしたり、話をして彼の経験を聞いてみたいね。

——その日本では、大晦日にメレンデスvs青木真也の再戦が噂されていますが、この試合が実現したら、どうなると予想しますか？

ニック　おいおい、またやるのかい？（笑）。アオキは今年の4月に完敗したばかりだぜ？　半年やそこらで追いついてるとは思えない。またメレンデスに叩きのめされるだけさ。もちろんアオキはグッドファイターであることは間違いないけど、4月の結果をくつがえすには、まだ時間が必要だろう。

——再戦は早すぎると思いますか？

ニック　俺はあまり賛成しないね。どちらに転んでもおかしくない微妙な判定だったらやる意味もあるだろうけど、4月の試合はメレンデスが5ラウンドすべてをコントロールしていた。その相手と再戦して勝ったところで、メレンデスが得るものってなんなんだ？　負けたときのリス

クしかないじゃないか。もちろん俺はメ
レンデスが負けるなんて思ってはいない

ゲームプランは前回と同じというわけに
はいかないだろうけど、リングになること

AZ

でも、あの差が埋められるとは思えないけ
ど。

イーストコースト・グレイシーファイター
を代表する一人だからね。じつはこのあ

の対戦は避けるものなんだよ。アンフェ

のってなんなんだ？　負けたときのリス

アオキと再戦して勝ったところで メレンデスが得るものってなんなんだ？

クしかないじゃないか。もちろん俺はメレンデスが負けるなんて思ってはいないけど、モチベーションに影響が出ないかどうかだけは心配だよ。それにアオキはデンジャラスなファイターであることは間違いないから、何があってもおかしくはないしね。

——まあ、メレンデスにとってあまりメリットは感じないマッチメイクではあるでしょうね。

ニック　だいたいアオキはメレンデスに負けたあと、俺たちのいるシーザー・グレイシー・アカデミーで一緒に練習するんじゃなかったのか？　そんな話をしていたよな？

——忘れてましたけど、確かにそうでした（笑）。

ニック　その後、とくになんの連絡もなく、今度は再戦させろってどういうことなんだよ？

——シーザーチームと敵対するのかどうかのか、ハッキリさせろ、というわけですね。

ニック　まあ、もし再戦が実現するなら、チームで一丸となって、アオキが二度とメレンデスとやりたいなんて思わないくらいに、返り討ちにするだけだよ。

——リングとケージ、日本とアメリカと、前回と環境が違うのは、試合に影響すると思いますか？

ニック　ファイターによって好みが分かれるけど、メレンデスはケージでもリングでもまったく気にしないヤツだからね。ゲームプランは前回と同じというわけにはいかないだろうけど、リングになることで試合に影響が出ることなんて、考えられないね。

——青木選手にとっては、リングはアドバンテージになると思いますか？

ニック　その可能性はあるだろう。あと前回、あれだけ赤っ恥をかかされて、アオキは敗戦から学ぶものがたくさんあっただろうけど、逆にメレンデスはアオキ戦で学ぶことはなかっただろうからね。それでも、あの差が埋められるとは思えないけど。

——メレンデスはどう闘うべきだと思いますか？

ニック　前回と変わらないよ。いかに自分のペースで試合をコントロールできるかにかかっているだろう。逆にアオキは敗戦で学んだものを活かして、どう自分自身を修正してくるかが問題じゃないか。

NICK DIAZ



NICK DIAZ■1983年8月2日、米国カリフォルニア州出身。01年にデビュー。今年1月にはマリウス・ザロムスキーとの王座決定戦を制し、ストライクフォース世界ウェルター級王者となった。183cm、77kg。

——いまアメリカのwebサイトでは、ライト級ランキングが1位エドガー、2位メレンデス、3位青木になっているところが多いですが、この順位は妥当だと思いますか？

ニック　前にも話したとおり、エドガーは俺たちの仲間といってもいい存在なんだ。イーストコースト・グレイシーファイターを代表する一人だからね。じつはこのあいだシーザー（・グレイシー）のもとにエドガーから電話があって、俺と弟（ネイト・ディアス）が11月にイーストコーストに行くことになってるんだよ。

——へえ、エドガーvsグレイ・メイナード戦を前に合同練習ですか。

ニック　ああ。だからランキングの1位がエドガーで、2位がメレンデスということは、チーム・グレイシーがトップを独占してるってことさ（笑）。

——ちなみにニック・ディアスがウェルター級のトップ5に入ってない（6位か9位）ことについて、どう思いますか？

ニック　くだらないね。俺より上位にランクされてる連中は、俺と闘ったこともないヤツらだからね。実際に闘えば、本当のランキングがわかるはずさ。

——メレンデスの『Dynamite!!』出場は濃厚のようですが、あなたも大晦日の大会に出場したい気持ちはありますか？

ニック　もちろんさ！　大好きな日本で、ケージではなくリングで試合がしたいんだ。金も稼ぎたいしね。いいオファーを待っているよ。

——では、それが決まったら、また取材させてください。

ニック　OK！（『kamipro』を指しながら）アイ・ラブ・イット！　アイ・ラブ・ザット！　いままでの人生のなかで、自分をここまで大きく取り上げてくれた雑誌は初めてなんだ。『kamipro』には本当に感謝してるよ。また、いつでも取材に来てくれ！

【10年10月9日／米国カリフォルニア州サンノゼ・HPパビリオンにて収録】

——4月の青木真也戦以来、試合から遠ざかってますが、体調はいかがですか?

メレンデス　体調は見てのとおりさ（笑）。

トレーニングを行なっているんだ。違いといえば、以前と比べてより科学的なトレーニングを取り入れていることだね。そ

る。



パパになったエルニーニョ
青木真也との“世紀の再戦”に自信満々!

Gilbert Melendez
ギルバート・メレンデス



「アオキとの再戦を受けてもいい。俺は何も恐れることはないからね」

大晦日の『Dynamite!!』で、“世紀の再戦”メレンデスvs青木真也が実現するのではと、噂になっている。そこで本誌は、10.9ストライクフォース・サンノゼ大会の会場でメレンデス本人に直撃! すると早くもリマッチへ向け自信満々のコメントが返ってきた!

聞き手&撮影/石井史彦　構成/堀江ガンツ　試合写真/Esthe Lin（STRIKEFORCE）

――4月の青木真也戦以来、試合から遠ざかってますが、体調はいかがですか?

メレンデス　体調は見てのとおりさ（笑）。野生のアニマルのように最高で、今日も5分5ラウンドのあと、3分4ラウンドのスパーリングをしてきたところだよ。

――まさに絶好調って感じですか。

メレンデス　明日にだって試合ができる状態だよ。

――試合から離れているあいだ、お子さんが生まれて、生活は変わりましたか?

メレンデス　昔、プロとして生活しようって決めてから、同じライフスタイルを送ってきたんだ。トレーニングを欠かさず、よい食事をして、しっかり睡眠をとるということね。それは娘が生まれてからも変わらないよ。ただ、確かに娘が生まれてから1カ月間はタフだったし、これから生活費を稼がなきゃいけないから、昔より責任感を感じるけど、基本的に俺は俺のままさ。

――でも、赤ん坊は手がかかって大変でしょう。

メレンデス　そこはワイフが頑張ってくれている。夜中に娘が起きても彼女がしっかり世話してくれるから俺は心配ないんだ。

――ファイター、メレンデスに集中できる環境を作ってくれている、と。できた嫁ですね（笑）。

メレンデス　ホント感謝してるよ。できすぎた嫁さ、ノロケになるけどね（笑）。

――では、もう復帰に向けた本格的なトレーニングも再開していますか?

メレンデス　トレーニングはアオキ戦のあとから休まずやっているよ。試合で拳を痛めたから一週間は休養にあてたけど、その後は走ったり基礎体力のトレーニングを開始して、約2カ月半前から本格的なトレーニングを行なっているんだ。違いといえば、以前と比べてより科学的なトレーニングを取り入れていることだね。その成果が次の試合から出るんじゃないかと楽しみにしているんだ。

――その次の試合は、大晦日に日本で青木真也選手との再戦になるという噂がありますが、すでに正式なオファーはありましたか?

メレンデス　オファーがあったとは聞いてないけど、大晦日に日本で試合をすることは、昔からの楽しみなんだ。だから、俺自身はそれが実現することを期待しているし、ひさしぶりに日本のファンの前でライブで俺の闘いを披露したいね。

――では、DREAMからオファーが来たら受けるつもりはある、と。

メレンデス　ボス（スコット・コーカー）が「試合をするように」って言ってきたら受ける予定さ。自分のキャリアにとって、またビジネス的にプラスになるんであれば、なおさらのことだよ。アオキとの再戦について、俺は何も恐れることはないしね。もちろん、ファイターは敗戦から学ぶことが大きいだろうから、成長したアオキの姿を見ることになるとは思うけどね。

――メレンデスvs青木戦について、9月末にスコットCEOにインタビューしたら「メレンデス次第だ」と言ってましたよ。

メレンデス　そうなのかい? じゃあ、ぜひ実現させてほしいね。しばらく日本で試合をしていないから、日本のファンにも会いたいんだよ。日本に行けば、もちろんアオキのファンもたくさんいるだろうけど、俺にも修斗、PRIDE、ストライクフォースと、ずっと応援してくれている日本のファンがいるって信じてるんだ。

――復帰戦の相手が前回と同じ相手、しか

もフルマークで勝利している相手になることについてはどう思いますか？

メレンデス　復帰戦が同じアオキでもOKさ。俺たちは団体のチャンピオン同士だから、ホーム＆アウェーで闘うのがフェアだと思うしね。おそらく今度はアオキにテイクダウンを取られてしまうと思うけど、前回だってテイクダウンされることを想定して試合に備えていたからね。彼がヒールフックやレッグロックを狙ってきても、対策はすでにできているんだよ。もちろん今度は違ったアオキになっているだろうけど、心配はしてないね。

――日本で再戦するならリングで闘うことになると思いますが、アメリカではなく日本で闘うことで注意すべき点はありますか？

メレンデス　やはりケージではなく、リングでやるということは大きいよ。べつにリングがやりにくいわけじゃないけど、ケージと違ってとくにロープ際にいったときなど、どうしてもレフェリーが試合の流れに大きな影響を与えてしまうことが問題なんだ。たとえば、ケージに押しつけてパンチを放っても試合を止められることはないけど、リングだと相手をロープに押し付けてパンチを出していると「ストップ！ドント・ムーブ！」とか「ノーノー、ブレイク！」って、試合を止められてしまうことが多いだろう？　そういうレフェリーの判断で試合が左右されることが好きじゃないんだ。

――日本のルールはどうですか？

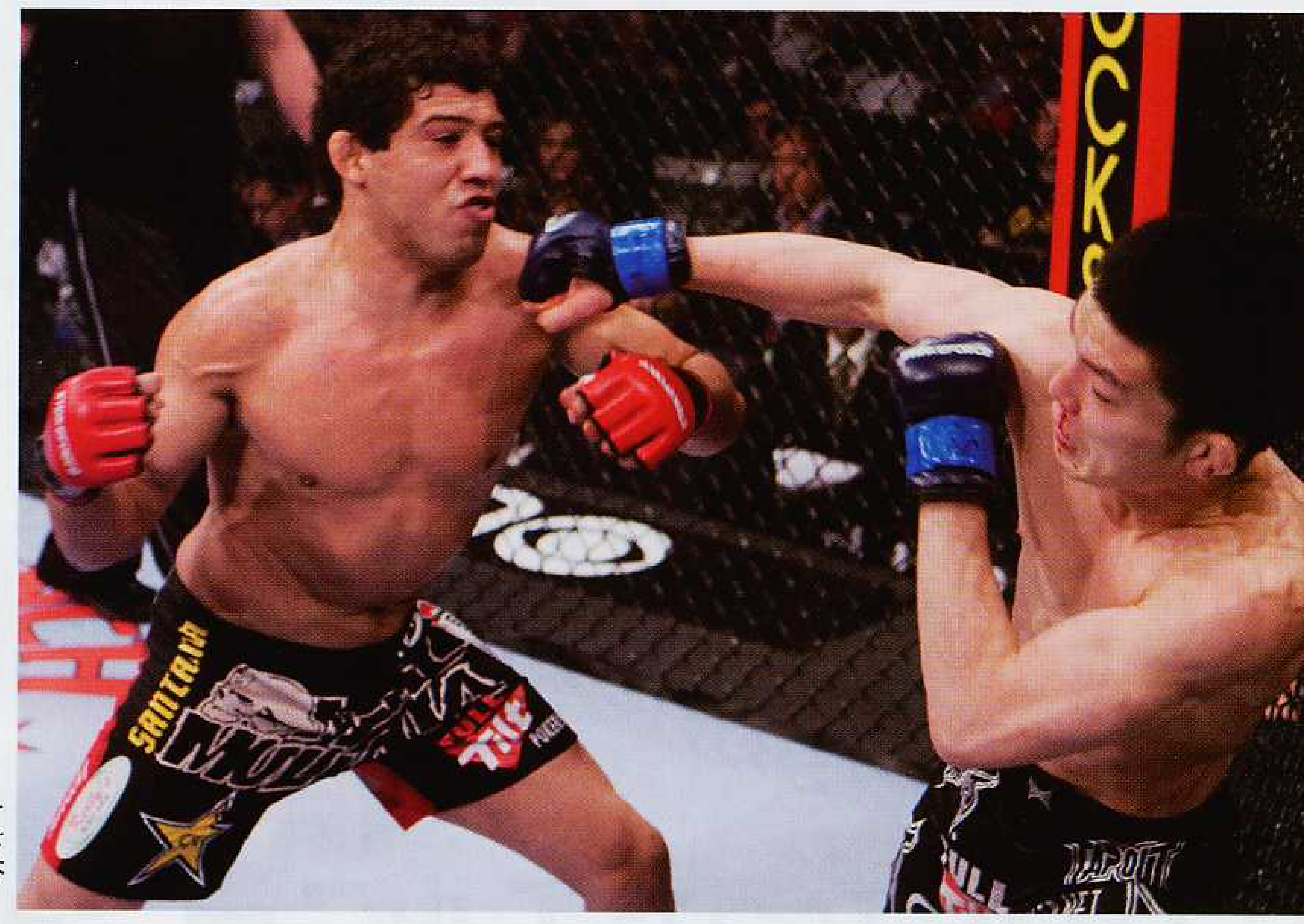
メレンデス　1ラウンドが10分、2ラウンドが5分という形式はグラップラーに有利だろうけど、まったく問題ないよ。ルールの違いも理解しているから、充分に注意は払うけど、それによってメンタル面で影響を受けることはまったくないし、心配もしてないんだ。ところで、いつもブーイングを浴びているレフェリーはなんていったっけ？

――島田レフェリーですね。

メレンデス　彼は俺が日本で試合をするときは、いつもレフェリーをやってくれていたんだ。今回も彼になるのかな？　ブーイングを浴びるようなレフェリングはごめんだけどね（笑）。

――青木戦が実現するなら、やはりDREAMライト級タイトルマッチを希望しますか？

メレンデス　タイトルマッチということになれば、自分にとっても価値のある試合になるから、ぜひそうしてほしいね。ライト級世界トップ3の二人が闘うんだから、当然タイトルマッチになるべきさ。



今年4月のナッシュビル決戦では、ヘキサゴンケージを有効に使い、ほとんどグラウンドに持ち込ませず、青木真也に完勝したメレンデス。大晦日に日本のリングで再戦となると、どう影響してくるか？

リングはやりにくいわけじゃないけど レフェリーに介入されるのが嫌なんだ

――青木選手はあなたに敗れたあと、川尻達也選手をアキレス腱固めで秒殺、マーカス・アウレリオをグラウンドで完封しました。この2試合はご覧になりましたか？

メレンデス　もちろん観たよ。HD Net（米国のケーブルテレビ）を通じてライブで観ているし、そのあとも4～5回は見直している。アオキが見事な勝利を収めてくれたんで、非常にハッピーなんだ。

――どうしてハッピーなんですか？

メレンデス　俺に負けたあと「アオキはもともとそんなに強くない」なんて言い出すヤツが続出したからさ。でも、アオキがカワジリとアウレリオに完勝してくれたことで、「とんでもなく強い相手にメレンデスは勝った」ってことを間接的に証明できたからね（笑）。

――あなたの価値もあらためて上がったわけですね（笑）。

メレンデス　個々の試合について感想を言わせてもらうと、カワジリはヒールホールドのポジションに入られたときに、逆に動いてしまったというのが敗因で、技術面での課題を残してしまった。俺ならあんなミスは犯さないよ。あとアウレリオ戦でアオキは抱き込みに入るタイミングもよく、きれいにテイクダウンを奪っていたことに目を見張ったし、グラウンドで完全にコントロールしたので、あらためて危険な相手だと思ったよ。

――では、再戦した場合、前回以上に難しい相手になると思いますか？

メレンデス　もちろんだよ。アオキは俺に負けたあと、一度すべてを見直して、かなりの練習を積んでいるんだと思う。自分も新しいプランを練って対抗するけど、より難しい相手になることは間違いないよ。

――なんか、もう事実上、試合が決まったかのような口ぶりですね（笑）。

メレンデス　いや、何も決まってないよ（笑）。でも、心の準備もトレーニングの準備もすでにできているってことさ。

――では、ちょっと話は逸れますが、同じライト級の試合でBJペンがフランキー・エドガーに連敗したことについて、どう思いますか？

メレンデス　連敗してもBJはまだまだアメージングなファイターさ。モチベーションが最大の敗因じゃないかな。エドガーのように若くてハングリーなファイターの「絶対に勝つ」というモチベーションに、BJのモチベーションが敵わなかったということさ。

――エドガーについては、どう評価していますか？

BJ　あのBJを相手に2連勝したんだから、その実力は充分証明できていると思う。スピードがあり、試合をコントロールすることに長けた、素晴らしいファイターの一人だね。ただし、戦績を見ると判定が多いんだよ。これはグレイ・メイナードにも同じことが言えるんだけど、俺やカワジリ、エディ・アルバレスのように、倒すか

トムソンvsJZは、JZが勝っていた。でも、いい試合を見せてくれたと思う

倒されるかというエキサイティングな試合が少ないことが、彼を危険なファイターだと認識させない要因になっているんだ。

──あなたは以前「ライト級はBJが1位で自分が2位」と言っていましたが、いまのライト級ランキング、トップ3はどうなっていると思いますか？

メレンデス　某インターネットサイトで言われているようにフランキーが1位、自分が2位、強いて言えばアオキが3位だろう。エドガーはBJを2回、俺はそれまで無敵だったアオキを倒したんだから、1位と2位であることは証明できてるんじゃないかな。

──スコット・コーカーは「メレンデスはエドガーより上。メレンデスvsアオキこそが、ライト級世界ナンバーワンを決める試合だ」と言っていますが、どう思いますか？

メレンデス　いや、俺自身はナンバーワン決定戦だとは言い難いと思う。エドガーのBJを2回破った実績を考えると、俺はナンバー2だからね。ただし、UFCはアメリカ国内だけのリーグみたいなものだからね。それに対し、ストライクフォースvsDREAMはインターナショナルリーグだから、そういう見方をすれば、世界ナンバーワンを決める試合だと言っていいかもしれない。

──8月に五味隆典選手がタイソン・グリフィンにTKO勝ちしましたが、あの試合の感想を聞かせてください。

メレンデス　ゴミがタイソンをKOして

くれて、うれしかったよ。「ファイヤーボール・キッドが復活した！」ってね（笑）。〝ファイヤーボール・キッド〟は俺にとって、MMAの創造的刺激を受ける存在なんだよ。俺のファイトスタイルを見ればわかるだろう？　自分じゃ〝ファイヤーボール・キッド〟と似たところがあると思ってるんだよ、そう思わないかい？

──確かにレスリング出身のハードパンチャーという共通点がありますよね。

メレンデス　ゴミはPRIDE時代にMMAのライト級に多大な影響を与えた男だし、事実、俺も影響を受けているからね。



GILBERT MELENDEZ■1982年4月12日、米国カリフォルニア州出身。04年にデビュー2年で初代WECライト級王者となり、06年にはストライクフォースライト級王座も奪取。08年にジョシュ・トムソンに破れ一度王座転落するが、09年に再び王座奪回。今年4月には青木真也に勝利し初防衛に成功している。175cm、75kg。

Gilbert Melendez

そのファイヤーボール・キッドの復活勝利は、みんなにとってもうれしいことだったんじゃないかい？

──日本のファンはみんな大喜びしましたよ。五味選手は、あなたや青木選手のようなライト級トップファイターの実力をいまでも持っていると思いますか？

メレンデス　もちろんだよ！　ファイヤーボール・キッドが再び燃え上がれば、敵はいないさ。これまでもゴミは、修斗でチャンピオンになったあと敗れたけど、そのあとPRIDEで連勝を重ねてチャンピオンになった。そのあとにも何度か敗戦があったけど、再び復活してきているだろう？　誰にでも波はあるけど、ゴミは這い上がってくる男だと思うよ。ぜひもう一度、タイトルにチャレンジしてほしいし、そのポテンシャルは秘めていると思う。あとはゴミのモチベーションが上がるかどうかだろうね。

──青木選手との再戦のあとは、メレンデスvs五味隆典戦も観てみたいですね。

メレンデス　そんな試合が実現したら、それこそWAR（戦争）そのものになるよ。俺たちのファイトスタイルを考えたら、簡単に想像できるだろう？（笑）。ファンにとっては最高の試合になることは間違いない。俺とジョシュ・トムソンの試合も激しいものだったけど、あれ以上にエキサイティングな試合になるんじゃないかな。

──そのトムソンはJZ（カルバン）と対戦しましたけど、どう思いましたか？

メレンデス　あれはJZが勝った試合だと思うよ。1ラウンドは僅差だったけど、JZはパンチで倒してから、かなりタイトなフロントチョークの体勢に入っている。俺は1ラウンドをJZが取ったと見ているんだ。2ラウンドはジョシュが取り返したけど、3ラウンドはすべての局面でJZがコントロールしていたから、俺の判定は29−28でJZの勝利だ。判定はともかく、二人の素晴らしいファイターが、いい試合を見せてくれたことに感謝しているけどね。

──メインイベントのニック・ディアスvsKJヌーンはどうでしたか？

メレンデス　ニックがボクシングで勝負して、すべてのラウンドを取った試合だよ（笑）。素晴らしい内容の試合で、MMAファンの一人としても満足している。ニックの手数が多かったことが勝因だと思うけど、KJも思ったとおりタフで素晴らしいファイターだということを証明したね。チームのみんなと試合を観ながら「ニックvsKJなら、もう一回観てみたいね！」って話していたところさ。

──なぜニックはKJの得意とするスタンドにこだわったんだと思いますか？

メレンデス　KJはスピードがあり、テイクダウンを取りづらいことがあると思うけど、もともとニックは自分からテイクダウンを取りにいくタイプじゃないんだよ。だから今回は、最初からKJの得意とするスタンドで攻めるプランを立てていたようだね。とにかくチームメイトとして、ニックの勝利はうれしいよ。

──ニックも大晦日に日本での試合を希望していますし、メレンデスとニック・ディアスの揃い踏みを『Dynamite!!』で観たいですね。

メレンデス　そうなれば最高だね！　俺もニックも日本で闘うことが大好きだからね。日本のファンにもよろしく伝えておいてくれ！

【10年10月9日／米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオンにて収録】

青木真也が観た
ジョシュ・トムソンvs JZカルバン

10.9ストライクフォースで行なわれたライト級垂涎の一戦、
トムソンvsカルバン戦を青木真也が分析! 30-27でトムソン勝利という判定結果が物議を醸しているが、
この熱戦をどうとらえたのか? 押忍!

文／青木真也



ストライクフォースの青木分析をいってみよーか!!

やっぱり最大の興味はジョシュ・トムソン vsジェシアス・カバウカンチ（JZカルバンの本名）の試合。青木的にはこの対戦は本当に楽しみで、ワクワクするマッチメイクなんです。

カルバンは青木も対戦したことがあるからわかるのだけど、一発がとにかく強い。それは打撃でもレスリングでも寝技でもとにかく一発で試合を終わらせる武器を持っているということで、対戦するほうとしては本当に怖い相手。でも、観客としてはこれほど魅力的な選手はいない。危険きわまりない選手ほど魅力的!

最近はケガもあり調子を落としてるけども、菊野（克紀）選手との試合で盛り返してきたように感じたから、今回は本当に楽しみなのである。

対するジョシュ・トムソンはオールラウンダーできれいなMMAをする選手というイメージ。メレンデスに勝った試合の蹴りとレスリングのうまさには、何回も見直して参考にした記憶がある。まあメレンデス、トムソンはストライクフォース二枚看板なのだから強いに決まってる。

試合前に青木が思っていたのはカルバンのほうが一発の武器の力はあるけれども、トムソンのうまさでポイントを取られる試合になってしまうんではないかなと予想していた。実際、カルバンはすべての局面で強いから、下になったらリカバーすることはあまりしないし、どこからでも勝負してくる。そこをうまく相手に利用されてトップキープでやられることは充分にありえるかな、と……。逆にカルバンのゲームになったら一気に決まるだろうなと予想。

ではでは、実際の試合はどうなったか?

1ラウンドはカルバンがプレッシャーをかけていく展開から、パンチでバランスを崩させてトムソンがタックルに来たとこをギロチンで捕獲。これはかなり深くキャッチ。カルバンはルタ・リーブリ（ブラジルのサブミッションレスリング）出身ということもあり、ギロチンが得意でハニ・ヤヒーラを極めたり、川尻さんからも取りかけたりしてる。というわけで自信があるのと超アグレッシブファイターというのもあり、下になるのを恐れずにキャッチ!! この積極性は俺も取り入れるべきだと思う。

でも、相手もさすがトムソン。AKAのデイブ・カマリロ柔術コーチに鍛えられてますから……時間がかかるもののしっかり解除して上を取る。カルバンは立つよりも下からラバーを使って三角絞めにトライ。どんだけアグレッシブだよ。三角にあわせてトムソンがパスから肩固めを極めかけて1ラウンド終了。

このラウンド、青木はというか日本ならばカルバン支持だけども、アメリカならばトップ（グラウンドで上をとる）と肩固めでトムソンにつけるジャッジがいてもわからなくはない。というか、トムソンにつけるだろう。判定というのは本当に難しい。判定ネタは最後に書こう。

2ラウンドもカルバンが圧力かけて右左のパンチから組む。お互いテイクダウンの重要性は理解してるから四つの攻防をこだわる。トムソンはケージを背にバランスを保ち、体勢を立て直して外掛けからテイクダウン。カルバンも背中をつけないで亀になって耐えるところをトムソンがバック。まずは片足入れてカルバンが上を向いてディフェンスしたところをハーフマウントに抑える。これは競技者にはわかる大切な技術。また亀になったら抑えて相手の動きにあわせて下にしてというトムソンのゲーム。2ラウンド終了!

このラウンドは完全にトムソン。2ラウンドの試合展開としては青木 vsマーカス・アウレリオと同じ感じ。

3ラウンド。ここまでの試合展開だと、このラウンドを支配したほうを勝ちと両選手が判断するのか、それともトムソンとしては1、2ラウンドを取ってるからKO&一本負けさえしなければいいとして、このましのごうと考えてるのか。どっちにしろカルバンはこのラウンドを取らなければ勝てないので、積極的に圧力を掛けて勝負だろう。

最終ラウンド開始。

最初にテイクダウンを取ったのはカルバン。マウントまで一気に奪取。ハーフに戻されるもののトップキープ。トムソンは下からラバー。さばいてガードに!!

そこからトムソンが立つ。これはうまい。というかポイントを簡単には落とせないから「絶対に立つ」という

こり、日本のMMAを観てるファンのほうからは疑問が出るんだよね。

次にポイントのつけ方なんだけど

ることは充分にありえるかな、と

そこからトムソンが立つ。これはうまい。というかポイントを簡単には落とせないから「絶対に立つ」という判断は選手として素晴らしいと思う。

スタンドでカルバンが圧力を掛けて、トムソンが下に。カルバンがトップキープから殴る。トップのまま試合終了。

このラウンドはカルバン。カルバン勝ちを確信。

が……判定は3―0でトムソン。最近UFCで騒ぎになったエヴァン・ダナムvsショーン・シャークの判定騒動の記憶があるからあんまり驚かない。

ジャッジがどう解釈したかを考えると1ラウンドと2ラウンドをトムソンにつけて、3ラウンドをカルバンという感じかな。30―27をつけたジャッジは論外だけども。

日本的な判定基準やシステムで考えるとカルバンの勝ちでよいと思うから判定が話題になってるんだと思うので、ここからは判定について書いていこうかなと思う。

まずはアメリカの判定はラウンドごとにポイントを付けるシステム。ちなみにDREAMは15分を通じてどちらが優勢かを判定してます。

アメリカルールはルールブックには10―10も存在するんだけどもそれは建前で、実際はラウンドマストである。解釈の問題だけども極力微差をつけようということなんだと思う。

このラウンドマストのシステムを採用することで1、2ラウンドを微差で取って、3ラウンドを圧倒された選手があきらかに格闘技的には負けてても勝ちになるということが起

ら四つの攻防をこだわる。トムソン

こり、日本のMMAを観てるファンのほうからは疑問が出るんだよね。

次にポイントのつけ方なんだけども、これは俺が観ての感覚になってしまうのでルールブックでは違うとかのつっこみは勘弁してください。

ポイントに関してはボクシングとレスリング（トップ）が評価されることが多いと思う。逆に寝技はあまり評価されない。とくに下からの関節技へのトライやキャッチの評価は非常に低いと思う。

カルバンvsトムソンの1ラウンドでいうと、カルバンがトムソンのタックルにあわせてギロチン。極まりかかるも外れてトムソントップ。パウンド→トムソンパス→キャッチ。ということでカルバンのギロチンの評価が低く、トップから攻めたトムソンをジャッジが支持するいうのが理解できますよね。

どのルールが良いというのは横に置いといてこれがアメリカなのです。

選手としてアメリカルールで勝つにはテイクダウンしたらしっかりと寝かせる。下になったらすぐに立って相手を下にする。無駄な時間を使わないというのが大切になるんではないだろうか。

DREAMとアメリカルールは違う。

俺は統一したら良いとも思わないし、各選手が考える価値観や求めるものでプロモーションを選べば良いし、各プロモーションのルールには考え方や理由があるのだからみんな違っていいんだと思う。

そんなわけで長くなったけどもこのくらいで。



「KIDさんと話してたら気合いが入ってきました！」

「もう、やるしかないっしょ！」



KID　リキ、ひさしぶり。

福田　おひさしぶりっす！　KIDさん、

「もう、やるしかないっしょ！」

弟子・福田力のUFC参戦に
師匠・KIDが大エール!

山本“KID”徳郁 KID×福田力

“神の子”塾 師弟対談!

福田力のUFC参戦を前に、“神の子”塾の師匠・山本“KID”徳郁が大エール!　山梨学院大学の先輩・後輩であり、KIDのジム、KRAZY BEEで切磋琢磨しあった二人が、ひさびさに顔を合わせ、学生時代からのオモシロ話を語ってくれた。そして、一部で話題になっているあの“UFO事件”についても直撃!　はたしてホンモノか?　ニセモノか!?

聞き手／堀江ガンツ　撮影／笹井孝祐　試合写真／乾晋也、今村陽子

ＫＩＤ　リキ、ひさしぶり。

福田　おひさしぶりっす！　ＫＩＤさん、けっこう会ってなかったっすよね。１年ぶりくらいっすか？

ＫＩＤ　うん。そんな感じかな。今日、よろしく。

福田　よろしくお願いします！

——というわけで、今日はＫＩＤさんと福田力さんの師弟対談を企画させていただいたんですが、もともとお二人はＫＲＡＺＹ ＢＥＥの前に、山梨学院大学の先輩・後輩だったんですよね？

ＫＩＤ　うん。大学で同じレスリング部だった。オレが４年のとき、リキが１年だったんだよね。

——じゃあ、福田選手にとってＫＩＤさんは、〝神の子〟というより完全に神様だったんですね（笑）。

福田　そうっすよ（笑）。

——当時、ＫＩＤさんはどんな存在だったんですか？

福田　いやあ、怖かったっす。

ＫＩＤ　そう？　でも、普通だったよね？　フフフ。

福田　いや、こ、怖い先輩だったっす……。

——ご本人的には普通なんだけども、ほかの人から見るとちょっと普通じゃなかった、と（笑）。

ＫＩＤ　どうなんだろ。そのときは20歳前後の感じだったからかな。

福田　あのー……。自分、インカレのときに洗濯当番だったことがあったんですよ。

——ほう。ＫＩＤさんをはじめ、先輩方の洗濯物を洗ってたわけですね。

福田　で、インカレって二日に分けて行なわれるんですけど、自分が洗濯をやってて、一日目に全部洗濯物をなくしてしまったんですよ。

KID　あ！　そうそう！　よくなくしてたよね。

福田　一式すべてなくなって、凄いテンパってKIDさんに「すいません！」って話をしたら、「とりあえず今日は試合だからしかたない」ってことになったんです。でも、そのときもうわけわかんないくらいヘコんじゃって、自分、泣いちゃったんですよね……。

——いい歳して、泣きましたか（笑）。

福田　もうこの世の終わりだと思いました。でも、あとでまるごと会場に置いてたのが見つかって。で、「やばいな」と思ってたら、その日にKIDさんが優勝して凄く機嫌よかったんですよ。それで「おまえのことは殺そうかと思ったけど、許してやるよ」って。

——ダハハハハ！

KID　そんなんだった？（笑）。そう言ってるのもすぐ忘れちゃうんだよね。

——そのときはレスリング部のなかでもKIDさんはやっぱりボスみたいな感じだったんですか？

福田　そうですね。アメリカに留学されてたんで英語ができるじゃないですか。だから海外の歌の歌詞とか訳して「これ、こういうこと歌ってんだよ」って教えてくれたり。なんかカッコよかったっす。

KID　そういうこと。ちゃんと書いといてくださいね。

——わかりました（笑）。KIDさんから見て、ペーペーだった時代の福田選手はどうだったんですか？

KID　とりあえず常に注意してたイメージしかない（笑）。「リキ、おまえ、しっかりしろ！」みたいな。ね？

福田　はい（笑）。

KID　リキには常に怒ってたね。でも、べつに気にかけなかったら怒んないし、相手にしないから。よっぽどしっかりしてほしいって思ってたんだろうね。

——気にかけてるからこそ、厳しくしていた、と。福田さんはおっとりしたタイプだったんですか？

KID　もう、なんと言えばいいんだろ。でも、やることは一直線、マジメにバーってやってたから。それはスゲエ認めてた。ただ、もうちょっと柔らかくなれって。でも人一倍、努力するヤツだったよね。

——でも、みんなレスリングエリートみたいな人ばっかりですよね。

KID　いや、エリートはまた違う方面にいくの。警視庁いったり、自衛隊いったり、ほかの企業とか。



KIDさんたちの洗濯物なくして泣いちゃったんですよね……（福田）

——エリートのなかでもどんどん分かれていく感じなんですね。お二人ともそういうタイプではなかった、と。

福田　そうっすね。

KID　だってオレ、高田（裕司）先生とかにすっごい怒られてたもん。

——シドニー五輪の日本代表監督も務めた、鬼の高田監督ですね（笑）。

KID　その鬼監督がいたから強くなれたんだけど。オレ、朝が弱いから朝練とかいっつもサボってて、みんなの前でいっつも正座。なんか高田先生、オレにいっつも怒ってた。

福田　あの頃って、ホントに朝練とかもツラかったっすからね。

KID　日曜の午後になるとちょっと憂鬱になったりして（笑）。でも、あのときがあったからよかった。

福田　そうっすね。山梨って凄い田舎なんで、練習しかやることがないですよ。

KID　練習か、寝ることか、食うことしかない（笑）。「何を食おう？」とかしか考えてなかったね。

——ある意味、環境がよかった、と。

福田　はい。もうちょっと遊びたかったですけど（笑）。でも自分、大学のとき、KIDさんにいろんなところに連れてってもらったりしたんすよ。修斗を初めて観に行ったのもKIDさんだったというか。

——というと、もしかしてそういうのがきっかけで福田さんは格闘技をやってみたいなと思ったんですか？

福田　そうっすよ。それが、ちょうど宇野さんがルミナさんとやった横浜文体の試合だったんですよ。実際、生で観て凄い衝撃だったんですよね。

——それまではべつに興味もなかったんですか？

福田　好きだったんですけど、いまみたいにネットもなかったんで、雑誌とかで読んで、何ヵ月後かに大きいビデオ屋とかにあったら借りて観るみたいな。やっぱ、そんな身近に観れる感じじゃなかったんで。逆に卒業してKILLER BEEに入ったときに、けっこうまたいろいろ遊びにも連れてってくれたんで。

KID　リキが入ったときは、オレ、まだ結婚もしてなくって、みんなでジムに住んでたんだよね。こんぐらい（5〜6メートル四方）のスペースに5人とか寝てたんすよ。で、凄いスケジュールだった。ガッツリ練習して、朝まで飲みに行って。それの繰り返し。ヒドいときは、それが週4、5


これまでの格闘技人生で最も大きなイベントだったのが『DREAM.8』でのムリーロ・ニンジャ戦だったという福田。UFCのあの大歓声を浴びたら、いったいどれだけ涙を流すことになるのだろうか。

D×福田力

とか。

福田　週4は朝帰りとかだったっすよね。

KID　寝て、起きて、みんなでメシ作っ

福田　はい。ホント、役立ちました。

——それがあったから、すべてがうまく回り始めたというか。

福田　ウェートとかやって力はついて、身体はデカくなったんですけど、格闘技的なスタミナはなかったっすよね。

さんも「おまえがそういうふうに思ってんだったら、そっちのほうで頑張れ」って言ってくださって。

とか。

福田　週4は朝帰りとかだったっすよね。

KID　寝て、起きて、みんなでメシ作って食って、練習して、で、また飲みに行って、朝帰ってきて。ヤバかったね。

福田　でも、自分とかずっと大学まで体育会系だったんで、やっぱ遊んだりすることとかなかったんで、凄い勉強になったんですよ。女の子とかも最後のほうは上手に話したりできるようになったんで。

KID　そうなの？（笑）。

福田　最初のほうとか、やっぱ口説き方とかもぎこちないとモテないんですよ。

――ダハハハハ！　そんなに不自然だったんですか。

福田　やっぱ、女の子も身構えるんですよね、ちょっとしどろもどろになると。

KID　そこでも「リキ、しっかりしろよ！」みたいな（笑）。

福田　でも、だんだんちょっと打たれ強くなっていって。最初は話しかけてまったく無視とかされるとけっこう傷ついたりするんですけど、場数を踏んでいくと、無視されても「さ、次、次！」みたいになって。やっぱそういうのがよかったんすかね。

――〝試合運び〟を覚えていった、と（笑）。

KID　アハハハハ！　試合運びね！

福田　海外とか行ったときも、向こうって試合が終わるとパーティとかあるじゃないですか。やっぱちょっと遊び方がわかってたんで、そういうときとかに「こいつ、おもしれえな」みたいに向こうの人とかにも思ってもらえて、なんかうまく打ち解けられたところもあったりして。

KID　下積みの渋谷が役に立ったか（笑）。練習終わったら、みんなめかしこみ始めて、「今日、キマッてるかな」みたいな。服とかもね、みんなで回しあったもんね。

福田　はい。ホント、役立ちました。

――それがあったから、すべてがうまく回り始めたというか。

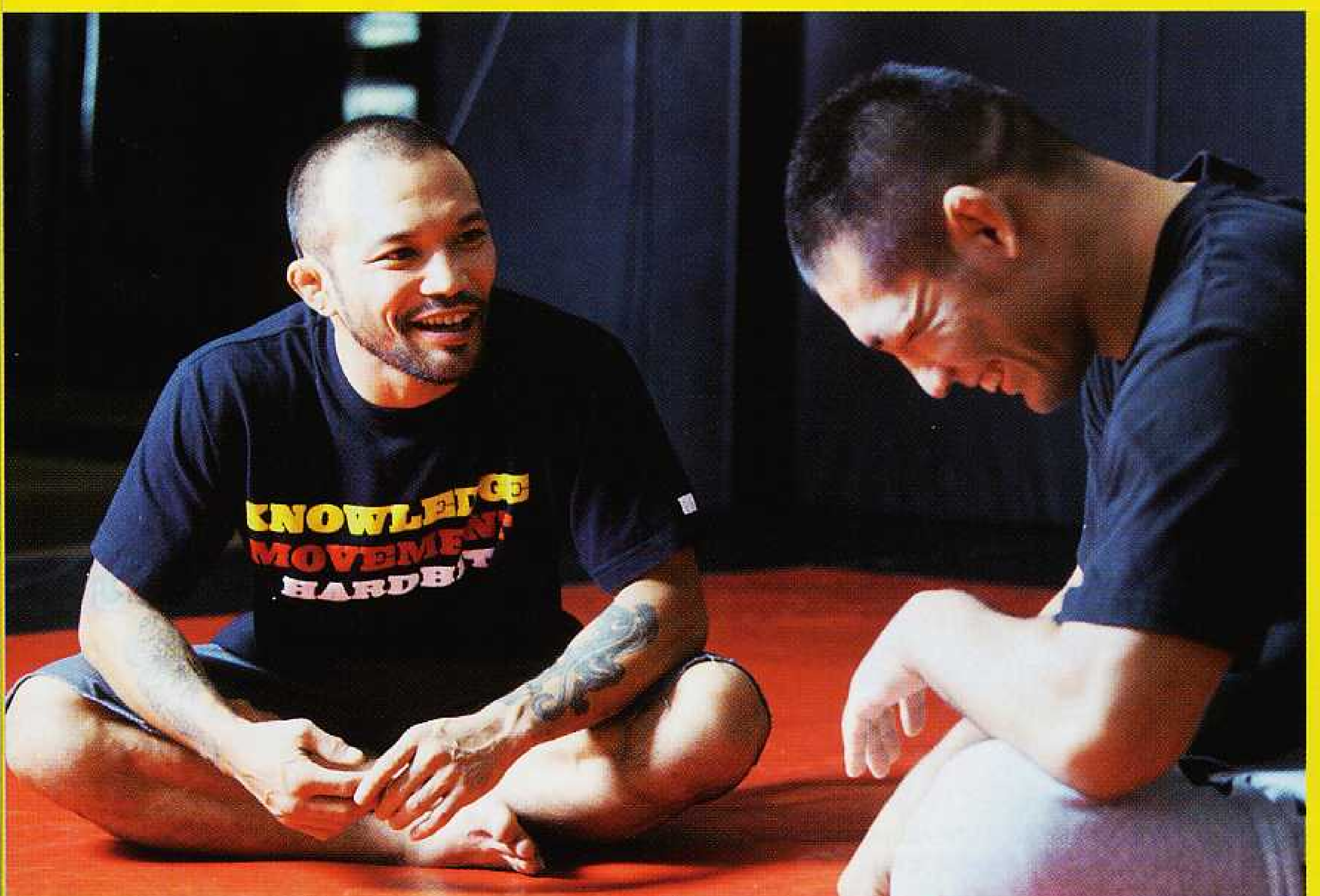
福田　いや、そうっすよ。やっぱ、人生は楽しまないと。そう思うようになりました。

――しかし、福田さんもWJ（プロレス）のままだったら、ちょっと違う遊び方になってたかもしれないですね（笑）。

KID　アハハハハ！　あ、（WJを退団して）最初、こっちに来たとき身体がパンパンだったもんね。

福田　体重が100キロ以上あったんで。ちょっと走ったらヒザも痛くなっちゃって。最初は痩せることから始まったっすね。

――WJにいた頃は、逆に「太れ、太れ」だったわけですよね。



KID×福

福田　ウェートとかやって力はついて、身体はデカくなったんですけど、格闘技的なスタミナはなかったっすよね。

KID　「とにかく受け身がつらい」っていうのを聞いてた気がする。で、「危ないですよ」って。だから「危ないから格闘技にしろよ」って感じで（笑）。

――プロレスは相手の技を受けきれないといけませんからね。

KID　「身体壊すよ」って心配してたね、先輩だから。

――KIDさんは、福田さんが最初プロレスに行くって知ったときはどう思いました？

KID　いや、それはそれでわかるし、「あ、そうか」みたいな。でもオレとしてはこっちに来てほしいから。強制はしないけど、「来たいなら来い」って。

福田　でも、自分はもともと両方やりたかったんですよね。で、やってくうちに……。

KID　両立できないって言ってたよね。

福田　もう自分は両立は無理だなって。プロレスをやるにしても「プロレスやるならちゃんとやりたいな」って思いましたし、逆に格闘技をやるんだったら、プロレスラーで何回か出て、そっからっていうんじゃなくて、きっちりやりたいと思ってて。

――それでKIDさんに相談に行ったんですか？

福田　そうっす。

KID　で、オレはもう、オープン。「いたかったら、いろ」みたいな。

福田　で、長州さんにもお話しして、長州さんも「おまえがそういうふうに思ってんだったら、そっちのほうで頑張れ」って言ってくださって。

――器量が大きい方ですねえ。

福田　それだったら、やっぱ格闘技で活躍することが恩返しじゃないですけど、まだまだ頑張んないと、と思ってますね。

――しかし、あの長州さんに「プロレスを辞めて、総合格闘技にいきます」って言いに行くというのは、なかなか勇気がいったんじゃないですか？

福田　自分、なかなか言えなかったんですよ。で、WJでデビューも決まってたんですけど、なかなか言えなくて。で、デビュー戦に向けての最終テストみたいなことをやってたときに、長州さんのほうから「おまえ、どうするんだ？　デビューできんのか？」って言ってくださって。そこでようやく言えたんですけど、それがなかったら自分、夜逃げも考えてたんですよね（笑）。

KID　いやいや、夜逃げしてたらオレも困ってたよ！　「長州さんから連絡あったんだけど、どういうこと!?」みたいな（笑）。

福田　そうですよねえ。デビュー戦の日も発表になって徐々に近づいてるんで「言わないと」ってずっと思ってて、よけいに焦りも出てきて。あのときは凄く葛藤があったっすね。

――長州さんはきっと気づいてたから声をかけてくれたんでしょうね。

KID　「ちょっとおかしい。こいつ、デビュー戦が決まったのに喜んでる様子がねえぞ」みたいなね（笑）。

リキにはとりあえず注意してた「しっかりしろ！」って（KID）

福田　ハハハハ！　確かにそうっすよね。

——じゃあ、円満にこちらの世界に来れた、と。でも、WJにいたことがけっこう役に立ってますよね。長州力っていう名前がけっこう使えるというか。

福田　そうですね。やっぱり会いにいかないとマズいな。

——ちなみに、その後、福田さんはKILLER BEEからGRABAKAに移籍されましたけど、離れるきっかけはなんだったんですか？

KID　いや、もうウチはデカいサイズがいなかったからね。で、ちょくちょくGRABAKAに行くようになったじゃん？　リキもそっちでやりたいって言うから、そこはもう「行ってこい」って。

福田　……じつは、そのときもなかなか言えなくて。でも電話してKIDさんと話したときに「頑張れよ！」って言ってくださって。そのときもやっぱ「絶対に勝って恩返ししよう」と思ったっすね。

——それを一つ一つ積み重ねてって、今回のUFC参戦に至った、と。

KID　ヤバいね。大学のときは、UFCに上がるなんて考えてなかったでしょ？

福田　まったく考えてなかったです！

KID　あんとき「オレがDREAMで、リキがUFCで……」とか考えてなかったよね。あの頃なんか「明日、朝練がまたくる！」とかしか考えてなかったよね。オレからしたら、「あの洗濯してたリキが!?」って思う（笑）。

福田　それで泣いてた男が（笑）。

KID　ヤバいね。試合はいつやるの？

福田　来年2月ぐらいを予定してるんですよね。

——2月だと、デビュー戦はたぶんラスベガスになりますね。

KID　ヤバい！　行きてえな、ホント。

——アメリカのあの雰囲気で試合するというのは、KIDさんもちょっとうらやましい部分もあるんじゃないですか？

KID　最高でしょ！　ハチマキとかして出たら？（笑）。

福田　あ、ハチマキしたほうがいいですかね？（真剣に）。

KID　昔のプロレスラーみたいに。悪役系の。いるじゃん。悪役の東洋人って。そういうキャラにしたほうがいいよ。

——下駄履いて、塩をまきながら（笑）。

KID　そうそう。で、相手は？

福田　まだ全然わかんないですね。

——でもミドル級って、みんなデカくて強いのばっかりですからねえ。

KID　ガチガチにしてやったほうがいいでしょ。それ、オレ、行こう。

——KIDさんもUFCにバンタム級があったら、もしかしたら行っちゃってた可能性もあるんじゃないですか？

KID　ね、行ってたかもしれない。あの雰囲気最高でしょ。

——やっぱりWECとUFCはずいぶん



ケガからの復帰以降、敗戦が続いたKIDだが、今年5月の『DREAM.14』キコ・ロペス戦で大復活。今年の『Dynamite!!』でも激勝を期待したいので、ぜひ入念に柔軟しておいてほしい！

D×福田力

違いますもんね。

KID　全然違うよね。だって観に行ったことあるけど、BJの試合のときとかヤバいもん。あの会場の雰囲気とか、また日本とは全然違うよね。

福田　会場の人ってすぐケンカしますしね。なんかセキュリティも、デカイ人ばっかりっすよ。

——120キロぐらいある人ばっかりですよね。

KID　観客がもう格闘家みたいになってる。

福田　そうっすよ。……あー、でもこうやってKIDさんと話してたら自分、気合い入ってきたっす。

——やっぱりそんな感じで気持ちもノリノリで行ったほうがいいですよね。

KID　そりゃもちろん！　オレも行きてえもん。わけわかんないブーイングとか浴びたいもんね（笑）。「これがアメリカ人のブーイングだ～！」みたいな。うれしくなって笑っちゃいそうだよ。客とか煽ってみたいもんね。あー、行きてえ！

——KIDさんもいま体調はいい感じなんですか？

KID　この前までちょっと腰が悪かったんだけどね。身体が硬すぎたってのが原因だったらしくて。最近、柔軟をバンバンやり始めて、そしたらだんだんよくなった。やっぱ身体が硬いと打たれ弱くもなるらしい。柔らかくしといたほうがいいよ。

福田　でも自分、めっちゃ硬いんすよ。やんないとヤバいっすね。

KID　柔軟はやったほうがいいです。基本なことを（笑）。

——UFC行きの一番のアドバイスが柔軟だ、と。

KID　ハハハハ！　誌面でも大きい文字で書いといて。「KID先輩からのアドバイスその1　柔軟をしろ」みたいな。これ、基本だから。あとマット体操はやってる？

福田　一応。でも、いま前転したら目が回っちゃいそうですね。ボクシングとかで、ちょー前転とかグルグル回って、目が回った状態とかでやる練習もありますよね。打たれて効いたときの状態にしてスパーリングやるっていうのが。

KID　それ、やろっか？　やろうよ！　下もヌルッヌルにして（笑）。ツルッツルのところで、みんなで回して「おらいけーッ!!」って。そこでボッコボコにしたら、相当強くなるよ。

福田　やばいっす！

——いや、先輩の言うことなんでUFCへ行く前にやらなきゃダメですよね。

福田　でも、柔軟はやるようにします。

KID　そうそう。やっぱ基本に戻んないとダメだね。

——やっぱりKIDさんも柔軟やって、大晦日に備える感じですよね？

KID　うん。柔軟やって大晦日に出たい。

福田　でも、『Dynamite!!』の会場も凄いっすよね。KIDさんが須藤元気さんとやった京セラドームのときは、会場の真ん中にリングがあって、バーンって人が囲んでる感じで。あんなところで闘うときって、KIDさん、緊張とかするんすか？

KID　オレ？　しない（アッサリ）。

——あ、緊張しないんですか。

KID　ほどよい緊張はあるけど、ガチガチにはならない。

福田　迷いがないような感じっすもんね。

KID　うん。じつはチョー目が泳ぎまくってたりして（笑）。

——福田さんはいままで出た一番大きな大会がDREAMですか？

ベガスになりますね。

——やっぱりWECとUFCはずいぶん

KID　ハハハハ！　誌面でも大きい文字

大会がDREAMですか？

福田　そうっすね。DREAMって入場のときに火柱がボーン！　ってなるじゃないですか。自分、客席からしか見たことがなかったんで、あれでちょっと感動して。名前が呼ばれて火柱がボーンってなったときに泣きそうになりましたね（笑）。

KID　ちょっと、オープニングで泣くなよ。「リキ、泣いてる〜！　ええッ〜!?」ってなるよ（笑）。

福田　ヤバかったっすね。レニー・ハートさんっているじゃないですか。あの人に名前を呼ばれただけで「うわ〜！」みたいな。

KID　あの人に呼んでもらえるのは貴重だよね。

福田　「やっててよかった〜」って思う瞬間すよね。

——じゃあUFCの入場なんか号泣しちゃうんじゃないですか（笑）。ブルース・バッファーにコールなんかされたら。

福田　ヤバいっすね。

KID×福

KID　オレ、オクタゴンサイドで長州さんと並んで観てるから（笑）。

福田　よけい緊張しますよ！

KID　でもまあ、とりあえずガッチガチにやってこいってことだよね。それしか言えないっしょ。あとは、試合前には泣くなよ、と（笑）。あ、記者会見とかあんの？

福田　計量とかは、たぶんあるっす。でも、ガイジンの人って、グワーってガンつけてくるじゃないですか。

KID　あれ、めんどくさいよね。それ対策もやんないとね。計量の『YouTube』とかいっぱい見て。近寄られてもキスして殴られたりしないように（笑）。

福田　そうっすね（笑）。近すぎず、遠すぎず。これも距離が大事っすよね。

KID　うん。っつーか、オレらの話、メッチャメチャじゃん。こんなんでいいの？

——もう充分です！　で、最後にメチャクチャついでにまったく関係ない話をお聞きしたいんですけど……。

KID　何？

——KIDさんのブログを見ると、たまにUFOらしきものが飛んでるんですよね（笑）。

KID　ああ、あれね。あれ、なんか写っちゃうんだよねえ。

——あ、ついつい呼んじゃう感じですか。

KID　そう。5機くらい飛んでたときはさすがに「うわ〜」みたいになったけど。ククク……。

——じつは、あの写真を見たUFO研究家のサスケさんが凄く気になってるみたいなんですよ。

KID　あ、そうなんだ（笑）。

福田　っていうか、サスケさんってUFO研究家なんすね（笑）。

——ウチのインタビューで、「これ、本物の可能性がありますよ。KIDさんの見解をぜひ聞きたいです！」って。

KID　そうなんだ！　じゃあ今度、その対談やらしてくんないかな！

福田　あ、自分もいろいろUFOのこと聞きたいです。

——わかりました。きっとすぐに実現すると思いますので（笑）。

KID　いいね、スッゲー楽しみ（笑）。

【10年10月10日／都内・KRAZY BEEにて収録】



オレ、オクタゴンサイドで長州さんと並んで観てるから

よけい緊張しますよ！　でも、勝って恩返しします！

ふくだ・りき■1981年1月6日、岐阜県出身。山梨学院大学レスリング部から、卒業後WJプロレス練習生となったが、デビュー前に退団。03年にMMAデビュー。パンクラス、DEEPなどで活躍し、09年4月にDREAMに初出場。ムリーロ・ニンジャを下し注目を浴びる。09年6月にはDEEPミドル級王座を奪取。2011年からはUFC参戦が決定している。183cm、84kg。

やまもと・きっど・のりふみ■1977年3月15日、神奈川県出身。山梨学院大学レスリング部を経て、01年に総合デビュー。05年に『HERO'S』ミドル級トーナメントを制覇。その後、ケガでの長期欠場を強いられ、復活後も総合&K-1を含め3連敗と奮わなかったが、10年5月の『DREAM.14』で見事KO復活。今年の『Dynamite!!』への出場も期待される格闘技界の“神の子”。163cm、59.8kg。

僕にとってパンクラスは格闘技人生のすべてでした



生まれ故郷、そして“最終章”に向けて後ろ盾のない男が激語り！

北岡 悟

「今日で自分のパンクラスismはこれで終わりになります」
10.3ディファ有明大会で弘中邦佳に勝利を収めた直後、パンクラス卒業を宣言した北岡悟。はたして北岡にとってパンクラスとはなんだったのか？　激闘から一週間後、その胸中に迫った。

聞き手／高崎計三　扉写真／タイコウクニヨシ　試合写真／乾晋也　撮影／鈴木佑

――北岡選手、弘中戦での激勝おめ
でとうございます！ そのあとには
衝撃のマイクアピールもあって。

てるパンクラスのOBの方たちにも
メールでやり取りして。
――当然、「これからどうするの？」

んでるんだろ！」っておっしゃってい
たと人づてに聞いたんですが、絡ん
でません！（キッパリ）

満はないです。むしろ、状況的にパン
クラスに返せないことが悔しいとい
うか、申し訳ないというぐらいで。

うかがう仕事がちょっとあったりし
ましたけど。そのぐらいです（笑）。も
う練習再開しましたからね。

「オレはなんでここにいるの？」と思ってしまう理由もありました

――北岡選手、弘中戦での激勝おめでとうございます！ そのあとには衝撃のマイクアピールもあって。

北岡 衝撃でしたか？

――いや、じつは個人的には公開練習の「パンクラスへの思いを出し切る」などの発言から、そうじゃないかという気持ちはありました。

北岡 そうですよね、あれはかなりヒントを出してましたから。

――実際、試合前には誰が知ってたんですか？

北岡 パンクラスｉｓｍでは、大石（幸史）と金井（一朗）だけですね。あと、坂本（靖＝パンクラス）代表と。それに青木真也あたりですね。

――大石選手と金井選手というのはなぜ？

北岡 大石は道場長だからですね。金井は、一番近くにいた人間なんで。

――なるほど。試合後の反響はどうですか？

北岡 翌朝に鈴木みのるさんから電話がかかってきました。「いままでありがとう」って。

――それは「パンクラスを引っぱってくれて」という意味ですか？

北岡 そうですね。「こちらこそ」と。こちらから連絡はするつもりだったんですけど、まさか向こうからかかってくるとは思わなくて、驚きましたね。ありがたかったです。あと、試合前に伝えられてなかった人たちには連絡しました。稲垣（克臣）さんとか渋谷（修身）さんとか、連絡先知ってるパンクラスのOBの方たちにもメールでやり取りして。

――当然、「これからどうするの？」と聞かれますよね。

北岡 鈴木さんにだけは、「大きいところに出られたらいいね」と言われました。「話はあるの？」って聞かれたんで、「いえ、まだ何もないです」と。みんな、応援してくれると言ってくれてますし、パンクラス関係の人とは誰とも関係が悪いってことはないです。

――円満、というか。



北岡は2Rに弘中の首を捕らえると一気に絞め上げて劇的一本勝利! セコンドについた青木は後日、「たとえるならばプレッシャーをかけ続けて自爆させるような試合」と振り返った。

北岡 そうですね。「卒業」という感じで受け取ってくれてますね。

――しかし、中には「もう話ができたうえでの行動だろう？」という見方も出てきますよね。

北岡 （ひときわ大きな声で）ホントに何にもありません！ この件を聞いたGCMの久保社長が「佐伯が絡んでるんだろ！」っておっしゃっていたと人づてに聞いたんですが、絡んでません！（キッパリ）

――今回、こうなった最大の理由というのは、パンクラスにいては上がりたいリングに上がれないから、ということなんですか？

北岡 うーん……まだ筋を通してないから、何も言えないですね。簡単なことじゃなく、いろんな理由があるんですよ。何を言ってよくて、何を言ってはいけないのか……。逆に、何が聞きたいですか？

――最大の動機はなんだったのか、ということですね。

北岡 最大の動機……それも難しいですね。いろんな要素が合わさってる感じなんで。

――「パンクラスにいたらDREAMに上がるのが難しい。だから出る」という簡単な話ではない、と。

北岡 まあ、パンクラスにいるままでも、「SRC代表」として出ることはできるかもしれないですよね。でもそれは違うと思うし。……詳しくは言えませんけど、自分の中で「じゃあ、オレはなんでここにいるの？」と思ってしまうような理由もあったんですよね。この先に夢が感じられないというか。自分自身、多くやっても残り5試合ぐらいだと思ってるんですよ。3ぐらいかなとも思うぐらいなんで、そういう中で夢のない状況で試合するのはごめんなんですよ。

――それは、パンクラスに対する不満ですか？ 通常、離脱する場合って所属先に不満があるから、というケースが多いわけですが。

北岡 いや、パンクラスに対して不満はないです。むしろ、状況的にパンクラスに返せないことが悔しいというか、申し訳ないというぐらいで。

――うーん……。ところでSRCの向井徹代表が、ツイッターで「格闘技業界と社会の秩序を考える」「喝!!」とつぶやいていて、タイミング的にもこれが北岡選手のことではないかという声が一部で上がってるんですが。

北岡 ああ、見ましたよ。いまのいままで僕のことだとは思ってもみなかったんですけど、もし僕のことなんだとしたら、いろいろ思ってしまう部分はありますよね。

――ちなみにSRC側とはなんらかの話は？

北岡 していません。いまの時点でなんの連絡もないですしね。坂本さんあたりとは何か話をしているとは聞いたんですけど。前後してしまいましたがタイミングを見て、一番上の方にはきちんと自分の真意は直接お話しさせていただくつもりです。僕は大きな失礼をしたとは思ってないですから。

――決まっていた試合を飛ばしたわけでもないですからね。ところで、パンクラスを離れていまはどうしているんですか？

北岡 いや～、友だちいないんで（笑）。ツイッターを見てもらえればわかるんですけど。

――「予定がない」としきりにつぶやいてますね（笑）。

北岡 試合のあとも、当日夜一人で大戸屋でメシ食ってましたからね。翌々日の火曜日に至ってはマッサージに行っただけで、誰とも会わずに終わりましたよ。水曜はブランドの展示会にうかがう仕事がちょっとあったりしましたけど。そのぐらいです（笑）。もう練習再開しましたからね。

――ブランドの話って、パンクラスの選手と千葉レフェリーの7人がモデルに起用されたというものですよね。そこは支障ないんですか？

北岡 大丈夫です。直接、話もできていますし。パンクラスの人間の誰とも、話ができなくなるような状況にはしてないですから。

――あの宣言で、「じゃああの件はどうするんだよ！」となるようなことはない、と。

北岡 はい。まあ坂本さんにしてみれば、あの日リング上で言うとは思ってなかったと思いますけどね。

――試合後のコメントで、「パンクラスへの思いには区切りがつきました」と言ってましたよね。

北岡 あれはあの記者さんの質問がピュアだと思ったので答えました。ほかの、契約がどうとか、そんな質問は一切答えませんでしたけどね（笑）。

――離脱することになったから、あえてああ言ったように見えましたが。

北岡 そうですよ。男女関係に近いものじゃないですか。振られてばかりの北岡には振る側の気持ちはわかりませんけど。

――いやいや（笑）。当面の目標は大晦日ですか？

北岡 固執はしてないですよ。漠然と希望を聞かれたら、っていうだけで。それこそ、タダでもいいから試合したいとかではないですし。

――たとえば話し合いの末に、年明けの大会にということになってもそれはかまわないということですね？

現役を終えるまではパンクラスの会場にはもう足を踏み入れません



2000年10月に20歳でプロデビューしてからまる10年、北岡はパンクラスでその20代をすごした。写真は師匠の一人である鈴木みのる、そして先輩である美濃輪育久(現ミノワマン)と。

北岡　そうです。仕事はまだ続けたいなと思える試合ができたんで。そういう点も自分の中で試練だったんですよね。そういう意味ではやっぱり弘中戦は納得いくものができたと思います。

——しかしはっきりと離脱を宣言すると、パンクラス時代の思い出が走馬燈のようによみがえってきたりはしませんか?

北岡　いや、毎試合そんなふうに思ってますからね。去年、辞めようと思ったときもいろんなことを考えたし。

——プロになるために入団して、ここまでやってきたパンクラスという存在はあまりにも大きいのではないかと思うんですが。

北岡　そうですね。大きいですけど、ここまでよくやったなと思いますから。まあ、まだあの試合から一週間しか経ってないですから、これからじわじわくるかもしれないですけど。

——横浜道場でももう練習はしないわけですね。

北岡　しません。少なくとも現役を終えるまでは、パンクラスの会場にももう足を踏み入れません。

——セコンドとしても?

北岡　行かないですね。その二つはしっかりけじめをつけます。僕はなかなかけじめのない人間なんで、だからこそあえて厳しく決めました。でもいまは、新しい練習環境を作っていかなきゃいけないなという気持ちですよ。

——新しい環境はどんなところで?

北岡　とりあえずいままでどおりDEEPジムに行けば青木たちとスパーはできるし、トイカツ道場での練習会もありますしね。KRAZY BEEだったり秋山道場だったりも行ってますから、これから一週間のスケジュールをどう組もうかなというところですね。

——練習環境としても、パンクラスは断ち切るわけですよね。

北岡　そうですね。正直、寂しさみたいなものもありますけど、それよりも前向きに新しいレギュレーションを組むことを考えていきたいですよね。

——その気持ちって、パンクラスの入門テストに受かったときとはまた違うものですか?

北岡　違いますね。あのときはまだ20歳で、子どもでしたよね。パンクラスに入ったからって、そんなに浮かれモードでもなかったですし。デビューが決まったときもうれしくはなかったですから。このレベルでデビューして、どうやって生き抜いていくんだって思ってたぐらいで。むしろなんだかんだ言って、そのときより強くなってはいるわけじゃないですか。周りから求められてるのも感じるし、あの頃よりも前向きというか……ホント、今回の試合に向けて自分自身の心を鍛えたというか、滝に打たれたみたいな感じはあるんですよね。

——ほう。

北岡　だから不思議な感覚なんですよ。パンクラスの会場や道場に行けなくなることもホントは寂しいことなんだけど、それよりも……スッキリというとまた少し違いますけどね。前向きなんですよ。それは……繰り返しですけど、最後にあの試合ができたからでしょうね。あれができたのは、間違いなくパンクラスで培った力があったからだし。今後僕が活躍できるとして、これからも努力はしていきますけど、間違いなく8～

——今回の離脱で驚いた人の中には、パンクラスを背負う自負を強烈に持っている北岡選手だから、最後

きにそう思ったらしくて。一度は辞めるって言ったのにスクランブルで出させられるのを見て思うところが

北岡　秩序を壊し続けてますから(笑)。それをみんな周りでおもしろがってますよね。ただ、自分としては

退団するときって、負けたりするもんじゃないですか。そういうのもよぎってましたしね。

パンクラスで近藤さんたちと一緒にすごせて本当に最高の人生ですよ

た力があったからだし。今後僕が活躍できるとして、これからも努力はしていきますけど、間違いなく8～9割はパンクラスで培ったものがあるからですよね。だから僕が活躍すれば、パンクラスのファンは誇りに思ってくれるでしょうし。

——パンクラスでやれることはやりきった？

北岡　チャンピオンにはなってないんですけどね。

——そこは気になっていました。

北岡　なんでそこにへんにこだわらないかというと、いまは大石が挑戦者決定戦に勝って、ベルトに手をかけている状態じゃないですか。それを横取りしてまでチャンピオンになりたいとは思わないということですよ。もしチャンピオンが井上克也選手のままだったら、もうちょっとやりたいと思ったかもしれないですけどね。

——井上選手とは2敗1分のままですからね。

北岡　それが真騎士になっちゃって、挑戦権も大石にあるという状況で、そこに介入してやりたいとは心から思わないんで。言っても、『戦極』という凄い団体のチャンピオンになっているわけで。

——歴代王者の一覧には残念ながら名前が載らないですが、パンクラスの歴史には間違いなく名前が残りますからね。

北岡　残りますよね。その自負はあります。

——今回の離脱で驚いた人の中には、パンクラスを背負う自負を強烈に持っている北岡選手だから、最後まで居続けるだろうと思っていた人も多いと思うんですよ。

北岡　心中するってことですよね。その気持ちもあったんですけどね。でも、自分が生きない、生き生きした状態で試合できないというのがありましたからね。何度も言っているように僕の人生ですから。それに、僕だけが背負っている状態もよくないと思うんですよ。

——ほかの選手ももっとその自覚を持て、と。

北岡　そうですね。辞めるって話をしたときに、大石が「北岡さんが辞めてパンクラスが潰れたりしなくなったりするんであればそこまでのものだろうし、自由にやってください」って言ってくれたんですよ。彼は僕が去年、ホルヘ・マスヴィダルと闘ったときにそう思ったらしくて。一度は辞めるって言ったのにスクランブルで出させられるのを見て思うところがあったらしく。

——しかし17年続いているパンクラスという団体を、こんなに背負うことになるとは……。

北岡　あ～……、あんまり思ってなかったですねえ。トップに立ちたい、実力で一番になりたいとは思ってましたけど、背負おうとは思ってなかったです。始まりはやっぱり、ボードッグじゃなくてPRIDEに出たいと言ったときですよね。そこから『戦極』のベルトを巻いて、一気に行きましたからね。

——そう考えると、間違いなく自分の手で作ってきた道ですよね。

北岡　そうですね、自分でメイクしたという自負はありますね、やっぱり。やりすぎたぐらいっすよ、無茶しすぎました（笑）。

——その無茶って、いろんなフラストレーションとかコンプレックスをうまく行動に換えてきた歴史じゃないですか？

北岡　秩序を壊し続けてますから（笑）。それをみんな周りでおもしろがってますよね。ただ、自分としてはそれよりも自分の格闘技的なレベルとかのほうが気になるんですよ。やっぱり競技者だし。いまだって先がまったく決まってないって、凄く不安な状況じゃないですか？ 貯金も食い潰していくだけだし。でもこうやって少しは落ち着いていられるというのは、やっぱり自分に可能性が感じられる試合ができたからだと思うんですよね。

——パンクラスで得た最大のものってなんですか？

北岡　なんだろ……ホントは仲間なんでしょうけど、その仲間ともある意味、別れるわけですし。プロとしてのソウルですかね。もともとそこに憧れて入ったわけですし、一番大事なものはもらったんじゃないかと思います。ホントにファンだったんで、そんな自分が伊藤さんや近藤さんたちと一緒にすごせて、一緒に練習できたっていうのは本当に最高の人生ですよね。ありがたいですよ。

——パンクラスの試合で一番印象に残っているのは？

北岡　いろいろありますね。DVDに全部入っているので、観てもらえれば（笑）。でもホント、アライケンジ戦だったりカート・ペリグリーノ戦だったり、井上克也戦、カーロス・コンディット戦、ポール・デイリー、グスタボPC、ジェイソン・パラチオス……ほんといろいろですよ。

——最終回もこれ以上ないかたちでしたしね。

北岡　あれしかできないですからね。退団するときって、負けたりするもんじゃないですか。そういうのもよぎってましたしね。

——あらためてパンクラス時代を総括して思うことは？

北岡　いまのところ僕のプロ格闘技キャリアのすべてですよね。僕の感触としては、この先は延長戦みたいなものなんですよ。万が一これで干されて、もう試合ができなくなったとしても僕としては納得いくので。それくらいの気持ちですよ。残ってるのは最終章ですよね。

——それもいいものにしないと。

北岡　そうですね。ただ、そんなにうまくいくとも思ってないんですよ。ただ、やる資格はあるんだなと思える試合ができたから。

——もっとおもしろいものを見せてもらいたいとファンも思ってますよ。

北岡　それだけの準備はするつもりですから。一つ言えるのは、妥協せずにいきたいということですね。

——ちなみに最後までライト級で？

北岡　そのつもりです。ただ、見合う金額がもらえるならヘビー級とでもやりますよ。

——ええっ！

北岡　ただ、勝負論があるならですけどね。だからアリスター・オーフレイムやセーム・シュルトとはやりません。

——バタービーンとはやる、と？

北岡　見合う額なら。

——じゃあバタービーン戦に向けて、頑張ってください。今日はありがとうございました！

北岡　そんな結論でいいんですか！

【10年10月9日／都内・某所にて収録】



きたおか・さとる■1980年2月4日、奈良県出身。パラエストラでの柔術修行を経て2000年にパンクラスでデビュー。08年から『戦極』に参戦。戦極ライト級GPを制すると、さらに五味隆典も下して初代戦極ライト級王座に輝く。今年10月3日を最後にパンクラス卒業を宣言。今後の動向に注目が集まる日本ライト級屈指の実力者。168cm、70kg。

――2001年の『INOKI BOM-BA-YE 2001』から始まった大晦日の格闘技興行ですが、今年で10回目を迎

けはスペシャル感があったんですよ。でも、今年は……。

ガンツ　本当の意味で「やれんのか?」っ

――硬い（笑）。前回、『kamipro Special』での座談会でも、「大晦日、石井慧の相手は桜庭しかいない！」っ

座談会出席者

井上崇宏

1カ月早い妄想座談会

気分はもう大晦日！

時代の3歩くらい先を行く妄想企画「大晦日座談会」！
え？ まだ10月だろって？ 確かになあ、どうせ2週間前になってもドタバタしてるだろうし……。
だからこそいまのうちから楽しむんだメ～ン！（練馬ザファッカー調）というわけで、いってみよう！



――2001年の『INOKI BOM―BA―YE 2001』から始まった大晦日の格闘技興行ですが、今年で10回目を迎えることになります。あ、2000年の『INOKI BOM―BA―YE』はプロレス興行でしたから、カウントしませんので、悪しからず。

井上　そうか、猪木軍 vs K―1から始まって、もう10年か……。今年はメモリアルイヤーなんだね。

――で、ここ数年の大晦日を振り返ると、去年は魔裟斗の引退試合があり、一昨年は田村潔司 vs 桜庭和志戦というそれぞれ大舞台にふさわしいカードをやったんですよね。で、その前は『やれんのか！　大晦日！　2007』がありましたから、なんだかんだ言われるけど、やっぱり大晦日だけはスペシャル感があったんですよ。でも、今年は……。

ガンツ　本当の意味で「やれんのか？」って感じだからね（笑）。一昨年去年並みの目玉カードがちょっと思いつかない。

井上　あのー、10月7日付の桜庭のブログって読んだ？

――あ、石井慧に対するブログですよね。なんかメチャクチャかた〜〜い内容だった（笑）。

井上　「そういえば、新聞かなんかで僕のことを聞いたこともない呼び方で話してる人がいたのですが。あれ？　なぜ軽い階級の人しか選ばない？　アリスターとかいるじゃん」という内容なんですが（笑）。まあ、あきらかに桜庭との対戦を表明した石井に対しての返答なんだけど。

石井慧のほうから桜庭への対戦表明っていう流れはちょっと厳しいよね



大晦日地上波放映の鍵を握る男、石井慧。MMAファンからは厳しい評価が下されているが、オリンピック柔道金メダリストの知名度は伊達じゃない。

――硬い（笑）。前回、『kamipro Special』での座談会でも、「大晦日、石井慧の相手は桜庭しかいない！」っていう話になりましたよね。石井は石井で「スポーツ紙向けの話題を作りゃあいい」ぐらいの感覚で吹いたと思うんですよ。それに対して桜庭からの返答がこれ。

井上　ガンツくんが石井に何かささやいたんじゃないの？

ガンツ　え？　まあ……「桜庭戦が観たいですねえ」ってささやきました（笑）。

井上　この、ささやき女将ならぬ、ささやき変態野郎！（笑）。

ガンツ　でも、桜庭がこんなに早い反応に加えて怒りをにじませたのは珍しいですよね。

井上　こんなに即日でリアクションをするということは、おそらく相当おかんむりでしょう。

ガンツ　やっぱり（笑）。

井上　石井が桜庭のことを「バーサク」って呼んでたんでしょ？　しかも髙田本部長のモノマネで。

――うわっ！（笑）。

井上　あげくのはてには、「秋山（成勲）先輩も闘ったレジェンドとぜひ……」みたいなことも言ってて、完全にNGワードを次々と使用してんだからね。

ガンツ　猪木のテーマ曲問題同様、石井慧はまたしても間違った方向のサービス精神によってひんしゅくを買ったわけですね（笑）。

――だから、今回は事前に両サイドに話があったわけじゃなくて、スポーツ紙面上のやり取りでこじれたっていうパターンですよねぇ。この桜庭 vs 石井がなくなると、今年の大晦日はテーマが見えないなあ……。

井上　まあ、発端が石井からの対戦表明っていう流れはちょっと厳しいよね。主催者サイドが対戦実現に向けて動くっていうのならわかるけど、いまの石井が全然体重の違う選手を指名するっていうのはちょっと筋が通らない。その一方でSRCは今年こそ有明コロシアムでやるんでしょ？

ガンツ　SRCは単独でやる意向のようですね。

井上　聞いた話によると、キッズレスリングみたいなアマチュア競技もあれば、SRCの提供試合もあるという、格闘技フェスティバルみたいな内容になるとか。

――いつのまにそんな計画が（笑）。そういえば、去年も有明コロシアムをキャンセルしたあとに、レスリング協会主催のイベントをやりましたよね。

井上　うん、去年は代替で急きょキッズレスリングの大会をやってたよね。

――SRCが今年もまた有明をキャンセルして、去年と同じようにDREAMと対抗戦をやったとしても、それが大晦日の起爆剤にはならないでしょう。

ガンツ　とくに気運が高まっているわけじゃないし、それができるんだったら9月

座談会出席者

井上崇宏
編集プロダクション・ペールワンズ主宰。山本小鉄モノマネの第一人者〝井上小鉄〟として知られる。キッズレスリング日本一に輝いたお子さんのDREAM参戦が待望される。

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から熱狂的プロレスファンでならし、『週プロ』の『プレッシャー』会員という恥ずかしい過去を持つ。変態座談会主宰者。

[司会]ジャン斉藤
本誌編集長。〝雀鬼〟桜井章一の内弟子を経て『Kamipro』編集部へ。永久電機など、アントニオ猪木の怪しげな事業の調査をライフワークとする。

のDREAMで交流戦をやってたでしょうしね。
――うん、早くも行き詰まった（笑）。こうなったら我々で勝手にカードを組みましょ！
井上　まずは山本KID vs 宮田和幸のリベンジマッチでしょう!!（キッパリ）。
ガンツ　………はい？　どうしたんですか、いきなりそんな渋いカードを。宮田がKIDに4秒でKOされた試合のリベンジがなぜ今回の大晦日で（笑）。
井上　いやいや、受け狙いでもなんでもなくて、ホントに観たいんだけど（笑）。「今度は3秒だ！」「いや、ジャーマン3連発じゃい！」っつって、これは盛り上がるでしょう！　有明のキッズレスリングに対抗するには、レスリングエリート同士の因縁の対決しかない!!
――さすがはお子さんがレスリング日本一になっただけある（笑）。まあ、現実的な話に戻しますけど、石井慧の大晦日参戦は危ういんですかね？
ガンツ　いや、それはこれからの話じゃないの？　石井はこれまで、K－1だとか小川直也だとか桜庭の名前を出してはいるけど、『Dynamite!!』という単語は出してないんだよね。だから、「そこからは本当の交渉ですよ」っていう意味だと思うんですけど。
井上　ああ、にぎやかしじゃない、と（笑）。
――なるほどね。ボクはもう一人気になる人がいるんですけど、北岡悟はどうなのかな？
井上　あっ、それはリアルに知りたい。
ガンツ　まあ、北岡もこれからですね。『Dynamite!!』に本当に出られるのかどうかっていうのは。
井上　えっ、そうなの？　話が決まってる

からパンクラスを辞めたと思ったんだけど。
――それはじつは決まってないんですよ。事前にSRCサイドに伝えた様子もないですし……。
ガンツ　最近、SRCの向井代表はツイッター上でこんなことをつぶやきましたからね。「コーヒーブレイク。格闘技業界と社会の秩序を考える」って（笑）。
――しかも、その後に「喝！」って、先日亡くなられた大沢親分ばりにつぶやいてるんですよ（笑）。
井上　何それ？（笑）。どういうこと？
――北岡の気持ちは、先日の試合後のマイクにすべて現われてましたよね。「やっぱり自分は〝戦極の〟ライト級チャンピオンだったんだ」っていう思いが強いんじゃな

気分はもう大晦日！


じつは昨年の大晦日の吉田秀彦vs石井慧の柔道金メダリストマッチテレビ解説を務めていた小川直也。河本が緊急入院してヌルヌル相撲が消滅したいま、最後の大勝負を懸けて本戦出陣はありえるのか……!?

大晦日地上波はTBSの伝家の宝刀、亀田三兄弟とのセット放映もある？

いですかね。
ガンツ　でも、パンクラスは、お世話になっているドン・キホーテの安田隆夫会長が出資している団体ですから。安田会長やパンクラスには義理立てしたい。そのための弘中（邦佳）戦だったのかも。
――北岡の件は推移を見守るとして、もう一つの噂として、ギルバート・メレンデスの大晦日参戦が濃厚とされていますね。
井上　おおっ？　ということは……。
ガンツ　9月のDREAMにストライクフォースのスコット・コーカー代表が来ていたんですけど、正式にDREAMから貸し出し申請があったみたいですよ。となるとやる気でしょう、メレンデス vs 青木真也の再戦を！
井上　うわっ、きた!!　まるで地上波向きじゃないけど、それは超燃える！
――確かに地上波向きではない。しかし、この一戦に関しては、じつはおもしろい噂があるんですよね。
ガンツ　このワンマッチだけ、まったく違う放送形態になるって計画があるみたいですね。
井上　どういうこと？
ガンツ　まあ、まだ水面下の話なんで、あとでこっそり教えますすよ（笑）。
井上　コラコラ、座談会のネタになんねーだろ！（笑）。
ガンツ　まあ、いまはいろんな放映形態、儲け方を模索してるってことなんでしょう。今年の『Dynamite!!』地上波放送は時間も大幅短縮されるみたいだし、

地上波で流さない試合もけっこう出てくるんじゃないですかね。
井上　地上波テレビ的にはKID vs 宮田で高視聴率間違いナシだから心配ないし。
――なんでだ!?（笑）。でも、視聴率の話でいえば、石井慧一人じゃどうにもならないですからね。TBSの伝家の宝刀、亀田三兄弟とのセット放送があるのかな？
ガンツ　亀田三兄弟が揃い踏みで大晦日に興行をやるという噂がある。
井上　おまえ、なんで自信満々に言いきってるの？（笑）。
――またすました顔で言うから、へんな信憑性がある（笑）。
ガンツ　（無視して）亀田三兄弟の試合をさいたまスーパーアリーナでやるんじゃないかという情報をキャッチしてますよ、私は。
井上　嘘だよ（笑）。だって、たまアリはKID vs 宮田やってんじゃん！
――いや、実現は可能なんですよね。スーパーアリーナは『Dynamite!!』が押さえているわけでしょ？　で、会場をアリーナバージョンにして、コミュニティアリーナを亀田三兄弟興行に貸せばいいんですからね。
ガンツ　それで、テレビはおそらく、前半に『亀田祭り』をやって、後半は『Dynamite!!』ということになるんじゃないか、と。まあ、まだ亀田のほうは決まりじゃないみたいですけどね。
井上　へえ。でも、そうなると、有明だけでなく、さいたまも格闘技フェスティバル

っぽくなると。
ガンツ　格闘技フェスティバルという意味では女子格闘家のRENAクンもいい

井上さんにお任せします。
井上　なんでだよ！（笑）。つーか、小見川vs高谷の再戦はやらなくていいの？

――11月8日にGP決勝。
ガンツ　あ、そう。じゃあ、カード変更し

いう流れとなりますが（笑）。

っぽくなると。

ガンツ　格闘技フェスティバルという意味では女子格闘家のRENAクンもいいですね。

井上　おお、あのカワイコちゃん！

ガンツ　RENAクンは出ます！（再びすました顔で）。

井上　また断言してるし（笑）。

ガンツ　ちょっとしたきれいどころを4人集めて、女子格のワンデートーナメントをやるんですよ！　そして、TBSが「女子世界最強、今夜決定！」みたいに煽れば、これは盛り上がるでしょう。

井上　ガンツマッチメイカー、調子が出てきましたね（笑）。我らがガンツマッチメイカー、頓挫しそうな桜庭vs石井はどうしましょうか？

ガンツ　いや、もう石井はセーム・シュルトで！

井上　冴えてるね、ガンツマッチメイカー！　大晦日はでかいヤツは無条件に数字を獲るというデータもあるからね（笑）。

ガンツ　今年のK－1もシュルト優勝だろうから、K－1フォータイムスチャンピオンvs柔道金メダリストですよ。しかもシュルトは元パンクラス無差別級王者で、UFC、PRIDEでの経験もある立派なMMAファイターですからね。

井上　じゃあ桜庭は？　去年はオープニングで魔裟斗への手紙を読んでたけど。

ガンツ　じゃあ、今年も高田本部長的ポジションで、何かアトラクションをやってもらいましょうか。対戦カードについては、井上さんにお任せします。

井上　なんでだよ！（笑）。つーか、小見川vs高谷の再戦はやらなくていいの？

ガンツ　いや、そこはビビアーノ・フェルナンデスvs高谷のタイトルマッチと言われてますよね。

井上　え？　小見川選手はいいの？　代わりに魅力的なマッチメイクを出さないと、「なんで俺に負けたヤツがタイトルマッチをやってんだよ。出ねえよ！」ってなるじゃん。

ガンツ　……K－1 MAXっていつやるんだっけ？

kamiproが妄想する 2010年大晦日カード

石井慧 vs セーム・シュルト

［DREAMヘビー級王座決定戦］
アリスター・オーフレイム vs アンドレイ・アルロフスキー

山本"KID"徳郁 vs 宮田和幸

K-1甲子園

青木真也 vs ギルバート・メレンデス

RENAが出場する女子格トーナメント

高谷裕之 vs 大和哲士

鈴川真一 vs 古木克明

［初代65キロ級王座決定戦］
小見川道大 vs ビビアーノ・フェルナンデス

※外れても抗議しないでくださいメ～ン！

ちょっとしたきれいどころを4人集めて女子格ワンデートーナメントをやるんです！

――11月8日にGP決勝。

ガンツ　あ、そう。じゃあ、カード変更してK－1 MAX63キロ級王者の大和哲也vs高谷裕之のK－1マッチにしましょう！　体重もピッタリ合うし。

井上　小見川はどこに行ったんだ（笑）。

ガンツ　いや、去年の魔裟斗vs川尻達也と同じようにK－1 MAXのチャンピオンとDREAMのチャンピオンクラスの伝説のケンカ屋が、K－1マッチでド突き合いですよぉぉぉぉ!!

――TBSが喜びそうだな（笑）。じゃあ、ビビアーノvs小見川？

ガンツ　うん。DREAMのフェザー級は63キロ契約だったんで、65キロまでしか落ちない小見川はダメだったんですけど、今年の大晦日から65キロに変更することにしたんで。

井上　えっ、ホント？

ガンツ　いま俺が決めました（笑）。

井上　またおまえか！（笑）。

ガンツ　これにより体重問題がなくなったので、ビビアーノvs小見川の新フェザー級王座決定戦を行ないます。

井上　おまえ、いったい誰だよ！　でも、ことごとく悪くない……（笑）。

――じゃあ、整理すると、セーム・シュルトvs石井、ビビアーノvs小見川、メレンデスvs青木、大和vs高谷、RENA参加の女子格4人トーナメントは決定。それとK－1甲子園もやるでしょう。あと、じゃあKIDvs宮田も入れておきますか？

井上　あざす!!

ガンツ　あと、DREAMヘビー級王座決定戦をそろそろやりましょう。アリスター・オーフレイムvsアンドレイ・アルロフスキーで。ただ、このカードについては、発表だけしておいて、直前で中止になるという流れとなりますが（笑）。

――2年前から「アルロフスキー来る来る詐欺」についに終止符が！　そんなこと言ってて、ティム・シルビアみたいに気がついたらIGFのほうに出ているかもしれないけど（笑）。

井上　IGF絡みだと、元若麒麟の鈴川真一は視野に入れないの？　あとSMASH所属の元プロ野球選手・古木克明は？

ガンツ　古木は大晦日デビューするって話もありますよね。あ、じゃあそれこそ鈴川との対戦がいいですよ。

井上　プロ野球vs大相撲！（笑）。

ガンツ　うん。格闘家、プロレスラーとして、第二の人生をスタートさせる二人が激突するんですよぉぉぉぉ！

井上　あー、お茶の間の共感を得られるかも！　いやいや、なんだかんだで今年もおもしろくなりそうじゃないですか。あれ？　そういえばここ最近の小川直也の言動は、大晦日とは無関係なの？

ガンツ　ああ、小川直也にはたまアリ前のけやき広場でヌルヌル相撲をやってもらいます。

――ダハハハハ！　5年前はけやき広場で涙のハッスルポーズをやっていたのに、5年後はヌルヌル相撲（笑）。

井上　まさかの三元中継実現！　でも、小川のヌルヌル相撲が一番視聴率獲るかもしれないですね（笑）。

ガンツ　うん。『寒中ヌルヌル相撲 in けやき広場』。オーちゃんが次長課長・河本に初勝利で涙のハッスルポーズですよ！　2010年は小川と一緒にハッスルポーズで締めよう！　いくぞ～！

井上　オー！　……って締めねえよ！（笑）。

【10年10月某日／『都内・kamipro』編集部にて収録】

谷川　（『kamipro』速報号の佐伯繁特集を読みながら）……ふ〜ん。いやあ、佐伯さんはたいしたもんだねぇ。
——どうしたんですか、いきなり（笑）。谷川さんもたいしたもんですよ。
谷川　いえいえ、ボクはまだまだ修行が足りないですよぉ。
——最近は何が大変ですか。
谷川　いろんな意味での立て直しかなあ……。
——先日のK−1ソウル大会2連戦も大変そうでしたね。そもそもよく大会開催にこぎ着けたなって。
谷川　確かによくこぎ着けられたっていう気持ちもあるし、「……何もしてなかったなあ」っていう印象も強いなあ。ねぇ、ボク何してったけ？
——知りませんよ（笑）。体制立て直しに忙殺されて大会運営に集中できなかったってことですか？
谷川　うん、全然集中できてないですよ。だって韓国サイドと打ち合わせの一つもできてないんですよ。で、当日会場に行ったらお客さんが少ないからビックリしちゃって。ウフフフフ！
——んあ〜！　笑いごとじゃないでしょ！（笑）。
谷川　ホントに「……なんで入ってないの!?」って驚いたんだけど、それはプロモーションが全然できなかったからだし、いまは資金的な問題はどんどん解決してきてるんですけども、それが韓国まで回らなかったんですね。
——投資銀行PUJIとの提携計画はどうなってるんですか？
谷川　進んでますよ、順調に。ホントに少しずつ回復してます。まあ、年内にはなんとか体制を変えないといけないと思って

今月のサダハルンバ

「USTはUFCを逆転できる可能性を秘めています」



**K-1ソウル大会2連戦に投資銀行PUJIとの話、そして大注目の大晦日！
今月も谷川貞治FEG代表に聞きたいことはたくさんある！
いったいマット界はどうなってるの〜？**

聞き手／ジャン斉藤

ますよ。
——まあでもソウル2連戦はおもしろかったですよね。
谷川　うん。WGPのほうはアクシデントで選手が欠場してなかったら完璧だったんですけど。
——アルロフスキーとルスラン・カラエフ。
谷川　あの二人が出ていたらおもしろい試合をやっていたはずだし、アルロフスキーは決勝に残ってたと思うんだけどなあ。残ったのはピンチヒッターのマイティ・モーだもんな〜（ガックリ）。
——世代交代を推進していきたい谷川さんからすると、そこは不満ですか？
谷川　不満だねぇ。でも、急な欠場だったから、ほかに選手がいなかったんですもん。1週間前のタイミングでビザも含めて間に合う選手がさ。結局、（ラウル・）カティナスはマイティ・モーに負けたけど、本音はカティナスにチャンスをあげたいですよ。まだベスト16には早いけど、彼は絶対に強くなるんで。
——フジテレビの地上波中継も「新しい選手を磨いていこう」っていう現場の意識が伝わってきましたね。
谷川　そこはフジテレビさんがちゃんと我慢してやってくれてるし、アンドレイ・アルロフスキーのことも凄く買ってくれてたんですよね。
——フジテレビはスポーツ中継としての意識が強いですもんね。
谷川　だからフジテレビはジェロムの件でクレームをしてきたんですよ。
——バンナの試合放棄。
谷川　「ああいうことがK−1であっちゃいけない」って。ボクの感覚からすると、「これでいいのだ！」っていう感じなんだけど（笑）。
——んあ〜！　そこは谷川さんがいることでバランスが取れてるっぽい（笑）。
谷川　あのままジェロムが京太郎くんと延長を闘ったら絶対にやられてたでしょ。自分を傷つけずに去っていくところは〝プロレスラー〟だなあって。
——しかも韓国で自分の人気が凄く高いから、その行動が支持されるところを見越してましたよね。
谷川　そういう計算も絶対にある。だからジェロム・レ・バンナは〝プロレスラー〟として一流なんですよ。ボクなんかは「ジェロムらしいなあ……」って思うんだけど。
——プライド高き老兵の人間味あふれる去り方として。話は変わりますが2日目のMAXはUSTでライブ中継しましたね。
谷川　あれねぇ、ボクの知らないあいだに決まってたんですよ。
——んあ〜！　どんな主催者ですか（笑）。
谷川　いちおう話自体はしてたんだけど、いつのまにかとんとん拍子に計画は進んでて。前にUSTの社長が来日されたときに何回かお会いしたんですけど、「K−1はキラーコンテンツになるチャンスがある」って言っててさ。社長さんがね、格闘技が好きなんだよね。
——軍隊で格闘技をやられてたとか。
谷川　しかもK−1のことに詳しいんだよ〜。
——谷川さんより詳しいかもしれない（笑）。
谷川　（無視して）この『kamipro』でも「ネット配信時代」っていう記事が載ってるけど、これからテレビの役割って確実に変わるし、そのなかでUSTの存在は大きいですよね。そのうちUSTで課金

マスとコアの両方対応型の選手をどれだけ育てられるか

システムができる時代が来るだろうし。

――パソコンがあればいいだけですもんね。

谷川　そうなんです。複雑なシステムがいらずに全世界で観れちゃうわけだから。

――“U”は“U”が消すって感じで、USTでUFCを逆転できるかもしれませんかね？（笑）。

谷川　その可能性を非常に秘めてますね！　UFCが進出できていない分野だから、これは強い武器になりますよ。UFCがなんだ〜！

――GO GO！　サダハルンバ！（笑）。

谷川　時代が変わるよ〜！　イベントのやり方も変わってくると思う。というのは、地上波に向けたイベントをやるときもあれば、マニアに向けたイベントにしなきゃいけないときもある。中国でやるんだったら中国向けにしたり、その環境のニーズに応えていかなきゃならなくなるんです。選手が集まれば大会ができちゃうと思ってるからみんな失敗するんですよ。

――つまりどんな目的を持ってイベントを行なうかということですね。

谷川　地上波のテレビでやるんだったら、ゴールデンのための大会を作んなくちゃいけないし。かといって、あんまりテレビを意識しすぎてもいろいろと言われちゃうし……。イベンターはそういうところとも闘わなくちゃいけないから。

――たとえば、いまのDREAMにはどんなニーズが求められてると思いますか？

谷川　地上波とPPVのそれぞれのニーズがまだ混在してると思いますね。

――確かに地上波とPPVを見比べると、違うイベントの印象を受けますよね。そこは混在をなくしていきたいですか？

谷川　いまは地上波に比重を置くべきですね、とくにゴールデンタイムのときは。かといって、テレビ自体も変わってきてるから頼ってばかりはいられないし。テレビを一つの大きな柱にしながら、新しいメディアにシフトチェンジしていかないとね。

――なんだかんだで地上波最大の武器はプロモーション効果がありますよね。

谷川　亀田vs内藤なんかもわかりやすかったけど、地上波で火がつくとホントに凄いから。だから大晦日は典型的な地上波向けのイベントにするべきだし、メディアの環境に合わせて対応すべきだよね。

――そうすると選手の役割分担も明確になってきますね。

谷川　うん。たとえば石井慧くんなんか地上波テレビ向きの選手ですよ。そういう意味では日本の格闘技界にとって石井選手は宝だと思いますけど、かといって石井くんがPPV向けのマニアから評価を得るにはかなり時間はかかるよね。逆にいうと高谷選手なんかはPPV向きだったけど、最近は地上波っぽくもなってきた。ガイジンでいうと、じつはゲガール・ムサシなんかも両方から支持されるタイプですよ。



USTで全試合生中継されたK-1MAX。時代は「テレビ格闘技」から移行している――。どんな価値観が生まれようとしているのか。

――谷川さんのゲガール萌え、きた！（笑）。

谷川　いいよねえ、ゲガール……（ウットリ）。武闘家っぽい雰囲気がたまらないなあ。あの佇まいはマニアやマス両方に伝わるでしょ。あとメイヘムもサクちゃんっぽいところもあるからいいね！

――今度そういうチャートを作りたいですね。「サダハルンバが考えるバランスシート」（笑）。石井選手がコアのほうに成長していく可能性はあるとお考えですか？

谷川　ボクは時間がかかると思う。あとはマネージメントをしている人たちがコアに向いてないもん。あくまでも地上波に向いてますから。

――スポーツ新聞向けのリップサービスがコアなファンから反感を買ってみたいな（笑）。

谷川　そうそう。いまあのやり方は成立しないんですよ。こないだテレビでやってたんだけど、10年前と比べて、人間一人に入ってくる情報量って6000倍って言ってましたもんね。

――10年間で6000倍！

谷川　だから前時代的なプロレス流の挑発はもう成立しないんですよ。たとえば猪木さんが「ジャングルで闘え！」と煽ってもマニアは聞く耳持たないでしょ。

――ジャングルアングルが通用しない時代かあ。

谷川　いまはバダ・ハリが人を殴ったみたいな情報があっという間に出回りますからね。そんな時代にホントにやるかどうかわからない発言に一喜一憂しないよね。

――ホント難しいですね。この情報量のなかでプロモーションしていくのは。

谷川　だから、マスとコアの両方対応型の選手をどれだけ育てられるか。その点、魔裟斗は合致してたんですよ。晩年はコアなファンにもの凄く支持されてたし。バランスよく両方から信頼できるっていう。飲みなんかに行くと、一般の方から魔裟斗の話は絶対に出ますからね。最近はアリスターの評判もいいんだよ。

――アリスターはマスからもコアからも「怪物」のイメージを持たれてて。

谷川　そこはフジテレビのプロデュースのうまさでもあるんだよね。

――TBSのプロデュースはどう見てますか？

谷川　TBSはフジテレビに比べれば「視聴率を獲りたい」って気持ちが凄い強いですね。良い意味でも悪い意味でも『Dynamite!!』をやってるテレビ局という感じですよね。

――嘘から出た真なのか、石井選手がK-1に出場するって話もあるそうですね。

谷川　ホントにやりたがってるみたいだ

大晦日は隠し球を作らないとダメ。一点でいいから何か引っかかるものを

ね。MAXやWGPでワンマッチをするという話もある。ただ、ボクまだしゃべってないんですよ。一度、お話させてもらおうかなとは思ってるんですけど。だけど、それはあくまでもテレビカードになっちゃうんですよね。

――地上波向けの企画。

谷川 これもマッチメイクが難しいんですよね。勝たせてあげたいし、かといって弱い選手とやってもしょうがない話だし。

――そこのバランスは難しいですよね。テレビサイドからの出場要請はあるんですか？

谷川 TBSは単純に出てほしいでしょ。逆にフジテレビはそうでもないかなあ。フジテレビが求めるとしたらバダ・ハリみたいな選手ですよ。バダ・ハリもコアからもマスからも支持があります。ただ、石井選手にK―1ファイターの魅力を感じたら評価するだろうし、単なるテレビの企画として出そうという気持ちはないんじゃないかな。前にフジテレビのK―1にボビー・オロゴンを出したことがあるんですけど、あんまり扱いがうまくないんですよね。

――TBSと比べて（笑）。

谷川 フジテレビにはそぐわないんでしょうね。「ぜひ次回も！」っていう感じではなかった。視聴率は良かったですけどね。

――今回、DREAMとK―1の視聴率はそれぞれどう評価するんですか？

谷川 足りないですね。どっちもあと2～3パーセントはほしかったなー。今回は裏番組がとにかく強かったですよ。そんなかではよく健闘したなと思う一方で、格闘技番組はもっと特別なものじゃなきゃいけない思いがあるからさ。その特別な選手がいま格闘技界からいなくなってますし、輝きがなくなってしまった選手もいるよね。だからコアなファンしか見てないっていうか。

――いまの時代、マスのファイターを作るっていうのもなかなか難しくなってきてますよね。

谷川 ホント難しい。マスのファイターを作るのは。最近の成功例ってバダ・ハリぐらいかなあ。

――それで今年は大晦日はどうなりそうですか？

谷川 混乱してるからこそ、何か隠し球がほしいですね。

――自分から「隠し球がほしい」と（笑）。

今月のサダハルンバ



K-1参戦以降、存在感を増していったアリスター。かねてから逸材だったが、誰がこんなブレイクを予想できたか。

谷川 隠し球を作らないとダメだと思ってますね。一点でいいから。

――一点豪華主義。

谷川 一点でいいからなにか引っかかるものを作らないとダメだなと思ってますね。その勝負だと思います。

――何かあてはあるんですか？

谷川 いや～、コネクションというか、環境とか人脈的にはいろんな部分であるんですけども、今年の大晦日までに間に合うかどうかですね。意外と時間がないですからね。

――たとえば北岡選手が「大晦日に出たい」っていう話がありますが、谷川さんはSRCとの向き合いがあるわけじゃないですか。そういうなかで出場っていうのはありえるんですか？

谷川 SRCとはいい関係ですし、北岡選手は魅力ある選手だと思ってるんで、SRCさんも納得していただけるようなかたちで上がることは可能だと思いますよ。それは吉田道場の選手もそうでしたし。その選手一人のためにどこかと関係が悪くなるのもよくないし。皆さんが心地よくリングに上がれるようにしたいよね。

――非常に大人な発言、ありがとうございます（笑）。

谷川 いやいや、大人になってやってかないとダメですよね。小見川選手もね、もったいないんですよね。いまは中途半端な外敵っていうか、もうちょっとプロモーション側を信頼して試合を組んだり露出したほうがいいと思うけどね。

――また信頼関係が築けていない感じですか？

谷川 そこは身を預けてくれたほうがボクらは一生懸命やりますよ。中途半端なままだとこっちもどうしたらいいかわからないし。もっと身を任せたほうが彼はぐんぐん伸びますよ。奥さん、きれいだし！

――なんじゃそりゃ（笑）。

谷川 人生の勝者だね～。というわけで、『kam·ipro』読者の皆さんも頑張れ～！

――んあ～！ なんて締めだ（笑）。最後に一つだけ。今回、テーマ曲のアンケートを取ってるんですけども、たとえば谷川さんがプロレスラー・格闘家になったときに使いたいテーマ曲って？

谷川 やっぱ『キャプチュード』ですよ!!

――ワハハハハハハ！ 前田日明に怒られますよ！

谷川 そんなことないよぉ。音楽的にも好きだし、思い入れのある方が使ってた曲ですし。入場曲で好きなのはヒクソンの『ラスト・オブ・モヒカン』。最強の感じがする。

――オールジャンルで好きな歌を3つお願いします。

谷川 いまは「いきものがかり」の『帰りたくなったよ』と、柴咲コウの『最愛』。

――ほほう（笑）。

谷川 あと福山雅治の『蛍』かな～。いや、最近殴られた女の人の歌かな。


――鬼束ちひろですか。

谷川 『月光』！ 頭にきたときにね、帰りの車の中でボリュームを上げて、でっかい声で歌うと気持ちいいんだよ～。ホントにスッキリするから～（しみじみと）。

――じゃあマット界の安泰なのは鬼束ちひろのおかげでもあるということですね（笑）。

谷川 そういうことです！ ♪この腐敗した世界に堕とされたぁ……（大声で！）。

【10年10月某日／都内・某所にて収録】



聴いてみい、この音ッ!!

特集

プロレス・格闘技と音楽

NO MUSIC! NO BATTLE!! ということで、TKが147号ぶりに表紙をゲットした今回のテーマは音楽。
プロレス格闘技と密接な関わりを持つ“音楽”に変態的アプローチで迫る♪
ハッシモ! トハッシモト!!(『爆勝宣言』のリズムに乗って)

玉袋　さあ、今日は椎名先生が珍しく時間どおり来たんで、ガンツ、さっ

すらカットするTBS。
玉袋　試合ってもんは入場から始ま

たりするんだよ。
椎名　徹夜で用意した原稿が台な

なもんだよ。これは俺たちが毎回言ってる、WOWOWの問題点でもあ

ガンツ　本人も最高に気持ちいいでしょうね。PRIDEに出たい人っ



『炎のファイター』から「若翔洋のテーマ」まで!

浅草キッドの玉ちゃんと語る!

俺たちの入場テーマ曲変態座談会

毎度おなじみ、ダメな大人たちが『加賀屋』で酒を飲みながら語りまくる変態座談会! 今回のテーマは「入場テーマ曲」。子どもの頃からマラソン大会などで苦しくなると、脳内で猪木のテーマ曲『炎のファイター』を流して自らを鼓舞することで乗り越えてきた変態メンバーが、愛しの入場テーマ曲を肴に今宵も語ります!

構成／堀江ガンツ

テーマ曲でプロとしてのセンスがわかる。石井はダメだったな〜

玉袋 さあ、今日は椎名先生が珍しく時間どおり来たんで、ガンツ、さっさと始めちまおうぜ。生ビール3つ！

椎名 今日は「開き直ることが精神力の強さ」という猪木の言葉を噛みしめずにすみました（笑）。

玉袋 で、今日のテーマはなんだ？

ガンツ 今回はですね「入場テーマ曲変態座談会」として行ないたいと思います！

玉袋 そろそろネタ切れじゃねえかと思ってたんだけど、そうきたか〜。

ガンツ やっぱり我々にとって、音楽といえば入場テーマ曲じゃないですか。

玉袋 大好きだよ。プロレス&格闘技にとって大事な要素だしな。

椎名 人気が出る選手は、みんなテーマ曲もいいもんね。

玉袋 そうなんだよ。けっこうテーマ曲で出世できるか、できねえかってあるんだよな。たとえば素材がよくても、瀧本誠みたいにヒーロー物的な曲で入場されちゃうと、なかなかスターになれねえんだよな。

ガンツ パチスロかなんかの曲なんですよね。

玉袋 ガックシだよ。マンガでも始まんのかと思ったもん。

椎名 テーマ曲でプロとしてのセンスの違いがわかりますよね。

ガンツ そしてフジテレビとTBSの格闘技中継の違いは、入場をしっかり見せるフジと、メイヘムの入場すらカットするTBS。

玉袋 試合ってもんは入場から始まってんだもんな。流してほしいよ。あれ、アナウンサーも入場のときに読む原稿を書くの大変なんだよ。

椎名 あれって作家がいるんじゃないの？

玉袋 いや、全部アナウンサー本人だよ。前の日に選手をインタビューしてネタ仕込んで、曲の分数とか計ってリングインとピッタリになるようにアナウンス原稿用意するんだけどよ。そこまで準備万端にしながら、ノゲイラが走って入場してきちゃったりするんだよ。



椎名基樹
1968年4月11日、静岡県出身の42歳。本誌の好評長寿連載コラム『サムライ三昧』でもおなじみ、変態座談会癒しの重鎮。構成作家、放送作家。ブルーザー・ブロディのテーマ曲『移民の歌』に乗って暴れながら入場するのが夢。

玉袋筋太郎
1967年6月22日、東京都出身の43歳。子どもの頃から蔵前国技館に通った変態プロレスエリート。お台場で毎月開催しているイベント『スナック玉ちゃん』では、映画『トラック野郎』主題歌『一番星ブルース』を入場テーマ曲に使用。

堀江ガンツ
1973年9月14日、栃木県出身の37歳。変態座談会主宰者。ちっちゃい頃から変態的プロレス&格闘技ファンとして鳴らし、UWF研究家を自称。iTunesでプロレス入場テーマ曲のダウンロード購入がやめられないのが悩みの種。

椎名 徹夜で用意した原稿が台なし（笑）。

ガンツ でも、あの入場シーンってアナウンサーにとって見せ場ですよね。

玉袋 見せ場だよ！

ガンツ ところがWOWOWのUFC中継は、入場が見せ場だって全然わかってないんですよ！

玉袋 そう！ 入場シーンで雑談しちゃってんだもんな〜。

ガンツ 「稲垣さん、この選手はどんな選手ですか？」とか言って、そんなのアナウンサーが事前に調べてしゃべればいいじゃないか！って（笑）。

玉袋 プロレスや格闘技中継っていうのは、あの入場時のしゃべりで、視聴者を試合に引き込んでいくんだから。見世物小屋の前の口上みたいなもんだよ。これは俺たちが毎回言ってる、WOWOWの問題点でもあるんだけどね。

椎名 なんか『レディス4』みたいに、のんびりしちゃってるんだよね（笑）。

玉袋 究極格闘技のわりに『旅サラダ』的な空気なんだよ！ あのまったり感なんとかしてくれねえかな。もっとビッシビシいってほしいんだよ！

椎名 アドレナリン全然出ないんだよね。α波が出てきそうな中継（笑）。

玉袋 ミルコが出てきたら、もっと言うことあるだろって思うんだけどな。WOWOWさんには仕事もらってるけど、そこだけはなんとかお願いしたい。

ガンツ 何度も言ってますけど、WOWOWが好きだからこそ、言ってるわけですからね（笑）。

玉袋 まあ、でもホント、テーマ曲って重要だよな。これまで名曲がいろいろあったぞ。

椎名 ここ数年で一番のヒットといえば、ヴァンダレイのテーマじゃない？

ガンツ いいですね〜。イメージピッタリですよね。

椎名 「狂ったヤツがやってきた！」って感じだよね（笑）。

ガンツ あのリズムがヴァンダレイのアドレナリンを表現してますよ。

玉袋 そこにレニー（・ハート）さんが、コールをかぶせてくるからね。シウバのときは、舌の回転数が違うよ！

椎名 舞台からせり上がってくるのがカッコよかったよね。PRIDE最後の頃は、ピープルズ・チャンピオンになって、大歓声受けてさ。

ガンツ 本人も最高に気持ちいいでしょうね。PRIDEに出たい人っていうのは、結局、あの入場がやりたいんじゃないかと思いますから（笑）。

玉袋 それは一理あるよな。

椎名 俺だって自宅でやってるもん。

ガンツ なんで自宅でやってるですか（笑）。

椎名 風呂上がりにテーマ曲流して、パンツ一丁でふすま開けて入場するんだよ（笑）。

玉袋 腹出しちゃって、マット・ガファリの入場じゃねえんだから！ 俺だってiPodに格闘技のテーマ曲入れて、車ん中でガンガンかけてるもんな。

椎名 でも、テーマ曲って狙いすぎてコケちゃう場合も多いよね。

玉袋 三島☆ド根性ノ助とかな。これは椎名が言ってたことだけど。

椎名 俺が言ってましたね（笑）。あと高瀬大樹とか。

玉袋 高瀬大樹もダメだったな〜！ "あやや"で入場ってなんだよ！

椎名 でも、なんといっても馬鹿野郎は石井慧じゃない？『炎のファイター』で入場って、バカじゃねえかって！

玉袋 アントンは「馬鹿になれ」って言ってたけど、あれはなってない「バカ」だった。

椎名 いいかげんにしろ！って。

玉袋 猪木のテーマかけて、あれだけ会場がシーンとしたの初めてだろ。

椎名 そうですよね。普通あの曲が流れたら、大騒ぎですよ。

玉袋 『炎のファイター』って、入場テーマ曲ベスト10とか選んだら、た

ぶんチャートのトップだと思うんだよな。俺たちにとっては国歌みてえなもんだよ。それをさ、あんなふうに使うんだから。怒るの通り越して、あきれちゃったよ！

椎名 藤田和之がPRIDE・GPに出るときに使ったのはよかったけどね。

玉袋 あれはリミックスバージョンだったしな。あとは他人のテーマ曲を使うなら、『男祭り』で小川（直也）が破壊王の『爆勝宣言』で入場してきたら、あれだけ盛り上がるんだからよ。

ガンツ あれは感動的でしたね。4万人集まったPRIDEの会場で「ハシモト」コールですからね。

玉袋 オーちゃんも石井のああいうところにイライラしてるんだろうな。プロレスがわかってねえって。プロレス経験してる選手はズンドコぶりすら伝説になるんだけど、石井のズンドコは伝説にならねえよ。

椎名 スルーですよね。♪受け流す～（笑）。

玉袋 ムーディーだよ！ ムーディー石井だよ！

椎名 ヤマヨシが『キャプチュード』で入場してきたのもかなりズンドコだったけど。

玉袋 ヤマヨシはいい！ あれは人間そのものがズンドコだから！

ガンツ リングスを離脱して、PRIDE第1戦で『キャプチュード』で入場して、11秒でアッサリKO負けですからね（笑）。

玉袋 フリが効いてちゃんとオチてるんだよな。

ガンツ さすがですよね（笑）。

椎名 ヤマヨシと高瀬の違いは大きいよ。

玉袋 違うんだよな～。安田忠夫が坂口征二のテーマで入場してきたのはよかったけどね。

ガンツ ああいう、ちゃんと意味合いがあればいいんですよね。

椎名 でも『燃えよ荒鷲』って小さい頃、嫌いじゃなかった？ 大人になって聴くとカッコいいんだけど。

玉袋 ていうかね、坂口は入場してくるの早いんだよ！

ガンツ イントロの太鼓の部分でだいたい入場終わってますからね（笑）。

玉袋 入場にはある程度、時間がかかったほうがいいんだよ。昔のプロレス観てると、入場時に花道でファンにもみくちゃになって、なかなかリングインできなくて『スカイハイ』や『スピニング・トゥ・ホールド』が二回流れちゃったりしたじゃない。



9.25『DREAM.16』のミノワマン戦で、アントニオ猪木のテーマ曲『炎のファイター』で入場して会場を凍りつかせた石井慧。やってる本人大マジメ、聴いてるほうはドッチラケ!

ガンツ あれがいいんですよね。マスカラスなんか、試合はたいしておもしろくないんだから（笑）。

玉袋 ブッチャー&シークの『吹けよ風、呼べよ嵐』もカッコいいよな。

椎名 子どもの頃、ブッチャーによってピンクフロイドを聴かされてるとは思いもよらなかったよね。あとブロディのレッド・ツェッペリン。

ガンツ ブロディの『移民の歌』って、全日本版はカヴァーバージョンなんですよね。でもカヴァーなのに、超カッコいいんですよ。

椎名 それで新日本はツェッペリンのオリジナルだよね。イントロでベートーベンの『運命』が流れて。

玉袋 あの『運命』がブロディのイメージにピッタリなんだよ。

椎名 あの『運命』があったことで、〝インテリジェンス・モンスター〟のイメージが固まりましたよね。

ガンツ 当時はゴールデンタイムでテレビ番組作ってる人たちが、テーマ曲もつけてたから、音効一つとってもプロフェッショナルですよね。

椎名 『スカイハイ』『スピニング・トゥ・ホールド』『吹けよ風、呼べよ嵐』だもんね。素晴らしい！

ガンツ 昔は自分で選ばないのがいいんですよね。

玉袋 そう。周りがちゃんとプロデュースして、独りよがりじゃないんだよ。アンドレ・ザ・ジャイアントのテーマなんてすげえぜ。怖いよ。

プロレスを経験してる選手は ズンドコぶりすら伝説になる！

椎名 あれ、オリジナルだよね？

ガンツ オリジナルですよ。曲名が『ジャイアントプレス』ですから。よくあんな曲作ったなって。アンドレにピッタリすぎますよ！

椎名 『ジョーズ』系の曲だよね。

玉袋 そうなんだよ！ 化け物が現われるときの曲だよ！

ガンツ 化け物（笑）。確かにそうだ。

椎名 自分で選んだテーマ曲とともにスターになったのは、佐竹雅昭ぐらいじゃない？

玉袋 『怪獣大戦争マーチ』な。伊福部昭！

ガンツ あれテンポ速くして『闘志天翔』っていうオリジナルに作り直してもらったんですよね。あれはテーマ曲だけじゃなく、映画音楽としても日本最強の曲でしょう。

玉袋 佐竹はそういうところわかってるんだよ。最初は『ダースベイダーのテーマ』で入場しようと思ってたんだから。土屋プロデューサーより佐竹のほうが早いんだよ。

ガンツ 『電波少年』より早い（笑）。

椎名 マーチ系なのがいいよね。

ガンツ 入場テーマ曲はやっぱりマーチが合いますよ。

椎名 水前寺清子とか？

ガンツ 『365歩のマーチ』で誰も入場しないでしょ！（笑）。

玉袋 入場しようとしてんのに、3歩進んで2歩下がっちゃうんだから。

椎名 俺、マーチ系で好きなのは、ディック・マードックのテーマ。

玉袋 あとはもちろんPRIDEのテーマもよかったよ。

ガンツ あれも殿堂入りですよね。

玉袋 殿堂入り、殿堂入り。あれは入ってるよ。

椎名 髙田（延彦）戦のときのヒクソンのテーマもよかったよね。

玉袋 『ラスト・オブ・モヒカン』！ 悔しいけど、あんなに〝あの場面〟に合ってた曲もないね。

椎名 ヒクソンがあの曲に乗って、フード被って入場してくるのは怖かったよね。

玉袋 白いガウンっていうのがまたいいよな。それでフードを取ったら、頭をツルツルに剃り上げててよ。『地獄の黙示録』のカーツ大佐だよ！ あの入場を観て「これは勝てねえ」って思っちまったもんな。

ガンツ 髙田vsヒクソン戦の入場シーンって、あのときの音、空気、さらに自分の気持ちも含めて鮮明に覚えてますよね。

玉袋 ぜ～～んぶ覚えてるよ！ 髙田を殺しに来た地獄からの処刑人だったからな。

椎名 でも、ヒクソンはちょっとエレガントなんだよね。

玉袋 そりゃそうだよ。ホテルとか泊まってよ、バスローブがあったら、

入場テーマ曲変態座談会

髙田vsヒクソンの入場を思うといまのテーマ曲はケータイ音楽！

必ずヒクソンの真似してたからな。ラブホテルの一室で髙田vsヒクソン戦再現だもん。

ガンツ　逆にマウント奪われたりして（笑）。

椎名　俺たちってさ、ああいうスケールの大きい曲を体感しちゃってるからさ、どうしてもいまの川尻（達也）の曲とかなじめなくない？　凄く合っててい曲なんだけど、なんかノレないというか。

ガンツ　いい曲なんですけどね。

椎名　いい曲です。ほかに比べたらなんの文句もないけど、ちょっとスケールの違いを感じちゃうんだよ。

ガンツ　髙田vsヒクソンのときなんて、地球がどうにかなっちゃうような気持ちでしたもんね（笑）。

玉袋　いまはちょっと軽いんだよな。重いはずのテーマ曲がケータイでダウンロードできちゃうような軽さっていうかさ。髙田vsヒクソン戦のときの入場曲なんか、アンプとかスピーカーをすべて用意して、あの重厚な音を聴いてこそ意味があるわけじゃない。いまはそれがねえんだよ。ケータイ端末のシャカシャカ音楽なんだよな。

ガンツ　昔のレスラーの入場テーマ曲なんて、生涯聴き続けたい曲ですもんね。

玉袋　だから『炎のファイター』にしても、心にネクタイ、スーツ着用で聴いてるわけだよ。でも、いまはお手軽なんだよな。すぐダウンロードなんだから。俺たちはダウンロードないからね。

ガンツ　テレビの前にラジカセ置いて録音ですからね（笑）。

玉袋　そうなんだよ！　あのテレビの前のラジカセが俺たちのダウンロードだから！

椎名　「いま録音してるから、お母さん静かにして！」って言いながらのダウンロード（笑）。

玉袋　でも、そういうことだと思うよ。その軽さが伝わってきちゃうよ。

ガンツ　あと、昔のテーマ曲をいつまでも忘れないっていうのは、ゴールデンタイムに毎週聴いてた曲ですからね。

玉袋　身体に染みついてるよ！

ガンツ　だから条件反射で、プロレスのテーマ曲を聴くと身体が燃えてきちゃうんですよね。

玉袋　燃えちゃうよ。セン○リのスピードだって速くなるよ。

ガンツ　テーマ曲かけながら、何をやってるんですか！（笑）。

玉袋　でもよ、自分の好きなテーマ曲で入場するって、選手も気持ちいいだろうな。あれは歌わねえカラオケみたいなもんだよ。

椎名　だから、それこそオ○ニーみたいな独りよがりな曲も出てきちゃんだけどね（笑）。

玉袋　オ○ニー系はダメ！　総合のちっちぇえ大会に多いんだよ。

椎名　いろんなズンドコ曲はあったけど、一番ズッコケたのは『HERO'S』の若翔洋！　ガンズ・アンド・ローゼスのジャジャーン！ってカッコいいギターサウンドに乗って、どっからどう見ても相撲取りが舞台にせり上がってくるんだもん！「合わね〜！」って大爆笑したよ！（笑）。



プロレス&格闘技史上、もっともドラマチックであったともいえる髙田延彦vsヒクソン・グレイシーの入場シーン。重厚なテーマ曲は"悲劇"すらも美しく演出するのだ。

玉袋　あれはズンドコ・ナンバーワンかもしれねえな。

ガンツ　本人ノリノリなんですよね（笑）。じゃあ、最高の入場テーマはどうですか？

玉袋　なんだろうな〜、でもやっぱり髙田vsヒクソンになっちゃうな。あんときの『トレーニング・モンタージュ』にかなうもんねえだろ。

椎名　田村vsヘンゾ戦の『UWFプロレスメインテーマ』もしびれましたよね。あんときは田村の入場を拝んでたもん。

玉袋　あれは拝む！

ガンツ　田村vsヘンゾでUWFのテーマが流れるときって、「田村潔司選手の入場です！」って言ってから一瞬間が空くんですよね。それでファンが「おや？」って思った次の瞬間に、あのUWFのテーマが流れるんだから、一瞬で血が沸騰ですよ！

玉袋　おいおい、こっちはその話を聞いてるだけで鳥肌立ってくるよ！

ガンツ　イントロが流れた瞬間、武道館が爆発しましたからね。どんだけ気合いの入ったUWFファンで埋めつくされているんだって。

玉袋　石井に足りねえのはそこなんだよ！

ガンツ　ファンと思いを共有してないんですよね。

玉袋　そうなんだよ！　石井はこの変態座談会を読め！　田村は大一番になると、試合以外に何か"お土産"を残してくれるんだよ。それがテーマ曲だったり、小太刀だったり、レガースだったりするわけだけどよ。それはみんなファンに対してやってることだからね。独りよがりじゃねえんだよ。

ガンツ　しかも、毎回やるわけじゃないのが憎いですよね。

玉袋　たま〜にしかやんねえんだよ。お約束にしねえんだよな。で、田村はシリアス系だけど、サクはおちゃらけてるようで、背負ってるものがあるから、最後はグッとくるんだよ。

ガンツ　ホイス戦の入場なんて、永遠の名シーンですもんね。

玉袋　あれは最高！　さっきから何回、「最高」って言ったかわからねえけど、最高！

椎名　桜庭はテーマ曲を変えないところもいいよね。よくいるじゃん。定着したいい曲なのに変えちゃうヤツ。

玉袋　テーマ曲を変えるっていうのは、ある種、裏切りだからな。そういや田村も一度変えたことあんだよ。吉田秀彦戦。

ガンツ　ありましたね〜。みんな田村応援モードで、手拍子の準備をしてるのに、へんなピコピコ鳴る曲が流れてくるんですよ。

玉袋　スカすよな〜、完全にお手を拝借状態だったのに、スカされたんだからよ。あんときのズッコケはなかったよ!!

椎名　さっきまで『田村最高！』って言ってたのに（笑）。

玉袋　最高で最低だよ！　石井慧も田村のああいうところは学ばなくていいから。

ガンツ　では、石井慧はまず『炎のファイター』を封印しろ！　ということで、今日はお開きにしましょう！

【10年10月5日／都内・『加賀屋』中野坂上店にて収録】

1 炎のファイター



アントニオ猪木

いわずと知れた最強テーマ曲。現在でも猪木系芸人の出囃子として、また藤田和之、そしてなぜか石井慧の入場テーマとして継承中。おそらく永遠の第1位確定だ!

2 スピニング・トゥ・ホールド



ザ・ファンクス

テリーのイメージにはよく合っているが、ドリーのシングルマッチのときにはいささか違和感も。とにかく昭和の名曲といったら、なんだかんだいってこれだと思います。

3 マッチョ・ドラゴン



藤波辰巳

テーマ曲を何度となくチェンジしているドラゴンだが、もっとも脂がのっているときにピンクのジャンパーと併わせて使用し、あきらかにイメージを悪くした曲。本人の歌は伝説!

4 サンライズ

スタン・ハンセン

いまでは「バラエティにおける大乱闘開始の合図」としてすっかり定着。ブルロープをブン回し、観客を蹴散らしながら入場するハンセンの暴走ぶりにピッタリなナイス選曲。

5 移民の歌

ブルーザー・ブロディ

オリジナルはレッド・ツェッペリンだが、プロレスファン的には日本の無名グループが演奏したボーカルなしバージョン（全日本プロレス参戦時に使用）が絶対に愛されています。

6 サーベルタイガー

タイガー・ジェット・シン

もはや入場テーマ曲というよりも、プロレス会場限定の警報音。サーベルをくわえて荒れ狂うシン。それをなだめる上田馬之助。そんな国宝級の名シーンが脳裏に浮かぶ佳曲。

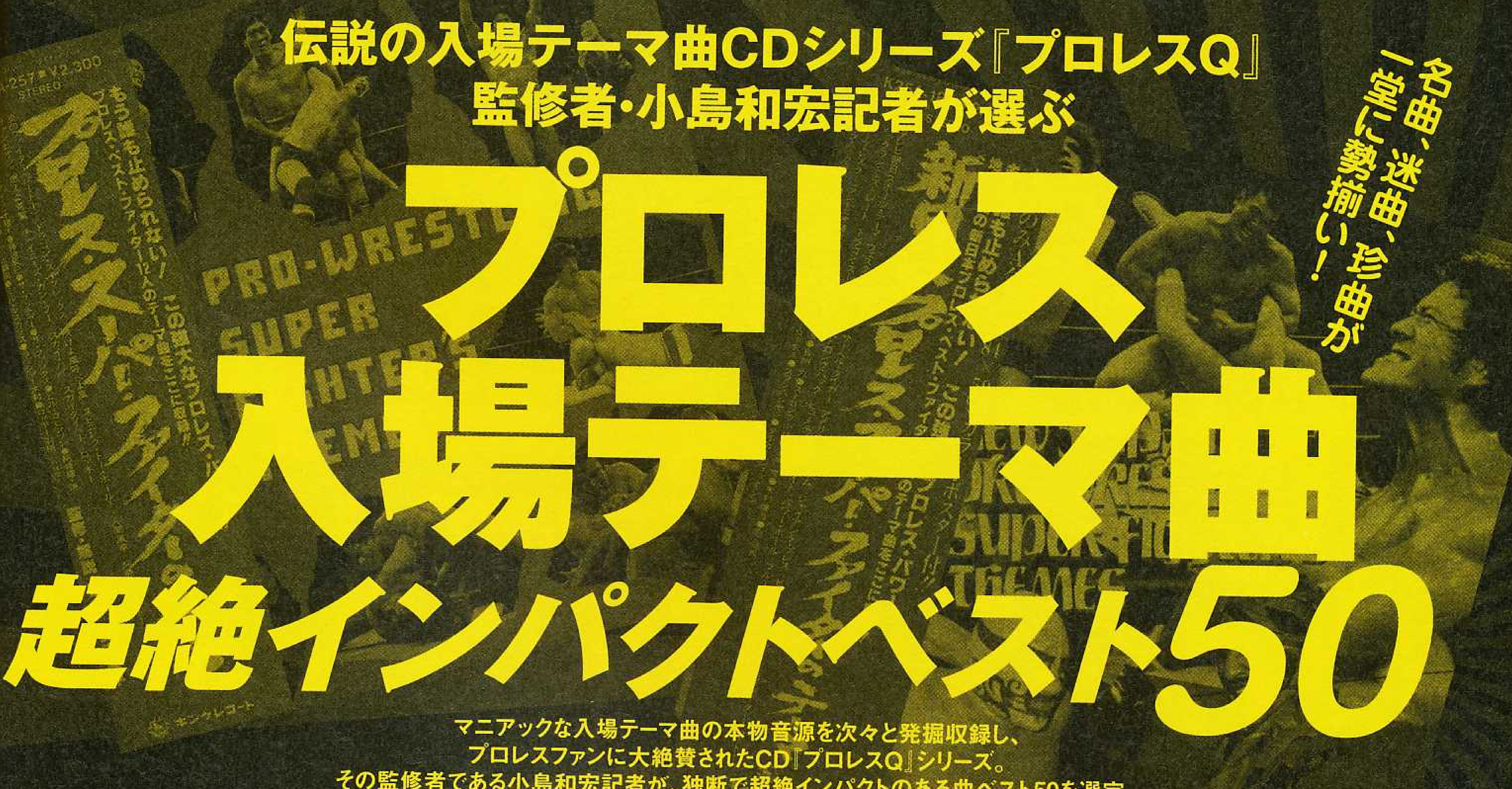
7 U.W.F.プロレス・メインテーマ

山崎一夫の個人テーマとしても使用されたが、なんといってもUWFの象徴! のちにヘンゾ・グレイシー戦で田村潔司がこの曲に乗って入場したときには武道館が震えた。

8 阿修羅パート1

阿修羅・原

プロレステーマ曲史上に残る怪曲。必要以上に野太く、いい声な男性ヴォーカル氏の『アシュラー!』。爽やかな女性コーラスによる「アシュラ、アシュラーッ」。破壊力満点。



伝説の入場テーマ曲CDシリーズ『プロレスQ』
監修者・小島和宏記者が選ぶ

名曲、迷曲、珍曲が一堂に勢揃い!

プロレス入場テーマ曲 超絶インパクトベスト50

マニアックな入場テーマ曲の本物音源を次々と発掘収録し、
プロレスファンに大絶賛されたCD『プロレスQ』シリーズ。
その監修者である小島和宏記者が、独断で超絶インパクトのある曲ベスト50を選定。
昭和のプロレスファン涙ものの曲が勢揃いだ!

37 Second Rendez-vous
ヴォルク・ハン

ロシアっぽい曲といえばヴォルク・ハンのテーマ曲。これまた原曲はフランス人が演奏しており、まったくロシアじゃないんですけど…イメージって怖いですね、ホントに。

38 風の音
小川直也デビュー戦

いきなり東京ドームでデビューした小川直也。なんとテーマ曲を使わず「ビュービュー」という風の音をバックに入場。いかにテーマ曲が重要なのかを教えてくれた迷演出。

39 ワイルドシング
大仁田厚

超有名な曲なのに、いつのまにか自分のイメージに染めてしまった全盛期の大仁田厚はなにげに凄い。入場というよりも試合後のパフォーマンスのBGMとして有名かも?

40 明日への叫び
中野龍雄

ジョー山中が歌う映画『あしたのジョー2』の主題歌。当時はまだインストを使うのがあたりまえだったので、印象的なボーカルが鳴り響くこの曲はそれだけで個性になった。

41 みちのくひとり旅
TAKAみちのく

プロレス界初(?)の演歌入場曲。MASAみちのくからTAKAみちのくへと継承された。当時のユニバーサルプロレスはこんな悪ふざけが許されてしまう唯一の団体でした。

42 魔王凱旋~地獄の皇太子
高田延彦

新日本でジュニア戦士として活躍していた「わがままなヒザ小僧」時代のテーマ曲。個人的には後年の「トレーニング・モンタージュ」と並ぶ佳曲かと。演奏は聖飢魔Ⅱでした。

43 バイオレントサタデーのテーマ
越中詩郎

その当時、高田とライバル抗争をしていた越中はこの曲を使用。アニマル浜口氏の息子さんがサビに合わせて「ラララ、ヒップマーン」と後楽園ホールで熱唱していました。

44 冴夢来On My Life
剛竜馬

剛竜馬といえば『アイ・オブ・ザ・タイガー』のイメージが強いが、晩年にはこんなオリジナル曲を使用。えーっと、タイトルを『イノキボンバイエ』っぽく歌った感じの曲ですね。

45 夜を撃て
『ギブUPまで待てない!! ワールドプロレスリング』OP

番組の評価はさんざんだったが『狂詩曲』、『OLYINPICは火の車』などOPは名曲揃い。それでも初回放送時にこの曲が流れたときは、斜め上すぎる驚異の演出にのけぞりました。

46 カクトウギのテーマ

坂本龍一の名曲。当初は全日本プロレス中継で次期シリーズ予告映像のBGMとして多用されてきたが、いつしか時間切れ引き分けで終わったあとに流れる曲として定着した。

47 SUNNY EARTH
ジャイアント・キマラ

いわゆるワールドミュージック的な楽曲。「アーアーアー、アァアー」と文字で書いてもわかりにくいアフリカンな雄叫びが延々と。キマラに合う、というだけで超選曲!

48 BOOK OF DAYS
近藤有己

おそらく本人はリングに上がる前にリラックスするために選曲したんでしょうが、観客は手拍子すらできずに置いてけぼり!休憩時間に流れていたらピッタリの静けさだ。

49 安息の後ろ側
ラッシャー木村

ラッシャー木村が全日本プロレスで「国際血盟軍」を結成していた当時のテーマ。馬場へのマイクアピールが注目され始めた頃に流れていたなかなかの佳曲ですよ。合掌。

50 オリンピア
世界最強タッグのテーマ

年末になると思い出す……プロレスのテーマ曲なのに季節感たっぷりの異色曲。なんだかんだで20年以上も使われているロングセラー。あぁ、今年もそんな季節なんですねぇ。

23 爆勝宣言
橋本真也

来年3月には息子の大地くんのプロレスデビューがささやかれているが、やっぱりテーマ曲も継承するのだろうか? この曲が似合うようなスケールの大きさがあれば最高だが。

24 セパラドス
ザ・グレート・サスケ

音程がとんでもないことになってしまっている本人歌唱バージョン。普通はボーカルなしを使うものだが、この人の場合は平気で人前で歌ったりもするからやっぱり凄い。

25 タイガーマスクⅡ世
初代タイガーマスク

そもそもテレビアニメとのタイアップだった初代タイガー。ゆえにアニメ放送中は主題歌が入場時にも使用された。ありそうであまりない水木一郎アニキ熱唱のテーマ曲だ。

26 怒りの獣神
獣神サンダー・ライガー

こちらもアニメとのタイアップだが、肝心のアニメがヒットしなかったため、いつのまにかレスラーのテーマ曲として定着。海外遠征時、現地のテレビでもこの曲が流れた!

27 BLACK RIDER
木戸修

いぶし銀・木戸修のテーマ。シングルマッチが放送されることが少なく、あまりテレビでは流れなかったが、なぜか裏番組『ビッグベストテン』のOPに使用されてしまった。

28 THE FIGHT
マサ斎藤

映画『OVER THE TOP』のサントラから。いまではテレ東の『大食い選手権』の決勝で残り時間5分を切ったあたりから流れるクライマックスのテーマとして有名。

29 テキサスファイト
ディック・マードック

ここまで陽気なテーマ曲、ほかにはない! どこか『線路は続くよどこまでも』に似た旋律。ゴールデンタイムの生中継でケツ出しをしまくったマードックっぽい名曲だ。

30 スカイハイ
ミル・マスカラス

いまだに年に一回は日本にやってくる仮面貴族。オーバーマスクをキャッチするのに夢中で入場シーンなんてじっくり堪能していなかった現在40代の元少年も多いはずだ。

31 日本テレビスポーツテーマ
輪島大士

元横綱が鳴り物入りでプロレス転向。いったいどんなテーマ曲を使うんだろう、とドキドキしていたら、まさかのこの曲。事実上、ジャイアント馬場から禅譲されたことに。

32 王者の魂
ジャイアント馬場

輪島にテーマ曲を譲ったあとに使用。もともとは3000試合出場突破記念レコードに収録されていたイメージ曲で5年近く放置されていたもの。輪島のおかげで有名に!

33 J~サンダーストーム
鶴龍コンビ

同列のレスラーが組んだとき、どちらのテーマ曲を使えばいいのか? という長年の懸案に決着をつけた「2曲合体バージョン」。テーマ曲ならば両雄並び立っちゃうんですよ。

34 ギャラクティカのテーマ
ハルク・ホーガン

世界的に有名なのは「リアルアメリカン」なんでしょうが、日本に限定すれば第1回IWGP当時に使用していたこちらのテーマ曲のほうが確実に耳に残っているはずです。

35 アイアンマン
ロード・ウォリアーズ

入場から試合までが直結していたウォリアーズ。このテーマに乗って全力疾走で入場し、そのまま1分ぐらいで試合終了。なんなら、そのまま曲をかけっぱなしで試合すればよかったのに。

36 レッドスペクタクル
サルマン・ハシミコフ

ソ連の五輪選手をプロレスラーにしてしまうという猪木&永島コンビのヒット作。原曲はソ連とは関係ないが、なんかソ連っぽく聴こえるから不思議。ボブチャンチンも同曲を使用。

9 超闘王のテーマ
北尾光司

元横綱・北尾のプロレス転向にあたりデーモン小暮閣下が書き下ろしたオリジナル曲。デビュー戦の花道、トゲトゲの衣装で師匠のルー・テーズに抱きついたシーンは有名。

10 ヤンキーステーション
ザ・グレート・カブキ

全米を席巻したオリエンタルマジック。日本凱旋のときはちょっとした騒ぎになったが、日本で東洋の神秘を演出する、という難しいテーマをクリアした洋楽と雅楽のMIX!

11 パワーホール
長州力

わかりやすく、きわめて単調なテクノサウンド。革命前から使用していたが、当時は評価されず、長州のブレイクとともに大メジャー曲に昇格。テーマ曲ってそんなもんです。

12 ローリングドリーマー
ジャンボ鶴田

いわゆる"善戦マン"時代に長きにわたって使用された曲。じつはジャンボ鶴田本人によるボーカルバージョンもあるのだが、これがドラゴンに匹敵するほどの破壊力を誇る。

13 ロックミードラゴン
藤波辰巳

超短期間しか使用されなかったが、なぜかドラゴンがラップを担当した迷曲。どうして各レコード会社はあの歌唱力を知りながらドラゴンに歌わせたがったのか? 本当にナゾです。

14 クラッシャー・バンバン・ビガロのテーマ

本人が持ちこんだオリジナル曲。「バーンバーン・ビガロー」と名前を連呼するわかりやすさはイヤでも耳に残る。ちゃんと音盤として商品化したかったテーマ曲ナンバーワン。

15 ストロングマシーンWe are NO.1!
マシーン軍団

悪のマネージャー・将軍KYワカマツが絶叫するだけの珍曲。当時は「これがラップというものです」と喧伝されたが、たぶん違う。のちにワカマツが自身のテーマ曲に。

16 ブッチャー・ザ・グレイテスト
アブドーラ・ザ・ブッチャー

有名な『吹けよ風、呼べよ嵐』は「全日本プロレス極悪レスラーのテーマ」というくくり。この曲のイントロに収録されたブッチャーの呪文が晩年、冒頭にプラスされた。

17 キャプチュード
前田日明・新日バージョン

オリジナルは静かな立ち上がりだが、新日本入場バージョンは「ダダダダダッ」というドラムから一気呵成に始まる。とにかく「マエダ」コールによく合うリズムが興奮を演出。

18 スパルタンX
三沢光晴

かつては上田馬之助も使用していた入場にぴったりの楽曲だが、いまや三沢光晴のテーマ曲にしか聴こえない。マスクを脱いでから不慮の死を遂げるまで、この曲で通した。

19 ジャイアントプレス
アンドレ・ザ・ジャイアント

イメージに合った既成曲を持ってきたのではなく、レスラーのイメージに合わせて作られたオリジナル曲はやはり印象に残る。ジャイアントマシーンの入場もこの曲(苦笑)。

20 ギャラクシーエキスプレス
NWA世界ヘビー級王者

そもそもはハーリー・レイスのテーマ曲だったが、いつしかNWA世界ヘビー級王者のテーマということになり、小川直也が同王座に就いたときにはこの曲を使用していた。

21 HOLD OUT
武藤敬司

ステージごとにテーマ曲をどんどん変えていく武藤だが、凱旋帰国当時に作られたこの曲の熱狂的なファンがけっこう多い。この曲のムタ・バージョンもまた根強い人気。

22 CRASH
蝶野正洋

いまやこの曲が流れると山崎邦正が泣きそうな表情になって怯えまくる姿がニッポンの大晦日の風物詩。ここまで本人のイメージとテーマ曲がシンクロすると強いなぁ〜。

——藤波さん！　今年6月にオンエアさ
れた『めちゃイケ！』の〝歌がへたな王座



れたから、僕も考えてね、「じゃあ、やろう
か」ってなって。

局はあんな状態です……。曲が頭に入っ
てこないんだから、自分が曲に対して早



「うふっふ〜、さあ〜♪」の全真相

伝説の『めちゃイケ！』歌へた王座決定戦

『夢の中へ』歌唱中、ドラゴンはどんな夢を見ていたのか⁉

ドラディション代表

藤波辰爾

全国のドラゴンファンの皆さま、お待たせしました！ 放送からずっと気になっていたと思われる、『めちゃイケ！』歌へた王座決定戦でのドラゴンの『夢の中へ』事件の真相がいまあきらかに。「♪うふっふ〜、さあ〜」の歌声にシビれたあの日にいったい何が起こっていたのか、ズバリ、本人に直撃ダー！

聞き手／井上崇宏

――藤波さん！　今年6月にオンエアされた『めちゃイケ！』の〝歌がへたな王座決定戦〟で、藤波さんが歌った井上陽水の『夢の中へ』の衝撃がいまだに忘れられないんですよ（笑）。

藤波　えっ、今日はあの話？　いやいや、アレに関してはもう触れたくないですよ。こっちはもう忘れようとしてるんだから……。

――でも全国ネットのゴールデンで流れましたし、我が家のハードディスクでは永久保存版にしてますよ（笑）。

藤波　はあ～……。なんだかな、もう。あれは極楽とんぼの加藤（浩次）さん？　彼の推薦で出たんですよね。

――あの名曲『マッチョ・ドラゴン』を聴いた加藤さんが、「これは凄いタマを見つけた」ということで（笑）。

藤波　だから僕はシード選手なんだよね。って、どこがシードだよって！（満面の笑顔で）。

――『夢の中へ』という選曲は藤波さんがされたんですか？

藤波　僕があんなの選ぶわけないじゃん！　僕が選んだら、もっとちゃんと歌える曲を選びますって！　僕はまったくあの企画の主旨をわかってなくてね、歌う仕事っていうのはあんまり受けないんで、最初はお断りしてたんですよ。「ちょっと僕の場合は歌はあまり……」って。

――あまりだからこそ、白羽の矢を立てられたんですよ（笑）。

藤波　昔は家族対抗歌合戦とかに出たりもしましたけどね。自分がソロで歌うぶんにはまったく自信がないから、遠慮していたんだけど、芸能プロダクションからのたってのお願いで「いや、藤波さん、これはやりましょうよ！」と。それでも僕は拒んでたんだけど、「歌がうまいとか下手とかそういうのを抜きにして、とにかくバラエティですから。まして『めちゃイケ！』ですから、露出するという部分ではね、これはアリじゃないですか」って言われたから、僕も考えてね、「じゃあ、やろうか」ってなって。

打ち合わせの段階でディレクターにカラオケで40曲ぐらい歌わされたの



ドラゴンの歌といえば、多くの人は『アメトーーク!』で話題になった『マッチョ・ドラゴン』か『ドラゴン体操』で耳にしているであろう。しかし、今回は井上陽水の名曲『夢の中へ』の歌を披露したことで、ドラゴンの真の実力があきらかになったと言えるかもしれない……!?

――見事に口説かれてしまった、と。

藤波　それで打ち合わせの段階で、「じゃあ、ちょっとカラオケに行きましょう」ってなったんですよ。

――アハハハハ！　いきなりカラオケに連れていかれた（笑）。

藤波　でさあ、カラオケに行ったら、やたらと歌わせるわけよ！（満面の笑顔で）。「これはどうですか？　これはどうですか？」ってさ。ディレクターさんとかスタッフが3人ぐらいいたのかな？　で、カラオケしているところも撮影してるわけ。それで、「なんでこんなに歌わなきゃいけないんですか？」って聞いたんですよ。だって本番で歌う曲は1曲だし、もし勝ち上がっても2～3曲でしょ？　そしたら、「いやいや、どんな歌が歌えるのか知りたいんで、とりあえず歌ってみてくださいよ」って。「でも、こんな曲、歌ったことないんですけど」って言っても、「まあ、とりあえず歌いましょうよ」って、歌わせるんですよ。

――さすが『めちゃイケ！』ですねえ。

藤波　それで僕に40曲ぐらい歌わせたの。

――40曲も！（笑）。

藤波　あとでわかったけど、あれは僕にとって一番テンポが合わない曲を探してたんだよね。それが最初から向こうの狙いだったわけ。

――それが『夢の中へ』だった、と。

藤波　うん。しかも収録当日に歌う曲名を告げられるんだから！　練習のしようがないよ！　〝歌へた選手権〟だから、うまかったら困るわけよ。練習しようがないから何もできない。いったい何を歌わされるのか、何が来るのか？　それで、結局はあんな状態です……。曲が頭に入ってこないんだから、自分が曲に対して早いのか遅いのかもわかんない。最悪だよぉ（なぜか満面の笑顔で）。

――奇跡はそうして作られるんですね。勉強になります（笑）。

藤波　まあ、反響は凄かったよね。いろんなところから反響が来たっていうことは、それだけ露出したということだから、プロダクションも「藤波さん、これはヨシとしましょう」と。でも、俺の心の傷は……!?（満面の笑顔で）。

――どうしてくれるんだって（笑）。

藤波　ズタズタだよぉ（笑）。

――アハハハハ！　僕はあのオンエアを観て、瞬間的に「これはまた大変なプロレスブームが再びやってくるな」って思ったんですけどね。実際には来ませんでしたが（笑）。


〝受けの美学〟を体現するドラゴンは、リング内外での猪木さんや長州力のあらゆる〝仕掛け〟を見事に受けてきたが、今回の『めちゃイケ！』のお題には、想像以上のパフォーマンスで返してきたから本当に素晴らしい！

藤波　周りから「藤波さん、これはオイシイですよ」って言われたけどね。最初は「お遊びだから」って感じで言われてたんで、自分も割り切ろうと思ったんだけど、あれだけは楽しもうと思っても楽しめないね！

――楽しめませんでしたか。

藤波　餅は餅屋！　お笑いの芸人さんは笑われてナンボだけど、僕はダメだね。マジになっちゃうから（笑）。でも、それがまた狙いらしいんだよね。マジで頑張っちゃうから、よけいおもしろいみたい。かなり長いあいだ、立ち直れなかったですよ……（と、うなだれる）。

――オンエアはご覧になったんですよね？

藤波　観たも観ないも、観終わらないうちにあっちこっちからメールや電話がジャンジャン（満面の笑顔で）。確かにその反響を見ると、あの番組がいかに人気があるかがわかる。昔はプロレス中継がそうだったんだけどね。プロレスもゴールデンでやってたときは、携帯電話がない時代だけど、いろんな試合の反響がすぐ来てたからね。確かに視聴率は凄いんだろうなというね。

――まあ、藤波さんの受けの美学ですよね。最終的にそのオファーを受けたというのは。

藤波　そうでしょう？（満面の笑顔で）。「まあ、いいや。もう俺、どうなってもいいや」ってね。

――それが受け身を取れずに、頭から落ちちゃったみたいな（笑）。

藤波　もういまさらね、自分の全盛期のイメージにこだわるよりも、少しずつそういういろんなモノを取り入れていくのがいいのかなって、最近は多少割り切りますけどね。でも、あんときは真剣だった。マジだったんだけど、最後に音が上がらなきゃいけないところが、下がっちゃったっていう（笑）。

――「♪ウフフー、さ〜あ〜」の部分ですね。もうひっくり返って笑いましたよ（笑）。審査員の小林幸子さんが、「歌のうまい人はいっぱいいるけど、この味は誰にも出せない」っておっしゃってましたよね。

藤波　審査員、大笑いだよ（笑）。

――ちなみに普段はどんな曲を歌われるんですか？

藤波　僕は高い声が出ないから、やっぱり石原裕次郎とか三橋美智也あたりだよね。ああいう古い歌が好き。だから歌うことは好きなのよ？　好きな歌なら口ずさむこともできるの。

――ちょっとスローテンポの。

藤波　そうそう。だけど、あれからカラオケに行くと、必ず「藤波さん、『夢の中へ』



ドラゴンによると、猪木さんのバラードはプロも顔負けするくらいのうまさだとか。それを聴いて涙するドラゴンの姿を思い浮かべるのも、またジーンとくるものがある。

カラオケ屋のシダックスに行ったら僕の曲が3曲ぐらい入ってるの

歌って！」って言われる（満面の笑顔で）。

――アハハハ！　そのリクエストには応えるんですか？

藤波　まあ、たまにやりますけどね（笑）。もう、大笑いされますよ。

――80年代って、プロレスラーにかぎらず、野球選手やお相撲さんも次から次へとレコードを出してましたよね。

藤波　要はあの頃の僕はアイドルだったからね（キッパリ）。

――ええ、凄くカッコよかったですよ（笑）。

藤波　『マッチョ・ドラゴン』はシングルだけど、その前にLPも出してる。森田公一とかね、千家和也とか、中山大三郎とか錚々たる先生方の曲ばっかり歌ったんですよ。どういうわけか（笑）。

――スポーツ選手がレコードを出すのって、当時は一種のステータスみたいなところがありましたもんね。

藤波　でも、自分で言うのはなんだけど、凄くいい曲ばっかりだった。あれをちゃんとした歌手の人が歌ったら、ヒットしただろうなって思うくらいいい曲だもん。あのへんのヤツ、カラオケ屋のシダックスに行ったら、出ますよ。

――えっ、ホントですか！

藤波　うん。こないだ行ったら、僕の曲が3曲ぐらい入ってるの。『マッチョ・ドラゴン』も入ってるし。皆さん、ドンドン歌ってください。歌ってもらえると、僕に印税が入るんで（満面の笑顔で）。

――あ、ちゃんと藤波さんにも印税が入るようになってるんですか？

藤波　そうそう。たまに印税の知らせが来るんだけど、「この封書代のほうが高いだろう」っていう感じの額だけどね（笑）。でも、そんな連絡が来るってことは、やっぱり誰かが歌ってるんでしょうね。

――『マッチョ・ドラゴン』はプロレスの歌唱レコードのなかではもっとも有名ですからね。

藤波　最近、『アメトーーク！』でまた一躍有名になりましたね……（と、うなだれる）。

――B面の『ドラゴン体操』と一緒に（笑）。

藤波　最近はすっかりいじられキャラですから（笑）。自分ではどっちかっていうと、いじられキャラじゃないと思うんだけど、そんなの自分が思っているだけで、周りはいじりやすいみたいね。

――若かりし頃はシンデレラボーイや炎の飛龍と呼ばれ、あんなにカッコよかった人が（笑）。あの二枚目イメージの反動から、みんないじりたがるんでしょうね。

藤波　でしょうね。僕自身、あんまりいじられることに対して無抵抗だから。というか、自分がいじられてんのかどうかもわかんないから。だから、そのへんが反対におもしろいんじゃない？

――この人には何をやっても許されそうだという（笑）。

藤波　だけど、いじられてんのがわかんないから、そういう人気の波に乗っかることもできない。

――なるほど。もったいないですね。

藤波　だから、「あ、俺はいじられてたのか？　ここで乗っかっておけばよかった

行動があぁいう髪を切るってことになっちゃったんだよね。自分でもわけわから

は天才的じゃないですか！

藤波　いや、僕はやっぱり不器用ですよ。

れてからはしばらく空白があったじゃないですか。そのあいだにいろんなことが

僕は猪木さんが大好きですね。猪木ファンからレスラーになったから

藤波 だから、「あ、俺はいじられてたのか？ ここで乗っかっておけばよかったんだ！」って、あとでわかるんだもん。

――それって、藤波さんのプロレス人生を象徴しているようなお言葉かなと思うんですけど……。

藤波 そうだね。仕掛けられてもね、わかんない。だって、長州のあのかませ犬発言のときもそうだったもんね。最初、わかんなかったんだから！

――ええっ？ 噛みつかれてるのに気づかなかったんですか！

藤波 何が起きているのか僕はまったくわかってなかった。「こいつ、なんで怒ってんの？」みたいな（満面の笑顔で）。

――へえ～。でも、逆に「何が起こってんの？」って相手に思わせることも多々ありましたよね。沖縄の飛龍革命なんか、猪木さんは「何ごと？」って感じでしたよ。

藤波 あれはね、あそこまで僕が自己主張したことなかったから、猪木さんのほうが逆にあわててたよね。だけど、あれだけ真剣に自己主張したのに、呂律が回らなかったがために、あれもすっかり『アメトーーク！』でいじられてて……（と、うなだれる）。

――アハハハハ！ でも、前髪を切って直訴するという手法は斬新でしたよ。

藤波 当時は自己主張するなんてありえないことだったからね。ましてや猪木さんに。だから、自分で何をしていいのかわからない。主張したものの、どうシメていいのかわかんない。それで、なんかシメる行動があああいう髪を切るってことになっちゃったんだよね。自分でもわけわからん！（笑）。

――完全に夢の中だったわけですね（笑）。

藤波 猪木さんもハサミを持ってこられて、「こいつは何をするんだろう？」って思っただろうね。たぶん、あそこはね、イスを蹴っ飛ばすのが正解だったような気がするね。

――藤波さん、オモシロすぎます（笑）。でも、藤波さんのプロレスって凄くリズミカルじゃないですか。『ドラゴン体操』での動きも、お歌がなかなかなかなアレなのも（笑）、凄く意外なんですよね。

藤波 ウーーーン……。いや、どっちかっていうと、僕はプロレスも不器用なほうですよ？

――何を言ってるんですか！ プロレスは天才的じゃないですか！

藤波 いや、僕はやっぱり不器用ですよ。自分でうまいと思ったことがないもん……ああっ！

――どうしました⁉

藤波 1週間ぐらい前に猪木さんと食事したんだけど、そこで猪木さんがカラオケ歌ったんだよね。猪木さんはうまい‼

――へえ！

藤波 凄く意外だったよ。昔、何度か猪木さんの歌を聴いたことがあるけど、正直あんまりうまくはないんだよね。歌う曲のレパートリーも少なくてさ、だいたい歌うとしたら、軍歌だとかそういう感じだったからね。それがこないだひさしぶりに聴いたらね、なんていうか、お世辞じゃなくて本当にうまい！

――何を歌ってたんですか？

藤波 曲名は忘れたけど、とっても哀愁がある歌。哀愁がある歌を歌うのは、もの凄く猪木さんらしいと思った。俺なんか、聴いてて涙が出そうになったぐらいだもん。ああ、最高！ 今度会ったら、リクエストしたいぐらい。「猪木さん、今日もあの歌を聴かせてください」って言うぐらいうまい！

――猪木さんが歌う曲で泣けちゃうっていうのは凄いですね。

藤波 そう！ だから、昔はずっと猪木さんと一緒だったけど、僕が新日本を離れてからはしばらく空白があったじゃないですか。そのあいだにいろんなことがあったから、いろんなことを思い出しちゃって、こないだは本当に涙が出た……。

――藤波さんは本当に猪木さんのことが好きですもんね。

藤波 僕は大好きですね（キッパリ）。でも、僕だけじゃないと思いますよ。みんな猪木さんのところにいたいと思ってるよね。僕の場合、気持ちはずっと猪木ファンだから。猪木ファンからレスラーになったんだから。付き人時代も、僕が一番猪木さんのことを理解していたつもりだし。だから、猪木さんが歌を歌ったときに、僕の猪木さんを想う心境だとか、いままでやってきたことが全部浮かんできちゃうからね。そういうのがジーンときちゃうんだよ。

――いろんな思い出がよみがえるんですね。

藤波 そうそう。猪木さん自身もそういう想いを込めて歌っているんだろうからね。本当に機会があったら聴いてください。猪木さんの歌は、最高の歌。

――猪木さんはいま頻繁にトークライブをやられていますけど、絶対に藤波さんもリサイタルをやられたほうがいいと思うんですよ。

藤波 リサイタル？ まあ、一応、とっておきの持ち歌が何曲かありますからね（笑）。

――〝ドラゴン・リサイタル〟やりましょうよ。猪木さんのトークライブよりも反響があると思います。

藤波 まあ、もしそんな仕事の依頼があったら、僕は間違いなく寝込んじゃうだろうね（満面の笑顔で）。

【10年10月12日／都内・某所にて収録】



ふじなみ・たつみ■1953年12月28日。大分県出身。言わずと知れたプロレス界のスーパースター。歌に関してもプロレスラーの先駆け的活躍をしており、『マッチョ・ドラゴン』や『ドラゴン体操』はあまりに有名。ケータイにはなぜか徳川の家紋である三つ葉葵のシールが貼ってある。

藤波辰爾の好きな歌BEST3

1位『古城』（三橋美智也）
2位『北の旅人』（石原裕次郎）
3位『夢の中へ』（井上陽水）（笑）

誰が一番トホホか決めればいいんや!

プロレスラー歌謡 ズンドコ ザ・ベストテン

昔もいまも、なぜかプロレスラーは歌を歌ってレコードやCDを出すのが人気のステータス……らしい。
でも、中には「なぜこの人が……?」「どうしてこの歌を歌うことに……?」と思ってしまうようなものも多々ある。
そんなズンドコプロレス歌謡10曲をご紹介!

文／高崎計三　構成／鈴木佑

1位『マッチョ・ドラゴン』

藤波辰爾



もういまさら説明の必要もないぐらい、「プロレスラーの歌」の代表格になって（しまって）いる一曲。歌謡曲ではないが、「じゃあなんだ?」と問われると困ってしまうという……。とにかく藤波の魔性の音程には、一度触れといて損はない。ご本人、一時はこれで入場していたという事実にもビックリ! B面の『ドラゴン体操』も必聴!

2位『セパラドス』

ザ・グレート・サスケ



ウルティモ・ドラゴンがテーマ曲として使い始めたルイス・ミゲルの名曲を、サスケがカバー。原曲は超名曲なのだが、それを超迷曲にしてしまうサスケはさすがとしか言いようがない。そもそも音域も広く、歌いこなすのはわりと難しいこの曲に挑戦すること自体がサスケのチャレンジャー精神の表われなのか？（好意的解釈）。

3位『ひたむきにひたすらに…そして愛』

佐々木健介&茜ちよみ



いま、北斗晶との夫婦共演が実現するなら売れそうな気もするが、94年、パワー・ウォリアーとして活躍していた頃に演歌歌手の茜ちよみとデュエットという時点で企画意図がわかりません! なおこの茜さん、なんと一昨年、ニューハーフプロレス「ダイナマイトバンプ」の代表として再浮上。いよいよもって、何がなんだかわかりません!

4位『OH! TACO』

ゴールデン・カップス



Uインター末期に狂い咲いた安生洋二らのユニット「ゴールデン・カップス」の企画アルバム。安生が2曲、カップスで1曲歌っているが、聴きどころ（?）は安生の「恋はあせらず」。ダイアナ・ロスの大ヒット曲を英語で歌っているのだが、なぜ安生がこの曲を!? 聴くかぎり、そんなに十八番というわけでもなさそうなのだが……。

とにかくプロレスラーに歌は欠かせないのである。昔は『スポーツ選手歌合戦』みたいな番組が年に1～2回ぐらいはゴールデンタイムでやってて、プロレスラーもそこそこ出てたものだった。

そういや最近、そういう番組ってないですね。『夜もヒッパレ!!』にもときどきプロレスラーが出てたけど、あれも終わっちゃったし。

でもじつは、そういう歌番組で一番美声を響かせていたのは、いつも相撲取りだったりする。もちろんお相撲さんにも音痴な人もいるんだろうが、なんだかプロ並みにうまい人も多いのだ。その代表例が増位山太志郎で、ある程度以上の年代の人なら「歌のうまい相撲取り」といえば間違いなく増位山の名前が出てくるはずだ。何しろ77年の『そんな女のひとりごと』は130万枚を売り上げたというのだからただごとじゃない。

増位山はタイトルからもわかるとおりムード歌謡的な曲がメインだったが、当時のプロレスラーも例外ではなく、マイティ井上やサンダー杉山など、「実力派」が出すレコードはみんなそういう曲だった（例外はザ・デストロイヤー。テレビバラエティで人気絶頂だった74年に『赤鼻のトナカイ』をリリース）。

それが80年代初頭のプロレスブームを経て、歌で聴かせるよりも名前で売ることをメインにしたような「企画もの」の曲が多くなってきた。こういう企画ではいつも筆頭で名前が出て恐縮だが、藤波辰爾なんかは歌唱力だけだったら絶対にレコード会社のお眼鏡にはかなわなかったことだろう（失礼）。やはり81年頃を境に、プロレスラーとレコードの関係は大

5位『デュオ・ランバダ』

木村健悟&中山朋子



下記でも触れているとおり、歌唱力には定評がありリリース枚数も多い木村健悟だが、インパクトではやっぱりこれ! 流行していたランバダに乗せて男女デュオでグイグイ攻める力業。じつは『氷雨』なんかと同じ競作曲で、ほかに二組のバージョンが同時期に発売されている。その中で売れ行きがどうだったかは定かではない……。

6位『明日の誓い』

長州力



意外に知られてない気もするが、あの長州も86年にシングルデビューしていた! しかも宇崎竜童作曲! 80年代テイストバリバリのシンセサウンドに乗せて、長州が味のある声で歌い上げる。実際、曲と歌の出来自体は「ズンドコ」枠で紹介するのは気が引けるほど。ちなみにB面は入場テーマ曲『パワーホール』を収録。

7位『赤いウィンナー逃げた』

桃色豚豚



念のために説明しておくと、「桃色豚豚」と書いて「ピンクトントン」と読ませる。ダンプ松本と大森ゆかりの同期コンビが引退後の88年に結成したユニットの、唯一のシングル。女子レスラーの歌といえばカッコいい路線かセクシー路線というなかで、かなりおもいきったコメディソング。ちなみに作詞は秋元康だったりします。

8位『海の魂』

気仙沼二郎



みちのくプロレスでヨネ原人として人気を博したあと、03年に演歌歌手レスラーとなって復活した際デビュー曲として発表したのがこの曲。CD自体はインディー盤だが、北島三郎テイストのしっかりとした『男の演歌』に仕上がっている。2曲目は『俺の海』で、本人は紅白出場を掲げていたが、もちろんかなうわけもなく……。

9位『橋本元年』

橋本真也



以下、Amazonの「商品の説明」欄から全文引用。こんな紹介あり?「新日本プロレスの破壊王と呼ばれるパワーファイター橋本真也、結婚を発表したばかりで気合いも十分に歌手デビュー。しかし歌はショッパイし内容はシングルなのに2000円は高いぞ。ブックレットも16ページじゃ豪華でもないし、写真のブーツも趣味悪い」

10位『サップ・タイム!』

ボブ・サップ



サップが大人気を博していた03年、CMイメージソングとしてリリースされたシングル。サップがマイケル・ジャクソンを気取るジャケットと相まって、本人が歌っていると思われがちだが、実際はちょっとしたラップと咆哮(?)に参加しているのみ。これでもけっこう売れたんだから、当時の人気の凄さがわかるというものだ。

のお眼鏡にはかなわなかったことだろう(失礼)。やはり81年頃を境に、プロレスラーとレコードの関係は大きく変わっている。

最近はプロレスラー、格闘家が単独でCDを出す機会はだいぶ減ってしまったが、たまに発売のニュースを見かけると、いまだに「紅白も狙う!」みたいな見出しになっていて笑ってしまう。まあ確かに、純粋にCDのヒットだけで紅白に出られたらそれはそれで大快挙だとは思うが……。

そんな中で総合的に考えると、「歌手」として最も成功を収めた男子プロレスラーは、木村健悟なのではなかろうか? タイトルのインパクトで『デュオ・ランバダ』があまりにも有名だが、全部で5枚のシングル、2枚のアルバムをリリースしているだけでなく、ディナーショーも数多くこなしていたという事実が大きい。ディナーショーというのはなかなかできるものではなく、しかも何年にもわたってお声がかかっていたというのは実績としてかなりなものだ。

これが女子プロレスラーになるとビューティ・ペア、クラッシュギャルズなど大ヒットを飛ばした〝偉人〟がいるだけでなく、キッスの世界や獄門党など、歌で話題を呼んだユニットも数多い。やっぱり歌に関しては女子のほうがかなり上をいっている印象だ。

いずれにしても現在のマット界は、男にも女にも「歌」が足りない。ズンドコだろうが実力派だろうが、プロレスラーはもっともっと歌うべきなのである!

識者・関係者が選ぶ!

最高の入場テーマ曲&もし自分が格闘家だったらこの曲で入場したいグランプリ!

入場テーマ曲特集のラストを飾るのはこの企画。本誌でおなじみの識者、関係者、ライターが独断と偏見で選ぶ最強の入場テーマ曲。さらに誰もが一度は夢想した、「俺がもしレスラーor格闘家だったら、この曲で入場したい!」という恥ずかしい妄想をカミングアウトしてもらいました!

構成／堀江ガンツ

Q① あなたが最も素晴らしいと思う入場テーマ曲は誰のなんという曲ですか?
Q② もしあなたがレスラーor格闘家だったら、どんな曲で入場したいですか?

堀江ガンツ
本誌変態座談会主宰者

①『怪獣大戦争マーチ』
佐竹雅昭

日本人の魂を揺るがす旋律。なんだか死地にも勇壮に進軍できてしまいそうな気がしてしまう、危険な曲。この曲と佐竹雅昭がいなかったら、K-1の成功もプロ格闘技の隆盛もなかったんじゃないかと思う。

②『SWATのテーマ』
川口浩探検隊

『炎のファイター』とともに少年時代に心を熱く燃やしたテーマ曲。ジープで会場入りしたい!

ターザン山本 野球評論家?

①『U.W.F.プロレス・メインテーマ』
②歌劇『トスカ』のアリア"星は輝きぬ"

レスラーのテーマ曲には好き嫌いがある。私にとっては「UWFのテーマ」が一番の思い出だ。凄くシンプルで、ワンフレーズのメロディの繰り返し。絶品だった。最高だった。逆に全然、飽きないんだよなあ。レスラーのテーマ曲は会場が観客とともに一体になる。それに比べて格闘家のテーマ曲は個人を強調する。その違いは決定的だ。『星は輝きぬ』はもちろん、私が格闘家であることが前提だ。シングルマッチの1対1の対決のためにある。

高橋ターヤン
『This Week MMA』連載中

①『UFC67』でミルコ・クロコップが入場した際の『PRIDEのテーマ』

会場にこのテーマが流れた瞬間、PRIDEを裏切ったと思われていたミルコがじつはPRIDEを想い続けていたという究極のツンデレ表現に世界中のPRIDEファンが号泣したはず。

②『勇気』氣志團

とにかく歌詞を読んでくれ。勇気だけがオレたちの誇りだ。ほかにもRunning Wildの"Lone Wolf"、Manowarの"Kings of Metal"も捨てがたい。あと四人囃子の『拳法混乱』とか。

椎名基樹
『サムライ三昧』好評連載中

①『移民の歌』
ブルーザー・ブロディ
②『移民の歌』

理由はカッコいいから。ヒゲも生やしたい。チェーンも振り回したい。レッグウォーマーみたいなやつも着けたい。もちろん吠えながら入場したい。

菊地成孔
音楽家にして著述家

①『ワルキューレ』藤原喜明

第一次UWFのイマジネーションの豊かさはいまさら言うまでもないんですが、藤原も名コピーライターであり、名プロデューサーであり、名パフォーマーで した。そのことがこの選曲にも端的に表われていると思います(自分で選んだんじゃないかもしれないけど。それでも)。

②回答できないです(笑)

「自分がプロレスラーになったら」なんていう想像、過去、一度もしたこともないし、いまとっさにもできないです(笑)。

金沢"GK"克彦
元『週刊ゴング』編集長

①『爆勝宣言』
橋本真也

小川直也は嫌いだけど、05年大晦日の『PRIDE 男祭り』(吉田秀彦戦)で、小川が『爆勝宣言』で入場してきたとき涙が止まらなくなった。あの瞬間、爆勝宣言は『炎のファイター』を超えた。

②『パワーホール』

イベントとかでいつも勝手にかけられます(笑)。

原タコヤキ君
カリスマ司会者

①『炎のファイター』
アントニオ猪木

そりゃやっぱり子どもの頃、会場でこの曲が流れたら本当に声をからして猪木コールしてましたもん。 ほかにはサクの『SPEED TK RE-MIX』、アレクの『Ao corner』も鳥肌立ちます。

②『雨あがりの夜空に』
RCサクセション

盛り上がるでしょ? ♪ どーしたんだ、ヘヘイ、ベイベー!

高崎計三 ソリタリオ代表

①『THE RED SPECTACLES』レッドブル軍団

名曲だからとしか言いようがない。ハシミコフ、エブロエフらレッドブル軍団登場時の衝撃とともに忘れられない曲。導入のピアノがいい!

②『THE MAN WITH THE CORKSCREW EYES』
TUMOR CIRCUS

自分の考えるテーマ曲の条件「初っぱなから飛ばす・覚えやすい・ちょっと入手しにくい」にピッタリ当てはまるから。知らない曲でも、雑誌で曲名とアーティスト名を見て輸入盤屋を探し回るのがいいんです!

師岡とおる イラストレーター

①『Training Montage』高田延彦 イントロだけで泣きそうです。
②『Rock 'N' Roll High School』The Ramones

入場曲にパンクが少ないのは「ため」がないからでしょうか? 映画のラストにちなんで爆発音とともにリングインしたいです。

笹原圭一
DREAMイベントプロデューサー

①『スカイハイ』ミル・マスカラス
おそらく物心がついて初めて触れた洋楽なので、記憶に刷り込まれているのかも。前奏の高揚感と、マスカラスのためにつけられたようなタイトルが秀逸。

②「トレーニング・モンタージュ」髙田延彦もしくは、「威風堂々」髙田総統
いまだかつて、格闘家とプロレスラーでこんなにもそれぞれピッタリハマった入場曲を持っている人はいないでしょう。とくに前者の格好よさは、ネ申です!

松下ミワ
本誌編集部員。中井りんの友だち?

①『Enae Volare Mezzo』エメリヤーエンコ・ヒョードル
たしか、リングス時代に本人自ら一生懸命選んだ曲だと聞いたことがありますが、あまりにイメージとピッタリすぎて感動。まさに60億分の1のプロデュース。♪ヤン、ヤン、ヤヤヤヤン、ヤン〜のメロディーが頭から離れません。

②『スリル』布袋寅泰
『ハッスル』後楽園大会の江頭2:50の入場は、自分が見た入場シーンのなかで一番沸いた気がします。あのくらい気合いを入れて入場したら、試合で失敗しても、だいたい許してもらえそう。がっぺ、むかつく!

橋本宗洋
『格闘裏グルメ』連載中

①『キッズ・リターン』小林聡

②『黒い炎』チェイス
必然的に思い入れのある選手の曲ってことになり、となると自分は小林聡。まして映画も大好きだし。実際、テンポがよくてメロディーがはっきりしているという入場曲の重要要素のみならず、抒情性や切なさまでも感じさせるという点でこの曲は優秀だと思う。で、自分の入場曲にするなら……たちどころに10曲以上、思い浮かんだが、ここは『黒い炎』で。理由は、なにしろ威勢がよくてかっこいいから。『ザ・スライドショー』のオープニングでも使われてる曲です。

谷川貞治 FEG代表

①『The Last Of The Mohicans』ヒクソン・グレイシー
パッと思い浮かぶのは、やっぱりヒクソンの『The Last Of The Mohicans』ですね。ヒクソンのあの"最強"って感じなのがたまらないよね。でも、ちょっと迷ったのは秋山くんの『タイム・トゥ・セイ・グッバイ』。あの曲は凄く好きなんだけど、どんどん秋山くんのイメージになるからなあ。

②『キャプチュード』
やっぱりボクはダントツ、コレですね! 理由? 音楽的にも好きだし、思い入れがある方が使っていらっしゃった曲ですよ。

花くまゆうさく
漫画家『リングの汁』連載中

①『人間風車』ビル・ロビンソン
出だしからイッキに高揚する。

②『悪魔を憐れむ歌』か『電光石火に銀の靴』
若い頃、マラカス振りながら『悪魔を憐れむ歌』で入場する自分を想像して、家の中をぐるぐる歩いていた経験たくさんあり(狭い団地なので1曲で何十周もぐるぐる)。あと、自分がダイナマイト・キッドになって『電光石火に銀の靴』で入場する姿も。

佐藤大輔
煽りVアーティスト

①『SPEED TK RE-MIX』桜庭和志
今年の大晦日バージョンにご期待ください。

②『タイム・トゥ・セイ・グッバイ』サラ・ブライトマン／アンドレア・ボチェッリ
いい曲ですよね。僕がPRIDE・GPで選んだ曲です!

鈴木 祐
本誌編集部員すずきぃ

①『セパラドス』ザ・グレート・サスケ
前奏に『さくらさくら』が入ったバージョンで、もちろんサスケが歌ってないものがいいです。平成のデルフィン的には「スーパーJカップという名のコーヒーカップ」(©I編集長)の中で、この曲をバックに入場するサスケの姿が印象的。

②『The Evil That Men Do』IRON MAIDEN
とてもカッコいい曲なのだけれど、とてもサビにいくまでに時間のかかる曲なので、とても長い東京ドームの花道で使用したいと思います。

ジャン斉藤
本誌編集長

①「PRIDEのテーマ」
「ダンダン、ダダン!!」——オープニングのあの高揚感ったら!!『PRIDE武士道』のオープニングもけっこう好きよ。

②『ブライアンストーム』アークティック・モンキーズ
ちょっと前まではドン・フライやハイアンなんかも使用していたセパルトゥラの『Chaos A.D.』でしたが、心のランキングの首位交代。PV同様、踊り狂う女性ダンサー集団と一緒に入場したい。

松林 貴
本誌ヒゲ男爵

①『燃えよ荒鷲』坂口征二
イントロが長いのでサビに入る前にリングインという難点はあるが、パワーあふれる荒鷲殺法を想起させる太鼓のリズムがグッド。石橋を叩きすぎて割ってしまうほどの、ビッグサカの真の人格と間逆な曲調も含めて味わい深し。

②『タイム・トゥ・セイ・グッバイ』サラ・ブライトマン／アンドレア・ボチェッリ
花道に登場〜一同で正座&一礼〜曲のテンポに合わせてゆっくり花道を歩く〜ピッタリとエンディングでリング(&オクタゴン)イン! 誰から何を言われようとも(ブーイングも込みで)、男ならば一度はあれをやってみたい。

佐伯 繁
DEEPの社長

①『リアルアンダーワールドキング』美濃輪育久が01.9.7DEEP 有明コロシアム 田村潔司戦で使用
曲だけで言ったら窪田幸生の入場曲(『NO TURNING BACK』)とかでも静かな感じでいいなあと思うけど、やっぱり思い入れという部分でいうと、DEEPの田村潔司vs美濃輪育久で流れた美濃輪の入場曲だよね。あの入場のときの美濃輪の顔が印象的ですよ。あと、曲だけで言うと、全日本プロレスの『カクトウギ・セッション』とかも好きだけどね。あと、曲だけで言うと……(以下、いくつもあるので泣く泣く省略)。

②『Pitchin'』ゲガール・ムサシの入場曲
やっぱり気持ちが落ち着くのがいいですよ。だから逆に言ったら、戦闘竜あたりの入場曲でもいいかなあ。ボクはそういうのが好きですね。

八木賢太郎
フリーライター。『kamipro』永久非番中。

①『Come with me』ブラジルのサッカーチーム CRヴァスコ・ダ・ガマのテーマ曲
ノゲイラがリングスKOK出場当時だけ使ってた(BTTがヴァスコ所属だったんだっけ?)。あのユルい曲で入場して強いのが大好きだった。

②『拳法混乱』『チャイナガール』『さすらいのクンフー』など ジャッキー・チェン映画の日本版テーマ曲
ありすぎて選べねえ! ので、とりあえずジャッキーで。ほかだとFaith No Moreの「Be Aggressive」とかサザンの「BOHBO No.5」でもいい。基本的に入場曲は四つ打ちよりロックっぽいほうが上がります。

井上崇宏
ペールワンズ総帥

①『炎のファイター』アントニオ猪木
理由なんてない! 無条件!!

②『JUMP AROUND』HOUSE OF PAIN
人はなぜ音楽を聴くのか? それは自分の入場テーマ曲探しの旅にほかならない。齢40を目前に控えた僕とてそうだ。日々、テーマ曲候補ランキングは目まぐるしく変動しますが、おそらく使用しない邦楽部門からだとザ・ブルーハーツ『月の爆撃機』か、くるりの『ロックンロール』。こんな告白をさせられて超ハズイ!

田中太陽
『魔王 二つの祖国を持つ男』著者

①『WILD THING』大仁田厚

②『コミック雑誌なんかいらない』内田裕也
①は曲単体としても好みだが、煽情的な大仁田流プロレスとの相性もまた素晴らしいエモーショナルな名曲。ホセ・カンセコの入場曲として、MMAファンにももちろんおなじみ!
②は①で挙げた大仁田や三沢光晴、あるいは髙田延彦やグレイシー一族など、映画関連の入場曲に印象的なものが多いことから、プロレスとの相性がよさそうな映画主題歌を選んでみました。



「10周年と10年目、わざと間違えたわけじゃないんですよ。パーティの会場まで押さえちゃったんですから」「DEEPの代表でパンクラス大阪のオーナー、何かよくわからないですね」「僕は“金的あり”でもいいんじゃないかと思っているんです」「後楽園ホールだと昼夜分けて借りなければいけないんですけれど、ディファ有明は一日単位で借りられるんです」「旅費も合わせると、ホイラー一人で1000万円以上かかったと思います」「北岡選手は『やれんのか!』の出場候補にもなっていたんですよ」「フジメグvsMIKU。今年の8月27日の後楽園ホール大会。そのメインでやるはずだったんです」「三崎選手はあの大会のバックステージパスを、お守りにするように、ずっと大事に持っていたんですよ」「PRIDE武士道はあらゆるネーミングを和風にしたほうがいいんじゃないかっていう意見も出ていましたね。信長級とかどうだろうとか」「名古屋でやってた会社は最終的に社員も100人以上になりましたね。その会社の名前が『DEEPインターナショナル』だったわけです」「結局、赤字が5000万円近くいったんじゃないですかねぇ。相場がわかんないから、そんなもんなのかなで払っちゃいましたけど」「いまでも覚えてるのは、夜中に船木さんから電話がかかってきたときのことですよ。すぐに髙橋vs坂田を組んでくれって」



A5判／224ページ／定価＝本体1,143円+税

DEEP代表

佐伯繁が語る満腹2000年代!

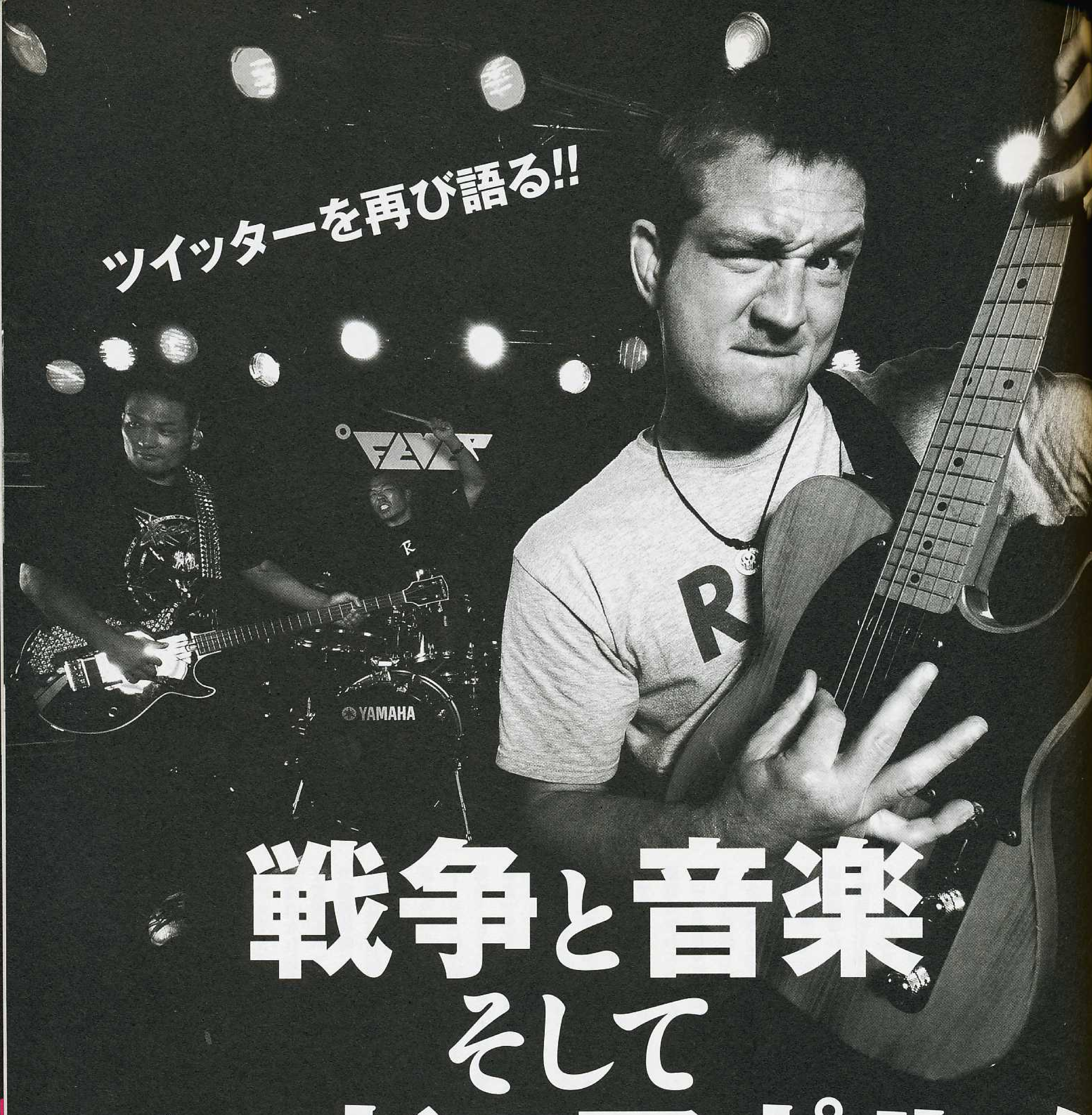
お買い得な価格で全国書店にて10月26日（火）発売予定だがや!!

---

enterbrain

おかげさまで10周年
エンタ―ブレイン
ANNIVERSARY 10th

発行／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）
発売／株式会社角川グループパブリッシング
［エンターブレイン総合サイト］http://www.enterbrain.co.jp/



ツイッターを再び語る!!

戦争と音楽 そして ハードコアポルノ



音楽家にして文筆家

菊地成孔

音楽特集で専門家に話を聞かないわけにはいかない。と、なるとやっぱりこの人の出番。
音楽家にして文筆家の菊地成孔氏だ。最近、2ヵ月期間限定で行なっていたというツイッター話を含め、
プロレス・格闘技と音楽の相性や関わりをおおいに語ってもらった。

聞き手／ジャン斉藤　写真／望月研



ているという。

ラリってる日本人って異様になれなれしいじゃない（笑）

——以前の特集号でツイッター論を開かせていただきましたが、つい最近まで期間限定でツイッターをやられてましたね。

菊地　2ヵ月ぐらいですかね。「オレは広告目的でやってるんだよ。本当はやりたかないんだけど。メーカーにやらされてんだよね」みたいな斜に構えた感じじゃなくて、やるからにはガッツリ楽しみ、楽しませるつもりでやりました（笑）。

——短期間でしたけど、けっこうなフォロワー数で。

菊地　やると告知した段階で3000フォロワーくらいで、終わるころには9000弱ぐらいでしょうか。フォロワー数によってモチベーションが変わるっていうことはまったくなかったですし、仮に減っていてもツイートした内容に変わりはなかったですけどね。

——以前のお話では、ツイッターは「ドラッグ」と見立てられましたが、実際にそのドラッグを味わった感想はいかがでしたか？

菊地　はい。間違いなくドラッグ（笑）。

——やっぱりドラッグ！（笑）。

菊地　「オレが思ってたのと全然違う」っていう印象は一つもないです。やればやるほどハマるし、このまま続ければジャンキーになって発狂するだろうなって感じでしたね（笑）。

——なるほど（笑）。菊地さんはほかのアカウントをフォローしてなかったですよね。

菊地　一切してないです。

——リプライに対しても返信も一切してないですよね。

菊地　どうしても返信したい場合は、リプライごとコピペしてそこにコメントを添える。みたいな迂回した方法で公開で返信する。という方法をとってました。だから「ツイッターをやった」とは厳密には言えないかもしれないですね。要するにツイッターの醍醐味である、たくさんの人をフォローしたり、交流とかはしてないです。マッスル坂井さんには一回だけダイレクトメッセージを出したけれども（笑）。

——菊地さん宛のリプライはお読みになってるんですか？

菊地　ひと通り読んでました。知らない人が自分のしたことや言ったことに反応して何か言ってくるわけだからファンメールと一緒だけど、その気安さがツイッターに移ってる印象はありますね。ツイッターやミクシィがない頃はファンメールが一番気安かった。紙製のファンレターよりずいぶんと気安かったんだけど、最近はまた重くなってきた。

——ファンメールを読まれてるかどうかはわからない。一方通行の重さかもしれないですね。

菊地　いまはツイッターが一番気安いから、どう考えてもワタシのことをほとんど何も知らないか、知ってても相当なナナメ読みじゃんっていう人間が親しげに話しかけてくる（笑）。街を歩いてると「よう、あんちゃん！　どっかで見たな。ジャズだっけ？」とかつって声をかけられたりする感じに似てますね。

——なるほど（笑）。

菊地　ただ、日本人が一番凄いと思うけど、ホントに会っちゃうと、もの凄いオドオドしてなんにも言わない。イベントなんかでも「何か質問はありますか？」って聞くと、ピタリと手が挙がらないんだけど、ツイッターを経由すると今度は異様ななれなれしさで、馬鹿みたいな初歩的な質問をバンバンしてくる（笑）。「なんで歌舞伎町に住んでるんですか？」とか「格闘技はお好きですか？」とか目の前にバンバン聞きにくるの。この程度のことを（笑）。

——そこは一転するんですね。

菊地　昔から「日本人は表向きと裏面がある」っていうふうに言われますけどね。だからそれは電話だったら言えるけど会ったら言えないとか、手紙やEメールなら書けるとか、そうやってメディアが移ってるだけで。間接接触ならば直接接触でできないことができる、ということの原型は変わらないから。べつに極端に新しいことじゃないと思う。

——その新しいものがいまはツイッターであるということなんですね。

菊地　そうそう。つまり、新しいドラッグなんですよ。ラリってる日本人って、異様になれなれしいじゃない（笑）。最新にして最強のドラッグなので「取り扱い注意」ということですよね。

——その最新ドラッグをまた「期間限定」でやったりはしませんか？

菊地　もうやらないです（笑）。今回もなんでやったかというと、ツイッターはもの凄く広告効果があるって聞いてたんですよ。

——ああ、よく言われてますよね。

戦争と音楽 そしてハードコアポルノ

菊地　凄まじい広告効果があって、おんなじインターネットでもミクシィじゃもうダメだ、と。ましてやブログなんかもっとダメ、公式サイトなんてものは誰も立ち寄らない。要するに検索しても名前が出てこない店と同じで偶然以外では誰も立ち寄らないんだっていうことをまことしやかに言う人がいるわけ。その点、ツイッターっていうのは凄いんだ！　と。「ツイッターで菊地さんが一言つぶやけば、もうネズミ講式に広告効果が波及するんですよ」と言われたわけです（笑）。そもそも公式サイトだって著作やCDやライブの宣伝のためにやってるわけですから。

——ホントに宣伝目的だったんですね。

菊地　で、次に出す商品の予約をやりましたよ。でも、結果から言うと、やんないときと変わらなかったの（笑）。

——変わりませんか（笑）。

菊地　やっぱりツイッターをやる人の最大の快楽は、あたりまえだけどツイッターやることそれ自体ですよ。ツイッターで得た情報で生活が豊かになることが彼らの目的ではない。とても純粋です。

——それはまさしくドラッグですね。

菊地　マリファナをやると風邪が治りますとか、食欲が増進しますとかね。マリファナなんて最初は薬だったんだから。そういう副次効果もゼロではないんですけど、ドラッグカルチャーの最大にして最高の目的はドラッグそれ自体をやることであって。ツイートを読んで「この人、おもしれえなあ」「この人、告知してる」「あ、ライブがあるんだなあ」で終わりだと思う。ましてや言ってることがつまんない人が広告したらなおさらどうでもいいですよね（笑）。だから差があるとしたら「おもしろいツイートをする人だな。あ、ライ

ブがあるんだ」っていうことと、「つまらないツイートをするヤツだな。あ、ライブ

いから、やめる、と。やってるあいだはおもしろくて止まらなかったんですよ。



前田日明が主宰する『ジ・アウトサイダー』の選手の入場テーマ曲、そのほとんどがヒップホップ系なんだとか。いまや不良のライフスタイルもヒップホップが主流を占めているという。

ブがあるんだ」っていうことと、「つまらないツイートをするヤツだな。あ、ライブがあるんだ」っていうだけだと思います（笑）。

――ハハハハハ。

菊地　「宣伝なんてそんなもんですよ。まずは振り向かせるところからでしょう」って言えばそれっきりですし、実際にまずは人目に触れたとは思いますが、むしろ問題はその先の不景気ですよね。それがよくわかった。だからもうやらないですね（笑）。ワタシはドラッグとしては音楽と文筆と酒と食事とセックスで充分です。ただ、ドラッグにも流行りがありますから。ヒロポン、メスカリン、アヘンの時代。

――ドラッグの最先端がツイッターである、と。

菊地　そうそう。それが単にいまはツイッターだってだけで。ツイッターもやがてすたれるんじゃないですかね？　もっと次世代のドラッグが出てきて。

――そうやってメディアは移り変わっていくもんですね。

菊地　いまだとテレビがアルコールみたいな感じですかね。インターネット自体が途方もない強烈なドラッグですが、それ以前には「本」とかね（笑）。全部ドラッグですよ。だからこれは昔のドラッグ経験をしてレポートを書く博士みたいに、ドラッグと知ってあえてやってみる、と。確かにいい気持ちもするし、ドラッグだから中毒性があってやりだすと止まんないから、やめる、と。やってるあいだはおもしろくて止まらなかったんですよ。

――それなりに楽しんでるふうでしたよね。

菊地　めちゃめちゃ楽しみましたよ。おもしろくって止まんなかったけど、まあ、これがウソしか書かないし（笑）。ホントのことを書くわけにいかないですもんね。「いまからどこそこに飲みに行きます」とか「寝ます」とかさ。たまにどうしても本当のことを書いちゃったりしてね、筆がすべって（笑）。

――なるほど（笑）。

菊地　まあそういうバランスもおもしろかったです。赤裸々にマジメなことを書いたり、苦しみを吐露したり、他人の言ってることに腹を立てたり、そういうようなリアルなことはせずに遊んでただけですよ。

――そうか、リアルな苦しみをつぶやいてる人は、ある意味、ホントにツイッターにハマってる人が多いかもしれませんね。

菊地　それはもうミクシィの頃からそうだけど。ワタシもサイトにはマジメなことも書くけど、ツィッターって短いし、あまりにも遊びのものじゃないですか。だからあんまりそういうところで、凄い人生のつらさや、尖閣諸島問題なんかに腹立ててもしょうがない。一番ヤバイのは知らない人が「おやすみなさい」って書くことだよね。

――前に言っていた「他人につながりすぎ、つながっていたい欲求」の話ですね。

一番ヤバイのは知らない人が「おやすみなさい」って書くことだよね



現在の若い格闘家が使用している入場テーマ曲の中で、青木真也の『バカサバイバー』は最も選手のイメージと結びついた一曲と言えるだろう。青木のナイス選曲だ。

菊地　知らない人に親として、子どもの一挙一動を認証させられるっていう（笑）。「いまごはん食べてます」「おやすみなさい」「いまトイレに行きました」……幼稚園児が親に報告するのとおんなじです。大人はそういうことは誰にも言わず黙ってやるんですよ（笑）。

——わかりました（笑）。で、じつは今月の特集は「プロレス・格闘技と音楽」なんですね。そこで音楽家である菊地さんにお話を聞かせていただけないかなって。

菊地　でも、最近の入場曲なんてなんにも知らないですよ。唯一会場に行っているジ・アウトサイダーはヒップホップ、要するにB系。ワタシは大雑把に言ってブラックミュージックが専門で、ロックが非専門なんです。で、基本的にプロレスのテーマ曲はヘヴィメタル、80年代の・ロード・ウォリアーズあたりからスタンダードになってますね。

——プロレスとヘヴィメタは相性がいいみたいな話もありますもんね。

菊地　選手の美学、ルックス、ヒールにおける悪魔崇拝の感じとか、まあ、トータルでフィットするじゃないですか。「いえ、ところがいまの新日本プロレスはヘヴィメタなんか流れないんです」って言われたら、けっこう驚きますよね、これ（笑）。

——でも、新日本がヒップホップだったらイヤですね（笑）。

菊地　ジ・アウトサイダーはベーシックがヒップホップ。ときおり不良のボキャ

青木真也が最後じゃないですかね 主題歌が選手と一対一で結びついている

ブラリーとして、ギャグでドラえもんの主題歌が出たり、アイドルが流れたりするけど。それは彼らのライフスタイルっつうか風俗がヒップポップだからあたりまえですよね。彼らの着てる服、刺青、日常的な美学、車に車載してるものがヒップホップだ、と。B系のローライダーにはあんまへヴィメタは積まれてないですよね。

——じゃあ、大会20試合ぐらい全部ヒップポップですか。

菊地　もっとある。25から35試合くらい。

——そこまでいくとライブですね（笑）。

菊地　勝った選手は必ずマイクでコメントするの。あれがヒップホップにおけるMCじゃないかと思うんだけど（笑）。一番豊かだったのが、やっぱりPRIDEですよね。ハウスもヒップホップも泣ける美メロのメロコアもヘビメタも青春ロックみたいのもクラシックもテクノもみんなあった。佐藤Vは日本人好みの泣けるフォークロックと、エヴァンゲリオンをリスペクトしたベートーベンだけだったけど。青木真也がウルフルズで入ってくるでしょ。いまの選手では青木真也が最後じゃないですかね、主題曲が選手と一対一で結びついてる。

——そうかもしれないですね。

菊地　ああいう泣ける青春系のロックもあるし、須藤元気みたいにダンスミュージックで入ってくる。さいたまスーパーアリーナはでっかいクラブなんだ、と。大箱なのだと（笑）。だから基本的にDJ選曲っていうか、鈴木みのるの『風になれ』とか、ああいうプロレス的な「俺の好きな曲コレ」みたいな感じが薄かったですね。青木はそこも成功している。

——最近は佐藤大輔の煽りVぐらいですよね。音楽がピックアップされるのは。

菊地　佐藤大輔はパイオニアっていうか、音楽はさっき言ったように、良い意味でワンパターンだったけど、煽動と感動に関しては飛び抜けていて、要するにのちのやり方を決定した力があるわけじゃないですか。DREAMがどうなってるのかは観てないからわかりませんが。

——いまは日本人選手が増えたことで選手自らがテーマ曲を選ぶことが増えてますね。

菊地　なるほどね。ワタシはあいかわらずUFCも観てますが、UFCはヘヴィメタ基本ですよね。

——UFCの選曲はちょっと時代遅れなんじゃないかって話があるんですが……。

菊地　アメリカなんていつでも時代遅れですよ。ジャパンクールに比べれば（笑）。アメリカのBGMの歴史って、外道が入ってこないのが前提なんですよ。要するにあれがアメリカ人の平均的な闘うイメージなんじゃないの。こんなん言うとキテレツすぎるけど、イラクに派兵された兵隊がiPodで何を聴いてたかっていえば、やっぱヘヴィメタで。ただ、悪魔崇拝になっちゃうと話が変わっちゃうから、キリスト崇拝のヘヴィメタっていう有名な話がありますね。

戦争と音楽 そしてハードコアポルノ

——キリスト崇拝のヘヴィメタを聴いて、邪教であるムスリムを倒すっていう。

菊地　戦争と音楽っていうのはずっと密

と、もの凄く暴力性が高いの。

——とんでもないことになってるんです

か（笑）。

らにあるやつを手に取るわけですよね。

だから平均値わかりやすいですよね。よ

かワールドミュージックとかテクノトラ

ンスとか交響曲がベースになる団体とか

結局、格闘技の源流っていうか
遺伝子は戦争かストリートファイト

——キリスト崇拝のヘヴィメタを聴いて、邪教であるムスリムを倒すっていう。

菊地　戦争と音楽っていうのはずっと密接なものがあって、ギターのジャカジャカってかき鳴らす音がマシンガンで掃射する音に似てるとかさ。それはもうジミ・ヘンドリックスのベトナム戦争の頃から一貫したイメージとしてあるわけよ。だからそのカジュアル版がプロレス・格闘技のテーマ曲。ということでしょう。

——そう考えると、ヒップポップもオフェンシブですね。

菊地　そうそう、カラード（有色人種）のオフェンスのかたちね。あれはもうR&Bからジャズから全部同じで、弾力があってスポーティなオフェンシブと、濡れるバラードの二刀流ね。ただ、肌の色があれなんで、いまのアメリカだったらヘヴィメタ基本になっちゃうでしょ。暴力のイメージ化がねえ、けっこうエゲツないですよね。あのー、いきなり話変わりますけど、アメリカの世相の平均を見るには、音楽と戦争っていうのが不可分なんだけど、あともう一つポルノがあるんですよね。

——ポ、ポルノですか⁉

菊地　うん。ハードコアポルノのプレイを見ると、いまアメリカがだいたいどんなことになってるのかがわかるっていうか。いまのアメリカのハードコアポルノは80年代に一つのピークがあったから、それをこう、基本と考えて「30年ぶりにひさしぶりに観てみよう」なんつって観ると、もの凄く暴力性が高いの。

——とんでもないことになってるんですか（笑）。

菊地　もの凄くバイオレンス。バイオレンスっていっても、殴ったり蹴ったりするんじゃなくて、普通のセックスでの乱れ方の平均値——ポルノのですけど……が、けっこうガチンコっていうか、ゴツゴツっていうか、アタリがきついんですよ（笑）。外人のセックスのほうが日本人よりずっとケモノだってずっと昔から言われてたわけだけど、まあ、そのまま来てるんだね順調に（笑）。

——でも、いまのハードコアポルノ界ではあたりまえのプレイなんですよね。

菊地　「気がつけば……」っていう感じですね。でも、30年前に観ていた人からすれば「うわ（目を覆うポーズ）……」っていう（笑）。

——アハハハ！　いったいどんなことになってるんだ（笑）。

菊地　そんな具体的に言えないですけどね（笑）。タランティーノが平均値化するようなさ。レイプとかDVを薄めたようなな。まあ、そもそもセックスは暴力を薄めてる行為だけれども、9・11の傷以降、エスカレーションしているのがモロわかり。どれもこれもハードヒットですよ（笑）。

——ストロングスタイルはハードコアポルノにありという。

菊地　ワタシ、80年代はマニアでしたけど、いまはもう全然わからないんですよ。だから選んで買わないじゃない？　そこらにあるやつを手に取るわけですよね。だから平均値わかりやすいですよね。よく「ペニスは銃のメタファーだ」とか言うじゃない。けど、ホントに、なんつうの、モロ銃みたいでさ、もうメタファーじゃない、それそのものだっていうような（笑）。だってマシンガンみたいにね、バリバリバリ！　つって女優のノド奥に思いっきり（以下、自粛）そんで女優も、撃ち殺されてる声出すんだよね（笑）。

——ダハハハハ！　そこはヘヴィメタと同じで戦争のイメージなんですね（笑）。

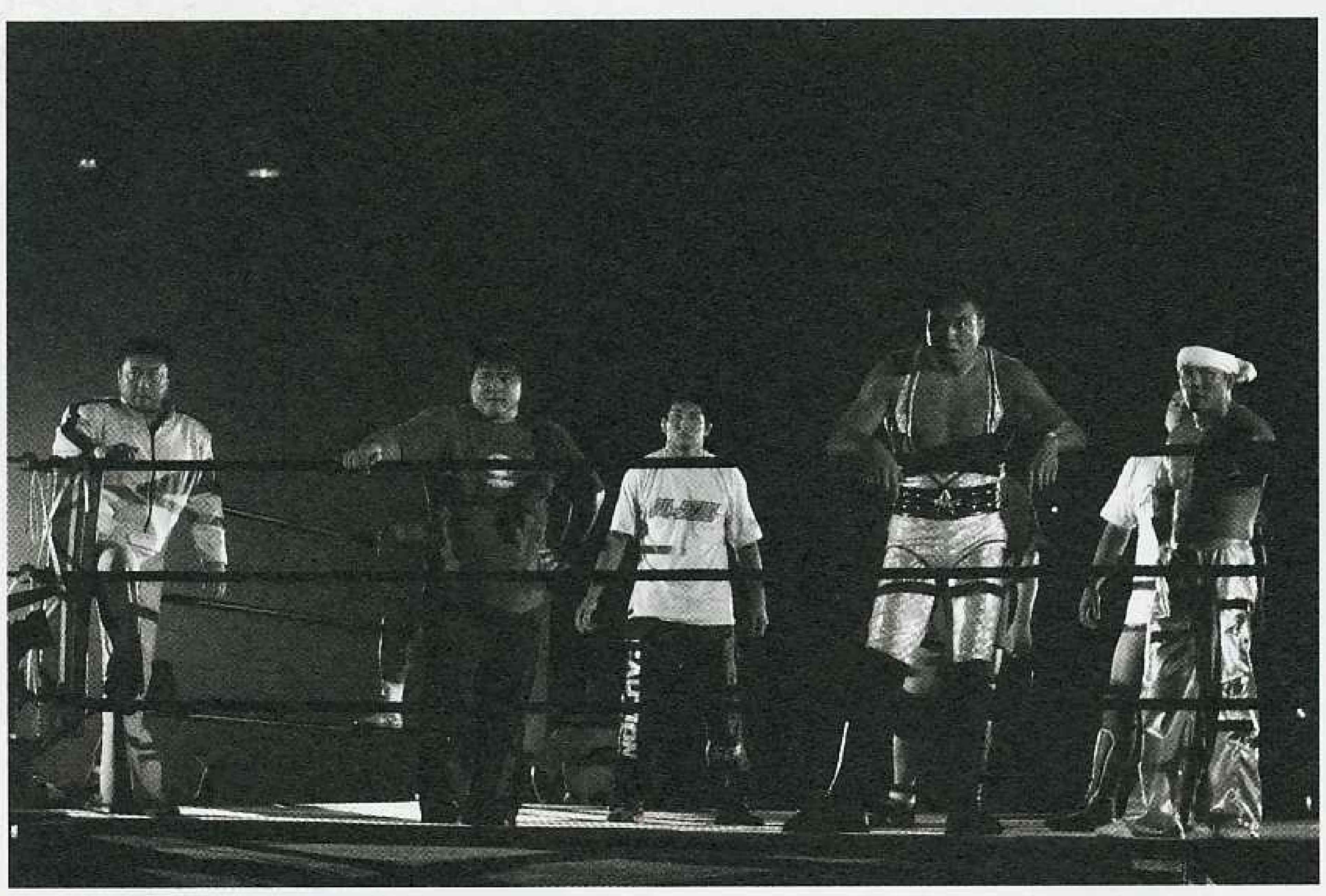
菊地　やっぱりその、興行としての格闘技はアメリカで始まり、いまでもアメリカがベースなんですよね。トライバルとかワールドミュージックとかテクノトランスとか交響曲がベースになる団体とか想像つかない。結局、格闘技の源流っていうか遺伝子は戦争かストリートファイト。だからストリートファイトに寄り添ってるヒップホップ、戦争に寄り添ってるヘヴィメタルってことになってしまって、言ってしまえばずいぶんと限定的な話ではありますよね。でもそれって最近のことですよ、ポルノとおんなじなの。「そのまんまやないけー！」という状況になってきてるんですね。黄金期の日本のプロレス、その主題曲ってのはもう凄い、あれこそジャパンクールそのもので、凄く多彩なイマジネーションが乱れ飛んだでしょ。「いまはあけすけでストレートで意味がわかりすぎる、じつにつまんない時代だ」って言ってしまうのはイージーで、いまのあけすけさには、何かおもしろい意味合いがあると思うのよ。しかし、たとえば、もうどうなっちゃうかわからない『ハッスル』ですけど、『ハッスル』って楽曲の名前なのよ。

——そうですね。

菊地　ソフトディスコだよねあれ。あれを興行全体のイメージ中枢に持ってこようとした、創成期の『ハッスル』の理念とセンスは本当に凄かったと思いますよ。00年代の「格闘技と音楽の関係」というテーマを設けるとしたら、突出していたと言えますよね。だって団体の名前であり、興行のエンディングテーマなんだから。実際に会場で聴いて、もっとも揺り動かされた経験だったかもしれない。

——あの曲をなぜか途中から使わなくなった時点で……という気もします。今日はありがとうございました！

【10月12日／新宿歌舞伎町・菊地氏の事務所にて収録】



団体名でもあり、興行を締めくくるエンディングテーマとしても定着し、ファンからも親しまれていた『ドゥ・ザ・ハッスル』という曲だが、諸般の事情により末期には使われなくなっていた。

掟　今井さんは数カ月前まで、脇澤美穂さんや、
ミスター・ブッタマンら元全女の人たちを従業
員に使って、ちゃんこ屋『時津洋』目黒店をやら

すよ。岩手県の滝沢村で。
掟　村の小さな郵便配達員。なんか森の妖精み
たいでメルヘンですね（笑）。

掟　いや〜、今井さんが「どうしようもない」と
言うのもわかりますね（笑）。

思ってましたし。縁があって〝松永一座〟に入れ
てもらったんですよね。



元・〝極悪バンド〟バンマスが語る全女&松永兄弟ハチャメチャ伝説!!

新連載
掟ポルシェの突撃！俺の晩ごはん

元・全日本女子プロレス・リングアナウンサー

3杯目

今井良晴『SUN族』?

SUN zoku 族

SUN-ZOKU

オッス! なんか適当なもの作って食わせて! と、いきなり面識ゼロで土足でズカズカやってくるなれなれしい連載『掟ポルシェの突撃! 俺の晩ごはん』。今回のゲストは、今年6月までちゃんこ『時津洋』目黒店店長だった元・全日本女子プロレス今井良晴リングアナ。閉店したお店や全女経営飲食店のことについて聞かせてもらうのもタイミング的になんなので、連載開始3回目にしてもうスピンオフ回っちゅうことでお願いしま～す! おい、ホントかよ!(20年前のヤスカク調で)。

構成／堀江ガンツ

掟　今井さんは数カ月前まで、脇澤美穂さんや、ミスター・ブッタマンら元全女の人たちを従業員に使って、ちゃんこ屋『時津洋』目黒店をやられてたんですよね？

今井　6月いっぱいで、急きょ終わっちゃったんですよ。

掟　お客さんは入ってたわけですよね？

今井　まあ、ちゃんこ屋ですからね。冬はよくても夏はいろいろ大変なんですよ。脇澤も働いてたから、夏場はお笑いのライブとか音楽のライブとかお店でやっちゃおうと考えてたんですけど、親会社から、ここはもう畳もうかと。相撲界もああいうことになりましたんでね。まあ、しょうがないか、と（苦笑）。

掟　いまは、何をされていますか？

今井　アナウンサーを主体に、飲食の仕事から商店街のイベントの司会でもなんでもやる。なんでも屋ですよ（笑）。

掟　お店で働いてたミスター・ブッタマンはどうしてるんですか？

今井　いまは掃除夫をしてますね。ちゃんこ屋をやってるときから、なんとか自立させようとしてたんですけどね。あいつも松永会長が亡くなってから行き場がなくなって、会長の遺言みたいなものだから引き取ってあげたんですけど。あんなの抱えて大変でしたよ（笑）。

掟　「あんなの」呼ばわり（笑）。働きは悪かったんですか？

今井　飲食店でなんか使えるもんじゃないですよ（笑）。お客、本気で怒っちゃうんだから。「あの小さいおじさん、態度悪いからなんとかして」「睨むんだけど」って何度言われたことか。

掟　接客態度が悪いのは全女ミゼットの伝統ですかね（笑）。角掛（留造）さんは全女が潰れたタイミングで実家に帰られたんでしたっけ？

今井　田舎に帰って、郵便配達してるらしいですよ。岩手県の滝沢村で。

掟　村の小さな郵便配達員。なんか森の妖精みたいでメルヘンですね（笑）。

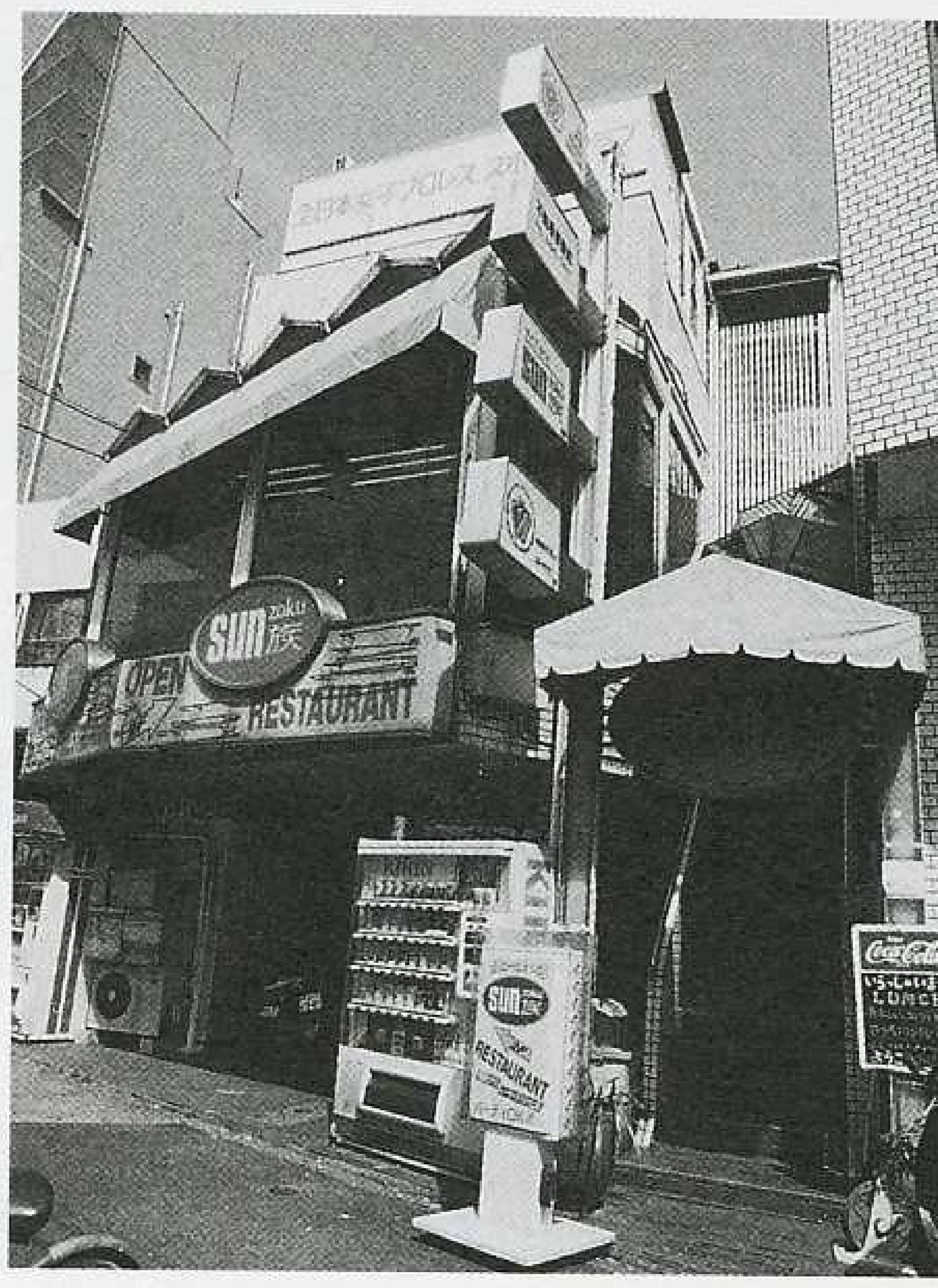
今井　妖精じゃないでしょ。角掛一族って、あのへんでは相当評判悪いらしいですから。

掟　ダハハハハ！　角掛さんといえば、口が悪くてよく全女の会場でお客さんとケンカしてましたけど、一族郎党評判が悪いんですか（笑）。

今井　一度、ミゼットプロレスのドキュメンタリー番組の撮影で、角掛の実家にカメラクルーが取材に行ったらしいんですよ。そしたら、角掛家にテレビ局が来てるってことで、近所の人が「なんの事件ですか？」「やっぱり、あそこの息子はなんかやったんですか？」って言ってたらしいですから。

掟　ダハハハハ！「いつか何かやると思ってたんだ！」って（笑）。

今井　これ、ホントの話ですから。それでブッタマンにしても……（このあと、ミゼットレスラーたちのどうしようもないズンドコ話が続くが、泣く泣くカット）。



これが全女事務所&道場に併設された伝説の全女直営レストラン『SUN族』。若手レスラーが働いており、マニア垂涎のスポットでもあった。それにしても、見るからに建て増しなビルがデタラメな全女らしくて最高だ！

全女の欠陥自社ビルは建て増しだらけでメチャクチャな作りなんですよ！

掟　いや～、今井さんが「どうしようもない」と言うのもわかりますね（笑）。

今井　あいつらのバカ話は死ぬほどあるから、3時間も4時間もしゃべっちゃうけど、今日はその話じゃないでしょ？

掟　全然、違います（笑）。では、あらためて基本的なことを聞くと、91年からリングアナとして全女に正式入社されたんですよね。なんで全女に入ろうと思ったんですか？

今井　中学時代からの僕の親友が（松永）会長の甥っ子なんですよ。

掟　中学時代というと、誰が活躍していた頃ですか？

今井　赤城マリ子さんやジャンボ宮本さんがいた時代。まだマッハ文朱が入る前ですから。で、僕もプロレスは好きで、女子プロレスもたまに『11PM』とかでやるから、興味あったんですよね。

掟　まだお色気の色が濃い頃ですよね。

今井　そしたら、その親友が「女子プロって、あれウチのおじさんがやってるんだよ」って言うから「じゃあ、連れてってよ」みたいな。そこから遊びに行かせてもらって、出入りするようになったんですよ。それ以降、僕はバンドやってたから、全女のイベントがあったら手伝ったりして。ちょうど20年前に「おまえ、いいかげんこの仕事やんないか？」と、亡くなった国松さんに言われて入っちゃった。

掟　バンドはずっとやってたんですか？

今井　中学くらいの頃からやってて、キャロルが大好きでしたね。中学時代に初めてライブに行ったときは、全身鳥肌が立つような感じでしたから。僕が全女に関わり始めてからも、クラッシュギャルズでブームになったとき、ダンプ松本の「極悪バンド」っていうのを僕がやったりして。

掟　全女専属ミュージシャンですね！　社員として入社されたのはその後で？

今井　30歳のときですよ。いいかげん大人ですよね（笑）。でも、全女を手伝ってるときから、これが自分に一番合ってる仕事じゃないかとは思ってましたし。縁があって〝松永一座〟に入れてもらったんですよね。

掟　今井さんが入社された頃って、全女が一番沈んでる頃じゃないですか。

今井　クラッシュブームが終わったあとですから、どん底でしたよ。でも、ちょうど新しい時代が始まる直前だったんで、時期的にはラッキーでしたよ。

掟　ブル中野さんが金網のてっぺんから飛び降りたのが90年11月ですからね。

今井　そういえば、この前、大日本プロレスの横浜文体に仕事で行ったとき、アジャ（・コング）が来てて、「この会場でおまえと、ブルちゃんが金網やって、あそこから始まったよな」なんて話してたんですよ。

掟　あれからちょうど20年ですもんね。

今井　で、ちょうど大日本さんのメインが金網マッチだったんですけど、その金網はウチで使ってたヤツだったんですよ！

掟　ブルvsアジャをやった金網が、流れ流れていま大日本にあるんですか!?

今井　そうなんですよ。金網の土台を組んでる段階で「これ見覚えあるな……ウチのじゃねえか？」って。金網は会社が傾いたときに、安いお金で引き取られたんですけど、まさかいまも使われてるとは思いませんでしたね。

掟　特注だから、けっこう丈夫なんでしょうね。

今井　あれは凄くガッチリ作ってあって、金もかかったんですよ。作ったのは、○○工務店っていう全女の出入り業者なんですけど（笑）。

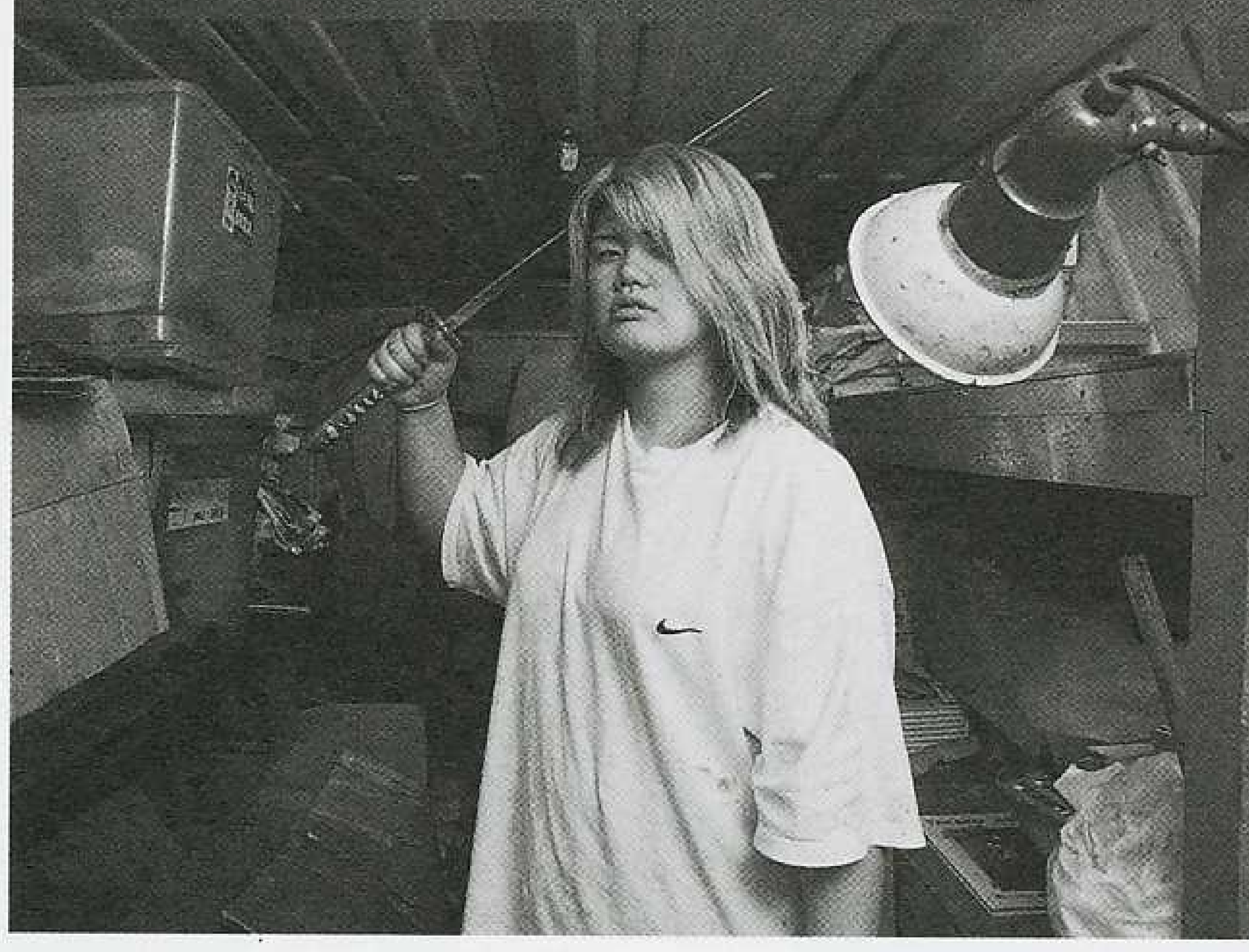
掟　噂に聞くインチキ業者ですね（笑）。

今井　全女が何かを作るときは、必ず○○工務店で。あの欠陥事務所（目黒の全女社屋）を作ったのもそうですから。建て増し建て増しで、適当に増築して、欠陥だらけでしたからね。

掟　その建て増しの自社ビルは、道場やレストラン『SUN族』も併設されていましたよね。『SUN族』閉店の理由は、新宿の雑居ビル火災があったとき、非常口がないのが原因で何人も亡くなったことで消防法が厳しくなって、違法建築物件を摘発していったら真っ先に『SUN族』が

引っかかり、営業停止になったとかで。
今井　営業できなくなったのは、そのだいぶあとですけどね。あの欠陥自社ビル、メチャクチャな作りだから、あんなの地震がきたらペシャンコですよ！
掟　結局、地震がくる前に負債でペシャンコになっちゃいましたけどね（笑）。
今井　いま、あの跡地は更地の駐車場になってるんですよ。周りはいろんな建物が建ってるのに、あそこだけ更地で妙な哀愁がありますよ。
掟　僕はあの近くに住んでるんで、その前を通るたびに「あ〜あ」なんて思いますよ。
掟　『時津洋』目黒店も、もともとは『海賊』（全女が経営していたレストラン）があった同じ場所ですもんね。
今井　そうです。あそこは、俊国さんが亡くなって、いろいろ世話になってる会社が買い取ってちゃんこ屋にしたんです。だから僕が店長になったんですよ。『時津洋』もプロレスファンの憩いの場みたいになってくれたらいいなって思ってたんですけど、しょうがないですよね。
掟　僕はホントに会長の話が大好きで、元全女の選手にインタビューすると、必ず会長のことを聞くんですよ。
今井　話がつきませんよね。プロレスだなんだの話より、あの人間性がとにかくおもしろい。





新連載 掟ポルシェの 突撃！俺の晩ごはん

（写真・上）見よ！この衝撃の写真を！16歳の女の子がグレート・アントニオよろしく、バスを引っぱって動かした！松永高司会長のノリノリぶりも最高！（写真・下）本物のヤンキーがそのまま女子プロレスラーになったということで、新種のヒールとして期待されていた中原奈々だったが、これまた大成する前に、あっと言うまに退団してしまった。

掟　儲かってるとき、選手のギャラは上がらなくても、会長の腕時計がどんどん豪華になって、宝石の数が増えていくとか（笑）。
今井　そうですよ。だって日本武道館大会の次の日、松永兄弟だけは全部新車に変わってたりするわけですから。
掟　そのへんは露骨なんですよね（笑）。
今井　事務所の向かいに日産があったじゃないですか。あそことは親戚付き合いがあったらしく、シーマとか日産の高級車をいつもそこで買ってたんですよ。
掟　選手の移動バスも日産だったんですか？
今井　バスはさすがに違うんですけど。クラッシュブームの絶頂期には、ベンツエンジンの凄いヤツ買って。1億円くらいしたんですよ。
掟　1億円の移動バス！
今井　あの蝶々がついてたバス知ってます？　なんで全女に蝶々がついてるのかと思ったら、森英恵のデザインしたバスなんですよ。
掟　そのセンスはあきらかに不要ですよね（笑）で、普通のプロレスの話に戻るんですけど、今井さんが入社後、ブルvsアジャの金網があって、そのあと対抗戦が始まって、完全に客層が入れ替わりましたよね？　92年の川崎市体育館でその口火が切って落とされるわけですけど、誰がどの団体要員でいくかというのは、どうやって決まったんですか？
今井　ヤマモさんは協調路線でなんとか商売していきたいんですけど。LL（PW）さんは風間さんと神取さんが食ってかかってきてましたからね。そのへんも考えて。
掟　だからこそ、対抗戦やると2分で試合が終わったりとか、あきらかな格下扱いを受けたと。
今井　そうそう。で、LLとの対抗戦はどうでもいいから、当時うちでお荷物みたいにされてた北斗でいけよみたいな話じゃないですか、最初は。あいつらめんどくさいし、おまえら仕掛けるだけ仕掛けちゃえみたいな。
掟　対抗戦としては、協調関係のJWPよりLLとの試合が抜群におもしろかったですよ。うまくやっていこうってのが全然見えないんで。
今井　だからLLさんってのは大事だったですよ。あのギリギリの緊張感がなかったら対抗戦はもたなかったと思うし、それは感謝してます。北斗vs神取のときなんて、リングの真ん中に立ってコールをするとき怖かったですもん。いま、リングアナが「怖い」なんて思うプロレス、どこにもないじゃないですか。
掟　神取さんはジャッキー佐藤さんを潰した試合もあったし、仕掛けてくるんじゃないかというのがあったでしょうからね。
今井　そのリアル感がお客さんに伝わったと思います。
掟　僕もあの試合を生で観れてよかったですよ。興行終了が深夜0時を超えても、お客さんが誰も文句言わなかったじゃないですか。文句言ってるのは、会場関係者と記者だけで。
今井　あの日は大変でしたよ。あの晩だけで、新横浜駅周辺で500台自転車が盗まれて（笑）。
掟　ダハハハハ！　みんな帰れないですからね。だからといって盗んじゃダメですけど。
今井　翌日のスポーツ新聞なんかもウチの試合結果欄が空欄になっちゃってね。載るわけない。夜中0時なんて締め切りとっくにすぎてるんだから。あれも怒られましたよ。
掟　もうカードを組んでる時点で無理ありましたよね。
今井　だから、カードを組んだ時点で（ロッシー）小川さんに「これ、何時に終わるのよ？」って聞いたら、「10時に終わる」とか言うんですよ。終わるわけないだろ！って（笑）。でも、あの小川さんのバカさかげんが伝説を作ったんですけどね。終電の時間も読めずに、やりたいことをやった結果だから。
掟　しかも、それが一回だけで終わらなかったですよね。
今井　東京ドームも10時間興行ですよ（笑）。
掟　会場使用料、相当な超過料金取られてますよね（笑）。
今井　ドームも終わったの23時すぎてましたか

らね。ドームって、グラウンドも客席として使ったときは、規制退場しなきゃいけないんだけど、興行終了した直後に、東京ドームの重役み

みたいです」とか。結局複雑骨折の重症だったんですけど、助かったんですよ。
掟　全女が倒産したあとの時代も、若手を中心

って言われたんですけど、「なんでですか？」以前、グレート・アントニオがやった事例があるんですよ」なんて言って。「何年ぐらい前の話で

ッタンバッタン倒れちゃうから。あの子はちゃんと育ったら、三代目赤城マリ子にしようと思ってたんですけどね。

松永会長はエコひいきを平気でするから。そこから妬み、いじめ、因縁が生まれる（笑）

らね。ドームって、グラウンドも客席として使ったときは、規制退場しなきゃいけないんだけど、興行終了した直後に、東京ドームの重役みたいな人が「ドア全部開けろー！　規制退場はいいからみんな出せーッ！」って叫んでましたから（笑）。

掟　そんな興行聞いたことないです（笑）。そのとき松永兄弟や小川さんはどうしてるんですか？

今井　どっかでヘラヘラしてたんじゃないですか？

掟　ヘラヘラ（笑）。のんきすぎです！

今井　だって、あの長い興行が終わって深夜まで片づけして、こっちは3日ぐらい寝てなくてヘロヘロですよ。新日本プロレスの3分の1のスタッフ数で駆けずり回りながらやってましたから。それで、全部終わって精も根もつきはてた頃、当時小川さんと結婚してた素っ頓狂な奥さんが「あっという間でしたね」って言ったから、「ぶっ殺すぞ」って思いましたもん。

掟　ダハハハ！　周りのバタバタが気にならないんですかね。

今井　小川さんも満足げな顔で「そうだね」とか言って。「この夫婦、殺してやろう」って（笑）。俺たちはドブネズミみたいに這いずり回って、あの頃はケータイも普及してないから、なんか報告するのにも200メートル走って言いにいってましたからね。で、僕らは本部席にいるから、いろんな問題の報告が入るんですよ。「北斗とLLPWがバックステージで大ゲンカしてる」とか。「ブリザードYUKIのスタントマンがドームの天井から飛び降りたとき着地に失敗しました」とかね。

掟　状況報告されても「えー！」って驚くだけで確認できないですよね。

今井　「口からこんな血出してました」「死んだみたいです」とか。結局複雑骨折の重症だったんですけど、助かったんですよ。

掟　全女が倒産したあとの時代も、若手を中心に個性的な選手が続々登場しておもしろかったですよね。とくに、関綾子！

今井　バスを引っぱる女ですね（笑）。鹿児島の田舎の凄いとこから出てきたんですよ。もうひっくり返りましたからね、写真見たときは。

掟　化け物が履歴書書いて自分から来た、と（笑）。

今井　これはすげえのが来たってなって、会長と喜んじゃって。バスを引っぱらせるっていうのも、最初はシャレで言ってて、やらせてみたらホントにバスが動いたんですよ！

掟　"元祖・バス引っぱり"のグレート・アントニオは、じつは緩い下り坂で引っぱってたなんていう裏話もありますけど、関綾子はそんなトリックなしですもんね。

今井　まあ、バスの大きさが違いましたけど、15～16歳の女の子が引っぱっちゃいましたから。会長も大喜びで。「これはグレート・アントニオと同じ神宮外苑の絵画館前で引っぱらせるしかない」ってことになって、僕が四谷警察に行って交渉しました。もちろん「絶対にできない」って言われたんですけど、「なんでですか？　以前、グレート・アントニオがやった事例があるんですよ」なんて言って。「何年ぐらい前の話ですか？」「そうですね……50年くらい前ですかね」って言ったら、「いいかげんにしろ！」って怒鳴られて（笑）。



いまい・ながはる■1959年10月16日、東京都出身。フリーリングアナウンサー。イベント司会者。91年に全日本女子プロレスに入社し、数々の大一番をコールする。現在、元・全女レフェリーの笹崎勝己とともにインターネットダウンロードラジオ『ラジオデイズ』で「カウント2.99」と題したプログラムを配信中。http://www.radiodays.jp

掟　事例が不適当すぎて最高です！

今井　代々木第二体育館でデビュー戦をやるから、その駐車場を借りて引っぱらせて。

掟　関綾子はデビューしてそんなに経たずに辞めちゃったんですよね？

今井　その年の暮れにイベントやったあと、葛西（純）くんに惚れちゃってね。あれから寝ても覚めても「葛西さん、葛西さん」って、おかしくなっちゃったんですよ。

掟　葛西純さんに惚れて、"女"に目覚めてプロレス続けられなくなったって話、ホントだったんですか!?　以前は道場で弁当を10個くらい食べて、「気持ち悪い、気持ち悪い」って全部吐いちゃって。それが恥ずかしくていなくなったって聞いてたんですけど。

今井　実際にそのあといなくなったんですけど、きっかけはいろいろあったんですよね。

掟　あと中原奈々もよかったですよね。紅夜叉はヤンキーギミックだけど、中原奈々は本物のヤンキーがレスラーになったということで。

今井　じつは、僕はあいつのお母さんを昔から知ってるんですよ。お母さんは、僕と同世代の不良だったんで。でも、お母さんはキレイなヤンキー姉ちゃんだったんですけど、父親似なんでしょうね。中原は、不良は不良なんだけど、ファッション的な不良で根性がなかった。たまたま身体がデカく生まれて、力も強かったから、不良仲間のあいだではやりたい放題だったんだろうけど、プロレスの世界はそんなに甘いもんじゃないですからね。

掟　僕がとくに好きだったのは、練習中によく貧血で倒れちゃう高橋麻由美で。ついたあだ名が「バッタン麻由美」。

今井　あれ、僕がつけたんですけどね（笑）。バッタンバッタン倒れちゃうから。あの子はちゃんと育ったら、三代目赤城マリ子にしようと思ってたんですけどね。

掟　えっ!?　「高橋麻由美、三代目赤城マリ子計画」なんてあったんですか？

今井　群馬出身だし陰があるから。でも、試合以前に体力的な問題があってダメだった（笑）。

掟　本気でバッタンバッタン倒れちゃいますからね（笑）。高橋麻由美もそうですけど、群馬県出身の女子プロレスラーはいい感じにみんな陰があって、男性ファンがつきやすいというか。僕は長島美智子さんも好きだったんですよ。長島さんは全女に2年しかいなかったのに、会長が好みのタイプだということで辞めた直後『しじゅうから』（全女が経営していたカラオケボックス）の店長を任されるんですよね。

今井　ハハハハ！　そうそう。

掟　松永会長は、かわいい子とそうでない子の扱いがあからさまに違うという（笑）。

今井　そう、全然違うの。エコひいきっていうのを平気でするから（笑）。それで、ひいきされない子は「いまに見てろ」って燃えたりして。そこがまたおもしろいんですよ。

掟　それで井上京子さんは燃えたって言ってましたね。

今井　会長からチヤホヤされる子は、レスラー間では妬まれて徹底的にいじめられるんですよ。そして、その図式を全部リングに持ってくる。ああいうのを興業師って言うんだと思いますよ。「会長はなんで、あいつばっかりひいきするんですか！」って言われても「アイツはかわいいから」って、それで終わりですから（笑）。

掟　で、ロッシー小川さんは小川さんで、自分がかわいいと思う子だけを持ち上げて（笑）。

今井　いや、もうそれしかないんだもん。僕は女子レスラーに対して、自分の好みとかは一切ないですけど、それがなぜか全女の伝統なんですよね（笑）。

掟　いやあ、やっぱり全女はおもしろいですね。また今度、ゆっくりお話を聞かせてください！

【10年10月9日／都内・某喫茶店にて収録】

——今回は、ビートルズ好きで知られる越
中さんに、ビートルズの魅力を思う存分語

テンポのいい試合もできなかっただろう
な（笑）。

からな。でも、そうして買ったやつを、結
局、すり切れるぐらいまで聴いたんだよ

に行った三沢（光晴）が日本へ先に帰っち
やって、俺は休みの日も異国に一人ぼっち

KAMIPRO

THE BEATLES
A HARD HIP NIGHT



サムライが語る
俺だけのBEATLES!
越中詩郎

プロレス界でも屈指のビートルズ大好き人間として、その名を轟かせている越中詩郎。もはやその愛好家ぶりはプロレスファンならば誰もが知っているほど。今回はその越中にビートルズの魅力を心ゆくまで語ってもらった。聞けって！

聞き手／青柳直弥　撮影／平工幸雄

——今回は、ビートルズ好きで知られる越中さんに、ビートルズの魅力を思う存分語っていただきたいんですが……ビートルズとの出会いはどんな感じだったんですか？

越中　出会いは中学時代だよね。吉田っていう、いまは音楽学校の先生やってる親友にレコード屋に誘われてさ。それで、レコード屋に行ったら吉田がおもむろに、「これ、凄いらしいよ」って言って出してきてくれたのが、ビートルズの『LET IT BE』のLP。

——そこでビートルズと運命の出会いをはたしたワケですね。

越中　で、俺も「オマエがそう言うんだったらこれ買うよ」って買ったワケ。当時1800円だったかな。でも、俺んちは、それまで自分のステレオもなければ、カセットプレーヤーもなかったから、レコードを聴く環境がない。だから、買って家に持っていったはいいけど、「おい、吉田。聴けないよ」って（苦笑）。

——そこを考えずに買ったんですか！（笑）。

越中　だから、また次の週に電気屋行って。安い、5、6000円のポータブルのプレーヤーみたいのを買ってきて。で、聴いたはいいけど、何歌ってるのかさっぱりわかんない。

——まあ、英語ですしね（笑）。

越中　取っかかりはそんな感じだったんだけど聴いていくうちに、だんだんハマっちゃったんだよな。いま思えば、当時の俺がそんなの聴くなんて画期的っていうか、吉田がレコード屋に連れてってくれてなかったら、ビートルズとの出会いもなかっただろうし、中学の文化祭でバンド組むこともなかっただろうし……。プロレスでテンポのいい試合もできなかっただろうな（笑）。

——ビートルズでリズム感を覚えた感じですか？（笑）。

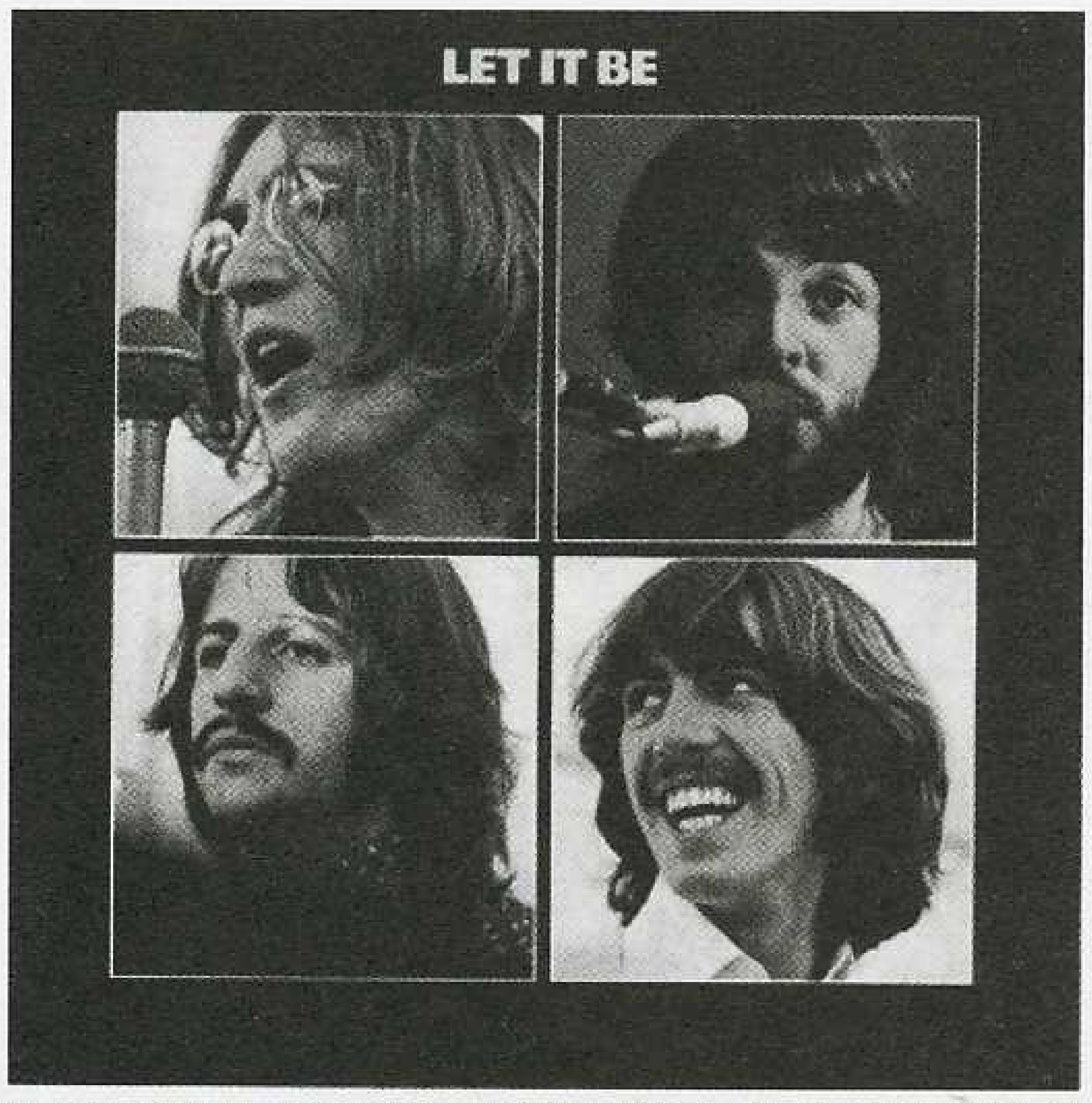
越中　（無視して）大仁田のところにいた矢口（壱郎）っているじゃん？　あれもギターやってるだろ？　矢口が、吉田と仲良かったって、あとで知ってビックリしたんだよ。矢口が、たまに吉田の学校で講師やったりしてるらしくて。

——へ～、そんな意外なつながりがありましたか。ところで、越中さんはビートルズ以前に音楽は……？

越中　まったく。日本の歌謡曲をちょこっと聴くぐらい。だって、音楽好きだったら、レコード買ったり、プレーヤーもあったハズでしょ？　それがないんだから。

——そうですよね。じゃあ、初めて買ったレコードがビートルズだったんですね。

越中　それも自分がほしくて買ったワケじゃなくて、吉田の「これがアメリカのほうで流行ってるらしいよ」っていう一言だからな。でも、そうして買ったやつを、結局、すり切れるぐらいまで聴いたんだよね。そこから、ほかのアルバムも聴いてみたくなって、一生懸命アルバイトしてひと通り揃えたんだけど、友だちに貸して返ってこなかったりで、半分ぐらいしか残ってない（苦笑）。



越中が中学時代、友人の吉田くんに連れていかれたレコード屋さんで、初めて購入したのがこの『LET IT BE』だって！ ビートルズを代表するこの1枚は全世界で1,000万枚以上のセールスを記録。越中がとりこになってしまったのも無理もない。みんなも聴けって！

詩の意味が知りたいから ビートルズ詩集みたいなのも買ってさ

——ビートルズは何がそこまで響いたんですか？　メロディーですか？　詩ですか？

越中　メロディーもそうだし、凄く新鮮だったよね、英語が。もちろん言葉の意味なんかわからないんだけど、何を歌ってんのか知りたいから一生懸命、辞書で調べたりして。でも、英語って難しいじゃない？　直訳できない表現とかもあるし。彼らの詩は難解で、そこも奥深いんだよね。『LET IT BE』だって、そう。直訳できないワケ。

——確かに、英文を日本語に直訳するのは難しいですもんね。

越中　でも、詩の意味が知りたいから、ビートルズ詩集みたいのも買ってさ。俺はそれ、直訳だとばっかり思ってたんだけど、違うんだよな。訳したヤツが、なんとなくこういうこと言ってるんだろうみたいな感じで、あとでちょっと色をつけてるワケよ。だから、字幕スーパーと一緒だよね。あれも直訳じゃないでしょ？

——確かに意訳も多いでしょうし、訳す人によっても、けっこう違ってくるって聞きますしね。

越中　あと、俺のビートルズの思い出としては、やっぱりメキシコ時代だよな。一緒に行った三沢（光晴）が日本へ先に帰っちゃって、俺は休みの日も異国に一人ぼっちで……。そんなとき、地下鉄に乗ってひと駅行ったところに、駅の広場的なスペースがあって、そこにバーがあったワケ。そのバーで夕方ぐらいになると、毎日、ビートルズのコピーバンドが演奏してたんだよ。日本でも、六本木のCAVERN CLUB（ビートルズのカバーバンドが日替わりで出演するお店）とかあるじゃない？　比べるのも申し訳ないけど、メキシコ人っていうか、向こうのヤツらの英語の発音がめちゃくちゃ素晴らしいワケ。だから、休みになると地下鉄に乗って、一人でブラッと行ってさ。

——そこは、たまたま見つけたんですか？

越中　たまたま見つけた。で、そこの黒ビールがめちゃくちゃウマいんだよ！　そもそもね、メキシコのビールって、めちゃくちゃウマいワケよ。なんでかっていったら、防腐剤が入ってないの。日本のビールって、防腐剤を必ず入れてなきゃ販売できないんだよな。でも、メキシコ行ったら、ビール飲むときはまず、ちょこっと口をつけて、「ん、腐ってないな？　よし」って、それから飲むのがあたりまえなの。へんな味したら、「ちょっとチェンジして」みたいな。日本だったら大騒ぎでしょ？

——大騒ぎですよね。

越中　腐ったビール出してんだからな。でも、向こうのヤツらは「あ、取り替えて」って、それだけ。あたりまえのことなんだよね。だから、日本みたいに「カンパーイ」

ジョンはここに住んでて、ここで撃たれたんだって思ったら、涙が出てきて

サムライが語る俺だけのBEATLES!

とか言って、グイグイやっちゃうとヤバいんだよ。

――おそろしい……（苦笑）。

越中　でも、おいしいんだよ、これが！（力説）。口当たりから何から全然違う。当時の俺は、ビートルズを聴きにその黒ビールを飲みに行くのがホントに楽しみで。それがなかったら、ホントに救われなかったみたいな。

――当時の越中さんにとって、そのバーはかなり大きい存在だったんですね。

越中　行けばホッとしたよな。こんなところでビートルズに会えたっていう喜びもあったし、生演奏をバックにウマいビールを飲みながら、「日本はどっちの方向かな？」なんて考えたりして。

――ホントに癒しの場所だったんですね。

越中　だから、あれだね。いま、俺はどっか行きたいとこある？　って言われたら、リバプールに行ってみたいね。死ぬまでに一回は。彼らがどんな土地で、どんな空気を吸いながら暮らしていたのかを感じてみたいよね。

――以前、越中さんがおっしゃってましたけど、ライガーさんが一度イギリスに行かれたときに、リバプールはどうだったか聞いたんですよね？

越中　そうそう。でも、あいつはビートルズに興味がねえから、リバプールもただ素通りして、試合場の近くで寝てたって言うんだからな……。あと、これはビートルズとは関係ないけど、俺、ゴルフが好きだからね。リバプールにロイヤル・リバプールっていうゴルフ場があるんだけど、そこも行ってみたいんだよ。そもそもイギリスっていうのは、ゴルフの発祥の地だからさ（ゴルフの話が長いため、一部割愛）。いつもテレビを観てて行きたいなーって。

――行きたい理由が二つあるんですね。

越中　俺、行ったら飽きないだろうね。ビートルズが演奏してたところや、育った街とか回って。前に、ニューヨークに一回行って、ジョン・レノンが住んでた高級アパートに立ち寄ったときも、ジーンときたもんな。

――ダコタ・ハウスですね。

越中　そうそう。そのときはニューヨークに住んでたタイガー服部さんが、一日観光でも行ったほうがいいよって言って、いろいろ段取りしてくれたの。観光バスじゃなく、ワゴンカーで2、3人だけで行くツアーみたいな感じで、自由の女神やら、ワシントン広場やらいろいろ回って、なんとか教会とか、そんなの俺は興味ないんだけど……そしたら最後に、ここがジョン・レノンが住んでたところです、って言って素通りしようとするから、「待て待て！　ちょっと停めてくれ！」って言って。

――アハハハ。行くってことは知らなかったんですか？

越中　全然知らなかった。入ってないんだよ、コースの中には。で、ダコタ・ハウスの前に立ったとき、ジョンはここに住んでて、ここで撃たれたんだって思ったら、涙が出てきて……。なのに、カミさんはあっけらかんと、「まだぁ？　次行くとこあんだから早くしてよ」とか言ってきて。バカヤローって（苦笑）。



1980年12月8日、ジョン・レノンは自宅のダコタ・ハウスで射殺され、40年の短い生涯を閉じた。このダコタ・ハウスは、ビートルズファンにとっては聖地そのもの。越中もニューヨーク旅行の際に立ち寄り、思わず涙を流してしまったという。侍の目にも涙だって！

――奥さんは全然興味ないんですか。

越中　全然興味ないんだよ。こっちは、ジーンときて動けないでいるのに。

――スゴい温度差ですねー（苦笑）。越中さんは、メンバーのライブなんかも行かれてるんですか？

越中　ああ、みんな来ると行くよ。最初にポール・マッカートニーが来たときに、俺の試合日程とか調べたら、一日だけ空いてる日があってさ。そのとき、知り合いが前から10番目ぐらいの席を取ってくれたんだよ。

――おお、スゴい！

越中　そしたら、ポールが成田空港で大麻（不法所持）で捕まっちゃって公演中止になっちゃった。あれは、がっくりきたね。

――うわー、ツイてない。

越中　なあ。いま、あれ持ってたらスゴいよな。幻のチケットだよ。

――超レアですよね。

越中　でも、当時は「なんだよ、こんなの使えねえじゃねえか」って燃やしちゃった。もともと俺は、物を取っておくとか、そういうことはあんまりしないから。

――その後、ポールのライブは行かれたんですか？

越中　ポールは、そのあと日本に数回来てるから、3、4回は行ってるよ。リンゴ・スターもジョージ・ハリスンも行ったし。ポール・マッカートニーの東京ドームのときはスゴかったね。あれも前から10番目ぐらいで。

――よく取れますね。どうやって取ってるんですか？

越中　新日本の関係者に頼めば取れたんだよね。新日本も興行会社だから、いろんな横のつながりがあるんだよ。荒井由美（松任谷由実）なんかも横浜アリーナとか、いいところ取ってもらって行ったし。

――へー、そうなんですか。いまもビートルズは、ちょいちょい聴かれます？

越中　聴くね～。ていうか自然に耳に入ってくるじゃない？　ラジオつけてたって。また彼らがスゴいのは、いま聴いても色褪せてないし、レコード屋行ったって、解散して何年も経つのに、いまだにメインのところにCDが置いてあるからね。で、新たにワンセットでいくらとかって、売り出しかけたら、またそれが売れちゃう。

――去年、出ましたよね？　リマスターCDのBOXセットとか。

越中　そうそう。あれも売れたんでしょ？

――売れたんでしょうねー。越中さんは買われてないんですか？

越中　あれは……（小声になって）高かったからな。あれと、寅さん（『男はつらいよ』）全集は買いたいんだけど、高いんだよ。寅さん全集は15万円ぐらいするんだよ。

――そんなにするんですか！

越中　そのかわり、映画50本入ってんだよ？　だから、1本の割合にしたら、3000円とかそんなもんじゃないの？

――あ、ホントだ。言われなきゃ、わからなかったかもしれないです。さすが、すぐ気づきますね。

「BGMはビートルズで！」って伝えて。もう新郎新婦の入退場から、最後の挨拶とかのBGMまで全部ビートルズに

のCAVERN CLUBっていうライブハウスの前なんて行ったら、たぶん泣いちゃうだろうな。

越中　そのかわり、映画50本入ってんだよ？　だから、1本の割合にしたら、300円とかそんなもんじゃないの？

——そう考えると、お買い得なのか。

越中　お買い得なんだけど、買えないんだよね。だから、いまほしいのはビートルズのリマスターと、寅さん全集。あと、水戸黄門全集。

——水戸黄門もですか（笑）。越中さんは、どういう場面で音楽を聴くことが多いんですか？　家で聴くことが多いんですか？　車の中とかですか？

越中　車の中だね。移動するんでも車が多かったし。もちろんCDも何枚か入れてるけど、ラジオとかでもけっこうビートルズの特集とかしてるから。昔、すり切れるぐらい聴いてたから、しょっちゅうじゃなくていいワケよ。たまーに耳にポンと入ってくると心地いいっていうか、自然に流れてきてくれるとそれがうれしいんだよな。

——ビートルズ以外に、音楽って聴かれますか？

越中　あんまり聴かねえなー。いまはあれだね。DJのうるせえのとかは避けて、NHKのFMに合わせてクラシック聴いてるね。あれは落ち着くから大好き。

——クラシックとは、また渋いですね。じゃあ、ビートルズ以降、越中さん的にお気に入りのアーティストはいないですか？

越中　いないなー。あれ……？　これもビートルズだよ（取材時の店に流れていた女性アーティストのカバーに気づいて）。

——あ、ホントだ。言われなきゃ、わからなかったかもしれないです。さすが、すぐ気づきますね。

越中　だから、彼らを最初に聴いてガンときちゃったから、ほかの人たち聴いても、何も感じないんだよな。

——それ以上のインパクトが。

越中　うん。あれぐらいだな、私のお墓の前で泣かないでくれっていう歌、あれはいい歌だなって思ったぐらいだな。

——『千の風になって』ですね。やっぱり越中さんにとって、ビートルズっていうのは相当大きい存在なんですね。

越中　大きいねー。好きだね。彼らに密着した2時間もののドキュメンタリーのVHSテープがあるんだけど、いまでもたまに引っぱり出してきて、それだけは観るもんな。そうすると、なんか気持ちが、「よし、また頑張ろう」みたいな。

——そういえば越中さん、ご自身の30周年興行で、煽りVTRのなかで『The Long And Winding Road』使ってましたよね？　あれは越中さんのリクエストなんですか？

越中　うん。やっぱりビートルズを流してほしかったから。俺、結婚式のBGMも全部、ビートルズにしたからな。

——え、そうなんですか!?　まだそんなに重要なエピソードがありましたか（笑）。奥さんはべつに好きじゃないんですよね？

越中　嫌な顔してたよ（苦笑）。だから一生懸命、衣装とかに夢中になるように気を逸らしておいて、そのあいだにスタッフに「BGMはビートルズで！」って伝えて。もう新郎新婦の入退場から、最後の挨拶とかのBGMまで全部ビートルズにしたんだけど、そういうのがわかるようなヤツが一人もいなかったね。プロレスラーが来て、食うだけ食ってさ。まだ、あいつら食ってるよみたいな。

——ぶち壊しというか（笑）。しかし、越中さんのリバプール行き、ゼヒ実現するといいですね。

越中　行きたいよなー。たぶんね、「あれ、いないな？」と思ったら、俺はどっかで泣いてると思うよ。彼らの育った土地の空気とか吸っただけでもグラッときちゃうだろうし、彼らが下積み時代に出てた本国のCAVERN CLUBっていうライブハウスの前なんて行ったら、たぶん泣いちゃうだろうなー。

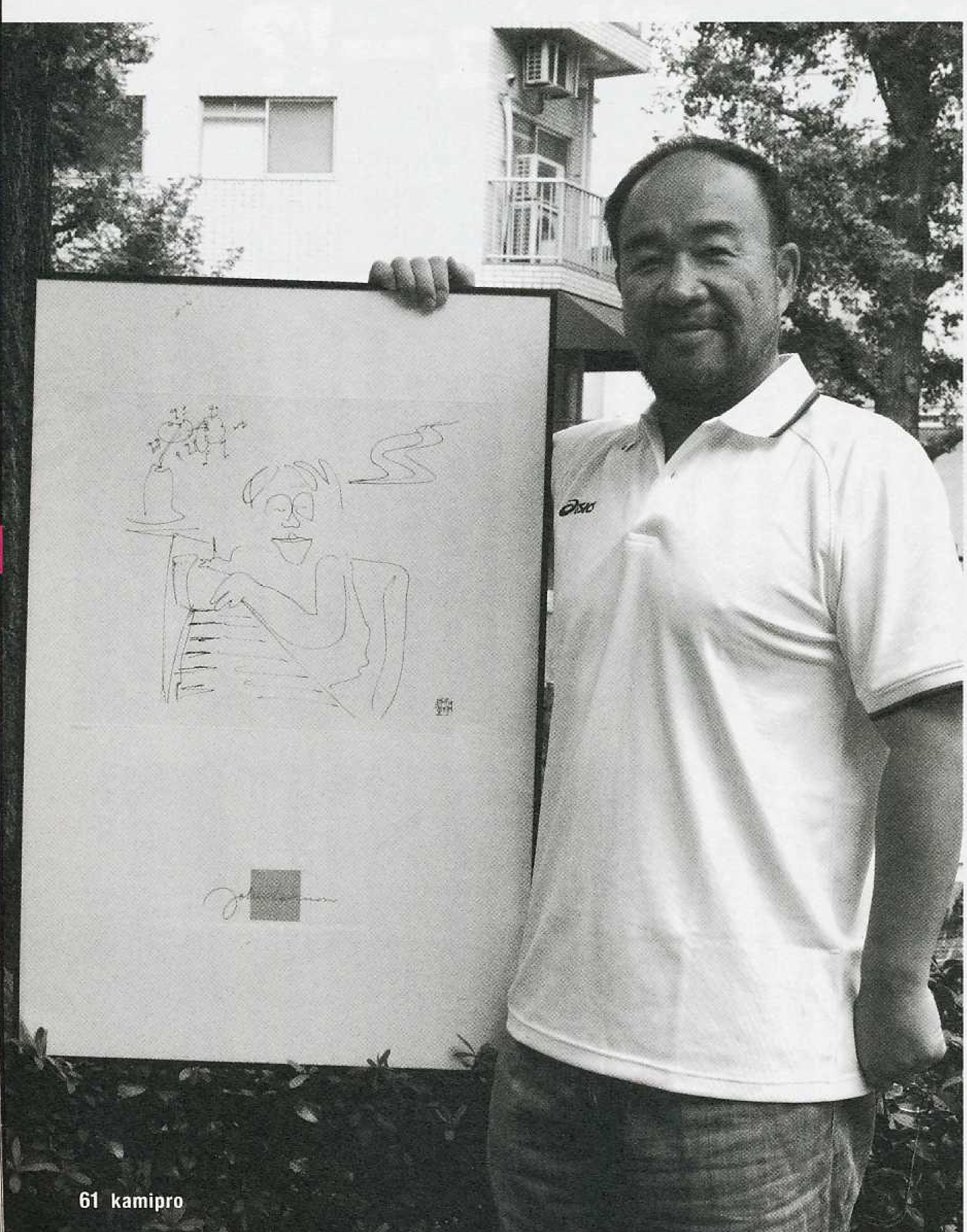
——まあ、そうでしょうね。越中さんはそこまで思い入れがあるワケですから。

越中　でも、行くときは女房抜きで、一人で行きたいね。たとえばCAVERN CLUBの前に行ったら、1時間ぐらいその前にいるかもしれないし、30分で帰っちゃうかもしれないけど、その場ではもう誰にも拘束されたくない。「はい、次行くよ」とか言われたくないからな（苦笑）。

——確かに（笑）。近い将来の実現を祈ってます！

【10年10月3日／都内・目黒のおしゃれなカフェにて収録】

いまほしいのはビートルズのリマスター 寅さん全集、あと水戸黄門全集だって



こしなか・しろう■1958年9月4日、東京都江東区出身。1979年に全日本プロレスでデビュー。その後、新日本プロレスに移籍し、平成維震軍を率いて活躍。対戦相手に尻をぶち当てるヒップアタックが得意技。昨年はデビュー30周年記念興行も開催した。写真の絵は「ジョン・レノンが描いた絵のコピー」とのこと。185cm、105kg。

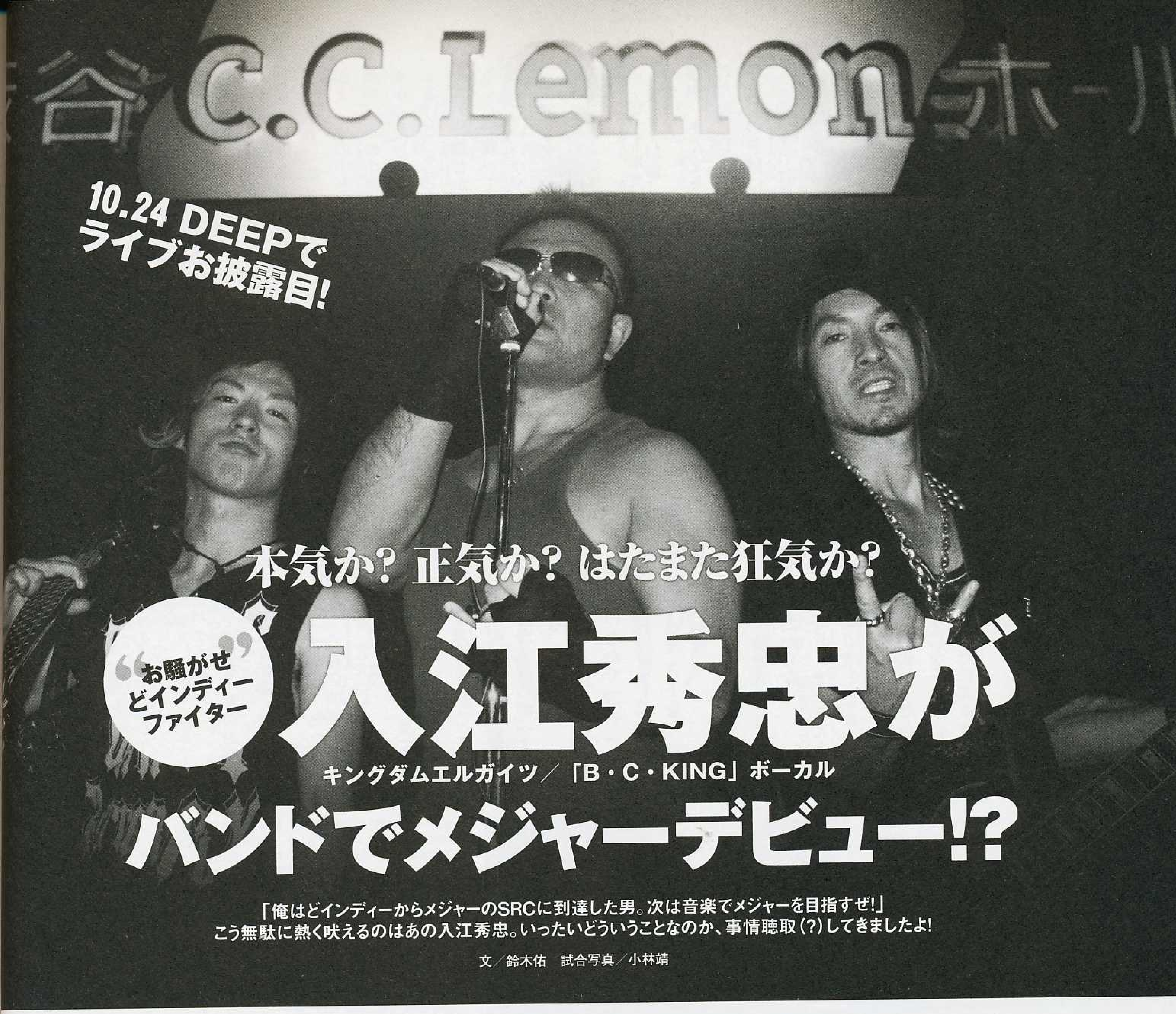
てるんですけど。そういう活動をし
ていくなかで、自分も格闘技ではメ

るほうは（あっけらかんと）。
——な、なるほど……。あの、そもそ

ドロップキックを使って大問題にな
ったとか？

詞が多かったですね。「ここから這い
上がっていこう」的な歌が。あの頃は

入江　そうです！　あの、僕は『スポ
ーツナビ』で「メジャーへの道」とい



10.24 DEEPでライブお披露目!

本気か？ 正気か？ はたまた狂気か？

“お騒がせどインディーファイター”

入江秀忠が

キングダムエルガイツ／「B・C・KING」ボーカル

バンドでメジャーデビュー!?

「俺はどインディーからメジャーのSRCに到達した男。次は音楽でメジャーを目指すぜ!」こう無駄に熱く吠えるのはあの入江秀忠。いったいどういうことなのか、事情聴取(?)してきましたよ!

文／鈴木佑　試合写真／小林靖

——入江さん、10・24 DEEP第50回記念大会に試合じゃなく、バンドで参加するって聞いたんですけど？

入江　はい！　DEEPと僕は切っても切り離せないですからね。昔から出てますし、メインを務めたこともありますし（07年の第33回大会で桜木裕司と対戦）、そもそも非公認ヘビー級王者ですから！（キッパリ）。

——でも、なんで試合じゃなくてバンドでなんですか？（笑）。

入江　いや、佐伯さんに「とりあえず出してくれ」って電話したら、「じゃあおまえ、歌えば？」って。もともと、今成正和の結婚式や青木真也の祝勝会で、いつも佐伯さんに歌わされてはいたんですよ。まぁ、必ず歌ってる途中で打ち切られるんですけど。

——それがお約束なんですね。

入江　いや、でもそれはアカペラだからまだいいけど、今度はバンドを引き連れての大舞台ですから、そんなことは絶対にさせませんよ！　だから本人には「切るなよ、絶対に切るなよ」って伝えてるんですけど。

——それ、「切れよ」ってフリになってません？（笑）。選手として試合出場じゃないことに葛藤は？

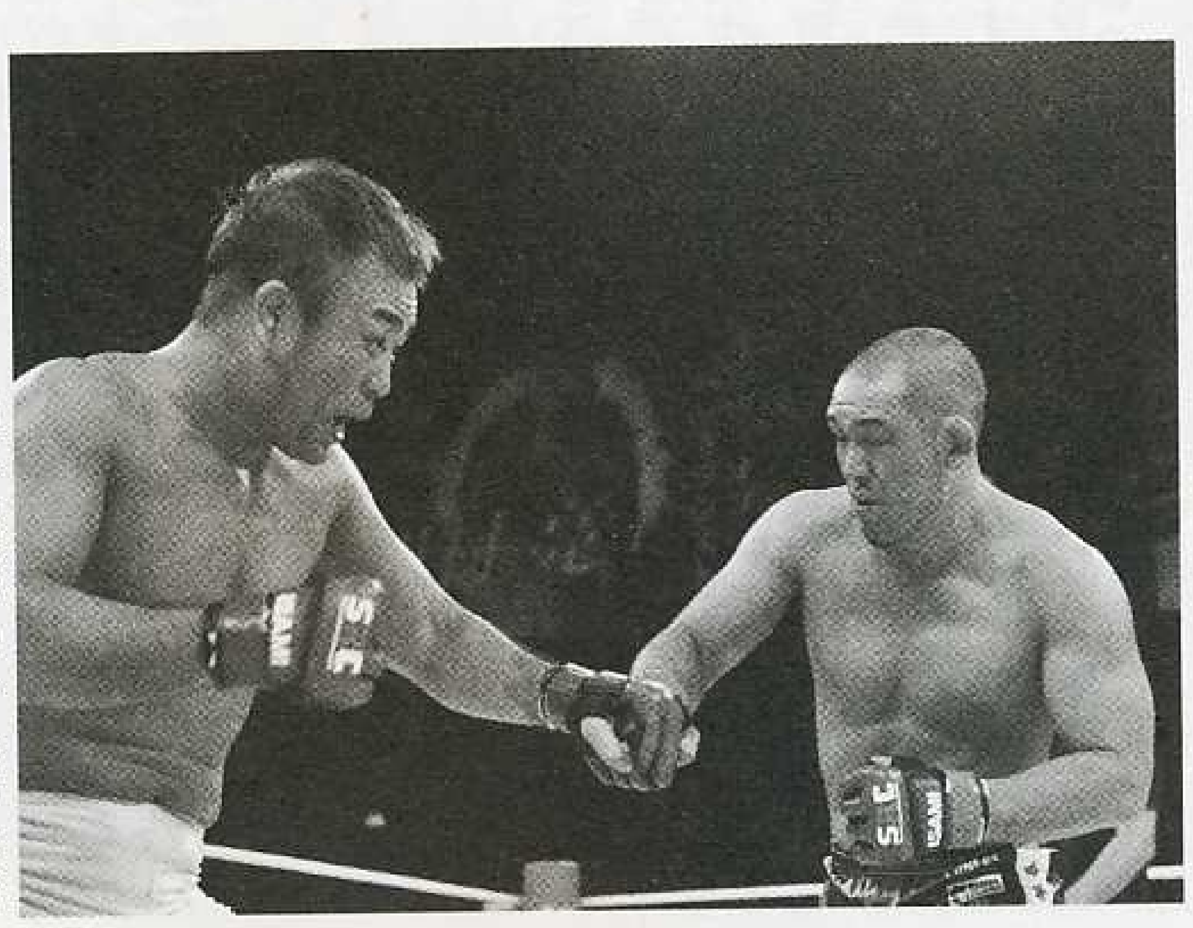
入江　一応、今年はインディーからSRCというメジャーの舞台までたどり着いたこともあって、選手としては引退というわけじゃないにしろ、気持ちに一区切りついた部分もあるんですよ。そこで「これからは格闘技をちょっと休んで、自分の好きなことをやっていきたいな」って考えてたときに、タイミングよく今回の話があったんです。でも、この前のDEEPの記者会見で「これからは歌に力を入れていきたい」って言ったのに、どこの媒体も取り上げてくれないんですよ！　おかしいと思いません!?

——（無視して）そもそも入江さんは、会見やキングダムエルガイツの大会なんかでもよく歌ってましたけど、音楽の素養があるんですか？

入江　学生時代からバンド活動はやってましたよ。今回のDEEPではプロのバンドである『ビフォア・クライスト・バタフライ』にサポートしてもらうんですけどね。あ、僕が格闘技と音楽のコラボイベントをやってるのは知ってます？

——たしか『GRAND SLUM』っていうイベントのプロデューサーをやってるんですよね。

入江　そうですそうです。インディーの卵をメジャーにしようというコンセプトで、音楽以外にもダンスとか芸人とか萌え系アイドルとか、いろんなジャンルの人間を集めてやっ



入江は6・20『SRC13』で念願のメジャーマットに到達。川村亮にTKO負けを喫するも試合内容が評価され、向井徹SRC社長から敢闘賞としてグローブ型のオブジェを贈られた！



入江がボーカルを務めるB・C・KINGは、11月23日のキングダムエルガイツ『A・R・T 2010』でもライブを敢行予定。また、入江をサポートするビフォア・クライスト・バタフライは、10月31日に渋谷チェルシーホテルでライブを行なう。

尾崎豊に影響された僕の生き様はロックだと思いませんか？

てるんですけど。そういう活動をしていくなかで、自分も格闘技ではメジャーマットまでたどり着いた男ですし、今度は音楽でメジャーデビューを目指したいな、と！（キッパリ）。

――そ、そうですか（汗）。

入江　僕ね、作詞作曲もするんですよ。だからDEEPでも一応、オリジナルで2〜3曲はやろうと考えてます。『さすらい』というナンバーをどうしても佐伯さんが聴きたいらしいのでね（ニヤリ）。

――あ、楽器もできるんですか？

入江　いや、全然できません。

――は？　どうやって作曲を？

入江　だから、アカペラで口ずさんだメロディーをボイスレコーダーに録るんですよ。それで専門の人に渡して曲にしてもらうんです。だからたいへんなんじゃないですかね、作るほうは（あっけらかんと）。

――な、なるほど……。あの、そもそも入江さんが音楽にハマったきっかけというと？

入江　そりゃもう尾崎ですよ、尾崎豊！　入場曲でも使ってますけど、僕はリアルタイムで尾崎と同時代を生きてきた男ですから。『15の夜』や『十七歳の地図』、ずっとそれを聴きながら学生生活をすごして、実際に高校は辞めちゃいましたからね。それも2校も辞めちゃいましたから。

――それ、感化されすぎですよ（笑）。

入江　ホント、歌詞どおりなんですよ！　まぁ、影響されてたどり着いたところは相撲部屋だったんですけど。

――なぜ盗んだバイクで走り出した先が角界なんですか（笑）。

入江　とりあえず東京に出てきたかったんですよね。で、大相撲を辞めてから、その相撲で大学に入ったんですけど。

――どういうことですか？

入江　普通は大学を出たあとに相撲に行くじゃないですか？　僕の場合はその逆なんですよ。相撲特待生として大学に入ったんです。人と違うって意味では、僕の生き様はロックだと思いませんか？

――（無視して）そういえば入江さんって、大相撲時代にドロップキックを使って大問題になったとか？

入江　ありましたね〜。で、次の日の『東スポ』に「大相撲の400年の歴史に泥を塗った男」って、バーンと誌面を大きく飾ってね！　凄いと思いませんか？

――じゃあ、傷害の疑いで逮捕されたときと合わせて、2回も大きく取り上げられたんですね。

入江　……そ、その話はちょっと（ボソっと）。

――ダハハハ！　とにかく、音楽に関しては尾崎豊に多大なる影響を受けた、と。

入江　はい！　やっぱり、相撲時代はかわいがりがキツいですから、夜な夜な尾崎を聴いては「僕には何かできるんじゃないか？」ってずっと泣いてたもんですよ。そのときの気持ちが、いまキングダムをやっているうえでも活きてますね。

――ずっと尾崎豊オンリーで？

入江　そうですね。でも、僕から見て尾崎的な感性をどこかしらで感じさせるアーティストには、やっぱり興味が湧きますよね。最近だとYUIさんとか銀杏BOYZとか。

――で、どこで入江さんは自分自身で音楽をやろうと思ったんですか？

入江　もう、バンドをやる以前から、尾崎に影響されてずっと曲は書き溜めてたんですよ。いま考えれば凄く恥ずかしいんですけど、無駄に熱い詞が多かったですね。「ここから這い上がっていこう」的な歌が。あの頃は若かった……（遠い目で）。

――いまもその熱さは無駄に伝わってきますけどね（笑）。

入江　いや、あのね、音楽の力って凄いんですよ！　人々に気持ちを届かせるパワーってホントに凄い。たとえば僕はいま41歳ですけど、人間の可能性って無限大ですから、いつから何を始めたっていいはずなんです。だから、その姿を人々に見せていきたいんです！

――自作の曲ってなると思い入れも人一倍でしょうしね。

入江　まぁ、オールディーズとかをやってた頃もあったんですけどね。あのね、オールディーズって歌がヘタなのをごまかせるんですよ。英語の曲ってオンチをごまかせるんです。

――あ、歌がヘタという自覚はある？

入江　そりゃありますよ！　だから佐伯さんだってネタとしてちょくちょく使うんでしょう。でも、次は大舞台だし悔しいから、じつはいま僕、ボイストレーニングにこっそり通ってるんですよ（ニヤリ）。

――お〜、やる気マンマンですね。

入江　ボイトレに行くと違いますよ、発声が全然違ってきます。やっぱりね、こうやって何かをやらないと、何も始まらないですから。もしかしたらDEEPのライブをたまたま目にしたメジャーレーベルの人が、おもしろいと思って声をかけるかもしれないじゃないですか？　そういう可能性にも懸けたいんです！

――とにもかくにも、音楽に対する志は高い、と。

入江　そうです！　あの、僕は『スポーツナビ』で「メジャーへの道」というコラムをずっと連載してたんですね。それがSRCに上がったことで一段落ついたので、いまは「メジャー団体への道」というものを書きだしてるんです。

――え〜と、それはキングダムをメジャー団体にする、と？

入江　はい！　どういうことかというと、旧キングダムの聖地であった代々木第二体育館でビッグマッチを開催したいと思ってまして。それにはいまの時代、やっぱり格闘技だけじゃ難しい。だから、そこに格闘技以外にもさまざまなジャンルを集結させようと思ってるんです。そのなかでも音楽の力を信じて奇跡を起こしたいんです！　いや、起こします！

――なるほど。とりあえず、DEEPで演奏中に佐伯さんに打ち切られないことを祈ってます（笑）。

入江　で、これは別件なんですけど、「メジャーへの道」を一冊の本として『kamipro』さんのほうで出版してもらえないですかね？　けっこう内容的には泣かせるところも……。

――（さえぎるように）今日はどうもありがとうございました！

【10年10月3日／都内・「Sbarro」渋谷店にて収録】

いりえ・ひでただ■1969年6月17日、長崎県出身。大相撲を経て、修斗に入門。95年には全日本アマチュア修斗選手権ヘビー級優勝。98年にキングダムエルガイツを旗揚げ後は、ヒクソン・グレイシーへの挑戦をブチ上げて一部で話題を呼ぶ。「最近ハマってる飲み物は横浜ビール。これは書いといてください！」（入江・談）。182センチ、95キロ。

入江秀忠の好きな歌BEST3

1位『永遠の胸』（尾崎豊）
2位『若者たち』（銀杏BOYZ）
3位『Good-bye days』（YUI）

あの日、あの号のインタビューもまだまだハッスルしてます!

kamipro & kamipro Special バックナンバー絶賛通販中!

kamipro Special 2010 NOVEMBER



日本の救世主か? 理解不能の怪物か!? 石井慧は必要なのか?

■未完の怪物、"放言"の中に"本音"は見えるか? 石井慧 独占インタビュー■桜庭和志から初の一本勝ちを勝ち取った男・ジェイソン"メイヘム"ミラー■くそったれ! を超えたイライラが爆発!! 小見川道大インタビュー■DEEP現役王者がついにUFC出陣! 福田力インタビュー■女子プロレス界のキーパーソン・さくらえみが語る奇妙奇天烈なレスラー半生!■佐伯繁の「男はつらいよ」DEEP50回達成特集! ■立ち技再編成! 各団体の思惑を探れ!! ほか

kamipro No.151



デビュー50周年記念「猪木とは何か? クレイジー編」

■小川直也が猪木、ZERO1、ハッスル、石井慧を語る! ■出会いから巌流島まで、獄門鬼・マサ斎藤が生涯のライバルを語る! ■ユセフ・トルコ「それでも私は猪木を殺すまで死ねない!」■仙波久幸、政治家・猪木を"愛で殺した"葛藤を語る!! ■言うちゃ悪いけど、井上節がここに復活!! 編集長の喫茶店トークラウド再録■この兄にしてこの弟あり! 猪木快守登場! ■アントンの姪・ファニー猪木が語る猪木事務所とジャングルファイトの真実 ほか

kamipro No.150



ゲームで燃えろ! ゲームを通じてプロレス&格闘技に昇竜拳!!

■ゲーム界最強最後の"プロレスラー"の極意 高橋名人インタビュー ■ゲームで萌えろ!! "ツヨカワガール"RENAが、あの春麗に変身! 「コスプレは今回が最初で最後ですよ(笑)」■マット界一難解な男・中邑真輔が語る『ファイプロ』の変態的楽しみ方 ■『ファイプロ』開発者・須田剛一が語るプロレスゲーム黄金期■ファイヤー原田が語る「魅惑の恋愛シミュレーションゲーム」■元ひきこもり女子レスラー真琴が語るゲーム更生録 ほか

kamipro No.149



格闘技のロマンは映画として昇華した! 特集・闘う映画

■ブルース・リーは強かったのか? ■ショー・コスギ「撮影で何度死にかけたか、わからない」■宇梶剛士が語る映画「お父さんのバックドロップ」壮絶舞台裏! ■いま最もエッジが効いた映画評論家RHYMESTER 宇多丸が「闘う映画」を熱弁! ■上映中止騒動とはなんだったのか? 「一水会」最高顧問・鈴木邦男が語る「ザ・コーヴ」■最強の映画&アクションスターを大槻ケンヂが分析!? 「スティーブン・セガール格闘映画最狂列伝」ほか

kamipro Special 2010 AUGUST



ヒョードル敗れる! 世界規模のヘビー級戦国時代に突入!!

■ブロック・レスナー「最強幻想強奪」■ダナ・ホワイト UFC代表 独占インタビュー「よくわかっただろう? これが現実だ」■エメリヤーエンコ・ヒョードル「ファブリシオとのリマッチを実現させてほしい」■ファブリシオ・ヴェウドゥム「いまでも、まだヒョードルが世界最強だ」■スコット・コーカー ストライクフォースCEO「契約更新するかどうかはヒョードル次第」■浅草キッドの玉ちゃんと語る俺たちの皇帝ヒョードル変態座談会、ほか

kamipro No.148



マンガみたいなホントがほしい!「闘うマンガ!!」大特集

■ハロルド作石「やっぱり『何が一番強いのか』に興味があるんです」■車田正美「創作の疲労度は肉体的にも精神的にもプロ格闘家と変わらない」■ゆでたまご嶋田隆司「マンガも格闘技も一番大事なのは"闘う理由・動機づけ"です」■宮下あきら「マンガの醍醐味とは荒唐無稽にあり!!」■みのもけんじ『MMAスターウォーズ』■浅草キッドの玉ちゃんと語る「あしたのジョー」変態座談会」■つの丸「"ファン気質"と作品の関係性」ほか

kamipro No.147



特集!! リングか、ケージか。鎖国か、開国か。幕末のマット界!

■川尻達也 インタビュー「青木くんが負けたいま、とにかくケージで闘いたい」■桜井"マッハ"速人 インタビュー「日本人みんな負けちゃって、俺がやるしかないでしょう」■榊原信行 元PRIDE運営会社DSE代表「日本の格闘技は一度ぶっ壊したほうがいい」■JJサニー千葉「日本人が勝つには"忍者の手"しかない」■ビビる大木 インタビュー「幕末浪漫ごもっとも～!」■三又又三インタビュー「竜馬とたけしと猪木と前田」ほか

kamipro Special 2010 JUNE



青木完敗 この現実にどう向き合うべきか?

■青木真也 ロングインタビュー「もう少しだけ格闘技がやりたくなった」■川尻達也 インタビュー「俺がメレンデスをブッ倒すしかないでしょ!」■ギルバート・メレンデス 独占インタビュー「ズバ抜けた武器を一つ持っていてもここアメリカで王者にはなれない!」■ニック・ディアス「なぜアオキが俺たちに勝てないのか教えてやろう」■北岡悟「青木は日本でぶっちぎりに強いわけで、それが勝てなかったのがすべてです」ほか

kamipro No.146



特集・破壊と建設のエンターテインメント 1990年代!!

■北斗晶「アタシがデンジャラス・クイーンと呼ばれていた頃」■福澤朗 アナウンサー「プ、プ、プロレスニュースの秘密を全部語る!」■武藤敬司 インタビュー「ファンがUWFの"地味プロ"に飽きてたんだよ」■馳浩 インタビュー「脱ストロングスタイルを図ったこの男は A級戦犯なのか?」■小島聡 インタビュー「本当は恐ろしい佐々木健介」■ザ・グレート・サスケ×ウルティモ・ドラゴン「ジュニア黄金期のルーツはユニバにあり!」ほか

kamipro Special 2010 MAY



五味隆典UFCで完敗! まだ日本には青木真也がいる!!

■五味隆典「逃げ場がなくなった"流れ者"」■"俺たちの"五味座談会■ジョルジュ・サンピエール「その底知れぬ強さ」■全米進出直前インタビュー! 青木真也■スコット・コーカー ストライクフォースCEO「アオキの次の相手はもう決まっている」■川尻達也 くそったれインタビュー「青木vsメレンデス戦? 答えたくもない」■菊野克紀「今回の勝ちで喜んでいられない」■KJ.ヌーン「DREAMとSF両方のライト級、ウェルター級を制覇する」ほか

発行/株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)
発売/株式会社角川グループパブリッシング
[エンターブレイン総合サイト] http://www.enterbrain.co.jp/

世界最強のスリーピースバンド、
電撃デビュー!!



その名も
TRIANGLE CHOKE!



オレはミックスト・マーシャル・アーティストなんだよ!!

——今回は、"音楽特集"ということで、メイヘムさんの音楽の趣味を聞きたいので



——今回は、〝音楽特集〟ということで、メイヘムさんの音楽の趣味を聞きたいのですが、どんなスタイルの音楽が好きなんですか？

ジェイソン・〝メイヘム〟・ミラー（以下メイヘム） どんなスタイルの音楽も好きだよ。でもやっぱり変わった音楽が好きだね。だから友だちにはいつもへんな目で見られるんだ（笑）。リラックスミュージックやジャズも好きだし、ヘビーメタルも好き。メタリカはいいよね！　あと、やっぱりテクノ！　最近の自分の新しい入場曲はテクノなんだけど、いまはテクノとヒップホップをミックスさせたニュータイプテクノが流行りだしてるんだ。自分はまたテクノがメインストリームの音楽になると思ってるよ。

——入場でも歌詞を口ずさんでましたもんね。

メイヘム あの入場曲はトレーニングするときにかけてもいいし、自分が集中したいときに聴いてもいい。生活にハリを与えてくれる。

——普段でも音楽をよく聴いてるんですね。

メイヘム 趣味で聴くだけじゃなくて、自分はアメリカで毎週月曜日に4時間ぐらいのラジオショーを持っているんだけど、そこでもトークやコメディショーの合間にいろんな音楽をかけたりしているよ。

——あ、長南（亮）選手がチームク・エスト修行時代に出演してたラジオ番組のことですね。

メイヘム そうそう。番組名は『メイヘム・マンデー』。そのラジオ局はパンクロックとかメタル系の放送局だから、そういうタイプの音楽とか、ヒップホップとかをかけてるんだ。メタルならMACHINE H

MAYHE

狂乱のボーカル&ギター
ジェイソン・“メイヘム”・ミラー

高阪剛、菊野克紀と突然、『トライアングル・チョーク』なるバンドを結成したジェイソン・“メイヘム”・ミラー。
アメリカではラジオ番組を持っており、音楽に関しては、DREAMファイターの中でも人一倍うるさそうだ。
はたして、狂乱のサイコスターの音楽観とは？

聞き手／大川義之　撮影／望月研

MAYHEM

EADも好きだから、よく彼らの曲をかけてるよ。彼らはオールドスタイルなメタルを新しい方法論で表現してるバンド。(突然ギターの口マネを始めて)♪ギュイン～ギギギーッ、ギギギュイ～～～ン!

——今日もテンション高いですね(笑)。プロレスラーやWWEの選手は入場に凝る人が多いんですけど、そういうのは意識したりしますか?

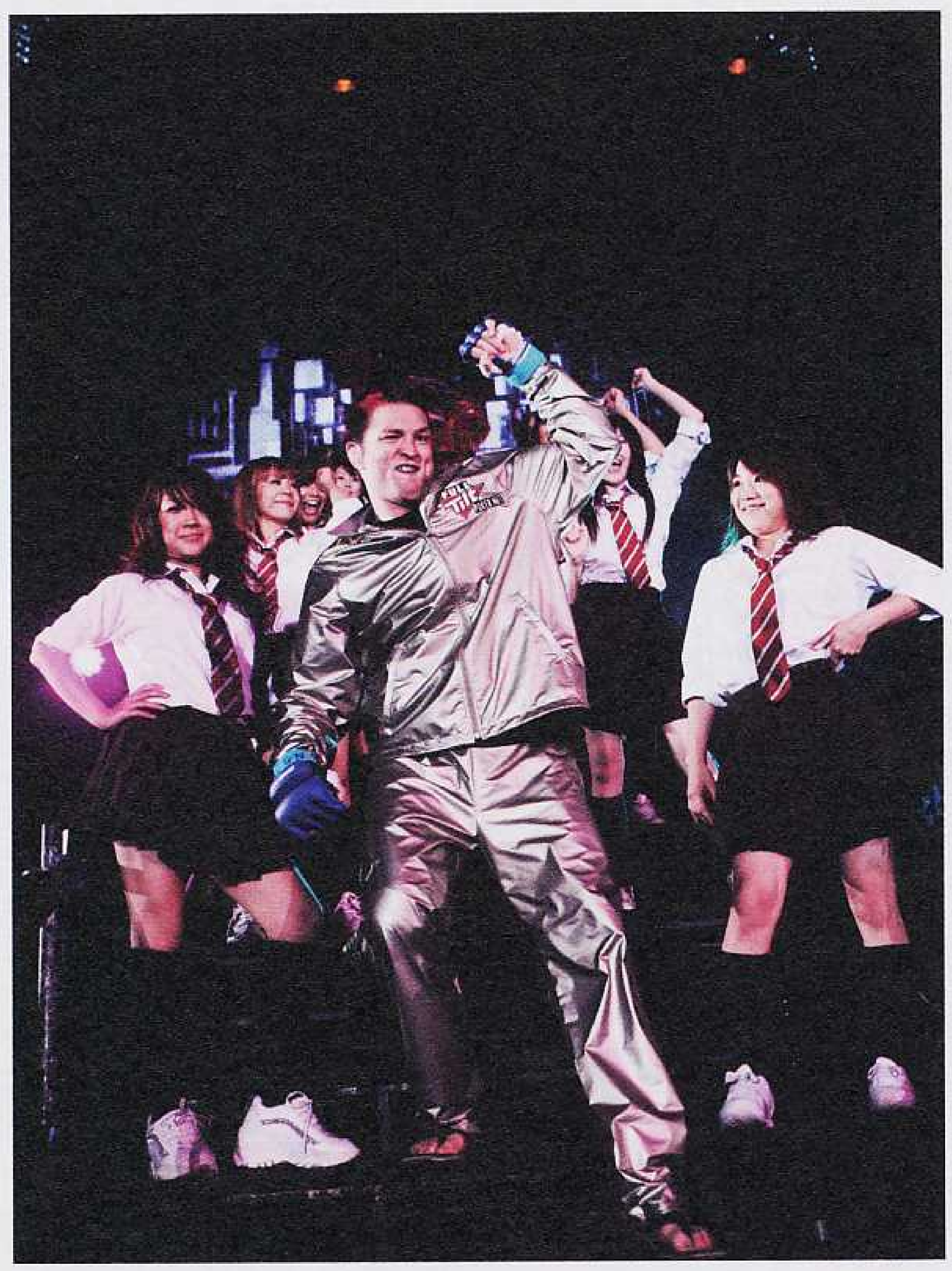
メイヘム　ああ、彼らの方法は凄く理にかなっていると思うよ。スポーツショーで試合を楽しませるのは当然の努力だけど、UFCは凄く損をしてるよね。彼らは一流のビッグショーを作っているのに、試合以外のところには全然気を使わない。彼らはむしろ、ファイターを一つの個体として見せたくないんだよ。選手はただ〝UFCファイター〟に見えてさえすればいいんだ。ズッファの連中はファイターという存在がもともと優れたパフォーマーだという事実を忘れている。だから彼らは、アメリカにおいて本当の意味でいいショーを作れてはいないんだよ。ストライクフォースでさえ、そういう部分では全然足りてない。その点、DREAMのプロダクションスタッフの発想は非常に天才的だ。彼らは、UFCよりもストライクフォースよりも、エンターテインメントショーが何かをよく理解している。だから自分はあのステージで〝ダンシング・モンキー〟になれるんだよ(笑)。

——確かにUFCの選手のテーマソングって少し古いというか、最近の曲とマッチしてない感じがしますけど、どう思いますか?

メイヘム　そのとおり!　理由はわからないけど、彼らは入場なんかどうでもいいと思ってるんじゃないかな。ずっと同じ入場曲を使っていた時代もあったしね。

——いままでで最も印象的だった入場シーンはなんですか?

メイヘム　自分が好きなのは、ゲンキ・スドーの入場だ。彼のキャリアの後期は大仰な入場スタイルになったけど、その時期じゃなくて自分は昔の彼のスタイルが好きなんだ。いつの入場か忘れたけど、バケツみたいなのを被ってスモークを焚き上げる入場が一番好きで、自分がハワイで試合するとき、あのスタイルをまるごとパクったことがあるよ(笑)。



——パンクラス時代の入場かもしれませんね。

メイヘム　ソウカモシレナイ。とにかく凄く奇抜に見えたね。要は、自分もゲンキ・スドーもただの格闘家じゃなくて、ミックスト・マーシャル・アーティストなんだよ。どちらも〝アーティスト〟っていう部分に重きを置いているし、ファイトはアートで、入場も同じアートの一部だと思っている。ファンのみんなには、試合と同じように入場もいいものを見せたいんだよ。

好きなのはゲンキ・スドーの入場だ。まるごとパクったことがあるよ(笑)

——須藤元気さん以外に、誰か好きな入場をする選手はいますか?

メイヘム　もちろん、サクラバサンの入場も大好きだよ。彼の入場はいつもクスッと笑えるおかしさがあるし、必ず何かサプライズが隠されていて凄く盛り上がる。素晴らしいと思うよ。タイプ的には、自分の入場はゲンキスタイルに近いけど、ファイトスタイルはサクラバサンに近い。ただ、ダンスはゲンキのほうがうまいけどね(笑)。

——元気さんはいままでもパフォーマンスユニットを結成してますからね。

メイヘム　でも、自分はまだ若いから、将来はどうなるかわからないよ。オレのほうがうまくなるかも(ニヤリ)。

——元気さんはいつも試合のテーマによって入場も変えますけど、桜庭選手は基本的な部分は変えないですよね。

メイヘム　どちらにもよさがあると思うけど、自分としてはいつも何か変えたいと思っている。入場曲はよく同じ曲を使うことがあっても、パフォーマンスは変えるようにしている。自分の試合についてのアーティスティックなビジョンの持ち方は、いつも試合前のある瞬間に決まる。目を閉じて瞑想していると、いつもどこからかクレイジーな感覚が降りてきて、何をしたらおもしろくなるかがひらめくのさ。自分自身で選ぶんじゃない。ただ、フィーリングが降りてくるのを受け入れるだけでいいんだ。〝その瞬間〟がやってくるのは、試合の2日前だったり、3週間前だったりするけど、ビジョンが見えてくれれば、通常よりもエキサイティングな状態になって、入場の仕方や試合の運び方も自然に決まるんだ。

——これから入場に使おうと思っている曲はありますか?

メイヘム　さっきも言ったけど、サクラバサンとの試合で使ったテクノソングを聴いたとき、その歌詞の表現が自分の気持ちと完全に一致していたんだ。凄い衝撃を感じたし、とても興奮したので、「この曲は絶対に入場で使わなきゃ」って思った。あの曲に出会えたのはラッキーだったし、凄く気に入ってるのでしばらく使いたいね。

——ちなみに、なんていう曲ですか?

メイヘム　『Bonkers』っていう曲さ。(iPodを取り出して曲をかけながら歌詞をしばし熱唱)。

※Dizzee Rascal & Armand Van Heldenの曲

——〝Bonkers〟(精神異常の意)って、メイヘムさんにぴったりの曲ですね(笑)。

TKのドラムは凄くパワフル！難点はキクノのベースかな（笑）

カラオケにもよく行くそうですけど、メイヘムさんはいつも何を歌うんですか？

メイヘム　ゼンブ！（日本語で）。なんでも歌うよ。でも、日本に来たらみんなに必ず『ＮＳｙｎｃ』（イン・シンク＝アメリカの５人組のポップグループ）を歌わせられるんだ（バラード調の『ＮＳｙｎｃ』の曲をまたも熱唱）。

——バラードも好きなんですか？

メイヘム　ああ。でも、本当に好きなのはトム・ジョーンズ（70年代を代表するイギリスのポップシンガー）だね。

——ダハハハハ！　トム・ジョーンズ！

メイヘム　だって、彼は凄くクールだろ？　カッコイイ（日本語で）。ほかにはカラオケでケツメイシも歌うよ。

——ケ、ケツメイシ！（笑）。なんていう曲ですか？

メイヘム　題名は知らないけど、（突然デタラメな日本語で歌いだす）シッテル？　いい曲だよ。デモ、ムズカシイ。ニホンゴダカラ。

——歌詞は覚えてるんですか？

メイヘム　ノー（笑）。歌詞は読めないけど、隣で歌ってるヤツのマネして歌うんだ。

——日本の演歌は知ってますか？

メイヘム　あまり聴かないけど、ハマるとヤバそう。カラオケに行くと、毎回必ず演歌を歌う日本人がいるので、横でマネして歌ってる。

——長南選手は歌がうまいんですか？

メイヘム　オーイエスッ！　彼が歌うとメチャクチャおもしろい。歌はいつもメタリカ！

——メ、メタリカ⁉

メイヘム　彼もメタリカが大好きみたいだし、歌もうまいよ。



メイヘムの好きな歌BEST3

1位『Bonkers』（Dizzee Rascal & Armand Van Helden）
2位『One』（メタリカ）
3位『Canned Heat』（ジャミロクワイ）

——格闘家ってメタリカ好きな人が多いですよね。

メイヘム　タシカニ！（日本語で）。メタリカにはいい曲が多いし、彼らの音楽に国境はないよ。どの国の人でもみんなメタリカが好きなんだ。

——『アフリクション』で演奏していたメガデスはどうですか？

メイヘム　メガデス？　彼らもクールだね。でもちょっと自分にはハードすぎるかな。チョウツヨイ。

——ほかの格闘家と音楽の話はしますか？

メイヘム　ああ、キング・モーはおかしなヤツだよ。彼は絶対にサザン・ラップ、しかもテキサス・ラップしか聴かない。しかもずっとそれだけで、朝から晩まで絶対に変えない。あきれて本人に「オマエはそれ以外の音楽は聴かないの？」って聞いたけど、「ああ。テキサス・ラップしか聴かない」だって。頭がおかしいよ。そりゃ自分だってサザン・ラップは嫌いじゃないけど、朝から晩までなんてウンザリだよ。

——サザン・ラップってどんな音楽ですか？

メイヘム　けっこうヘビーで重低音のベースがボンボン響くやつなんだけど、アイツは他人の車に乗ってきても必ず聴いていた音楽を止めて、サザン・ラップを流すラジオに合わせて聴くこと。ナンデ？　オカシイ！

——同じ『トライアングル・チョーク』のメンバーである髙阪さんは『ＤＲＥＡＭ．16』のＰＰＶでドラムを披露してましたけど、どうでしたか？

メイヘム　オー、グーーッド‼　ＴＫのドラムは凄くパワフル！　たぶんサムライアーマー（甲冑）が彼に力を与えているんだろう。

——一緒にＣＤを出してみたいと思いますか？

メイヘム　モチロン。我がバンド『トライアングル・チョーク』がＣＤを出したら、トリプルプラチナム（３００万枚）まではいかないまでも、ダブルプラチナムは確実だろうな！

——この不景気に２００万枚以上とは、大きく出ましたね（笑）。

メイヘム　ＴＫのドラムは強力だし、ボーカルはオレだからな！　難点があるとすればキクノのベースがよくないことかな。ククク。

——穴は菊野選手ですか（笑）。

メイヘム　ただ、彼には必殺のトーキック（三日月蹴り）があるから、彼独自の三日月蹴り奏法をマスターすればＯＫさ。それがあればミリオンセール（１０００万枚）突破もモンダイナイネ（笑）。

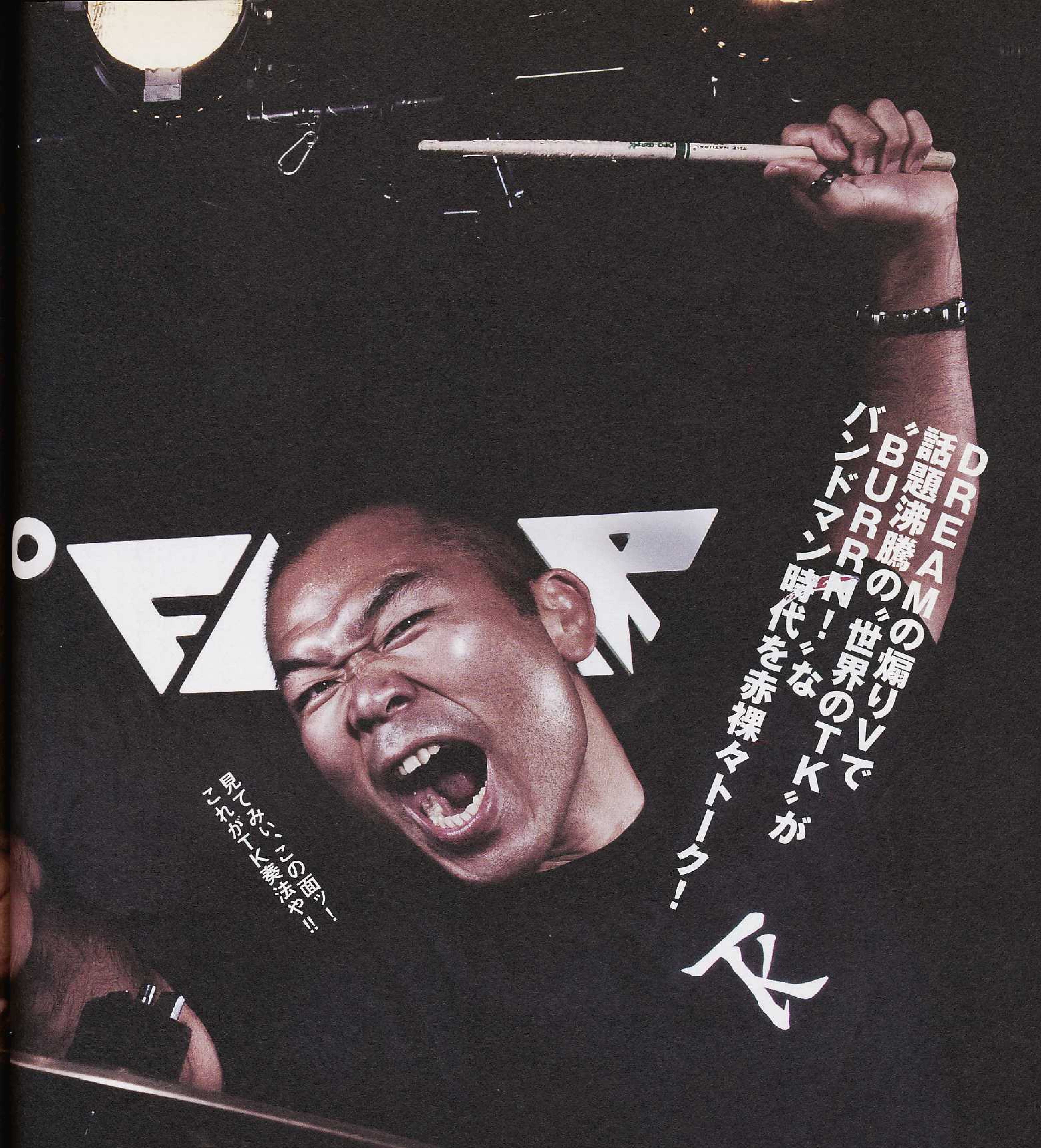
——なるほど（笑）。では、最後にメイヘムさんがお勧めの曲を３曲教えてもらえますか？

メイヘム　ＯＫ！　１位はさっき言った『Bonkers』でキマリ。２位はメタリカの『One』だね。３位は……、チョットマッテネ。うーん（熟考しながらｉＰｏｄで曲を探し出す）。たぶん、ジャミロクワイ（イギリスのアシッドジャズグループ）の『Canned Heat』かな（曲に合わせてノリノリで歌う）。でも、音楽はゼンブスキ。アイ・ラブ・ミュージック！

——今日はどうもありがとうございました。

メイヘム　オツカレサマデシタ！

【10年9月某日／都内某所・トライアングル・チョークの音楽スタジオにて収録】



DREAMの煽りVで話題沸騰の〝世界のTK〟が〝BURRN!〟なバンドマン時代を赤裸々トーク！

見てみい、この面ッ！
これがTK奏法や!!

――髙阪さん、「DREAM・16」でのドラム演奏がメチャクチャ話題じゃないですか！

髙阪 いやいや（照）。

――というわけで今日も、新バンド「トライアングル・チョーク」のドラマーに扮していただいたわけですが、さすがのプレイでしたね！ ドラムもかなりのベテランなんですか？

髙阪 小学5～6年ぐらいから、遊びで叩き始めたんですよね。当時中学2年生ぐらいだった兄貴がドラムセットを買ったんで、家にドラムがあったんですよ。

――いい環境ですねえ。バンドも組んだりして？

髙阪 中2ぐらいからバンドをやりましたね。ライブみたいなことも4～5回やったんですよ。

――本格的じゃないですか！

髙阪 最初は中学の文化祭でやろうとしたんですけど、「中学生にふさわしくない！」ということで、許可が下りなかったんですよ。だから「せっかく練習してるんだからなんとかやらせてくれ！」って訴えて、ついには教頭先生とかまで引っぱり出して「一生懸命やってる姿を見てください！」って、機材を全部中学に持っていって目の前で演奏したんですよ。

――オーディションですね。

髙阪 そうそう。それで「おまえらの熱意はわかった！」ということになって演奏できるようになって、それで火がついたんですよ。いやー、馬鹿な中学生時代の思い出ですよ（笑）。

――コピーバンドですよね？ どんな曲をやってたんですか？

髙阪 そうですね。友だちが当時RCサクセションとかザ・モッズを聴いてたんで、そういうのをやってま



TK

顔で勝負の武将ドラマー
髙阪剛の「BANDやろうぜ!」

見よ!「ちょっとちょっと、ノリすぎでしょ!」と、思わずツッコミたくなるTKのドラマー姿を!
そもそも今回の「TRIANGLE CHOKE」結成のきっかけになったのも、TKがDREAMの煽りVで
見事なドラミングを披露したから。そんなTKがうれし恥ずかしバンドマン時代の思い出を語っちゃいます!

聞き手/高崎計三　撮影/望月研　構成/鈴木佑

Cサクセションとかザ・モッズを聴いてたんで、そういうのをやってましたね。で、それとは別に、兄貴が二人いたんで、休みの日には3人でディープ・パープルとかの洋楽ハードロックをやってたんですよ。(インタビュアーのTシャツを見て)あ、アイアン・メイデンもやってたなあ。とにかくハードロックが好きで。

――中学生にして2バンドかけもちですか!(笑)

髙阪　平日は中学のバンド仲間とやって、土日は兄貴とやってたからホント毎日ですよ(笑)。そんなに楽器漬けになったのは中3の夏に、柔道部を引退してからですけどね。

――柔道漬けからバンド漬けへと、華麗な転身をはたした、と(笑)。友だちとのバンドは、貸しスタジオとかで練習してたんですか?

髙阪　いや、それも僕の家です。

――ええっ、音が大変じゃないですか!

髙阪　そうなんですよ。親父が「よし、わかった!」って言って、2階の部屋を改築してくれたんです。スタジオ並みの防音壁にして、雨戸もバリケードみたいなのをつけて、極力音が漏れないようにしてくれて。それでも少しは漏れてましたけどね。

――それでも凄いですよ!　えらく理解のあるお父さんだったんですねえ。

髙阪　親父がそもそも音楽好きだったんですよ。親父のレコードがたくさんあったから子どもたちが興味を持ったっていう感じでしたからね。ビートルズとか、サイモン&ガーファンクルとか……KISSもあった

し。だから親父自体が、バンドやることに大賛成だったんですよね。

——なるほど。文化祭のあとのライブはどういうところで？

高阪 公民館ですね。ちょうど、座席のついたホールがあったんで。うちのバンド、マネージャーが二人いたんで、そいつらに押さえに行かせて、チケットとかもさばかせて。

——ちょっと待ってください！ 中学生のバンドにマネージャーですか？

高阪 要は使いっ走りです（笑）。同学年のヤツなんですけど、「ジュース買ってこい！」みたいな（笑）。そういう性格の者もいたんですよね。

——メンバーは何人だったんですか？

高阪 5人ですね。ツインギターで。

——高阪さんがリーダーだったんですか？

高阪 それが、悲しい話があるんですよ（笑）。バンドやることになって、当時テレビに出てた横浜銀蝿とかツイストって、みんなドラマーがリーダーだったんですよ。

——ああ、確かにそうだ。

高阪 だから、僕はてっきり「おまえがリーダーになってくれ」って言われてるもんだと思ってたんですよ。そのつもりになってけっこう仕切ってて、「このアレンジはこうしたほうがいいよ」とか、偉そうに言ってたんです。「もうちょっと頑張ろうよ！」とか（笑）。

——それなりに責任を感じてたわけですね。

高阪 そうそう。それで文化祭のオーディションを受けることになったとき、先生が「代表者がいるならちょっと会議に出てくれ」って言ってきたんで、それで行こうとしたら、リードギターの岡本ってヤツが「はい！」って立っちゃったんです（笑）。

——「本物は誰だ⁉」状態（笑）。

高阪 「あれ、オレは⁉」って思って（笑）、ほかのメンバーに「岡本ってリーダーだったの？」って聞いたら「知らなかったの？」って（笑）。すっごい恥ずかしかった……。岡本にも、ああしたほうがいい、こうしたほうがいいって言ってましたからね。でもまー、いま思えば、そもそもどの曲をやるかも全部、岡本が決めてたんですよね。

——振り返ってみれば（笑）。

高阪 僕は洋楽しか聴いてなくて日本のロックを知らなかったんで、「みんなが言うんだったら」って折れてたんですよ。自分も「KISSやろうよ」とか言ってたんですけど、「KISSって何？」みたいな感じだったんで。だから「バンドやれるだけでもいいか」って感じで、「いいよいいよ、そっちで決めなよ」って（笑）。

——悲しいエピソードですねえ、ドラマーらしいというか（笑）。公民館ライブはワンマンショーで？

高阪 最初は自分たちだけだったんですけど、そのうち近くの中学のバンドとかもつながりができてきて、対バン組んだりするようになりましたね。「だけど、オレらがメインだよ！」って言って（笑）。

僕のいたバンドの名前ですか？ ニューファイヤーエンジェル！

——そんなにやってたんだったら、モテたんじゃないですか？

高阪 いや、全然でした！ じつはモテてたらしいんですけどね。

——「じつは」っていうのは？（笑）。

高阪 バンドでモテたいとか思ってなかったんで、全然わかってなかったんですよね。けっこう気に入ってくれてる女子とかいたらしくて、差し入れとかももらってたんですけど、気づいてなかった（笑）。

——硬派すぎます！（笑） 差し入れに手紙とか入ってなかったんですか？

高阪 それが入ってたんですけど、地元のデートスポットみたいなところに「一緒に行きたいです」とか書いてあったんですよね。でも、「べつにオレはそこに行きたくないし」とかしか思ってなくて。

——なんてもったいない！（笑）

高阪 とにかくバンド一筋でしたからね。確かにあとから考えると、もったいなかったですねえ（笑）。

——ドラムは独学で？

高阪 完全に独学ですね。耳コピで練習してました。難しい曲を一曲走破できたらレベルアップみたいな感じで。兄貴とも競い合ってましたね。「オレはこれできるようになったぞ、おまえは？」って。最初にネックになったのが、ディープ・パープルの『バーン』ですよ。

——それは誰もがぶつかる最初の壁ですね（笑）。

高阪 あれが難しくてねえ（笑）。『バーン』でつまずいたら、『ハイウェイ・スター』でお茶を濁すみたいなね（笑）。

——一番好きなドラマーは？

高阪 モトリー・クルーのトミー・リーですね。振りがでかくてカッコいいんですよね。

——おおっ、また派手なところが来ましたね。

高阪 真似してたくさんやってたんですけど、なかなかできなくてね。だからよけいにリスペクトが大きくなって。スティックの先に電球をつけてやったりもしてましたよ（笑）。全然光らなかったけど。

——（笑）。その頃って、もう柔道は完全にやってなかったんですか？

高阪 そうですね。たまーに先輩ヅラして顔出したりはしてましたけど（笑）。でもそのときは完全にバンドマンというか、ロッカー気分でしたから（笑）。「おう、おまえらやってるか？」みたいな。

——ちなみにバンド名は？

高阪 それはちょっと言いたくないですね（笑）。

——いやいやいや！ そう言われるとよけいに聞きたくなるじゃないですか！（笑）

高阪 いやいや……（しばらくモジモジ）。どうしてもですか？

——どうしてもです！（笑）

高阪 ニュー……ニュー……ププッ！（自分で吹き出す）。何がニューだったんだろう？（笑）。

——ニュー？

高阪 （意を決したように）ニューファイヤーエンジェル！

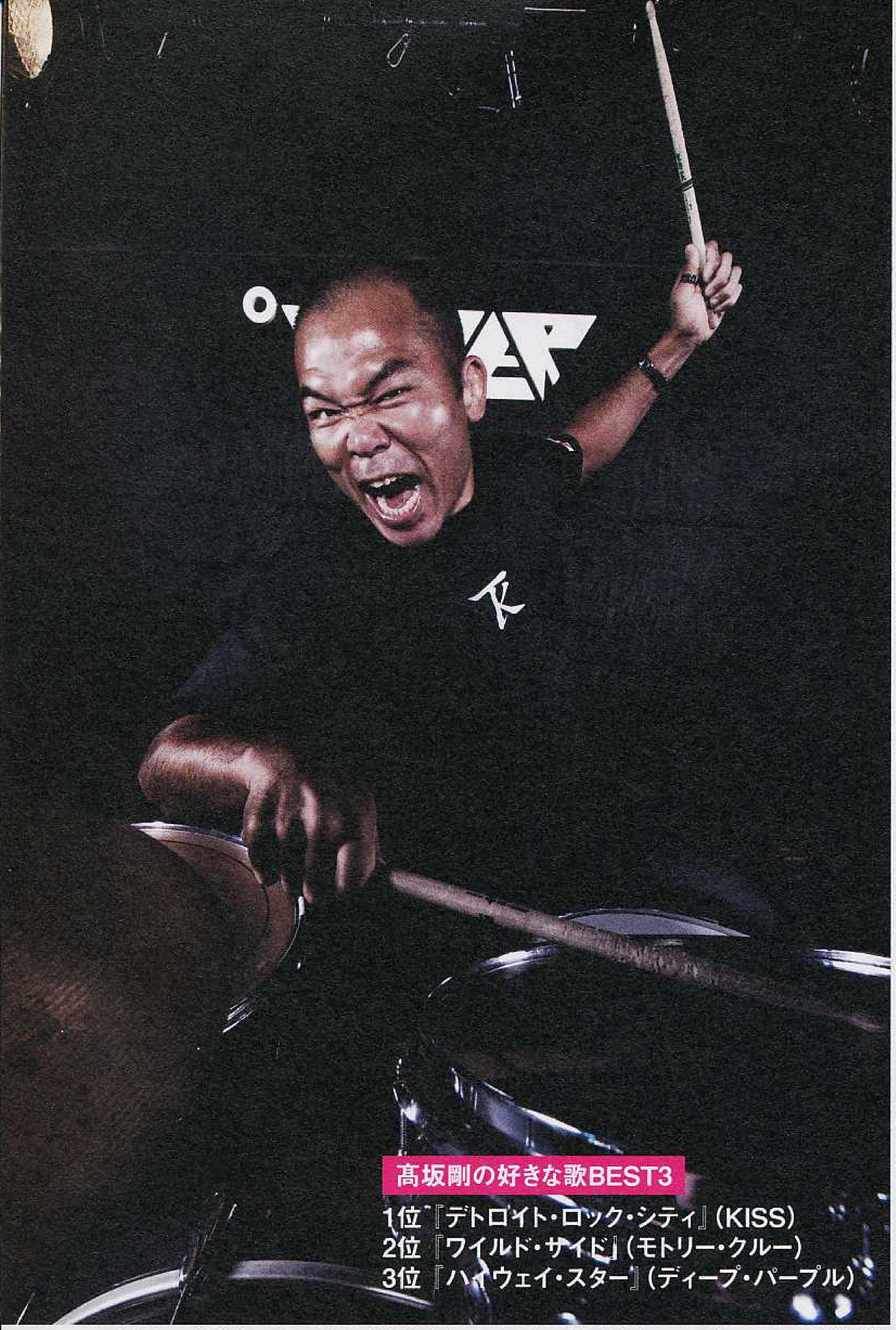
——キターーーーー！（笑）。

高阪 いやあ、恥ずかしい！ でも当時は盲目になってたんで、「カッコイイー！ 誰が考えたの？」なんて言って。「いや、何か話し合ってたら出てきたんだけど、どう？」って言われ



9.25『DREAM.16』で観る者を仰天させた衝撃の煽りV。ボン・ジョヴィの『RAISE YOUR HANDS』に合わせてTKが武将姿でドラミング！ その映像を見つめるTKの表情は、どこかしら楽しげであった。

て、「いいよいいよ！」って（笑）。
——恐ろしいほど盲目ですね（笑）。
高阪　しかも当時、缶バッジを自作するのが流行ってて……作りましたよ、ピンクのヤツを（笑）。
——ほう。ロゴがあったんですか？
高阪　いや、ロゴはなかったんですけど、習いたての筆記体で（笑）。
——出た！　中学生らしいー！（笑）。
高阪　当時、ペイントマーカーのフチがつくヤツが出たばっかりで、カッコよく見えたんですよね。その下にそれぞれの名前を入れて、カバンにつけて学校に行くわけですよ。
——その名前って、まさか「スティーブ」とか「チャーリー」とか？
高阪　いや、それはなかった（笑）。フルネームをインレタで入れてました。
——インレタ！　もういまの読者はわかんないんじゃないですか？
高阪　当時はそれがカッコよかったんですよねえ……。それで、もう僕らがバンドやってるっていうのは学校で有名だったんですよね。
——「あの人、ニューファイヤーエンジェルよ！」みたいな？
高阪　いや、名前まではアレだったんですけど、ピンクのバッジをつけてるのはバンドのメンバーかマネージャーか、っていう感じで。
——しかし、王道踏んでますねえ（笑）。
高阪　いやあ、当時は何がよかったんだろうなあ……。カッコいいと思ってたんだよなあ……。
——中学生はそんなもんです（笑）。
高阪　そうそう、ライブが終わると、「バンドは打ち上げをやるもんだ」っていうんで、餃子の王将で、水で乾杯ですよ（笑）。お金はチケットさばいたぶんでね。何千円か、中学生が7～8人が食えるぐらいにはなってましたからね。
——学校で問題にはならなかったんですか？
高阪　いや、なってたんじゃないですかねえ。でも呼び出されたりはなかったですけどね。親も理解があったし。あ、文化祭でやる、やれないの話になったときに、オフクロが生活指導の先生に食ってかかったりもありましたねぇ。「あんたら、子どもたちが一生懸命やってるのがわからんのか！」って。



こうさか・つよし■1970年3月6日、滋賀県出身。94年にリングスでデビュー。98年からUFCに参戦、"世界のTK" と呼ばれる。その後、パンクラス、新日本プロレス、PRIDEなどで活躍し、06年のマーク・ハント戦で引退。菊野克紀が所属する「A-SQUARE」ジムを主宰する。高阪剛オフィシャルブログ→http://blog.livedoor.jp/alliance_tk/

——オカン、凄い！（笑）。それだけやってたら、プロになりたいとか思わなかったんですか？
高阪　やっぱり思いましたよ。滋賀県草津市のド田舎だったけど、「このバンドで世界獲ろうぜ！」とか言ってたし（笑）。それで高校に進むとき、柔道の推薦で高校の先生が家にまで来たんですよ。
——スカウトで。
高阪　はい。中学にも来たんですけど、会って「うちで柔道をやらないか」って言われるわけですよ。でも僕はバンドで世界を獲る気でいるから、「行きません。僕は中学で柔道はやめますから」ってキッパリ言ったわけですよ。
——カッコいい！（笑）。
高阪　「どこかほかに行きたい高校があるのか？」「地元の高校に行きます」って。でもバンドっていうのは言わなかったんですよ。なんとなく言える雰囲気じゃなくて。
——そうでしょうね（笑）。
高阪　その場はそれまでだったんですけど、どうやらほかの高校と話をしてるんじゃないかと勘違いされたらしくて、どんどん条件がよくなってきちゃったんですよ。最初は入学金免除ぐらいだったんですけど、そのうち「わかりました、なんもいりません！」って、特待生ぐらいにまで格が上がっちゃって。そしたら、それまでバンドに協力的だったオフクロが「行かせます！」って（笑）。
——寝返った！（笑）
高阪　それでやむなく音楽の道を捨てることになったんですよね。
——ニューファイヤーエンジェルは解散ですか？
高阪　ところが解散しなかったんですよ。後釜を入れやがって。
——それは悲しい！（笑）
高阪　その瞬間に、コロッと気持ちが冷めましたね。「おまえらなんかに世界獲れるわけないやんけ！」と思ってね（笑）。子どもだったなあ～……。
——そんなもんだと思います（笑）。そこからはドラムは趣味程度で？
高阪　いや、もう柔道漬けだったから触れなかったんですよ。だからDREAMの煽りVでやったのは、20数年ぶりぐらいだったんです。
——えぇーっ！　とてもそうは見えなかったですよ！
高阪　たまーに遊びでやると、もう使ってる筋肉が違うから、前みたいにはできないんですよね。でもときどきやりたくなって、赤坂のジムの近くにスタジオを探したりもしたんですよね。
——おおっ、ドラム熱復活ですか？
高阪　仲間でバンドを組んだら楽しいだろうなと思って、けっこう真面目に考えたんですけど、結局いろいろ忙しくなって、止まっちゃいましたね。
——それは残念です！　これからでもぜひ見たいですよ！　やるならやっぱりハードロックですか？
高阪　そうですね。やっぱりディープ・パープルとかKISSの古い曲がやりたいですね。
——いまからでもお願いします！　そのときは本誌でもリポートしますよ。今日はありがとうございました！
【10年9月某日／都内某所・トライアングル・チョークの音楽スタジオにて収録】

―いやあ、表紙撮影の菊野さんの
ベース役はめちゃめちゃはまり役で

っぱりダメだったんですよ。
―ちなみにどんな歌を歌ったんで

―ほう、間ですか。
菊野 時間と空間、距離を合わせた

い海外の曲でも「いい曲だな、すげ
え!」っていうのはな
きることに魅力を感じるんですよね。



「ボク、ベースなんて まったく弾けません」

KIKUNO

音鳴らずの情熱ベーシスト
菊野克紀

幻のロックバンド、最後の登場はベース役の菊野克紀だ!
しかし、話を聞けば聞くほど、音楽とは無縁の人選だったことが判明……。
いったい、これまでどんなミュージックライフを送ってきたのか。心の激音を聴け!

聞き手/松下ミワ　撮影/望月研

菊野克紀の好きな歌BEST3

1位『We Are The World』(USA For Africa)
2位『I Wanna Know』(AI)
2位『篤姫オリジナルサウンドトラック』(吉俣良)

高坂さんみたいにプロとして個性を出さなきゃダメだなって

――いやあ、表紙撮影の菊野さんのベース役はめちゃめちゃはまり役でした！

菊野　あ、ありがとうございます（笑）。……それにしても音楽音痴なこのボクに、『kamipro』さんはいったい何をさせる気なんですか（おそるおそる）。

――今回の『kamipro』は音楽特集ということで、もちろんベースを持っていただいたからには、菊野さんにも音楽論をたっぷりうかがいたいなと思ってるんですよ。

菊野　お、音楽論!!　それ、マジで言ってます……？

――ええ。ではさっそくですが、ベースの極意から聞かせてください！

菊野　えっ、……もう、まっっっったくわかりません!!

――ワハハハ！　早くもギブアップ（笑）。

菊野　ボクは音楽に関してはもう小学校のときに挫折したんですから。もう声は出ないし、音程もわからないし。校歌ですらまともに歌えなかったんですよ。

――じゃあ幼少の頃から音楽とは無縁の人生というか。

菊野　まあ、ちょこっとだけ頑張ってみた時期はありましたけど。たとえば中学、高校時代ってみんな音楽聴いたり、カラオケ行ったりするじゃないですか。その流れでボクもちょっと頑張ってみたんですけど、やっぱりダメだったんですよ。

――ちなみにどんな歌を歌ったんでしょう。

菊野　BOØWYとかブルーハーツとか、そういうものを歌うわけですけど……見事に撃沈しました。

――なかなか渋い選曲ですねえ。これだったら歌えるんじゃないかってのは？

菊野　ないですよ。

――演歌なんかもダメですか？

菊野　試みたこともないです（笑）。だからカラオケに行って歌の練習をしたりだとか、みんなと一緒にCDを聴いて歌ってみるだとかしたんですよ。やっぱり憧れはありますからね。カッコいいなと思いますし、歌がうまければ歌手になりたいとか思いますよ。でもいかんせん、あまりにもセンスがなかったというか……。

――でも音楽を聴いたりはしてたんですよね？

菊野　一時期は聴いたりもしてましたけど、ここ数年はもうパッタリですね。練習の雰囲気とかもあったほうが乗れるというのはあるかもしれないですけど。

――そうですよね。格闘技もリズムが大事というか。

菊野　確かにボクシングとか西洋系の格闘技はリズムでやるんですよね。でも、ボクら武道、武術は間で動くからリズムをとるようなことはしないんですよ。

――ほう、間ですか。

菊野　時間と空間、距離を合わせたものを間って言うんですけど。その間を重視して動いてるんで、リズムじゃないんですよね。だから、本当に音楽の企画なんて、ボクにはミスマッチすぎますよ。

――そうだったんですね……。じゃあ最近の歌手なんかもまったくご存知ないと。

菊野　そうですねえ。ランキング見てもほとんど知らないですもんね。

――一番記憶にある最近の人気アーティストって誰ですか？

菊野　記憶……フフフ（笑）。

――ZARDぐらいですか？

菊野　いや、もうちょっと最近のまでわかりますよ！　なんだろう……いまあれ凄いですね。あの……あれ、エグザイル……？

――おお～、EXILE。

菊野　はい、凄いみたいですね、エグザイルは（探り探りで）……。

――……。

菊野　……だからボクからどうやって音楽を広げようというんですか！

――ワハハハハ！　でも私たちからすると菊野さんといえばやっぱり『We Are The World』なんですけど、あの選曲はかなりブッ飛んでますよね？

菊野　ああ、でももうDEEP3戦目から使ってるんですよ。

――それはどういうチョイスだったんですか？

菊野　やっぱり歌って人に伝えたり感動させる力があると思うんですよ。ボクは歌えないですけど。国境もないですし、何を言ってるかわからない海外の曲でも「いい曲だな、すげぇ！」っていうのはなんとなくわかるじゃないですか。だから、その曲のパワーを使ってみんなに自分のことを伝えられたらいいなと思ったんです。で、いまボクは「ヒーローになる」という夢を掲げてるんですけど、その"ヒーロー"を表現する歌を探したときに『We Are The World』が自分の気持ちに一番合ってるなという感じだったんですよね。

――「ヒーロー」というのは菊野さんが常々言われてる人生の目標ですよね。ちなみに、マイケル・ジャクソンってのもポイントだったんですか？

菊野　そりゃもう僕にとってはマイケルはヒーローですから！　マイケル・ジャクソンとマザー・テレサを足した人間がボクの目指すヒーローなんです。

――いったい何を目指してるんですか（笑）。

菊野　だからマイケル・ジャクソンは曲を通してたくさんの人を感動させたり、勇気づけたり、実際に自分の収益で直接的に人のために何かをやってたわけじゃないですか。その点、ボクは歌がダメなので、格闘技を通して表現して何か感じてもらったり、それによって得た力やお金、知名度を使ってまた何かにつなげていきたいなと思ってるんですよね。マザー・テレサも同じですけど、とにかく人のために何かをやることに幸せを感じてた人だと思うので、カッコいいなと思うんですよ。

――菊野さんは格闘技からその芽を生み出そうということなんですね。

菊野　そうですね。そういうふうに生きることに魅力を感じるんですよね。

――はてしない夢ですね。

菊野　ホントそうですよ。少なくとも格闘技の世界チャンピオンが第1ステップだなと思ってるくらいですから。それこそマイケル・ジャクソンなんかはるかに上なんで。そこからどうしていくかってのが大事だと思うんですよね。

――なるほど。ちなみに菊野さんの"身近なヒーロー"が『DREAM・16』でドラムを叩いてましたが、あれはいかがでした？（笑）。

菊野　いや、凄かったですねえ（しみじみと）。ボク、全然知らなかったんですよ。高阪さんってボクらのことも驚かせたいタイプだと思うんで、ずっと黙ってたんだと思うんですけど。でも爆笑でした（笑）。

――解説席ではそのことについては何も触れてなかったですね。

菊野　いやいやいや、触れられないですよ！　目の前に師匠がいるわけですから。

――そういうのはやっぱりツッコめないんですか？

菊野　ツッコめないですよ、直接は。でも、ボクも高阪さんみたいにいろんなアプローチで、プロとして個性を出さなきゃダメだなって。

――師匠はやっぱり偉大ですね（笑）。

菊野　ええ（笑）。どちらかというと、ボクは甲冑から目指せればなと思ってますけど。

――ワハハハハ！　いつかお二人の甲冑煽りVが観られることを楽しみにしてます！

【10年9月某日／都内某所・トライアングル・チョークの音楽スタジオにて収録】



「じつはメタル歴のほうが格闘技歴より長いんだ」

ヨアキム・ハンセン

LK BATTLE!

な、な、なんと!　音楽特集でアツすぎる対談が実現した!!
ご存知、元メガデスのスーパーギタリスト、マーティ・フリードマンと、マット界の“メタルバカ”ヨアキム・ハンセンの対談だ。無類のメタル好きとして知られるヨアキムは、憧れのマーティと対面して大興奮。次第に意気投合する二人の言葉を受け止めろ!

聞き手／大川義之　構成／松下ミワ　撮影／笹井孝祐

［マーティ・フリードマンの登場をしばらく待ちながら……］

ヨアキム　なんだか今日は凄く緊張しているよ（ソワソワしながら）。

――ワハハハ!　今日のヨアキム選手は非常に落ち着きがないですね。……あっ!　ヨアキム選手、マーティさんがいらっしゃしましたよ!

ヨアキム　おうっ……（急に緊張して）。

マーティ　OH!　キミがヨアキム・ハンセンだね。今日はヨロシク!

ヨアキム　あ、は、初めまして。ヨアキム・ハンセンです（モジモジしながら）。あの、こ、これ……。ボクの作ったデ、デモソングなんだ。よかったら聴いてほしくて……（と言ってヨアキムのヘヴィメタルバンド、ADAMANTIUM AVATARの3曲入りのCDを手渡す）。

マーティ　スゴイ!　これ、キミが歌ってるの?

――いつの間にそんなものを（笑）。

ヨアキム　ああ。ボーカルとリズムギターを担当してるんだ。歌詞も自分で書いたんだけど、ジャンルはスラッシュメタル寄りかな。

マーティ　へえ～、あとでちゃんと聴かせてもらいます。ありがとう!

ヨアキム　ドウイタシマシテ（照れ笑い）。

マーティ　彼のことはテレビで観たことあるから知ってるよ。ちょっとコワイ人だよね（笑）。

――ヨアキム選手のニックネームは〝北欧の処刑人〟ですからね（笑）。

ヨアキム　でも、オレのほうがマーティのことをもっと昔から知ってるよ。13歳の頃に初めてメガデス（マーティが90～00年まで在籍した世界的なヘヴィメタルバンド。全世界で1500万枚以上のアルバムセールを記録）の『破滅へのカウン



格闘技界の“メタルバカ”がメガデス話に大興奮!

「メタルって本当はヘルシーなんだぜ」

マーティ・フリードマン

METAL TAL

ルバムセールを記録)の『破滅へのカウントダウン』(92年発売。ビルボード2位を記録したメガデスの最大のヒット作)というアルバムを買ってるからね。

マーティ ワオ! サンキュー。ボクはギターだけで格闘技はできないけど、彼は両方できるからクールだよね! ヨアキムはロックファンからメタルを聴くようになったタイプなの?

ヨアキム いや、最初からずっとメタルファンだよ。9歳のときにアニキの部屋をひっくり返していたら、あるカセットテープを見つけたんだけど、それがアクセプト(ドイツを代表する正統派ヘヴィメタルバンド)の『メタルハート』だったんだよ。

——メタルの超名盤じゃないですか!

マーティ ハハハッ! それでメタル道に入門したってワケだね。じゃあ、格闘技歴よりもメタル歴のほうが長いのかな。それで、シアイ……、あれ? シアイって英語でなんて言うんだっけ?

——試合は〝ファイト〟ですよ(笑)。マーティさんはずっと日本にいるから、日本語ぺらぺらなんですよね。

マーティ 逆に日本にいると英語でしゃべることがないからホントに英語を忘れちゃうんだよ(完璧な日本語で)。で、ボクたちがライブをやるときと同じで、ファイターも試合前には気分を盛り上げないといけないでしょ? そういうときはやっぱりメタルを聴くの?

ヨアキム そうだね。試合前にはiPodに入っているアイスド・アース(アメリカ・フロリダ出身のパワーメタルバンド)をメインで聴いているんだ。アイアン・メイデン(イギリスを代表するヘヴィメタルバンド)、マノウォー(カリスマ性あふれるアメリカのマッチョ・メタルバンド)、

モーターヘッド（イギリスのロックバンド）とか。もちろんメガデスも聴くよ。とくに『アングリー・アゲイン』（93年製作、アーノルド・シュワルツェネッガー主演の『ラスト・アクション・ヒーロー』のサントラにも収録された曲）は凄く気持ちが盛り上がる曲だからよく聴いてるかな。

マーティ　ボクが在籍していた頃の曲だね。ホントにヨアキムはメタルばっかり聴くんだねえ。

ヨアキム　壮大なメタルソングを聴いていると、どこか幻想的な場所を旅しているような気分にさせてくれるから。ボクにとっては夢とファンタジーの世界だよ（恥ずかしそうに）。

――メタルは激しく頭を振るだけのモノではない、と（笑）。

ヨアキム　ああ。ただ、自分の大好きなメタルソングを入場曲に使うと、たまに困ったことも起こるんだけどね。好きな曲を入場曲にして試合に負けたら、次からその曲を聴くと、負けたときの気持ちを思い出してしまうんだ……。

マーティ　その曲を聴いちゃうと、縁起がよくないって感じるんだ？

ヨアキム　少しね。だから、そういうときは次の入場曲は別の曲にしているんだ。

マーティ　おもしろいね～。ボクはリングに立って試合をすることはないけど、ヨアキムが試合をするDREAMは世界でもハイレベルな選手が揃ってるんでしょ？

ヨアキム　みんな強い選手ばかりだよ。

マーティ　だったら自分の実力に自信があっても、負けることもあるはずだよ。

ヨアキム　確かに格闘技のリングは熾烈な場所で、勝った者はすべてを得るし、敗れた者はすべてを失なう世界だよね。負けることは悔しいことだけど、もっと最悪なのは試合で自分の力が発揮できなかったときなんだ。力を出しきって負ける試合は、じつはそんなに悪い気分じゃないんだよ。

マーティ　ベストをつくすことが大事だってこと？

ヨアキム　そう。自分の力を出しきって試合に負けたときは「自分はもっと強くなれる」と感じることが多いんだ。

マーティ　それは試合の中でいろいろなことを学ぶから？

ヨアキム　そうだね。次はもっといい肉体、もっといいコンディションを作ってチャレンジしてやろうと思えるからね。

マーティ　じゃあ、その健康な肉体やコンディションを作るためには何をするの？

ヨアキム　それはもちろんヘヴィメタルを聴くのさ！　ガハハハハッ！

マーティ　ホントォ～？　メタルってヘルシーなんだ（笑）。

ヨアキム　イエスッ（自信満々に）！

マーティ　確かに、ヘヴィな音楽って薬みたいなもんなんだよね。いい曲を聴いたら気分がよくなるし、頭がブッ飛ぶような激しい音楽を聴いたら、イヤなことなんてすぐ忘れるんだよ。



MARTIN FRIEDMAN■1962年12月8日、アメリカ出身。伝説のメタルバンド・メガデスの元ギタリスト。現在は日本を拠点にソロ活動を行なっている。日本人顔負けの流暢な日本語をしゃべることで有名。口癖は「いいじゃーん！」。

健康な肉体やコンディションを作るためには何をするの？

――“メタルは百薬の長”ということですね（笑）。ところでマーティさんは、最近J-POPでの仕事も増えてますけど、いまでもヘヴィな音楽は好きなんですか？

マーティ　ヘヴィな音楽はいまでも大好きだけど、最近は独特な雰囲気を持った音楽に惹かれてるんだ。メタルでもなんでも、ボクはちゃんと歌わないボーカリストが好きじゃないんだ。もうそういうのはジョークというか、バカみたい！　メタルのバンドもライブではフェイクしたり、うなったり吠えたりしちゃったりするし、デスメタルなんて何を歌っているかわからないよ！

――マーティさんは完璧主義者ですからねえ。

マーティ　完璧主義というより、これは完全にボクの音楽に対する好みの問題なんだ。ボクだってオーディエンスの前でヘヴィな音楽を演奏するけど、ボーカルにはちゃんと歌ってほしいと思ってるんだよ。今度、新しく出したボクのアルバムにはボーカルは入ってないけど、音楽はヘヴィメタルそのものだよ。はい、これヨアキムにプレゼント（ニューアルバム『BAND D.N.A』を手渡す）。

ヨアキム　おお、ボクにくれるの!?（うれしそうに）。

マーティ　もちろん。格闘技もメタルもジャンルは全然違うけど、共通点はあると思う。どちらも表現するものはパワフルなものだし、メタルは音楽でみんなに力を与えるけど、格闘技はファイトでパワフルな姿を見せる。ボクはヨアキムのように身体が大きくないし頑丈でもないけど、ボクの音楽は彼と同じぐらいハードでパワフルなはずだよ。

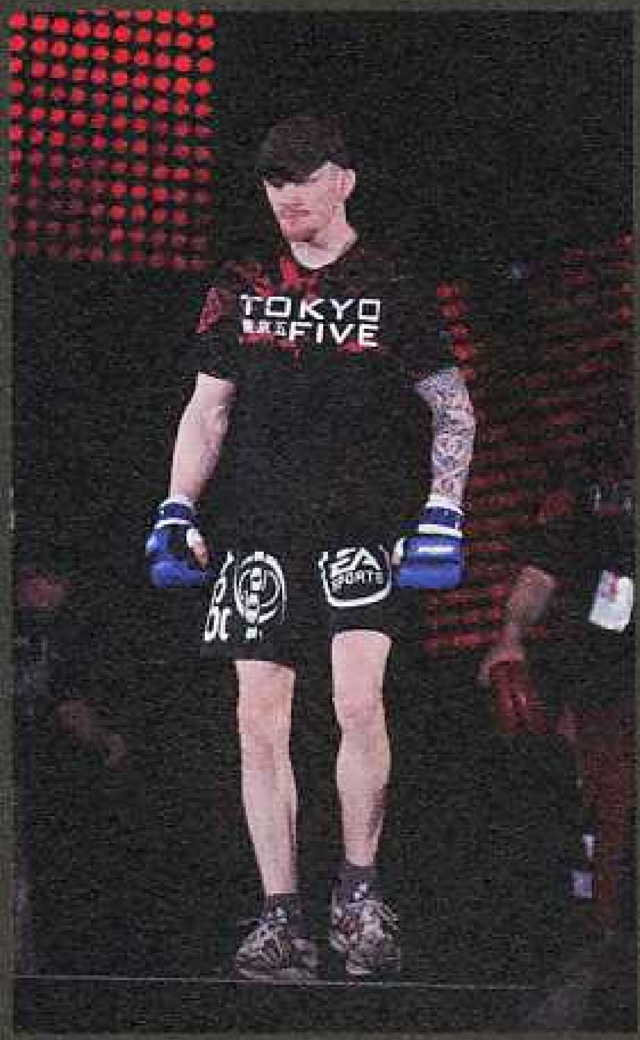
――ちなみに、ヨアキムさんはメガデスのライブに行ったことはありますか？

ヨアキム　それが、残念ながらないんだ。メタルキッズの頃は、地元のオスロでよくライブに行って、一番前で騒いでたけど、最近はライブ自体に行ってないんだよね。最後に行ったのは08年のオスロでのアイアン・メイデンのライブかな。

マーティ　メガデスでワールドツアーに出たとき、スカンジナビアにも何度も行ったよ。ただ、メガデスはフィンランドでは凄く人気があったんだけど、ノルウェーではそうでもなかったから、3、4回しか行けてないな。ノルウェーの人は平和的な人が多くて、クレイジーに騒ぐ感じじゃなかったような気がするよ。

ヨアキム　まあ、ノルウェーの全人口は480万人ぐらいだし、あんまり音楽シーンは活発じゃないんだ。いままでのミュージシャンで有名なのはa-haぐらいかな。

マーティ　a-ha！　懐かしいなあ。でも、ノルウェーは日本から遠いけど、ヨア



毎回入場テーマ曲を変えるヨアキム・ハンセン。今回の対談でマーティのニューアルバムをプレゼントされたヨアキムが、次の試合で本当に使ってたら、これはシビれるぜ！

METAL TALK BATTLE

キムは日本にはよく来るの？

ヨアキム　02年に修斗で初めて試合をしたときから数えると、もう36回目だね。

マーティ　そんなに来てるんだ！

ヨアキム　日本が大好きだからね。日本人はとても親切だし、たとえばお店で安いガムを買ったとしても、ほかの高い買い物を買ったときと同じような態度で接してくれる。ノルウェーとは全然違うよ。

マーティ　ああ、それはアメリカも同じ。日本ではお客さんが一番大事にされるけど、欧米ではトンデモナイ！　みんなすぐイヤな顔をする。アメリカもヨーロッパも似てるねえ。でも最悪なのはフランス！

――フランスは最悪ですか（笑）。

ヨアキム　オレも日本からノルウェーに帰国するとき、フランスで行き先を変えるためにチケットの変更をしようと思ったけど、なかなか変更してくれないし、全然話が進まなくて凄く時間がかかったよ。人はいい人ばっかりなんだけどね。

マーティ　人はいいけど、接客システムはサイアク！　とくにフランス語を話せない客に対しては態度よくないね。

――英語への対抗心があるんですかね？

ヨアキム　フランスの年配者は、自分たちの言語こそが世界的な言語だって思ってるんじゃないかな。

――ちなみに、マーティさんはどうやって日本語を勉強したんですか？

マーティ　日本に初めて来たとき、スタッフがみんなボクの名前を言ってるのに、日本語がわからないから、全然聞き取れなくてね。自分のことを話題にしてるのに、内容がわからないのがイヤで一生懸命勉強したんだ。メガデスの途中の頃からは、日本語がヘタなのに「これから取材はすべて日本語でやります」って宣言したの。そうやって自分にプレッシャーをかけたら上達も早くなったよ。

ヨアキム　そういえば、マーティが日本のテレビ番組に出ているのを見たことがあるよ。日本語を教える内容か音楽番組かはわからないけど、ギターを弾いてるのを『ＹｏｕＴｕｂｅ』で観たんだけど……。

マーティ　オーマイガッ！　それはたぶん『ヘビメタさん』か『ロック・フジヤマ』だね（笑）。

ヨアキム　これは日本に来る前から不思議だったけど、メタルとかロックバンドがライブＣＤを出すときは、「ライブ・フロム・ジャパン」っていうタイトルが多いんだけど、ミュージシャンにとって日本は特別の場所なのかな？

マーティ　いい指摘だね！　それはきっとチープ・トリック（アメリカ・シカゴ出身のハードロックバンド）のブドーカンのライブアルバム（78年に発売された『チープ・トリック at武道館』。日本武道館をロックの殿堂として世界的に広めた）がきっかけだよ。ブドーカンって、アメリカではライブをする〝聖地〟みたいな場所として有名なんだけど、本来は武道を行なう〝聖地〟なんだよね。

ヨアキム　それは東京にあるのかい？

――柔道、空手、剣道やプロレス、ＭＭＡなど、武道や格闘技のイベントが多数行なわれる場所ですね。

ヨアキム　知らなかった……。一度行きたいなあ。



JOACHIM HANSEN■1979年5月26日、ノルウェー出身。マット界では言わずとしれた"北欧の処刑人"。無類のメタル好きとして知られ、自身でもギター、ボーカルを担当し、音楽活動を行なっている。メタル歴は格闘技歴よりも長い。

それはもちろんヘヴィメタルを聴くのさ。ガハハハハハ！

マーティ　それに、日本の観客の前で演奏するのはミュージシャンとしては一番うれしいことなんだ。だって、ちゃんと音楽を聴いてくれるじゃん！　向こう（欧米）だったら、盛り上がりすぎちゃって全然音楽を聴いてないんだから！

――それは格闘技でも同じですね。アメリカでも盛り上がりは凄いんですけど、試合はちゃんと観てないというか、攻防があるのにグラウンドが続くとブーイングしたりします。

マーティ　お金を払って来てるお客さんだから、好きなだけやってくださいって感じなんだけど、ミュージシャンとして、ちゃんと音楽を聴いてもらえるのは一番うれしいからね。でも日本のファンの前だと、逆に凄く正しい演奏をしなきゃって気分になる（笑）。

ヨアキム　欧米の格闘技イベントでは、ほとんどの人がアルコールを飲んでるんだよ。だからメインイベントのときにはもうでき上がっちゃってて、叫んだり騒いだりしてただ殴り合いが観たいだけになってる。でも日本の場合は、お酒も飲んでないし、テクニックをじっくり観て学ぼうとする姿勢が見えるんだ。

マーティ　凄い共通点！　日本の人たちはミュージシャンの手の動きとか、指の位置とか、まるで〝分析〟しようとしてるみたい。プロでもないファンが「ここはどうなってるんだろう」って深い関心を持って分析するんだから、それってワンランク上の楽しみ方だよね。

ヨアキム　『ＹｏｕＴｕｂｅ』で日本人が海外のバンドの曲をカバーしてるのを観たことがあるけど、彼らは凄くテクニカルで隅から隅までコピーしてたね。

――同じ階級で同じ体格でも、欧米人に比べて日本人は肉体的に劣るので、技術を磨いて活路を見出そうとする人が多いのかもしれませんね。

マーティ　そうか。身体が小さいのは日本人にとって凄い弱点だね。そういう肉体的に劣ってる人が格闘技で活躍するためには、何が必要だと思う？

ヨアキム　やはりテクニックだろうね。身体の小さなファイターでも、技術を身につけることでほかの選手よりも、もっといい選手になれると思う。

マーティ　日本は武道の歴史が長いから、肉体的な劣勢を克服しようとする精神性があるのかな？

ヨアキム　それはあると思うね。日本人には古くからずっと守り続けてきた武道精神がいまでも生きていると思う。そういう部分で、オレはノルウェーと日本には共通点があると感じている。日本にはサムライがいたけど、ノルウェーも昔はみんなバイキングだった。バイキングは生粋のウォリアーだし、サムライスピリットを持った日本人には近いものを感じるね。

マーティ　凄くおもしろい話！　日本とノルウェーには長い歴史があるけど、ア

ボクは日本の音楽がツボなんだ。AKB48もダイスキだよ！

メリカにはないから……。ところで、ヨアキムは日本食では何が好き？

ヨアキム　スシ、しゃぶしゃぶ、ヤキニク、どれも大好きなんだよね（笑）。

マーティ　ボクも昔はアメリカでは絶対に食べられなかったから、ラーメンをよく食べていたんだよ。

ヨアキム　ラーメン屋にはボクも行くよ。だって注文するときにしゃべらなくていいし、チケットを買うだけでいいからね。

マーティ　ああ、食券機でしょ！（興奮気味に）。

ヨアキム　あれはベリー・イージーだよ（笑）。写真で見たらどんな料理かわかるからね。

マーティ　アタマイイ！　昔、日本に来たとき、食堂で一生懸命勉強した日本語で注文したら、頼んだとおりのメニューが出てきた。もう、そのときはチョーうれしかった！　タッセイカ～ンってヤツ（満面の笑みで）！

ヨアキム　でもヌードルを食べるときに、日本人はズルズル音を立てて食べるだろう？　あれには本当に文化の違いを感じるね。オレが子どもの頃、家で音を立てて食事をしたら、親父にこっぴどく怒られたもんだよ。ノルウェーでのディナータイムは、静かにしないとダメなんだ。

日本は特別な場所。本当の意味でプロになったのは日本のリングだよ

マーティ　ボクは頑張って音を出そうとしても出ない（笑）。わざとらしく音を出したら出ると思うけど、それもへんだよね。

——確かに（笑）。お二人は世界で活躍できる実力がありながら、あえて日本を中心に活動していますが、その理由は？



今回の対談ですっかり意気投合したヨアキムとフリードマン。対談の最後にゴキゲンで写真撮影に応じてくれた二人は、お互いにプレゼントしあったCDを持って、キメポーズだ。マーティ・フリードマンの紅白出場も期待したいが、ヨアキムの入場曲生歌＆生演奏のため『Dynamite!!』に登場する姿もぜひ期待したい。

マーティ　自分の場合、日本の音楽がボクのツボなんだよね。自分の好みの音楽が日本にはいっぱいある！　たとえば、オリコンチャートのベスト10の中で9曲ぐらいは大好きな曲だからね。でもアメリカのベスト10だったら、1曲ぐらいしか好きな曲はないと思う。全部ラップかセリーヌ・ディオンみたいのか、『アメリカン・アイドル』で優勝した叫んでるおばちゃんとか、そういうのばっかりじゃーん。ホントにありえない。日本だったら、J・POPとか、ビジュアル系とか、ボクの好きな曲がいっぱいある。

——AKB48とかも好きなんですか？

マーティ　大好き！　ボクはただ自分の好きな音楽が流行ってる国に住みたいだけなの。いまのアメリカを代表する音楽なんて、フィフティーセントとかでしょ？　ボクはそんな人じゃないんだよ！　ボクはもっと日本の音楽の世界に入っていって、自分の音楽に日本の音楽をもっと取り込みたいんだ。

——ヨアキム選手はどうでしょう？

ヨアキム　日本は自分にとってもう特別な場所だからね。プロの格闘家としてのオレのキャリアはすべてここで始まったから。最初の何試合かはフィンランドで試合をしたけど、本当の意味でプロになったのは、日本の修斗のリングだった。

——ヨアキム選手は「UFCには出ない」とも明言していますよね。

ヨアキム　UFCにはいい選手がたくさんいるし、試合も観ていたけど、オレは彼らの組織のシステムが好きじゃない。PRIDEが休止したとき、彼らはオレの契約を横から買い取った。しかも以前の契約内容を書き換えてきたから、腹が立ったんだ。選手を思いのままにクビにしたりするダナ・ホワイトみたいなスタイルは好きじゃないよ。オレは自分の人生を自分で決めたい。だから彼らとは別の道を行くことにしたんだよ。

マーティ　ヨアキムは本当に男らしいよな。ボクは今日ヨアキムに会えてよかったよ。今度は試合をライブで観たいな。

ヨアキム　オレも自分のアイドルに出会えて光栄だったよ。たぶん次の試合は大晦日だろうから、決まったらぜひ招待したいな。

マーティ　そうなんだ！　日本では年末にみんな格闘技を観るもんね。でもボク……、その日はひょっとしたら紅白歌合戦に出るかもしれない（笑）。

——ライバル同士じゃないですか（笑）。

マーティ　代わりと言っちゃなんだけど、もしボクの新しいアルバムの曲を聴いて気に入ったら、いつでも遠慮せずに使っていいから。

ヨアキム　本当に？　ありがとう！　じゃあ、じっくり聴かせてもらうよ。

マーティ　ヨアキムのデモテープもね（笑）。

年10月6日／都内・某ホテルにて収録】

METAL TALK BATTLE!

最狂団体に挑んだ美人ヒールの



1993年の女子プロレス

最狂団体に挑んだ美人ヒールの
ピュアハート・ピュアレスリング

OZアカデミー女子プロレス
尾崎魔弓

団体対抗戦時代、全女の牙城を崩すべく果敢に挑んだJWP女子プロレス。中でも尾崎魔弓は、小さい身体ながらもその卓越した技術と妖艶なキャラクターで、〝大国〟全女相手に存在感を見せつけた。いまなお第一線で活躍する「愛され憎まれるヒール」が、対抗戦時代を中心に語ってくれた。

聞き手／柳澤健　構成／鈴木佑　試合写真／平工幸雄

「マスコミやファンや全女の選手に『JWPってやるじゃん』って思わせたのは『ざまあみろ』って感じでしたね」

——子どもの頃から運動神経抜群だったそうですね。

尾崎　子どもの頃は、ですね。駆けっこが速くて、あと跳び箱とか。スポーツは全部できました。もともとお父さんがプロレス好きで、幼稚園のときから、競馬の馬券を買うついでに後楽園ホールに連れていかれて、ジャイアント馬場さんの全日本プロレスを一緒に観ていたんです。北側の上のほうに座っていたんですけど、馬場さんとブッチャーかシークだったかが闘っていて、場外乱闘のときに北側の観客席に上がってきたのが凄いインパクトでした。お父さんに向かって「逃げようよ、逃げようよ」って（笑）、必死に言ったことを覚えています。それが生でプロレスを観た最初でした。

——プロレスは怖いものだ、と？

尾崎　怖かった。あと売店にいた馬場さんの机の下を覗いたら、足が凄く大きく見えたことを覚えています。

——女子プロレスを最初に観たのはビューティ・ペアですか？

尾崎　そうですね。小学校1年くらいのときです。

——初めて観た女子プロレスの印象はいかがでした？

尾崎　ジャッキー佐藤がカッコよかった。マキ上田をカッコイイと思ったことはないです。

——クラッシュギャルズのブームのときは13歳。多感な年頃ですね。クラッシュを好きになったのはいつ頃ですか？

尾崎　クラッシュを結成して人気が出た頃です。極悪同盟のダンプ松本やブル中野にさんざんやられても、頑張ってめげない長与さんの姿に凄く感動したんです。

——クラッシュのブームは85年がピーク。尾崎さんは86年にはもうジャパン女子に入団しているじゃないですか。早いですね。

尾崎　クラッシュを観てすぐに、全女のオーディションを2回受けたんです。お金払って練習生になればオーディションに受かりやすいという噂があったから、親に内緒でバイトして、月謝代を稼いだんです。でも当時は人気もピークの頃で、人数も多くて倍率も高いし、私は背もちっちゃいから全然引っかかりもしないんですよね。

——練習生の仲間に井上貴子さんとか前田薫さんとかがいたんですか？

尾崎　KAORUはあんまり覚えてないんですけど、アジャ・コングがいて、あと、天田麗文がいました。



尾崎は『1993年の女子プロレス』シリーズの中では初の全女以外の選手。地方巡業帰りの尾崎はジャージ姿で帽子を目深に被りながら、柳澤氏の質問に対して一言一言、丁寧に受け答えしていたのが印象的だった。

小鉄さんはめっちゃスパルタだった。一期生に根性があるのはそのせい

——全女を2回落ちて、そのあとジャパンのオーディションがあったんですか？

尾崎　2回目のオーディションに落ちたときに、ジャパン女子プロレスを旗揚げするという『週プロ』の記事を見て履歴書を送ったんです。そうしたら「オーディションに来てください」って。全女じゃなくてもいい、プロレスができればどこでもいいやと思って。

——「クラッシュの近くにいたい」とか、そういう憧れではなくて。

尾崎　そのときはとにかくプロレスラーになりたかったから、プロレスができればどこでもいいと思っていた。ただ、「全女じゃなきゃダメ」という練習生もいて、ジャパン女子は受けないと言っていました。

——貴子さんはそのクチですよね。当時のジャパン女子と全女では、ずいぶん差があったと思います。テレビ中継がついている全女はメジャー。ジャパン女子はマイナー。ジャパン女子に実際に入ってみて、「全女はいいなあ」とかうらやましがったりはしませんでしたか？

尾崎　その頃はそんな余裕はなく、練習と試合に必死でした。初めて全女を意識したのは、ずっとあと、団体対抗戦が始まってからです。「全女に負けたくない」ってそこで初めて思った。もうこれは個人的な闘いじゃなくて、全女とJWPの闘いだ、と。当時はマスコミもファンの人も「JWPが全女に敵うわけない」ってみんなが思っていた。もちろん私たちは、そんな空気を感じとっていました。だからこそ、私と関西がポシャってしまって「やっぱりな」って思われるのがしゃくだった。「全女の選手にJWPを見せつけたい」という思いよりも、ファンやマスコミに「JWPはそんなもんじゃないよ」ということを見せつけたかったんです。

——なるほど。ジャパン女子のコーチは先日亡くなった山本小鉄さんでした。どんな教え方をする人だったんですか？

尾崎　めっちゃスパルタですよ。量に関しては女子だから多少は手加減したかもしれませんけど、精神面とか厳しさはまったく同じ。もうひどいですよ。地獄です。体力的にももちろんですけど、精神的にも鍛えられた。一期生の根性が据わっているのはそのせいもあると思う。小鉄さんからは普段の話し方から私生活っていうか、人間として教えてくれたんです。

——礼儀作法から何から。

尾崎　はい。

——小鉄さんのあとにグラン浜田さんが来たんですか？

尾崎　浜田さんも一緒でした。小鉄さんが来られない日は浜田さんが見てくれて。

——二人の教え方に違いはありましたか？

尾崎　厳しさが違う（笑）。全然違う。

——浜田さんのほうが優しい？

尾崎　小鉄さんがいなかったら厳しいと思います。小鉄さんが厳しいから浜田さんが優しく感じる（笑）。

——役割分担が自然とできていたんですね。

ヒールになったのはグラン浜田に言われて無理矢理だったんです

尾崎　男二人に鍛えられたから、ホントに厳しかった。平気で殴られたし。張り手は飛んでくるわ、竹刀で殴られるわ。凄いですよ。

——全女の若手は試合で押さえ込みルールのシュートマッチをやりますけど、ジャパンには一切なかったでしょう？

尾崎　練習はしますよ。小鉄さんに凄く練習させられたし。

——関節あり、フォールありのサブミッションレスリングでスパーリングをする、と。

尾崎　「道場破りが来たらどうするんだ、負けるのか？」って言われて。

——女子の道場に道場破りは来ないでしょう（笑）。発想が新日本だなあ。さすがは小鉄さんですね。

尾崎　小鉄さんのときは、スパーリングより関節の練習のほうが多かった。すぐ忘れちゃって、いつも怒られちゃうんだけど（笑）。

——設立当初、ジャパン女子のエースはジャッキー佐藤さんでした。間近で見たジャッキーさんはどんなレスラーでしたか？

尾崎　凄く神経が細やかで、繊細でデリケート。

——あまりプロレスラー向きの性格じゃない？

尾崎　ちょっとのことで傷ついて、それを凄く深く考えちゃう。「なんとかなるさ」っていうタイプじゃない。

——そんななかに神取忍さんと風間ルミさんがいたんですね。

尾崎　神取さんと風間さんは「四天王」って言われてました。

——風間さんはどんな感じだったんですか？　自分たちよりちょっと上っていう感じなんですか？

尾崎　同期ですけど「四天王」だから、私たちとは最初から扱いが違う。神取さんは柔道もやっていて受け身もできるから指導に回ってました。でも風間さんは受け身がわからないから、受け身も私たちと一緒にイチから練習していたんです。いま考えると、風間さんは神取さんと歳もほとんど一緒なのに、私たちと一緒に



尾崎がヒール哲学を書き下ろした『悪役（ザ・ヒール）』（平成2年／実業之日本社）。一部では大の尾崎ファンである堺谷太一がゴーストを務めたという噂も。

練習しなきゃいけないのは大変だっただろうなって思います。

——神取さんが教えてくれるときは優しいですか？　厳しいですか？

尾崎　優しいと思いますか？（笑）。

——聞かないとわからないので（笑）。

尾崎　そんなにスパルタとかではなかったですよ。

——そうでしょうね。あの人はけっこう理詰めな人だろうと思うんです。

尾崎　そう。凄く丁寧で。私たちが受け身とかできなかったら、練習時間のあとに教えてくれたり。おさらいみたいな感じで一緒に残ってやってくれたり。そういう面では優しい。

——尾崎さんは自分の意志でヒールになったんですか？

尾崎　グラン浜田に無理矢理です。私はクラッシュに憧れてたから、ベビーフェイスになりたかった（笑）。

——なるほど（笑）。ヒールになった経緯をもう少し聞かせてください。

尾崎　第二のクラッシュになろうと思ってジャパンに入ったのに、デビューして1年くらいしたら、巡業中に控室に呼ばれて「明日からヒールになれ」って。「嫌だ、私はヒールになりたくない」って言ったら「じゃあ明日から試合に出なくていいから帰れ」って。返事しなかったら、次の日にヒールの人とタッグのカード組まれて、それでしぶしぶ。何していいかわからないので、とりあえず噛みついておきました（笑）。そのうちにジュニアのベルトを獲り、風間ルミさんとの抗争になって、アイドル的な風間さんをいじめているうちにだんだん「ヒールっておもしろいな」と思い始めるようになった。いまではヒールのほうが全然おもしろいです。

——尾崎さんはヒールとしてはあまりにも小さいじゃないですか。やりにくいと感じたことはないですか？

尾崎　だって最初から小さいから。たとえば小鉄さんも小さいじゃないですか。小鉄さんによく言われたのは「おまえは小さいんだから、大きいやつに一発やられたら3倍4倍にして返せ、そうしないとダメだ」って。その頃は小鉄さんの付き人をやっていて、練習に来たら私が全部やっていた（面倒を見ていた）。だからそういうことを教えてもらったんです。

——かわいがられてたんですね。

尾崎　かわいいからこそ、よけい言われたところもあるんです。

——ヒールになってから？

尾崎　デビュー前からです。あと、ジャパンの選手全員が言われていたのは「人には思いやりが大切だから、思いやりを持て」と。普通の生活でも、試合の相手でも、と

尾崎魔弓



正統派ファイトはもちろん、ハードコアマッチも得意とする尾崎。06年にはアメリカのIWAミッドサウスが開催した、女子オンリーのデスマッチトーナメントに参戦したことも。

ジャッキーvs神取戦は本当に私たちは何も聞かされてなかった

にかく思いやりがないと人間ダメだ、と。

——全女とは全然違いますね。

尾崎　みんなが揉めてたり、うまくいってないと感じたときは、小鉄さんは選手全員をリング上に集めて「輪になって隣の人と手をつなげ」って言うんです。「隣の人の手を握れ。その感触を覚えておけ。これがおまえたちの仲間なんだから、みんな思いやりを持たないとダメだぞ」って。だから、私たちはしょっちゅう輪になって手を握らされた。

——素晴らしい。殴ったり蹴ったりする世界だからこそ、思いやりを大事にするんですね。全女の選手に聞くと「人を蹴落としてでも上に上がっていかないとダメだ」と最初に言われてるって言います。そのような社風の違いは、試合をしていても感じましたか？

尾崎　全女の場合、上辺（うわべ）の関係が多い気がする（笑）。

——みんな仲悪そうですもんね。

尾崎　「あの二人は本当は仲悪いって知ってるから、凄いな」と思って。そういう部分を感じることはありました。

——ジャパン女子ではリング上も下も同じだったんですか？

尾崎　やっぱり小鉄さんに「思いやり、思いやり」って言われて育ったから、それは確かにあったかも。気が合わない人たちもいたけど、それは仕方ない。でも、全女みたいに上辺だけの関係とか、そういう気持ち悪いのはなかった。

——なるほど。ジャパン女子では、ある時期からジャッキーさんと神取さんの関係がおかしくなって、最終的には有名なシュートマッチになってしまいましたよね。あの試合について聞かせてください。

尾崎　私たちは本当に何も聞かされてなかったんです。

——87年7月18日の大和大会ですね。

尾崎　大和ですよね？　横浜？　何も知らずにセコンドについてたらそういう試合になっちゃったんです。私たちの同期全員に聞いてもみんな同じ答えをすると思う。「どうしちゃったの？」みたいな感じ。　こっちが聞きたいです（笑）。真相を。

——試合が始まるまで、まったくわからず？

尾崎　うん、普通にセコンドについていたら、あんな試合になってしまった。ただ、二人がうまくいってないのはうちらもわかってた。ちょっと危ない雰囲気だったことは確かです。それでも、まさかあんな試合になるとは夢にも思ってなかった。みんなウブだったから、私たちもセコンドにつきながら泣いてた。「どうなっちゃうんだろう」と思って。

——神取さんはよく、自分がケガしていた右目をジャッキー佐藤さんがしきりに攻撃してきたことがきっかけだと言いますよね。

尾崎　どっちもどっちだったという気がする。「向こうがやってきたらやってやる」ってお互いに思っていたと思う。普通に終わらせるんだったらそれでもいいけど、何かのキッカケで、向こうがやってきたらやってやる、みたいのはあったと思う。

——二人はどうしてそんな険悪な関係になっちゃったんですか？

尾崎　なんなんですかね。何がキッカケなのか全然わからない。二人が上すぎちゃって。私たちにはそういう話はしないじゃないですか、やっぱり。すいませんね、期待してたのに（笑）。



ガイア時代はアジャ・コングや北斗晶、対抗戦でしのぎを削った猛者たちとSSU（スーパー・スターズ・ユニット）を結成していた尾崎。若手たちの前にあまりにも高い壁として君臨した。

——いや、全然大丈夫です（笑）。その後ジャパン女子は経営が立ちゆかなくなって、JWPとLLPWに分かれることになります。このあいだ北九州に行って、デビル雅美さんにお話を聞いたんですけど、旗揚げはJWPが先だけど、もともとは風間ルミさんが仲良しを引き連れて作ったのがLLPWで、置いていかれて余ったのがJWPだとおっしゃっていました。

僕にはまったく理解できない話でした。だってJWPのレスラーのほうがはるかに若くてかわいくて魅力的じゃないですか？　いいのを取ってダメなのを残すならともかく、まったく逆じゃないですか。どうしてそんなことになっちゃうんですか？

尾崎　でも、結果そうなるんじゃないですか。

——仲良しとか。

尾崎　簡単に言えば、気が合うとか。あと、言うことを聞くとか。

——風間さんにとっては、尾崎さんたちは言うことを聞かない人たちだったんですね？（笑）。

尾崎　そんなことないですけど、結果として、個性が強い人間が残りましたね。

——デビルさんは「LLよりも先に旗揚げを成功させよう！」と全員が燃えて、どこかで合宿したっておっしゃってました。

尾崎　千葉ですね。

——「くそぉ、LLのやつらめ」って感じなんですか？

尾崎　いや、そんなのはすぐに忘れて楽しくやってました（笑）。リングも持っていったから、けっこう何週間もいましたからね。朝練習して、みんなでごはん食べて。だから寮に戻った感じです。みんなで自炊して、たまに飲んで、飲んで、飲んで（笑）。

——ジャパンでは、三禁は最初からなかったんですか？

尾崎　いや、一応あったのかな。あった気はしますね。

——でも関係ない？

尾崎　ない（笑）。

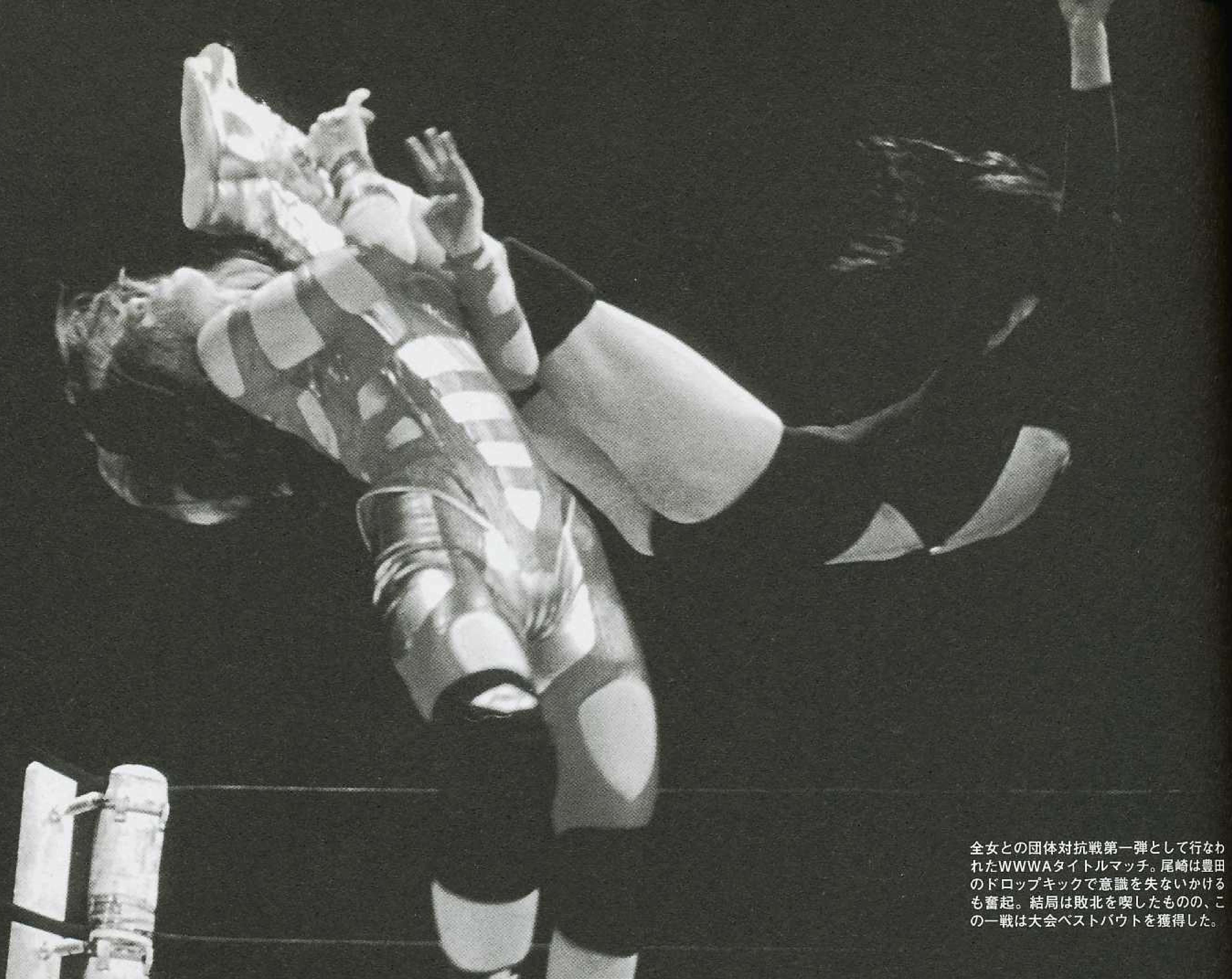
——デビルさんがごはん作っていたそうですね。

尾崎　料理が上手だから、やっぱデビルさんが先頭に立つんですよね。

ど「早すぎる」とは思いませんでした？

尾崎　タイミングはいいんじゃないかな

して行なわ
尾崎は豊田
ないかける
ものの、こ
獲得した。



全女との団体対抗戦第一弾として行なわれたWWWAタイトルマッチ。尾崎は豊田のドロップキックで意識を失ないかけるも奮起。結局は敗北を喫したものの、この一戦は大会ベストバウトを獲得した。

尾崎魔弓

川崎のときは関西と「やるんだったら私たちしかいないよね」って話してた

尾崎　料理が上手だから、やっぱデビルさんが先頭に立つんですよね。

――みんなそんなに得意そうじゃないし。

尾崎　そんなことないですけど（笑）。デビルさんも作るの好きだから。私たちは掃除したり野菜切ったり洗ったり。任せときゃいいや、みたいな（笑）。

――全女時代のデビルさんはもの凄く怖かったって聞きますけど、ジャパン女子以後は優しくて、あんまり怖いイメージはないですよね？

尾崎　そうですね。歳とって丸くなった、ということもあるんじゃないですか。

――あんまり怖いデビルさんを見たことはない？

尾崎　「うわっ、怖い」とかそういうのはないです。最初は「よその子だから」っていうのもあったんですかね、デビルさんも。自分のとこの子じゃないからそんなに厳しくする必要もないし。最初は愛情なかっただろうし。

――なるほど。愛情があるからこそ厳しくするっていう部分もあるんですね。

尾崎　そうですね。気は使ってたんじゃないですか。「自分の子じゃないし」みたいな。

――そういうものですか。じゃあJWPの旗揚げがうまくいったときはみんなで喜び合ったでしょう。

尾崎　そうですね。旗揚げはひさびさに感動しましたね、凄い達成感があって。

――JWPの旗揚げから1年もしないうちに団体対抗戦がやってくるわけですけど「早すぎる」とは思いませんでした？

尾崎　タイミングはいいんじゃないかなと思いました。JWPの旗揚げが終わって、上り調子がちょっと終わったくらいの頃だったので。いまだったらいいじゃんみたいな。

――JWPが全女のWWWAタッグのベルトに挑む以上、関西と尾崎の二人を出すしかないと決めたのは社長の山本雅俊さんですか？

尾崎　ヤマモから私と関西が呼び出されて、「全女とやるんだけど、二人に出てほしい」と。

――なんて答えたんですか？

尾崎　反対はしてないですよ。私と関西でしゃべって「やるんだったら私たち二人しかいないよね」みたいな話をしたのは覚えてる。

――このとき、デビルさんは尾崎さんたちに「全女との試合は普段の試合とは全然違うから、いつもと同じだと思ったら大ケガするよ」と口を酸っぱくしておっしゃったそうですけど、覚えてますか？

尾崎　あんまり覚えてない（笑）。アドバイスをしてくれたけど、それだったかな。

――92年11月26日の川崎市体育館で行なわれたプレ・オールスター戦は、「女子プロレス史上最高の興行」と賞賛されています。メインイベントに出場した尾崎さんは、ダイナマイト関西と組んで山田敏代&豊田真奈美の持つWWWAタッグ王座に挑戦しました。試合中の尾崎コールは本当に凄かったです。

尾崎　ビデオを観て初めてわかったんです。試合中は必死だから全然わからない。とにかく三本勝負が初めてで、控室にまでお客さんの「ワー」っていう声が聞こえてきて、とにかく緊張しまくりでした。待ち時間も長いし、落ち着かなくて、ずっとウロチョロしながらしゃべっていたから、関西に「うるさーい！　静かにー！　落ち着けー！」みたいに叱られた（笑）。もう緊張しすぎてしゃべるしかなかったんです。

――あれだけ大きい会場でやったのは初めてでしょ？

尾崎　そうですね。

――「おおっ、客が入っている」みたいなことを感じる余裕はありましたか？

尾崎　全然ない。でもお客さんがいっぱい入っていて、凄く盛り上がってることはわかった。

――全女と試合すると壊されてしまうのでは、という不安はなかったですか？

尾崎　私的には関西とかデビルさんと試合をやってたので、相手の身体が大きいから不安とかそういうのは一切なかった。

――なるほど。でも、川崎のメインでは、尾崎さんは4人の中で一人小さいじゃないですか。そのへんで狙われるだろうとか、来るだろうとかいろんなこと考えたでしょ？

尾崎　そうですね。でも関西がいたから安心していました。デビルさんや関西に大技やられたり、関西の蹴りで記憶なくしたりはしょっちゅうだったから。

――山田に蹴られるぐらいどうってことはない、と。

尾崎　うん。

――試合開始早々、豊田のもの凄いドロップキックがありましたよね。豊田さんにインタビューしたときに「あんた、あんときやる気だったでしょ？」って尾崎に怒られたって言ってましたよ。覚えてます？

尾崎　しょっちゅう言ってますよ、そんなのは（笑）。でもやる気でやってきてますよ。あの頃はみんな。

――豊田としては、たとえあそこで試合が終わってしまったとしても知ったことではない、という感じなんでしょうか。

尾崎　いや、冗談じゃない。終わらせませんよ。ただ私も、あのドロップキックがあったからこそ、そういう気持ちになった。

――豊田のドロップキックで尾崎さんにもスイッチが入った？

尾崎　そうですね。だからあれがあってよかったですよ。

――ビデオで観ましたけど、かなり長いことフラフラしてたでしょ？　ドロップキックのあと。

尾崎　ドロップキックも何本目かわからなかった。ただ、関西の蹴りでしょっちゅう記憶なくしてるから。

――そういうのが怖いというのはない、と。

尾崎　だから関西に記憶なくされておいてよかった。初めてだと、きっと混乱しただろうし。

――何回目ぐらいだったんですか？

尾崎　数えられないです。関西の蹴りでどんだけ記憶なくしてるか。

――恐ろしいですね。

尾崎　川崎の試合は三本勝負だったじゃないですか。試合中に、いま何本目をやってるのかわからなくなってキューティー（鈴木）に「いま何本目？」って聞いたら「三本目」って言われて「あ、よかった」って（笑）。一本目だったらたいへんだと思ったけど、三本目って聞いてホッとしたことはよく覚えています。



97年8月15日の尾崎との試合中、リング禍により亡くなったプラム麻里子を悼んで、OZアカデミーでは毎年『プラムの花咲くOZの国』と題した大会を開催している。

私、デビューしてから対抗戦中盤まで十何年欠場してないんです

――結局この試合は防衛されてしまったわけですけど、尾崎&関西の評価はめちゃくちゃ上がりました。「認められたね」と二人で喜んだりしましたか？

尾崎　「認められてよかったね」というのは全然なかったです。もっと誇り高かったので。私は負けたことがただただ悔しくて。もの凄い悔しくて、いつもは負けても泣かないんですけど、そのときは凄く泣いたことを覚えています。ただ、マスコミもファンの人も全女の選手も「JWPってやるじゃん」と思ったことに対しては「ざまあみろ。ほら見たか。うちらを甘く見るんじゃねえよ」と思いました。その点はよかった。

――尾崎さんを本当に凄いと思うのは、小さくて細いのに、ケガをしないことなんです。デビューからある時期まで、全試合出場を続けていたでしょう。

尾崎　そうですね。十何年欠場してないですね。対抗戦の真ん中くらいまでしてなかったんじゃないかな。

――よく平気ですね。たとえば鉄柵に背中から当たるときだって、尾崎さんくらい細ければ背骨が当たるでしょう？

尾崎　痩せてる頃はそうでしたね。あの当時は骨がボコボコ出てましたから。

――それでケガをしないほうが不思議だと思うんですけど。自分で思いあたるところはありますか？「ヤバイ！」って思ったときに瞬間的に対応するとか。

尾崎　あ、それはあると思います、絶対。危ないって思った瞬間に、受け身の角度とか、たぶん知らないあいだにやってると思います。

――体操やってる人とかは、逆さまになってるときでも、自分の体勢がわかるって言うじゃないですか。尾崎さんの頭の中では、自分とマットの位置関係がはっきりとわかっていたりしますか？

尾崎　瞬間的にはあるかもしれない。「あっ！」って思った瞬間、自分で1ミリ、2ミリでも動かしてる。それはなんとなく自分でわかる。

――ここにマットがある、という感覚があるんですね。

尾崎　そう。だからちょっと角度を変え

――何日ぐらい？

てない自信があります。

はプラムさんのご両親はお呼びしている

私がプロレスを辞めたら一番悲しむのはプラムだと思う

尾崎　そう。だからちょっと角度を変えてやる。

――やっぱり。

尾崎　落とされる技を受けるときでも、へんに手を出すと、手をケガするじゃないですか。そこをうまくキュッと。「あ、いま自分がやった」みたいに感じるときはたまにあります。自分で手をやらない（ケガしない）ように、瞬間的にうまくヒジだけを入れて受け身を取るとか。

――それって、プロレスラーにとって凄く大事な能力ですよね。

尾崎　たぶんそれがあるから、そんな大ケガしてないんじゃないかな。

――対抗戦の半ばくらいに欠場したときはどこが悪かったんですか？

尾崎　（井上）貴子と堀田祐美子との試合ですね。60分ドローだった試合。最後の20分くらいかな。「あれ？会場が回ってる」みたいな感じで。まっすぐ走れないし、コーナー登ろうとしてもフラフラになって登れない。試合後も二日酔いがひどいときみたいに天井が回ってる感じ。数日後にあったJWPの試合を初めて休んだ。でもそれだけで、CTスキャンも撮りに行かないんですよね。恐ろしいね（笑）。病院に行くという頭がないんです。「治ったからいいや」って。

――何日ぐらい？

尾崎　泊まりで北海道だったんで、翌日はまだ目が回ってて、その二日後くらいにJWPの試合があったと思いますね。

――休んだのは一試合だけ？

尾崎　そうですね。そのあとにヒザの手術したときに休みました。

――それは何年くらい？

尾崎　対抗戦が終わってから。13～14年前くらいかな。

――つまり96年か97年ですね。団体対抗戦も下火になり、全女が崩壊した97年にはプラム麻里子さんの事故がありました。当時は、危ない技を多発する方向に女子プロレス全体が動いていた、ということでしょうか。

尾崎　JWPでは「この技はどう考えても危ないだろう」とか「これはどう考えても頭から落ちるだろう」という技はやってない自信があります。

――事故の前から？

尾崎　前から。

――全女は知らないけど。

尾崎　うん。でも、全女とやると頭から落とされたりはしてました。

――誰が一番危ないんですか？

尾崎　誰とは言えないけど、全体的に技を受けたら頭っていうのが多かった。それはワザとなのか、全女内部でもそうなのかはわからない。全女でも、頭から落とさない人は落とさないし。アジャ・コングとかは、そういうことはやってなかった。

――頭から落とさないように心がけていたにもかかわらず、プラムさんのような事故が起こってしまったことはショックだったでしょう？

尾崎　技がどうのこうのより、亡くなったという事実がショック。同期で凄く仲良かったから。

――本当によく耐えられましたね。尾崎さんは強いです。

尾崎　強くないですよ。（プロレスを）辞めようかな、と思っていた時期もあるんです。でもいま辞めたらプラムがかわいそうだと逆に思った。たぶんプラムは「こんなことになっちゃってごめんね」って絶対言ってると思う。麻里ちゃんの性格も知ってるし。ここで私が辞めたら一番悲しむのはプラムじゃないか、と。

――プラムさんのご両親はどうおっしゃってました？

尾崎　仕方がないことだって。逆に気を使ってもらって、娘みたいにかわいがってもらったことが凄くうれしくて。それなのに私が辞めちゃったら、二人がかわいそうっていうのもある。

――『プラムの花咲くOZの国』の興行にはプラムさんのご両親はお呼びしているんですか？

尾崎　麻里ちゃんの親は、お父さんがとくになんですけど、麻里ちゃんがいた頃から試合観るのが嫌いなの。麻里ちゃんが蹴飛ばされるのを観るのが嫌だって言って、多くて3回くらいかな。亡くなったあと、大田区の大会に来たことがあったんですけど、そのときに私がやられてるのを観て「なんでみんなおまえのこと蹴飛ばすんだ。だから絶対に行かない」って。でも私の引退式のときには来てもらえることになっています。

――それは一番いいかたちですね。周りの人もいろいろ言ってくれたでしょ？

尾崎　もちろん非難もあって、事務所にもいっぱい来たみたいですけど、私の耳に入れないようにしてくれた。

――バカなヤツはどこにでもいますからね。

尾崎　最近、夏になるとプロレス界も誰か亡くなったりしますよね。昨年は三沢光晴さんで、今年は小鉄さん。興行では毎回「誰もケガしなくてよかった」ってそればっかり（笑）。

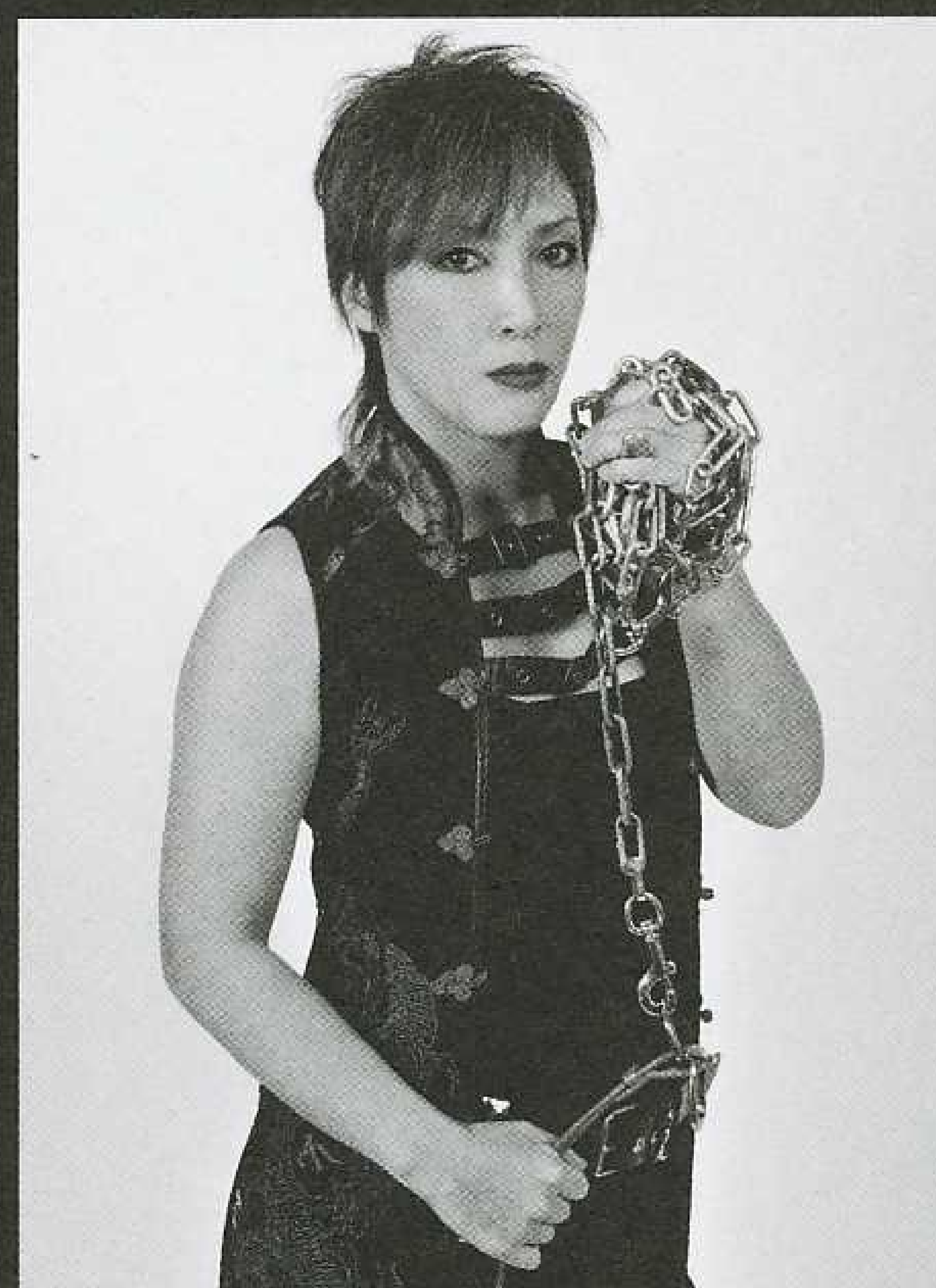
――現在、ご自身のケガは大丈夫なんですか？

尾崎　ヒザの手術したあと、JWPを辞める数カ月前の試合で鼻を2カ所折って、2カ月間は試合をしちゃダメだって医者に言われて、巡業にまったく行けなかったことがあるんですけど、それ以後はないです。鼻が最後かな。

――本当に鉄人ですね。


尾崎　ただ、欠場しなくてもヒザとかはそろそろヤバくなってきた。何年も蓄積してきたものがあるんですよ。

【10年10月3日／都内・某所にて収録】



おざき・まゆみ■1968年10月28日、埼玉県出身。86年、ジャパン女子プロレスにてデビュー。92年からはJWPに所属し、JWP認定ジュニアチャンピオンをはじめ、数々のタイトルを獲得。96年にOZアカデミーを結成。97年からはフリーとしてGAEA JAPANを中心に活動。現在はOZアカデミー女子プロレスを主宰する。158cm、53kg。

尾崎魔弓



さらばマット界――俺は時代より15年早い男だった

メジャーからどインディー、さらにはPRIDEからアブダビまで渡り歩いた五輪レスラーが最後の大放談！

流浪の荒武者

谷津嘉章

本誌の初期からご意見番として活躍してもらった“凄いヤツ”（byアントン）こと谷津嘉章が、ついに引退を発表！　え？　まだ引退してなかったのかだって？　まぁそれはさておき、波瀾万丈なレスラー人生を歩んだ谷津に、その万感の思いを語ってもらったぞ！　オリャッ!!

聞き手／阿修羅チョロ　構成／鈴木佑

—谷津さん、おひさしぶりです！

谷津 ひさしぶりだねぇ。まあ、こっちはマット界とはご無沙汰してたからな。ところで松ちゃん（聞き手）は『kamipro』辞めたんだよな？

—谷津さんより一足お先に引退させてもらいました（笑）。今回は、谷津さんが正式に引退を表明されたということで、かつての谷津番の自分がインタビューさせてもらうことになりました。

谷津 あ、そうなんだ。じゃあ、お手柔らかに頼むよ！（笑）。

—了解しました。早速なんですが、今回の引退発表会見のニュースを目にした多くの人は「あれ、谷津ってまだ引退してなかったんだ？」と思ってるみたいで（笑）。

谷津 そうかもしれないな（笑）。まあ、俺としても引退試合っていうのは、やってもいいのか悪いのかわかんないっていう感覚も正直あったんだよ。だけど、やっぱりこの世界で生きてきた以上、やんなくちゃダメでしょ。

—谷津さんほどのレスラーだったら、どこかでケジメをつけなきゃいけないですよね。

谷津 そうそう。そうじゃないと、いつになってもダラダラダラダラなっちゃうからな。ただ、いまこの業界は荒んじゃってるでしょ？

—プロレス界は荒んでますか（笑）。

谷津 ある意味、荒んじゃってるから、そういうこともまかり通るんだよな。業界がきっちりしてたら、一目瞭然で、「あれっ、まだやってたの？」なんて言葉は出てこないよ。どうでもいい業界だからこうなっちゃったの。逆に言えばな。

—なるほど。

谷津 だから、この業界はおもしろいとも言えるんだよ（笑）。

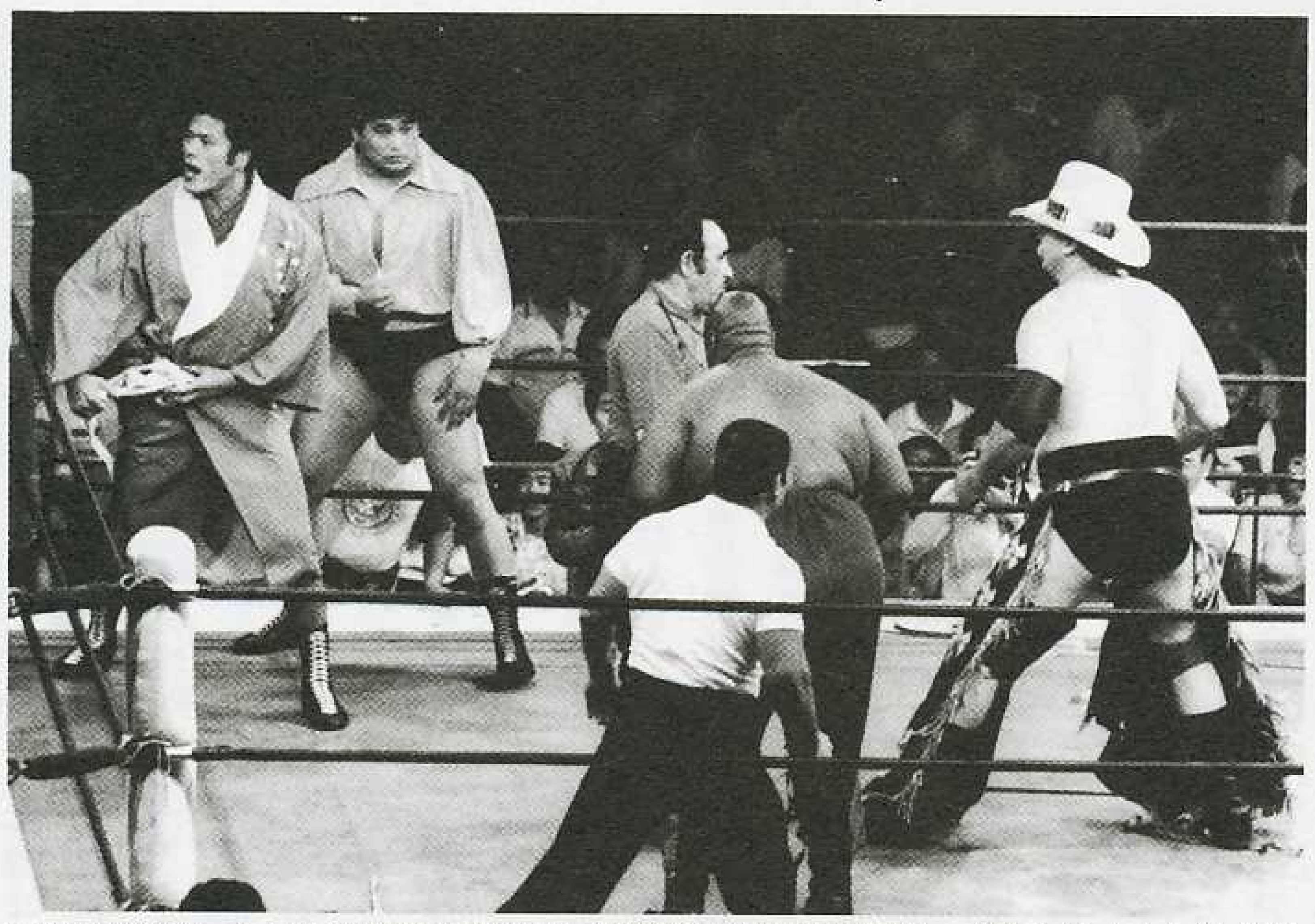
—なんかしら、プロレスラーであることのうまみみたいなものがあるからこそ、辞められないでいる人も多いんでしょうね。

谷津 そういうこと！ だからな、「引退します」って言って辞めても、「また復帰して何が悪いの？」って開き直っちゃってるプロレスラーもいっぱいいるでしょ？

—そうですね。大仁田（厚）さんなんか、何回引退したかもうわからないですし（笑）。

谷津 そういうのは俺の場合は常識人だからできないんだよな。

—谷津さんは常識人でしたか（笑）。



レスリングエリートとしてプロレス界入りした谷津は、81年の日本デビュー戦でアントンとタッグを結成！ ブッチャー&ハンセンとメインで対戦という、新人としては破格の扱いだった。

谷津 そりゃそうだよ。

—まあでも、プロレスラーという人種は、どちらかというと非常識な人間の集まりみたいなところもありますからね。猪木さんを筆頭に（笑）。

谷津 そうそうそう。そういう世界だったから、いままでもってきたところもあるんだよ。そこがいまは、ある種、アキレス腱になっちゃったとも言えるんだよな。だから、俺なんかも、そろそろ足を洗うのもいいんじゃないかなっていうね。

—一回引退してほかの仕事に就いても、うまくいかずにまた、この業界に戻ってくる人も多いですよね。

谷津 プロレスラーはつぶしがきかないヤツらばっかりだからな。だから、俺なんかはいろんな仕事をしながら、「『よし、もう軌道に乗った』って自信が持てたら引退宣言してやる」って思ってやってきたところはあるんだよ。

—谷津さんはだいぶ前から、プロレスラーのかたわら、中古自動車販売業から、皇室関係の書籍の仕事や、いま代表を務められている物流関係の仕事まで、いろいろとやられてきましたからね。

谷津 試行錯誤しながらいろいろとやってきましたよ（苦笑）。ただね、これは言っときたいんだけど、プロレスを辞めてから違う職業でやっていくって思っても、それはもう遅いって言うんだよ！ ハッキリ言って手遅れ！

—手遅れ！（笑）。

谷津 そういうこと。俺なんかもいまの仕事に目星がついたから、発表したわけで。まあ、だからといって守りに入るつもりはないけども、いまの仕事を基礎にして、いろんなこともしつつ、逆にプロレス界に多少でも還元できればいいなとは考えてるんだよ。

—お世話になったプロレス界になんらかの恩返しを考えている、と？

谷津 あくまでも理想を言えばだけどな（笑）。

—素晴らしい心がけだと思います。具体的にはどういったことを考えているんですか？ 物流関係でいくと、かつての佐川急便が新日本プロレスをバックアップしたみたいな感じでスポンサーになるとか。

谷津 いやいや、そこまではできねえよ（苦笑）。俺はべつに興行団体を持ちたいとは思ってないし、逆に言うと、そんなのはまっぴらゴメンだからな。

—いろいろ苦い思い出もあるんでしょうからね（笑）。

谷津 まあ、俺の場合は〝ほろ苦〟程度だけどな（笑）。

—ビターな感じで（笑）。

谷津 そうそう。だから、たとえば「谷津さん、チケット売れないんですよ」って言われたら、「おう、わかったよ」って買ったり売ってあげたりな。

—それはプロレス団体にとってはありがたい存在ですよね。

谷津 ただ、俺はそのへんの下手なタニマチやスポンサーと違って、この業界のことすべて知ってるからな（キッパリ）。

—プロレス界のことはすべて知ってますか！

谷津 だから、絶対にごまかせない。俺に対しては。

—まあ、そうでしょうね。

谷津 そういう意味では、アンフェアな感覚で、WJの福田政二（元・社長）みたいなことはありえない。

—屋形船で豪遊させたりはしない、と？（笑）。

谷津 そんなことは絶対にしない。アホらしいよ、そんなもん。

—ぜひともやってもらいたいところですけどね。

谷津 まあ、あそこまでべつにやらなくてもね、自分のできる範囲でやればいいんだよ。

—最近では谷津さんの後輩の川田（利明）選手もラーメン屋を始めたり、副業をやられているプロレスラーも多いですけど、谷津さんはだいぶ前からいろんな仕事をされてきてますよね。それはやはり、プロレスラー一本でやっていくのは厳しくなるぞという予感みたいなものがあったか

俺は常識人だから大仁田みたいなことはできないよな

らなんですか？
谷津　予感っていうか、ある意味、生きていくためでもあったよな（笑）。後輩なんかに会うと「先輩、いっつも違う名刺を持ってますねぇ」って言われたりもしたしな。

――会うたびに違う仕事をされていた時期もあった、と。

谷津　いろんな名刺を作ったから（笑）。後輩なんかには「バ～カ！　違う名刺を持ってるのは、いつも失敗してるんだよ、コノヤロー！」って言ってたんだけどな。

――名刺の数だけ失敗を重ねてきたわけですね。

谷津　そのたびに高い授業料を払ってきたからな（苦笑）。まあ、おかげさまでいろんな資格や免許も取って、いまの仕事でようやく引っかかったというかね。まあ、そういう意味では、すべて無駄ではなかったんじゃないかな。そうやってプロレスラーをやりながら社会のことも学ばせてもらったのは、SP（WF）をやってきたからだと思ってるしね。

――一時期は社会人プロレスを名乗ってましたからね。

谷津　そうそう。だから、今回引退するにあたって、同時にSPの解散式もやってしまおうと思ってるわけ。

――そういうことでしたか。

谷津　一つ言えるのは、俺はこの業界では新日本プロレスがスタートで、そのまま新日本でずっとプロレスを続けてきたら、いまでもバカのまんまだよ。それは間違いない。

――そうなんですか（笑）。

谷津　だから、自分が一番動けるときに独立したんだよ。たしか、42歳のときに独立してるからな。そういう意味では、いまぐらいの歳になってから独立しても遅いんだよ。このご時世に「団体が潰れちゃった。じゃあ、自分で新団体を作ろう」なんて考えるのはバカのやること。だから、俺から言わせれば、ほかの大先輩方はね、決断するのが15年遅いと思う。

――15年遅い！　逆に谷津さんは15年早かったのかもしれないですね。

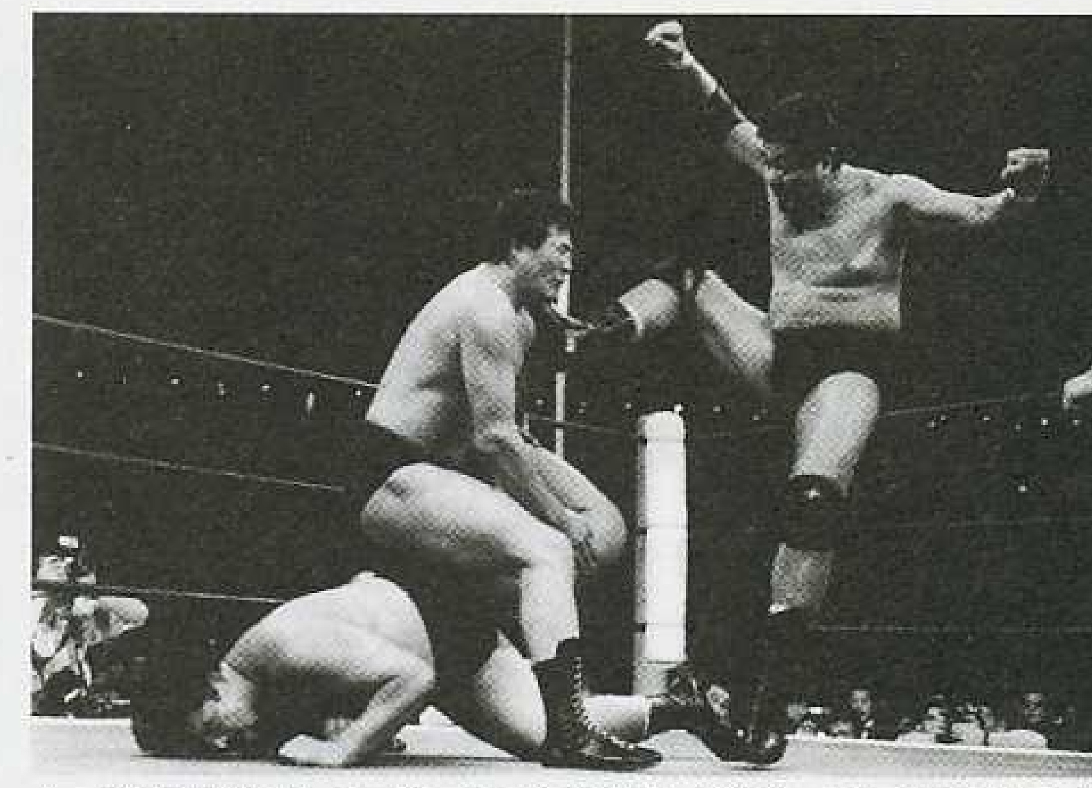
谷津　そうかもしれないな（苦笑）。

――残念ながら、予言が当たってしまった部分もあるかもしれませんね。

谷津　こうなるってことはわかってたから、この俺はプロレス界は絶対にもたないと思ったから、違うことも勉強しておかないとなと思って独立したわけだよ。ある意味、予言者みたいなもんでな（笑）。たとえば長州さんなんかにしても、いまでも頑張ってるけども、ウチの後輩がSPから長州さんが始めたWJに行ったでしょ。

――そうですね。

谷津　で、後輩の面倒も見てくれるって言うし、俺にも「来い」って言うから行った。そんなときに長州さんにいろいろとプロレス界の状況というのを話したんだよ。


全日時代は鶴田との五輪コンビで活躍した谷津。90年2月の新日本・東京ドーム大会にも、全日代表として鶴田とともに乗り込んだ

谷津嘉章

――当時の長州さんは新日本で現場監督を務めたり、メジャー団体の経験しかなかったので、それ以外のプロレス界の状況を把握していない部分はあったでしょうね。それは永島（勝司）のオヤジにも同じことが言えるでしょうけども。

谷津　だから、長州さんなんかは「谷津は何言ってんだ、コノヤロー！」と感じたと思うんだよな。それがWJを経験して、いまになって「谷津の言ったとおりになったな」って感じてると思うよ。そういう意味では、これは長州さんにかぎらずだけど、みんな遅いんだよな。俺の言ったことを聞いてくれたら、ちょっとは被害を食い止められたかもしれないよな（笑）。

――確かに（笑）。

谷津　でも、プロレス界の大先輩たちはみんな独立してきたわけじゃない？　それは日本プロレス時代からそうでしょ。

――そうですね。

谷津　分散分散、核分裂して。やっぱりプロレス界っていうのはその頃から、悪く言えば、ファイト＝マネーなんだよな。

――ファイト＝マネー！

谷津　よく言えば、自由主義者の集まりなんだよな。つまり一言で言えばフリーダム。

――いまはそんな団体もありますね。

谷津　みんな職人だから。腕の良し悪しは別にして、気質が職人なんだよ。だから「俺の腕で稼いだろ！」と思って、勘違いしてみんな独立しちゃうんだよな。そういう気持ちになるのは俺から言わせれば自己責任だけど、少なかれそういう気持ちは持ってしまうんだよな。そういう意味では、俺のプロレス人生においても、金の問題とか人間関係とかいろいろあったし、俺なんかはわがままだから、そのたびに「ふざけんな、コノヤロー！」って思って、最終的には92年の8月30日にSPを旗揚げしたんだよ。

――92年といえば、プロレス界にかぎらずマット界は激動の時代でしたよね。

谷津　その頃はある意味、どん底だったとも言えるよな。

――それはプロレス界を取り巻く状況が、ですか？

谷津　そうじゃなくて、俺自身がまだプロレスのことを全然知らなかったの。

――先ほどはプロレス界のことで知らないことはないと豪語されてましたけど、新日本、全日本、SWSとメジャー団体を渡り歩いてきた谷津さんでも、その当時はプロレス界のことはまったく知らなかった、と？

谷津　ホントそうだよ。その頃はメジャー団体というところに所属はしていたけれども、1年に一回ぐらい地元の興行を買って自主興行をやるぐらいで、まったくわからなかった。

――当時から興行とかもやられていたんですね。

谷津　そうそう。それでも地元で興行やってもわからないよな。地元の人間はみんな優しいから。「わかったよ、谷津。チケット買ってやるよ」って一回はなるから。だけども、それじゃあプロレス界のことがわかったとは言えない。そうでしょ？

――まあ、そうなりますかね。

谷津　だけど、自分で団体を作ったら、そうはいかないからな。全国をサーキットしてみて、初めてプロレスのなんたるかが理解できるわけだから。それで自分の金で回してやっていけるようになって、最高は月で25大会も試合を組んだりしたんだよ。


全日退団後、SWSで『道場・檄』を主宰していた谷津だったが、派閥闘争のはてに退団を決意。仲野信一を引き連れて、社会人プロレスSPWFを旗揚げすることになる。

SPWFも一番いいときは年間で3000万円ぐらい利益が出てた

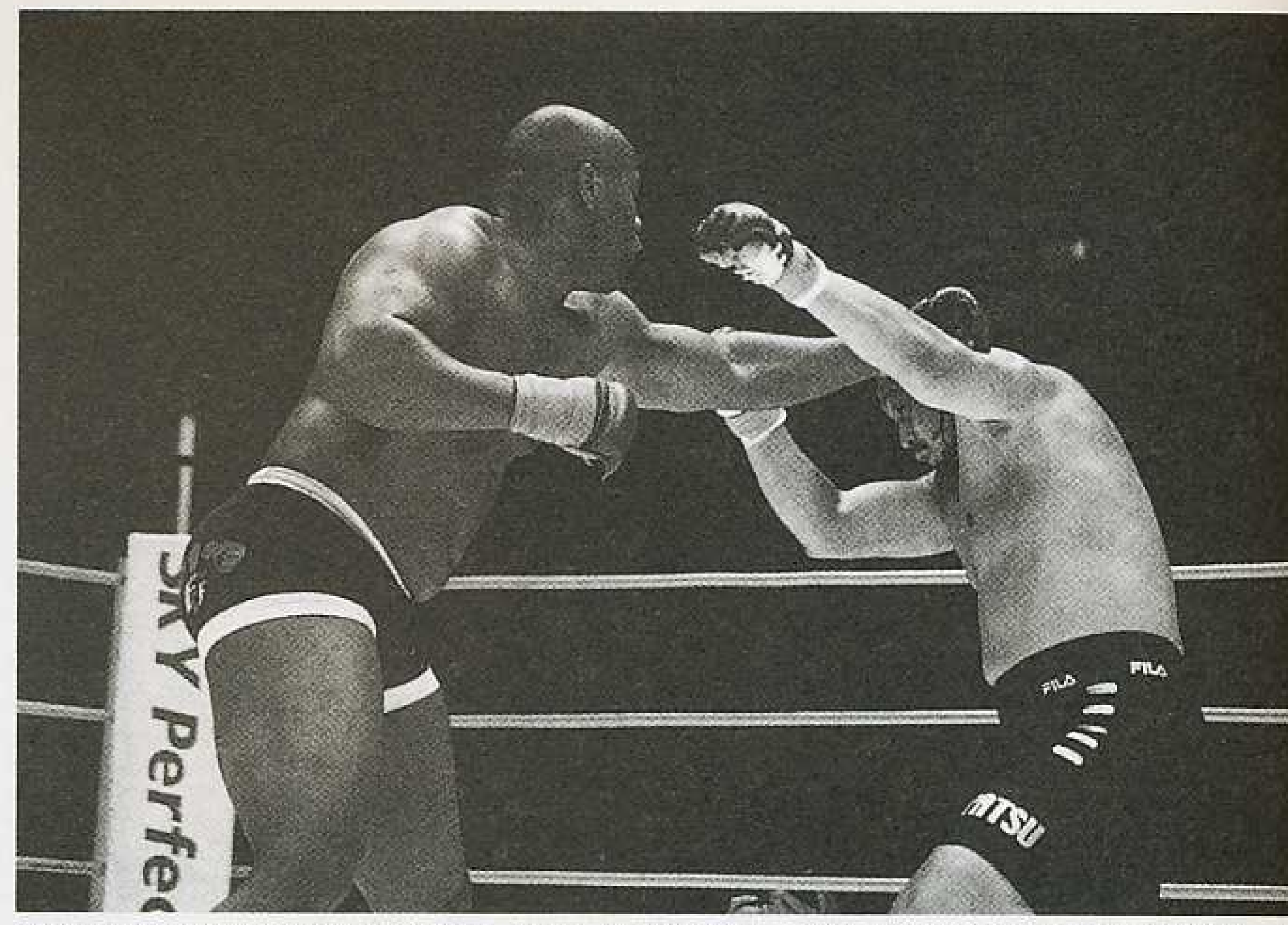
それも全部一人でやったんだから。

—全盛期の全女並みですね（笑）。

谷津 要はやりようなの。いろんな経費を削減して、いかに効率のいいサーキットを組めるかが勝負になってくるから。営業マンとか雇えばいい部分もあるんだけど、俺の場合はいろんな状況をかんがみて全部一人でやったからな。レスラーもマッチメイクも営業もポスター貼りも。一人五役ぐらいやってたら、さすがに疲れちゃったけどな（苦笑）。

—そりゃそうでしょう（笑）。

谷津 そうやって苦しみながらやってきて、よけいなものを排除して初めて芽が出た感じで。道場や巡業用のトラックも買えるようになって。一番いいときは年間で3000万円ぐらい利益が出てたからな。


本誌での歯に衣着せぬ発言から高まっていった谷津幻想。ついにはPRIDEのリングにも出陣し、ゲーリー・グッドリッジと二度にわたって対戦。このときに、かの有名な谷津ガードが誕生した！

—へぇ〜、それは凄い！

谷津 だから結局、独立してから10年はかかんなくても7年はかかったよ。プロレスの本質を理解できたのは。

—谷津さんにとってはプロレスというのは、やはり興行を含めたものになるんですかね？

谷津 そりゃそうでしょ。いくら「腕に覚えあり」なんてカッコいいこと言っても、どこまで言ってもプロレスっていうのは興行なんだから。だから、俺なんかは時代に先駆けて、社会人プロレスを始めたり、吉本（興業）の芸人を使ったりしてやるようになったんだよ。当時は批判的な声も多かったし、けっして成功したとは言えないけど、いまはそういうことどこでもやってるでしょ？ お笑いとか、学生プロレスの連中を上げたりとかな。

—ホントそうですよね。佐山さんじゃないですけど、谷津さんも10年早かったのかもしれませんね（笑）。

谷津 いや、それを言うなら俺の場合は15年だろ（笑）。

—失礼しました！（笑）。そんな谷津さんにとってプロレスラーとして一番よかった時期って、いつぐらいになるわけですか？

谷津 そりゃ金だけで考えたら、新日本から全日本に移って、さらにSWSに移籍して、そのたびにファイトマネーはアップしたから、その時代がよかったと思われるかもしれないけど、そのことをとって、いい時代かといえばこれもまた違うよな。メガネスーパー（SWS）も金的にはよかったけど、あそこは人間関係でホトホト嫌気がさしたから。

—派閥闘争が凄かったみたいですからね。

谷津 そういう意味では、充実してやりがいがあったっていうのは、SPが軌道に乗ったときなんじゃないかな。苦労もしただけにそういった思いは強いよ。

—でも、谷津さんって、それこそ新日本、全日本、SWSといった主要メジャー団体から、どインディー、さらには総合格闘技にアブダビコンバットまで経験してるわけじゃないですか？ そんなプロレスラーはなかなかいないというか、唯一の存在と言えると思うんですよ。

谷津 俺ぐらいでしょ、マット界の酸いも甘いも経験してるのは（苦笑）。酸っぱい思い出のほうが断然多かったかもしれないけどな（笑）。

—アハハハ！ 確かに（笑）。一番酸っぱい思い出というと、やはりSWS時代になるわけですか。それともWJですかね？

谷津 WJの場合は最初から「こりゃダメだ」ってわかってる部分があったから、ある意味「しゃあない」って思いもあるんだけども、そう考えるとSWSになるのかなぁ。

—やっぱり、SWS時代は人間関係で相当悩まされた感じなんですか？

谷津 だって、プロレスラーなんていうのは、わがままな人間ばっかりなわけだよ。いまはみんなユニオンみたいなかたちで、お互い傷を舐め合ってやってるからそんなことはないと思うけど、当時のプロレスラーはみんなわがまま。それは俺も含めてだけどな。当時なんて「ふざけんな！」っていうイデオロギーがリングでもリング外でもあったわけよ。

—リアルにイデオロギー闘争がリング内外で繰り広げられていたわけですね。

谷津 それが、俺なんかは新日本にも全日本にも所属していたわけだから、二つの気持ちも理解できるわけよ。だから、選手会長に任命されたの。

—なるほど。

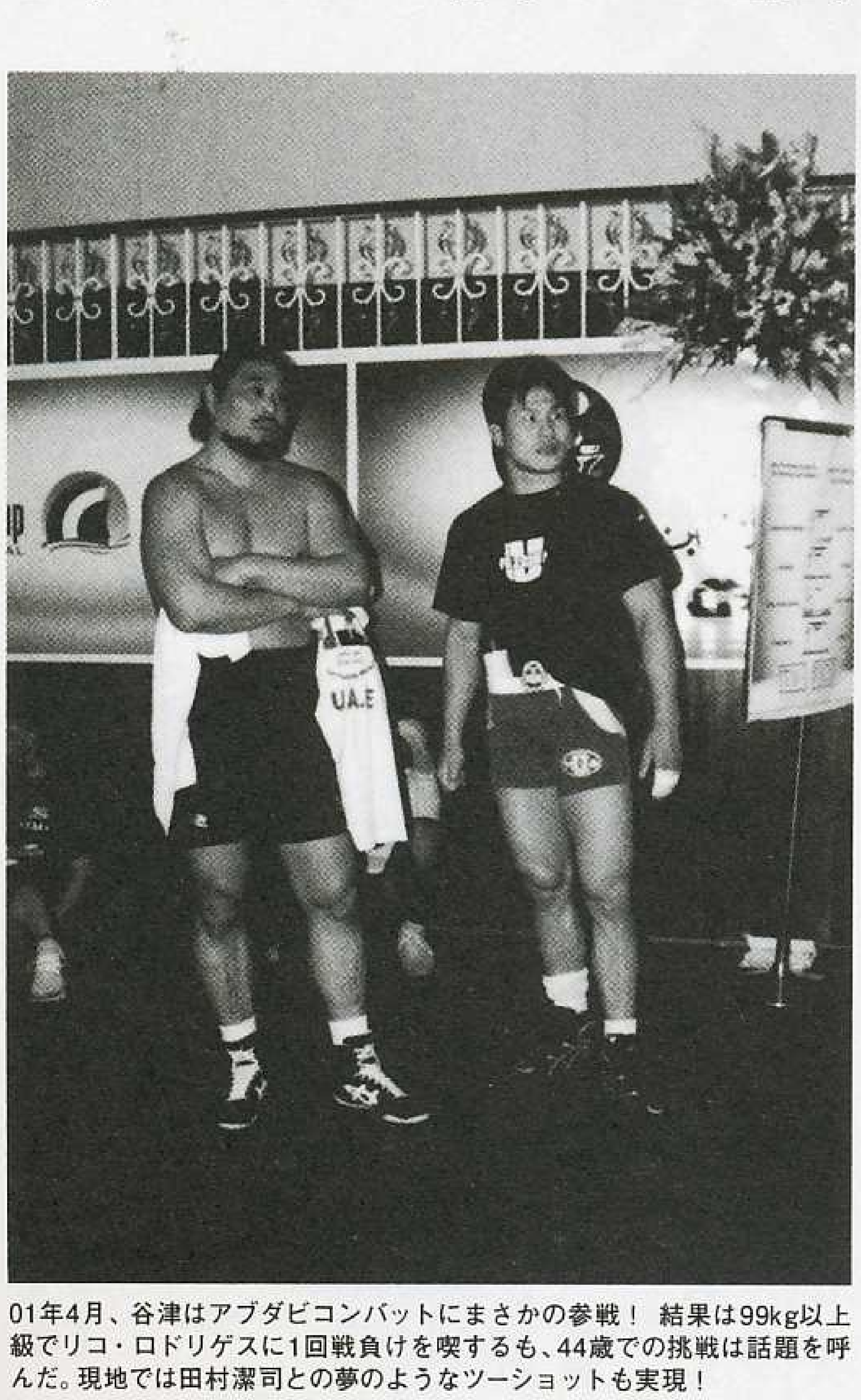
谷津 でも、結局はお互いに勝手なこと言って空中分解しちゃったわけでしょ。あの頃っていうのはいまと違って、プロレス界はファン主導で、プロレスに対する実像も虚像もファンあってのものだったからな。

—専門誌の影響もいまとは比べものにならないぐらい大きかったですし、『週刊プロレス』の影響もあって、SWSに対してはファンも厳しい目で見てましたからね。

谷津 いまのファンはだいぶスマートになってきてるけど、当時は「谷津、何やってんだ！」みたいな声も多かったからな。

—やっぱり、当時は『週プロ』に対しては悪感情を持ってました？

谷津 おもしろくはなかったけども、まあでもそれは時代的なものだからしょうがないよな。ファンがい


01年4月、谷津はアブダビコンバットにまさかの参戦！ 結果は99kg以上級でリコ・ロドリゲスに1回戦負けを喫するも、44歳での挑戦は話題を呼んだ。現地では田村潔司との夢のようなツーショットも実現！

谷津　そうでしょ。要するに見せる
側じゃなくて、やる側の市民権を得

ば、そういう人たちも含めてプロレス
文化を作ってきたとも言えるしね。

ファイトの総合格闘技がすっかり市
民権を得ちゃってる時代なんだから。

なかった、と（笑）。
谷津　ホントそうだよ。こっちはガ

る、初代タイガーマスクのようなレ

るから俺らは存在できるわけで。それに当時はいくら俺が真実を言っても受け入れてもらえなかったんだよ。それは土壌的に無理だった。

――それからだいぶ経ってからですよね。谷津さんの真実の声が『kamipro』のインタビューなんかでファンに受け入れられるようになったのは。

谷津　そうだよな。当時から俺は真実を言っちゃうようなレスラーだったからダメだったの。

――そこも早かったんでしょうね（笑）。

谷津　いまはもう真実もクソもないじゃん。みんな一緒になっちゃった。それもどうかと思うけどな（苦笑）。



関わった人間は「地獄のど真ん中」を体験したと言われるWJ。谷津は旗揚げから参戦するも、すぐに資金繰り危機に陥った同団体のフロント陣に対して、「このままじゃ潰れる、何もわかっちゃいない」と痛烈批判して退団。

――僕なんかは『kamipro』に入ってすぐに「三沢、川田なんて目えつぶって30秒」といった一連のインタビューで谷津さんの真実の声を聞いて、俄然、谷津嘉章というプロレスラーに興味を持ちましたからね。

谷津　そう言ってくれるとうれしいんだけど、ある意味、それは『kamipro』の罪とも言えるよな（笑）。

――そうなんですか（笑）。

谷津　罪なんだけども、それを載せてくれたことによって、ファンもスマートになったんじゃないかなっていう気持ちはあるよ。そういう意味では、ある意味、『kamipro』様々とも言えるよな（笑）。そういう意味では山口（日昇）くんっていうのも先見の明があったんじゃないかな。

――のちに『ハッスル』でこけちゃいましたけどね（笑）。

谷津　『ハッスル』なんかもある意味、時代に乗ってるようでいて、読み違えちゃった部分もあるからな。だから、難しくもあり、おもしろいのがプロレス界なんだよな（笑）。

――そうですねぇ。谷津さんにはそれこそ、『kamipro』のご意見番として、いろいろと協力もしてもらいましたからね。

谷津　まあでも、ファンなんかにしてみれば、真実を聞くほど幻滅しちゃうところもあるからな（笑）。でも逆に、臭いものにはフタをしちゃうような業界だからこそ、真実を聞かされると、逆に怖いもの見たさというか、指の隙間から見ちゃうような感じがあったと思うんだよな。俺なんかは、時代的にそういった部分も見せていくのもアリだと思ってたから。

――それこそ、同じぐらいの時期にミスター高橋さんの本なんかも出版されて、ファンの見方も変わってきたりした部分はありましたからね。

谷津　そうでしょ。なんでもかんでも見せちゃうっていうのはよくない部分もあるだろうけど、時代に即した見せ方っていうのは絶対あると思うしな。イリュージョンの種明かしと一緒で、見たいような見たくないようなって感覚だよな。

――確かに（笑）。

谷津　でも、プロレス界に関して言えば、遅かれ早かれ、いつかはそうなったと思うよ。逆に言えば、ファンなんかも、そんなことはうすうすわかってたかどうかはわかんないけど、昔から八百長だなんだと言われてきた業界でしょ？

――そうですね。

谷津　それこそ佐山サトルとかピーター高橋がケーフェイを本にして発売しちゃったわけでしょ。でも、俺はそういうことはしなかったから。

――WJだったり、いろんな実情は暴露してくれましたけども、ケーフェイ的なことは守ってきた、と？

谷津　そうだよ。俺は自分で自分の首を絞めるようなことはしてないからな。

――お世話になってきたプロレス界の迷惑になるようなことはしたくなかったというか。

谷津　そういうこと。だけども、遅かれ早かれプロレス界はいまみたいになったんだよ。これは間違いない。

――「いまみたいに」といいますと？

谷津　だって、そうじゃんか。学生プロレスにしたって、いまはハヤブサだ誰だってカミングアウトしてるけど、10年前はみんな言えなかったんだから。

――確かに。いまは新日本の真壁（刀義）選手やDDTのHARASHIMA選手など、各団体のチャンピオンになってる選手もカミングアウトしてる時代ですからね。

谷津　そうだろ。学プロ出身の凄い選手はいっぱいいるんだよ。その門を開けちゃったのは俺みたいなもんだからな。

――確かにそうなんですよね。お笑い芸人や、女子高生レスラーをデビューさせたりもしましたし。

谷津　そうでしょ。だけど、学生プロレスなんて、自分が門を開けたけど、自分が開ける前からあったわけじゃん。

――歴史は古いですからね。

谷津　長州さんなんかは、そういうものに対して「ふざけんな！」とか怒ってたからな。輪島（大士）さんなんかにも「ナメんなよ！」って怒ってたけど、やっぱりそれぐらい認めないっていう風潮があったよね。昭和のプロレス界は。

学プロができた時点でプロレスはカウントダウンに入ったんだよ

――それが平成ぐらいから変わってきた感じなんですかね。

谷津　平成というか、学生プロレスなんかは昭和の時代からあったんだよな。だから、俺が思うに、学生プロレスができた時点でプロレスっていうのはカウントダウンに入ったと言えるんだよ。

――学プロができたのがプロレス界低迷の原因ですか？

谷津　俺はそう思うよ。なぜかっていったら、学プロはテレビとかで放送されるようになって市民権を得たでしょ。

――地上波の深夜枠とかでやってましたからね。



「なんだなんだ、誰だコレッ!?」という声が聞こえてきそうだが、谷津はSPWF時代に一時期ヒールターン、その名もズバリ津谷章嘉。そのショッキングな風貌は一部の好事家たちのあいだで話題を呼んだ。

谷津　そうでしょ。要するに見せる側じゃなくて、やる側の市民権を得ちゃった。「あっ、プロレスってできちゃうんだ⁉」って気づいちゃったんだよ。

——「僕にもできた」って感じで（笑）。

谷津　それじゃ馬場さんになっちゃうけどな（笑）。それがさっきも言ったけど、プロレスっていうのは我々の大先輩の時代から良くも悪くもフリーダムだから。我々は学生プロレスさんにそんなこと言う資格もないんだよ。

——学生プロレスさん（笑）。

谷津　だからこそ、プロレス界っていうのは力道山大先生や馬場さんや猪木さんがユニオンみたいな協会を作って、ガッチリまとめてればこんなことにならなかったんだよ。いまはもうまとめようもないけどな。

——もう無理ですよね。

谷津　もう手遅れでしょ。だから、こうなるのはわかってたって言うの。そういう意味ではターザン山本！　なんかも、彼も罪と罰、両方持ってると言えるよな。……いや、あの人は罪のほうが多いか（笑）。

——そうかもしれません（笑）。最近も暴露本を出しましたし。

谷津　自分でポケットに金を入れちゃってたんでしょ（笑）。そういう意味では、マスコミにも山本さんとか井上（義啓）さんとかいたじゃない？

——井上さんは亡くなっちゃいましたけどね。

谷津　あ、そう。あの人なんかは俺は凄い人だったと思うんだけども、山本さんも含めて良くも悪くもマスコミの先駆者ではあったよな。逆に言えば、そういう人たちも含めてプロレス文化を作ってきたとも言えるしね。

——そうですよね。

谷津　守るところは守ったりしながら持ちつ持たれつでやってきたのがプロレス文化なんだよな。でも、もう来るとこまで来ちゃって、プロレス文化はもうこれ以上は衰退はしないと思うんだよ。かと言って、これからはブレイクなんてしない。絶対に。

——衰退もブレイクもしない？

谷津　一過性であるかもしれないけどな。だから、これからのプロレス界はある意味、自己責任で、可能性としては、どこでエンターテインメントに目覚めるかだろうな。「我こそはエンターテイナーでござい」ってしっかりと自覚が持てるかどうか。

——谷津さんはだいぶ前から言われてますけど、プロレスはエンターテインメントに針を振るしかないと？

谷津　それしかないだろ。下手に猪木さんが「キング・オブ・スポーツ」とか「プロレスが格闘技で一番強い」なんて言っちゃうからおかしくなったわけでな。当時はそれが売り文句で通用したかもしれないけど、いまはそんな時代じゃないからな。それこそ俺なんかも、いい歳こいてチャレンジしちゃったけど（笑）、リアルファイトの総合格闘技がすっかり市民権を得ちゃってる時代なんだから。

——そうですね。まあでも、自ら「売名行為」と言ってＰＲＩＤＥに参戦したのは谷津さんぐらいですけどね（笑）。

谷津　そのわりにはたいしたギャラももらえなかったし、だいぶ痛い目に遭っちゃったけどな（苦笑）。まあ、それでも結果的にはチャレンジしてよかったと思ってるよ。ゲーリー（・グッドリッジ）という戦友にも会えたわけだしな。ゲーリーは元気でやってるの？

——もうベテランですけど、いまだにちょくちょく試合してますね。

谷津　頑張るよなぁ。「もうちょっと加減してくれよ」って当時は思ったけどな（笑）。

——そこはプロレスのようにはいかなかった、と（笑）。



やつ・よしあき■1956年7月19日、群馬県出身。1976年にモントリオール五輪に出場。80年に新日本プロレス入門。84年にジャパンプロレスの一員として全日本プロレスに参戦。90年のSWS参加を経て、93年にSPWFを旗揚げ。以後はインディーからメジャー、プロレスから格闘技まで幅広い闘いを繰り広げた"凄いヤツ"。186cm、115kg。

谷津嘉章

谷津　ホントそうだよ。こっちはガードするだけで精一杯だったからな（苦笑）。

——伝説の〝谷津ガード〟ですね（笑）。

谷津　何が伝説だよ！（笑）。まあでも、総合格闘技なんかはまだまだ歴史が浅いけどプロレスっていうのは50年以上の歴史があるわけでしょ。俺なんかは、この50年の中で一番頑張ってきた格闘技はプロレスか相撲だと思うんだよな。

——いまは相撲界も揺らいでますけども、それは言えるでしょうね。

谷津　でもな、相撲はともかく、プロレスにはリアルファイトなんかないからな。これから先も。ファンなんかも「何がリアルファイトだよ。ふざけんな！」って思ってるわけで。そういう意味では、「これぞ、エンターテインメント！」っていうのを作っていくしかないだろ。

——プロレス界を去っていく谷津さんからの提言としては、いままで以上にエンターテインメントに振りきれ、と？

谷津　そう俺は思うんだけど、どうなんかなぁ？

——いや、谷津さんがそう言うなら間違いないと思います！（笑）。何か具体的なアドバイスはないですかね？

谷津　やっぱり、チェ・ホンマンみたいなヤツを10人集めてきたりな。それだけで「お〜っ！」ってなるでしょ。

——確かに（笑）。谷津さんが以前から言っている「デカくて１０００円」理論ですね。

谷津　あとは飛んだり跳ねたりする、初代タイガーマスクのようなレスラーを20人集めたりな。

——今度は20人！（笑）。

谷津　そういうやり方しかないと思うけどな。

——それか津谷章嘉みたいなレスラーを30人集めるとか（笑）。

谷津　それはどうかと思うけどな（笑）。とにかく「これなら金払ってもいいかな？」「いいともっ！」って思えるようなエンターテインメントにしていかなくちゃダメだよな。ストーリーがあって、おもしろおかしくて、なおかつアクションがあって手に汗握れる、そんなプロレスを追及していってもらいたいよな。それが最高にして、生き残る唯一の方法なんじゃないかな。（急にかしこまって）え〜、聡明なる『ｋａｍｉｐｒｏ』読者の皆さん、いかがでしょうか？（笑）。

——それで「いいともっ！」（笑）。では、引退ツアーで最後の大暴れを期待してます！

【10年9月8日／都内・某所にて収録】

おい、ホントかよ！ 長州、天龍、藤波が参戦!?

『谷津引退ツアー』

日程

11月7日／静岡・アクトシティ浜松
11月14日／群馬・館林市民体育館
11月21日／宮城・仙台港国際ビジネスサポートセンター
11月22日／山形・東根市民体育館
11月25日／熊本・興南会館
11月30日／東京・新宿FACE

参戦予定選手

長州力？ 天龍源一郎？ 藤波辰爾？ 川田利明？ 越中詩郎？
※その他多数参戦予定

151号へのお便り紹介

RENAインタビュー、高橋藍インタビューがおもしろかった。『Girls S-cup 2010』を連覇したRENA選手の努力と、RENA選手を追い詰めた高橋藍の健闘がよくわかったから。
【大阪府・松井祐治さん・会社員・38歳】

D 二人のライバル関係を語った前号の両者インタビューには、正直なかなかの反響があったみたいだぜ。やっぱり時代はジョシカクってヤツなのかい？　そのへんはよくわからないが、オレはキュートガールたちがたくさん載ってるだけで満足さ。クックックック。



小川直也のインタビューがおもしろかった。いまの石井選手に対して、格闘技をやめ柔道界復帰のインパクトを作り、柔道をやったほうがいいと言っています。私は柔道の石井選手より、格闘技でもがき苦しんでも少しずつ前に進んでいく石井選手の姿に思いを感じるので、頑張ってほしいです。小川さんもいろいろと考えているんだなと思いました。
【福島県・紺野春樹さん・会社員・30歳】

D オーちゃんってヤツはひさびさの『kami-pro』登場だったらしいじゃないか。しかし、サトシ・イシイのプロデュースに関しては、いろいろ思うところがあるようだな。オレとしちゃあ、どんどんメディアに出ていってマット界を儲けさせてほしいぜ。なあ、『kami-pro』さんよお。

RENA、そしてマサ斎藤のインタビューはよかった。女子格闘技、そしてマサさんの体験談は本当にスゴいですね。まさか『週刊現代』の話を読めるとは、スゴい！
【愛知県・山本恭正さん・39歳】

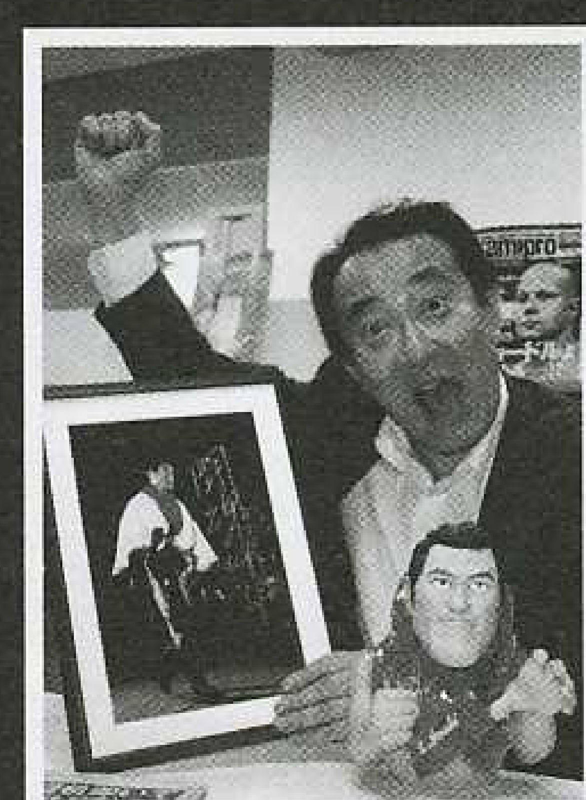
D RENAとマサ斎藤のおもしろさを同時に理解できるなんて、ユーはなかなかのヘンタイだな。そして〝『週刊現代』の話〟というのは、ひょっとして仙波ジャーナリストのことかい？　ユーはヘンタイのなかでも超エリートだぜ！　アッハッハッハ！

アントンの姪・ファニー猪木さんインタビューがおもしろかった。「あの一族にまともな人がいた！」となんでかホッとさせられました。リョートが吉牛で空腹を満たしていた話は涙なしには読めません。イズマイウを「いい人」と表現するのは、世界広しと言えども、この人だけでは？　ブス先生に聞かせたいです。
【福島県・毒柴さん・博徒・39歳】

D 編集部さんによると、ファニーっていうガールは本当にキュートで常識人だったらしいぜ。しかし、ナカヌキってヤツは、悲しくなるぜ。こうなったらリョートにどんどん活躍して稼いでほしいよな！　リョート、バンザ〜イ！

ニック・ディアスのインタビューがおもしろかった。今回も発言内容が独創的だが突飛ではないというその不思議な高度さに、心地よさを感じる。
【青森県・立木実さん・現代美術家・41歳】

D ニックのアニキは『kami-pro』のことを凄く気に入ってるらしいぜ。「こんなにオレを扱ってくれる雑誌はなかなかないからな」と言ってたそうだ。アニキにそう言われるとうれしくなるよな。え？　オマエはすっかり子分みたいになってヨイショしてるんじゃないかって？　確かにオレは子分体質だからな……。



ユセフ・トルコのインタビューがおもしろかった。本当にアントニオ猪木が憎くて仕方がないのがビンビン伝わってきてよかった！　ぜひ二人を会わせてやってください（笑）。
【福島県・長谷川隆さん・会社員・46歳】

D イノキというヤツはいったい何をしたんだ



お いおい、最近はUFOが日本によく来てるのかい？　一部のブログで大量のUFOが写っていたらしいが……ひょっとしてオレにお迎えが……!?　じつはオレ、そろそろ故郷に帰らないといけないんだ……。なーんつってな。アッハッハッハ！　いまの、かぐや姫っぽくなかったかい？　え？　全然おもしろくないし、どーでもいい？　ま、確かにこんな話、どーでもいいな。さ、そろそろ読者ペイジ始めようぜ。

kamipro151号 おもしろかった記事 RANKING

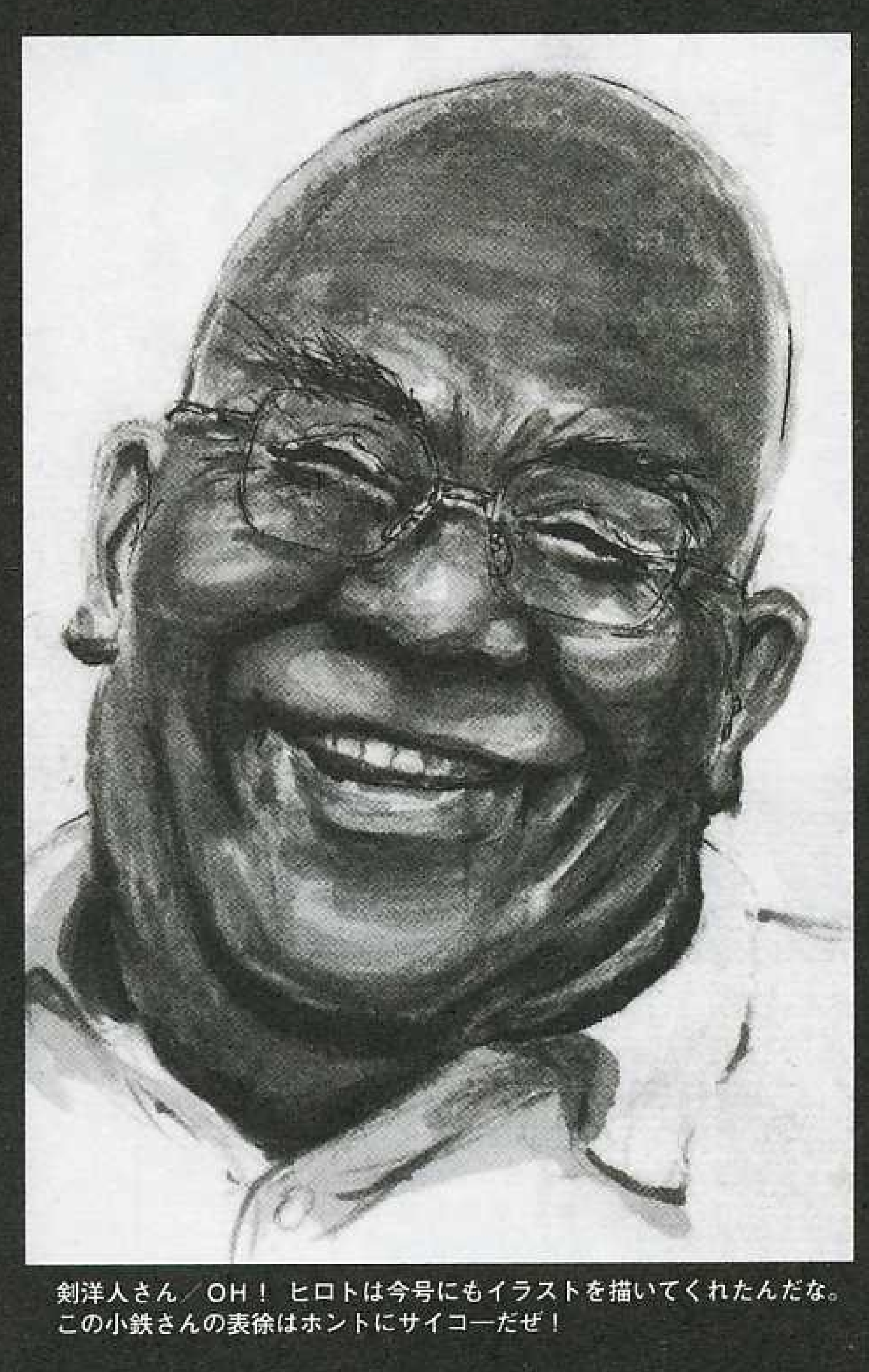
- NO.1 RENA
- NO.2 追悼・山本小鉄
- NO.3 小川直也
- NO.4 ユセフ・トルコ
- NO.5 中井りん

OH〜!　やっぱり前号は表紙にもなったRENAがトップだぜ。さすが、次代を担うガールだな。え？　今号では自宅の写真が載ってるって!?　それは“レナおじ”としては見逃せないな。クックックック。しかし、ユーたちは見落としがちだが、中井りんが5位にランクインしているのもチェケラッチョだぜ！　だんだん見逃せない存在になってきたのは気のせいかい？



匿名希望さん／これはアントンのかっこいいイラストを送ってくれてありがとよ！　しかし、ハガキのバックに『京都大骨董祭』の文字がうすく浮かび上がってるのは気のせいかい？





剣洋人さん／OH！　ヒロトは今号にもイラストを描いてくれたんだな。この小鉄さんの表徐はホントにサイコーだぜ！

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを
Check it out!!

"読者ペイジ"ジャクソン

い？　普通に生活しててもそんなに恨まれることなんかないよな。え？　ユーはオレのことをけっこう恨んでる？　おいおい、夜道で襲うのだけは勘弁してくれよお。

追悼・山本小鉄の小鉄さんインタビューがおもしろかった。私は山本小鉄先生の大ファンで、小鉄先生のページが多く、大満足でした。
【青森県・出町有希子さん・パート・26歳】

ミスター・コテツのインタビューは前にも『kami-pro』に載ったものだったみたいだけど、あらためて読むとジーンとくるよな。あれだけ練習してリングに上がっているレスラーがいる脇で、まったく練習してない素人が試合をするってのも、どうかと思ってるファンはいるんじゃないのかい？　え？　マジメすぎるって？

2010年のクラッシュギャルズ座談会がおもしろかった。本気で格闘技が好きなクラッシュギャルズとRENAさんと高橋藍さんの熱い闘いの分析がおもしろかったです。熱い女子格闘家の出現はうれしいです!!
【京都府・筒居芳治さん・会社員・35歳】

タケシ・ヤナギサワが必死にクラッシュギャルズを語ってるのに、編集部ガンツ・ホリエはひたすらRENAについて語ってるって、いったいこれは成立してるって言えるのかい？　え？　ヘンタイだからしょうがない？　まったくヘンタイって言葉は便利なもんだぜ。



中井りんインタビューがおもしろかった。写真があまりにも衝撃的だったので、ついつい一目惚れしてしまいました。次号の発売日の前日がりんたんの誕生日なので。表紙にするしかないでしょう～。HAPPY BIRTHDAY!
【大阪府・三階の守り人さん・タメロ王子・28歳】

おいおい、いったい編集部さんはリン・ナカイをどこに向かわせようとしてるんだい？　清きボーイズ&ガールズにはちょっと刺激的すぎるぜ。え？　向こうが勝手にやってるだけだって!?　それはまた凄いタマがいたもんだ……。

アントニオ猪木特集の仙波記者の記事がおもしろかった。いったいどれだけカバンのなかに猪木グッズを詰め込んでいたのか、見てみたいと思いました。こんなに情熱的に一人の人を追いかけられるのは、ある意味うらやましいと思います。そして、そうさせてしまう猪木さんもやっぱり凄い。
【東京都・講談者さん・会社員・33歳】

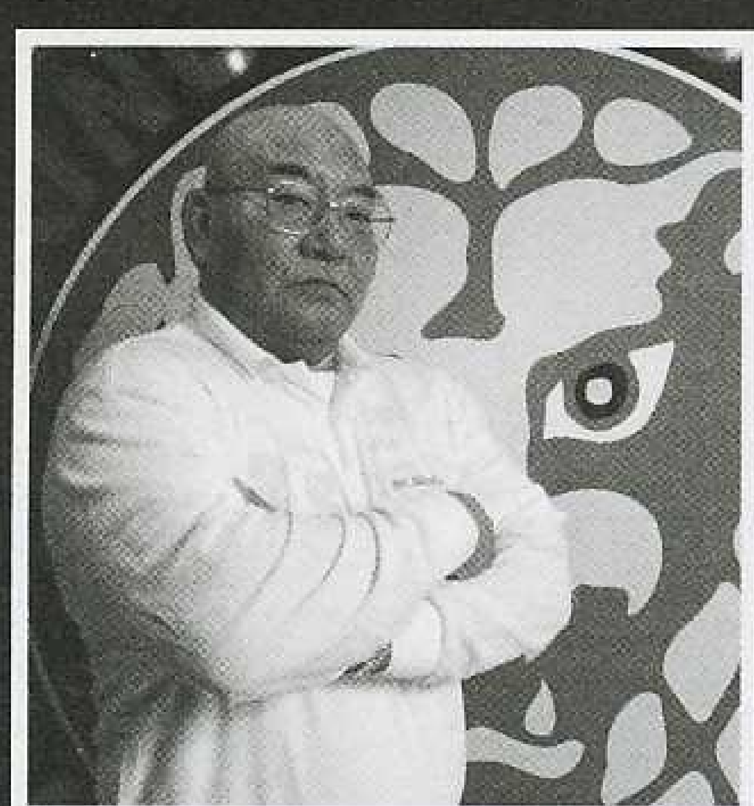
オレも仙波ジャーナリストに会いたかったぜ。なんでも、原稿チェックのために軽く20回ぐらいは電話してきて、編集部にわざわざ原稿を届けに来たらしいじゃないか。そんなヘンチクリンな記者なんて、そうそういないぜ。仙波ジャーナリストの存在は人間国宝級だぜ！

ザ・グレート・サスケとファイヤー原田の対談がおもしろかったです。サスケのハリウッド進出に期待大です。ファイヤーは海外進出（韓国大会）で負けてしまいましたが、サスケのようにめげずに海外に乗り出していってほしいです。
【埼玉県・原田大ジ郎さん・会社員・37歳】

あこがれのサスケに会ったのに、先にサインを求められるなんて、ファイヤーは完全に先手をとられたってヤツだな。クックックック。しかし、サスケの『kami-pro』誌上でのクオリティはまったく衰えないから凄いぜ。え？　編集部さんは次の企画も考えてるって!?

アントンのファイナルスチューデント・澤田敦士のインタビューがおもしろかった。なぜ、みんなが闘ってくれないのか、もう一度自分自身に問いかけてほしいと思いました。でも、本当に澤田選手の周りにいる人たちは凄いなあと感心します。それも才能なんでしょうか。
【宮城県・継承者さん・自営業・35歳】

そんなことより、サワダってボーイのプロフィール写真はいったいなんなんだい？　あれが成立する雑誌なんてどうかしてるぜ！　え？　いまのはブラックマヨネーズの吉田のパクリじゃないのかって？　ユーたちはこのオレにパクリ疑惑をふっかけるなんて、どうかしてるぜ！



アントンの実兄・猪木快守さんのインタビューは最高でした。本当に財宝船があるなら、ぜひ引き上げて億万長者になってほしいなと思いました。アントンも凄いけど、快守さんのぶっ飛び方のほうが、僕は凄く好きです。
【福井県・ハイセルさん・公務員・40歳】

このヨシモリってオッサンはじつは凄すぎるビッグパーソンなんじゃないのかい？　財宝船やカストロの話とか、プレジデント・カンでもパイプがあるか怪しいもんだぜ。え？　ヨシモリの話を本気にしてるのはオマエだけだって!?　What!?　じゃあ、このヨシモリってオッサンは詐欺師なのかい？

おハガキ募集!!

おハガキ、どんどん送ってくれよ!
ケータイからでもOKだぜ!!
どんな意見、感想、苦情、抗議、
お悩み、ダメだしでも、ぜーんぜんキャッチするから安心しろって！　待ってるぜ!

こんな情報も24時間どんとこい!
ってヤツだ。
- 譲ってほしいもの
- タレコミ情報
- 選手に対するコメント、試合の感想
- その他、オールOKだ!!

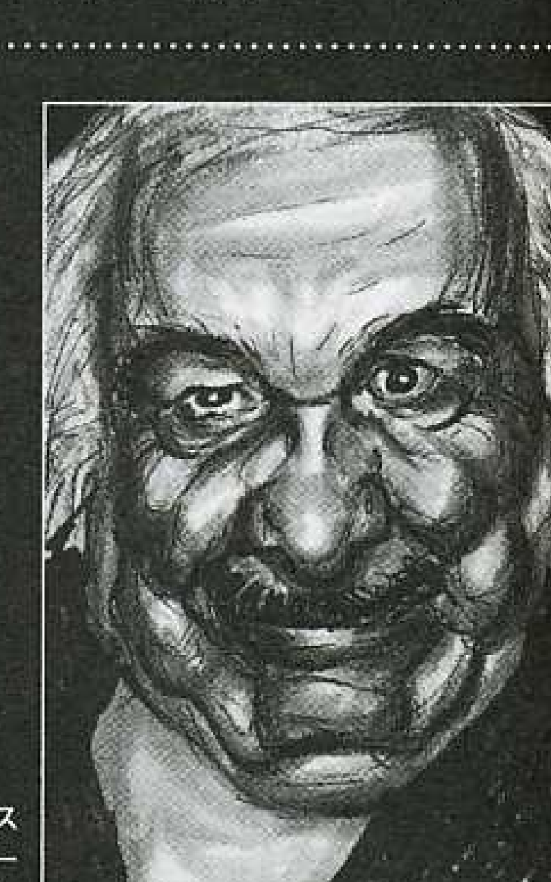
以上、すべてのお便り・
イラストのあて先は

〒162-0805
東京都新宿区矢来町41-1
ザ・フタガミハウスNo.1
kamipro編集部
「アルバイト」係まで。

携帯サイト『kamipro Move』
からの投稿もできます。



熊本県・ZIVさん／ユーは、『PRIDE.1』が行なわれた10月11日を記念してこの絵を送ってくれたんだな。まったくなんて気の利いたヤツだよ。



剣洋人さん／おっと、今回、ユーは2枚もイラストを描いてくれたのかい？　まったくヒマなボーイだぜ。クックックック。冗談だから怒るなって。

団体オフィシャルおよび関係者のツイッターアカウント

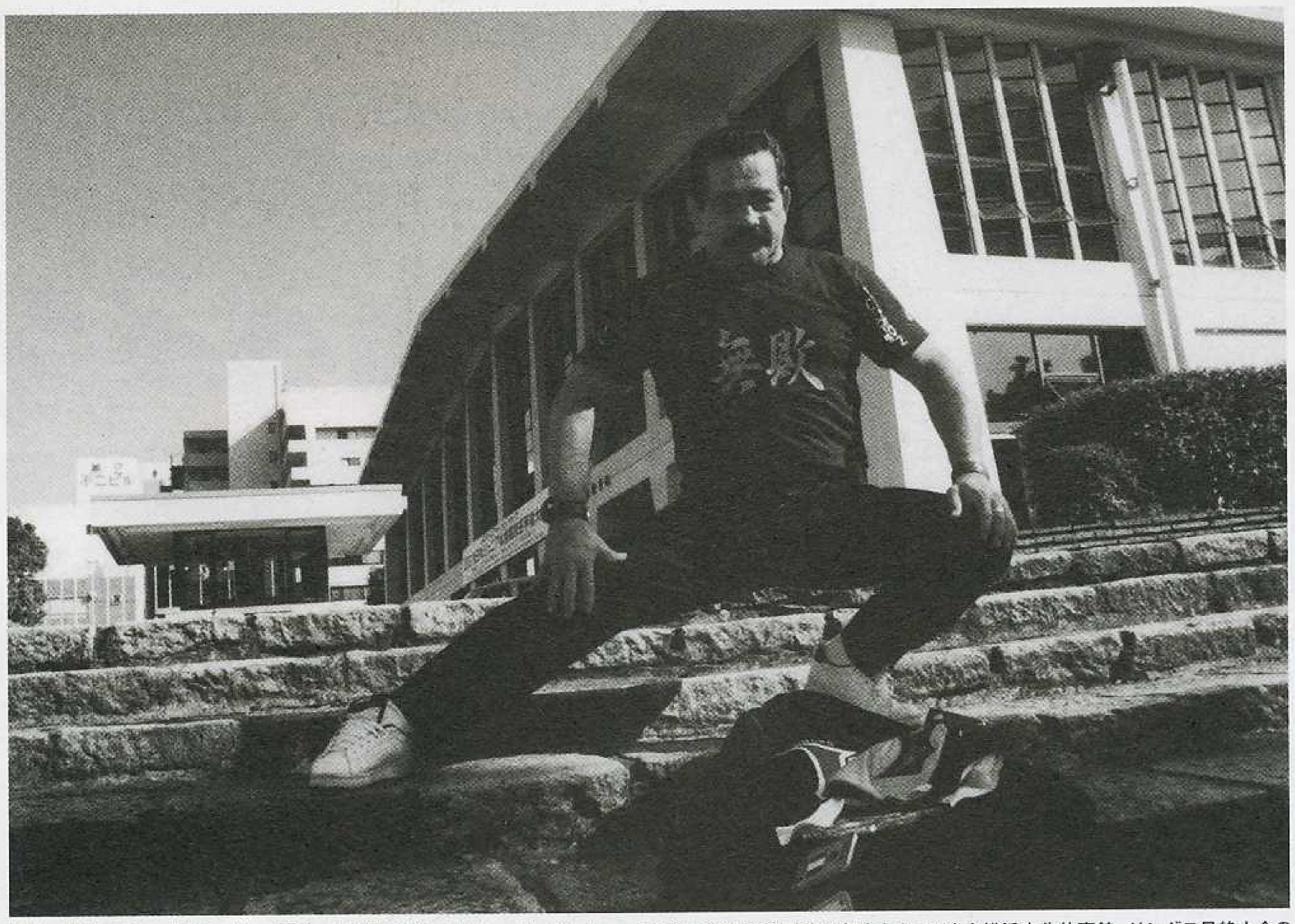
※オフィシャルや代表者のアカウントを集めたんだが、載ってないものがあったらぜひ教えてくれよな!

- 谷川貞治 FEG代表「K1_Tany」
- FEG宣伝熊「K1_Kuma」
- DREAM「dreamPR」
- 笹原圭一 DREAM EP「sasaharakeiichi」
- SRC「SRC_mobile」
- 向井徹 SRC代表「SRCbyWVR」
- DEEP「deep_official」
- 佐伯繁 DEEP代表「sigeru_saeki」
- パンクラス「_PANCRASE_」
- UFC「ufc」
- ダナ・ホワイト「danawhite」
- ジュエルス「JEWELS_info」
- ヴァルキリー「valkyrie_cf」
- 久保豊喜 GCM代表「kubotoyoki」
- WWE「WWE」
- 新日本「njpw1972」
- 菅林直樹 新日本プロレス代表「NJPWSUGABAYASHI」
- 武藤敬司「muto_keiji」
- DDT「ddtpro」
- 高木三四郎「t346fire」
- マッスル坂井「musclesakai」
- ゼロワン「zero1_fos」
- ハッスル「321hustlehustle」
- 山口日昇「noboru_yama」
- SMASH「SMASH_2010」
- 酒井正和 SMASH代表「SMASH_Sakai」
- アイスリボン「ice_ribbon」
- さくらえみ「sakuraemi」
- 19時女子プロレス「19pro」
- アントニオ猪木「Inoki_Kanji」

椎名基樹のサムライ三昧

第54回

文体で観た『OUTSIDER』



猪木vs藤波、鶴田vs天龍、ブルvsアジャの金網、藤波vsリチャード・バーン……これまで幾多の名勝負の舞台となってきた横浜文化体育館。リングス最終大会の場でもあるこの地で、10月11日に『THE OUTSIDER』が行なわれた。ちなみにこの写真モデルは、"ピストルの弾をよける男"カト・クン・リーの勇姿。

JR関内駅の南口を降りて道路に出ると、向かって左側を指す矢印とともに"横浜文化体育館"と書かれた看板。それに従って、200メートルほど歩くと、今度は右側を指す矢印とともにそれがある。

まるでシンクロニシティのように感じる、見覚えのあるこの光景。看板自体にも、それに誘導される自分自身の感覚にも、確かな覚えがある。歩行の最後、視界に広がる体育館前の広場と、そこからコタツ布団のように垂れ下がる横に広くて縦に短い階段が目に入ると、なんだか笑けてきてしまう。笑うのに調度いい程度の懐かしさなのだろう。

この日の『THE OUTSIDER』のパンプレットの表紙には"格闘技の聖地・横浜文化体育館"と書かれている。プロレス&格闘技ファンには「横浜文体」、いや「文体」と言ったほうが、通りがいいだろう。聖地と言うにはいささか気が引ける、ボロ体育館だが、確かに何度も足を運んだ、愛しきボロ体育館だ。

それどころか小学生、中学生の頃から、新日本プロレスの中継で、博多スターレーン、札幌中島体育センター、大阪城ホールなどとともに、文体はまだ見ぬ憧れの会場としてインプットされている。

最後にここを訪れたのは、リングスの最終興行だったたような、『S-cup』だったような、あやふやな記憶だ。その『S-cup』では、リングスのKOKルールの試合があったと思う。いずれにしても、間違いなく5年以上前で、笑けてきてしまうには、充分な月日が経っている。

そしてこの日、新生リングスの足がかりとなるかと言われる『THE OUTSIDER』のために数年ぶりにここを訪れたということは、つまりここはリングスの、そしてシーザー会長の、要するに元大阪の不良のオヤジの聖地なのだろう。

だがこの日は、文体に向かう慣れ親しんだ道のりに、いままでにない異質な光景がちょくちょく目に飛び込んでくる。途中、横浜らしい、小洒落たオープンカフェがあったのだが、そこにタムロするのは、上下ジャージの、明らかなアウトサイダーなお客様。そして体育館前の広場で煙草を吸う人たちの集団は、まさに映画『クローズ』の世界。確かにここは『OUTSIDER』の会場である。

関内駅のホームを降りたとき、いきなり怒りに近い真剣な表情で、こちらを睨んでいる警察官がいた。胸のバッジを見ると"青森県警"と書いてある、ほかの警察官の胸には"長野県警"。ホームから外を見ると、APECの開催を謳う、垂れ幕がビルから下がっている。

なるほど、これがマーシーを逮捕した地方の警察官か、この近くに赤レンガ倉庫広場があるのだな、と妙な納得をした。そこに、この不良の大群の襲来。よくみんな会場にたどり着けたものだ。

もしかして、数十人はしつこい職務質問の末の公務執行妨害で、辿り着けなかったかも知れぬが、そんなことは問題にならぬほど、会場は驚くほどの超満員で熱気に溢れている。格闘技を観に会場に足を運ぶのは、つまりはこの熱気を吸いたいがためであり、この時点で興行の成功は約束されている。

それにしても、席を埋めつくした格闘技会場で、ひさびさに見る満員の観客は不良ばかりだ。とくに目立つのは、金髪の髪の毛を高々と盛った"ガゼンツヨメ"な女子たち。本誌でもおなじみ、菊池成孔さんの横にも、巨乳のガゼンツヨメな女子が暗い会場にもかかわらず、テレビバエのような巨大なサングラスをかけて、座っている。しかし、会場を埋めつくした観客は、不良の横のつながりの強さがもたらしたのは間違いない。

そして、この日の大会コンセプトが最高にイカしている。"在日アメリカ軍vs日本のヤンキー"。漫画みたいどころか、こんな漫画があったら読んでみたい。このナショナリズムが刺激されるご時世にぴったりのテーマで、会場はまさにヒートアップ&ヘイトアップ! こっちも熱くなったが、よくよく冷静になってみれば、外国人vs日本人なんて普通のことだ。なのに、言葉一つで違ったものに見えてしまう。

またこの日行なわれたもう一つの対抗戦、ZST vs OUTSIDERの結果でもハッキリした通り、OUTSIDERの選手の実力はそれほど高くない。にもかかわらず、あれほど人を集めて、あれほど熱気のある大会を作り上げてしまう。さすが前田の興行マジックだと、感嘆するばかりだ。

あのPPVで観ていて悲しくなるばかりだった、本当にどーしよーもなかった前回大会のDREAM(なーにがドリームだよ!)と比べると、何が違うのか考えてしまう。選手の質は、当然はるかにDREAMが上なのに。DREAMの前にOUTSIDERというコロンブスの卵が、敢然と立ったように見える。

最後に、この日『OUTSIDER』で、前田の興行マジックが最高に冴え渡った瞬間は、「パワーホール」に乗って、あの長州力が花道を入場してきた瞬間だ。

このときばかりは、満員の不良から大長州コールが沸き起こり、僕たち非不良と同じ物を共有できた瞬間だった。

今月の本誌特集の一つは入場テーマ曲だそうだ。『OUTSUDER』はアマチュアの大会であり、そんな彼らに入場曲に乗って花道を歩く、格闘技ファンが誰しも抱く夢をかなえてあげている、と旗揚げのときから感じていた。だから、多少のことは、しょーがねーなと目をつぶって見ることができた。そのなかで、年季が入ったプロの入場を見せつけた、革命戦士であった。

これはプロレスの枠を超えた試合なのか――



元若麒麟デビュー戦
鈴川真一vsマーク・コールマンで何が起こったのか？

ズンドコで
おなじみ

IGFで事件勃発！


まさに一寸先はハプニング！ われらが愛しのズンドコ団体、IGFで事件勃発!!
9.25『GENOME13』での鈴川のデビュー戦が、コールマンの戦意喪失によるTKO負けという不可解決着となったのだ。
そこで今回の震源地である鈴川とIGFの宮戸優光GMに直撃取材を敢行！ 迷わず聞けよ、聞けばわかるさ!?

――いやぁ、鈴川さん！　プロレス転向第一戦は凄いインパクトでしたよ！

鈴川　練習してたら自然に体重も落ちましたからね。俺とコールマン、どっちが大

ましたけど？

よね。



「俺が〝新暴走王〟だ」

オールドスクールには理解不能!?
ブランニュースクールで規格外な
ゲノムファイターが誕生だメ〜ン！

※事情により練マザファッカーについては聞いておりません。お察しくださいメ〜ン。

元前頭・若麒麟
鈴川真一

プロレスデビュー戦で超ド級のインパクトを残した元若麒麟こと鈴川真一。この驚異の新人にマーク・コールマン戦、そしてあの大麻事件について直撃！ はたして角界の枠に収まらなかった男は、プロレスの枠をも超えようとする暴走王なのか!?

聞き手／鈴木佑　試合写真／平工幸雄

──いやぁ、鈴川さん！ プロレス転向第一戦は凄いインパクトでしたよ！

鈴川 そうですか？ べつに自分じゃ驚くようなアレじゃなかったですけど。

──大物感たっぷりですね〜。緊張とかしなかったですか？

鈴川 まったくしなかったですよ。してたとしても、いい緊張程度でガチガチになるほどじゃないし。まぁ、とにかく試合に関しては「何が起こっても負けられねぇ」っていう気持ちでしたよね。首を絞められて落ちても、腕や脚が折られても絶対に負けないっていうのを頭に入れてましたから。

──相手がMMAのビッグネームであるマーク・コールマンでも関係ない、と？

鈴川 だって、相手はどんどんフラフラになっていって、こっちを見るのも精一杯でしたからね。タックルも勢いがなかったんで、「あぁ、コイツ限界だな」って。途中で完全に心が折れてたでしょ？

──試合中にタイムポーズしてましたからね。対する鈴川さんは気合充分で。

鈴川 こっちは試合が決まってから2ヵ月ぐらい一滴も酒を飲まず、食事も考えて節制してきたんですよ。だから、コールマンが前夜祭で酒をガブガブ飲んでたのを見てホント、カチンときたんですよね。「日本人、ナメんな」って話で。

──お酒を飲んでたことにだいぶご立腹みたいですね（笑）。ちなみに鈴川さんもアルコールはお好きだったりしますか？

鈴川 あぁ、もうガンガンいきますよ。チヨンマゲあるときはごっつぁん三昧でしたから（笑）。でも、プロレスに転向してからは飲む量も食う量も変わりましたね。

──リング上の姿は元相撲取りとは思えなかったですよ。

鈴川 練習してたら自然に体重も落ちましたからね。俺とコールマン、どっちが大きかったですか？

──鈴川さんのほうが若干大きく見えましたかね。

鈴川 そうですか、フフフ（満足げに）。

──で、一部ではあの試合が「プロレスの枠を超えた試合なんじゃないか？」って声もあるんですよ。

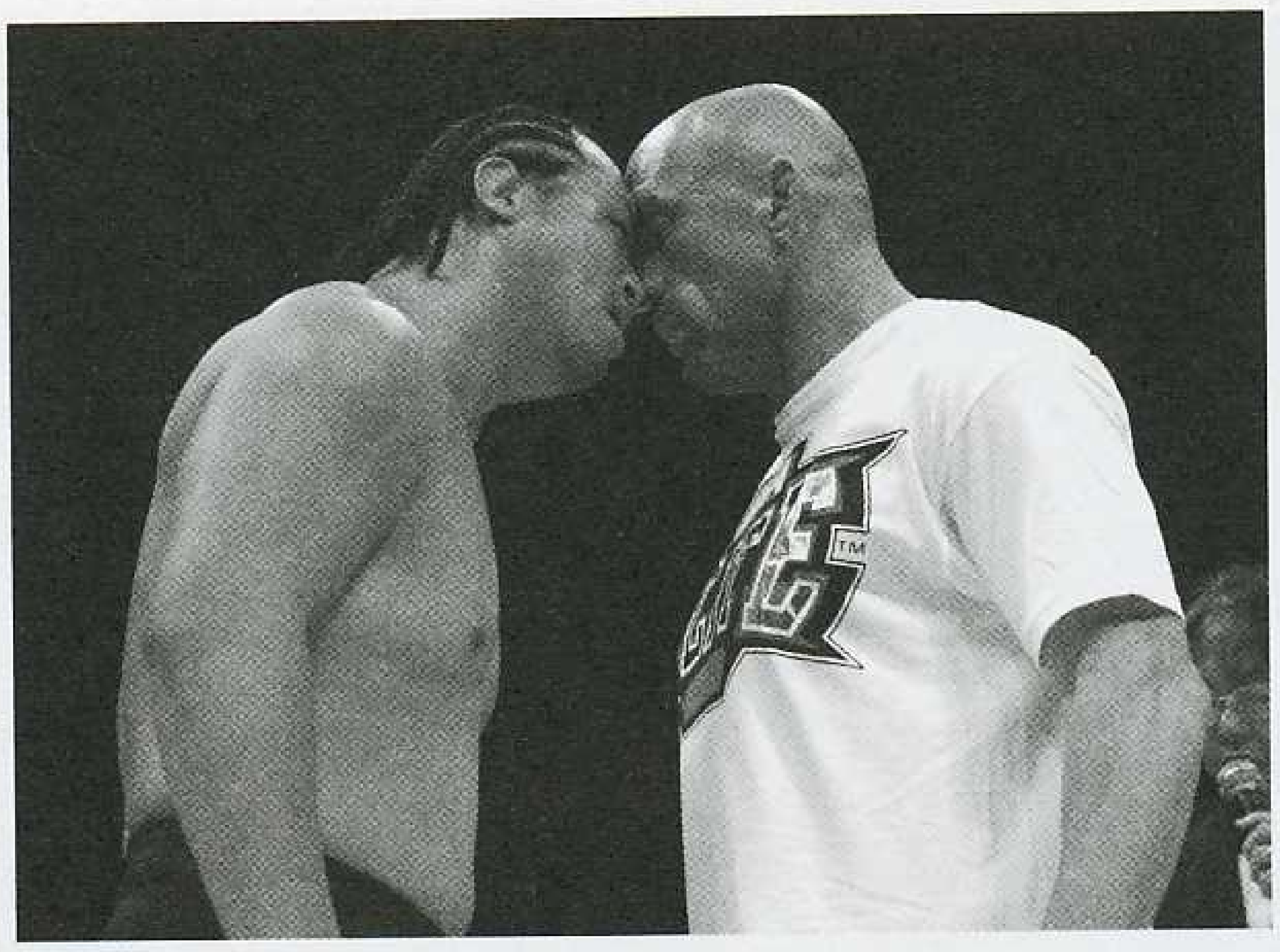
鈴川 いや、あれが俺にとってのプロレスですよ。飛んだり跳ねたりで闘いのないプロレスなんて、俺にはできないですから。あれが俺のプロレスです（キッパリ）。

──なるほど。そもそもコールマンが相手に決まったのを聞いたときの印象は？

鈴川 いや、ホントに申し訳ないんですけど、コールマンのことはほとんど知らなかったんですよ。

──え、ホントですか？ 「ちっちゃい頃はリスペクトしてた」って試合後に言ってましたけど？

鈴川 ……言ってましたっけ？（笑）。いや、UFCは知ってたんですけど、コールマンがそこのチャンピオンだったってことは知らなくて。大会2週間前に試合が決まってから、ネットで調べて「あ、この人か」って思ったくらいで。まぁ、何も知らなかったのも気負わずに済んでよかったんじゃないですかね。



[10.9.25 GENOME13] 東京・JCBホール
○鈴川真一 vs マーク・コールマン×
(11分58秒 TKO)
鈴川はコールマンのグラウンドに引き込まれることなく、必殺のマーダービンタで一気呵成に押しまくり! 結果、戦意喪失したコールマンは試合放棄でTKO負けに。コールマンが試合中、リングサイドのアントンに戸惑いの視線を送っていたのが気になったが……。

──試合では公開練習で披露したマーダービンタが猛威を振るってました。

鈴川 でも、もっと殺傷能力のあるビンタを打てたと思うんですよ。ああいう勝ち方はできましたけど、もしかしたらまだデビュー戦は早かったかもしれないかなって。まだまだ甘いですね。

──猪木さんから試合後に声はかけてもらいましたか？

鈴川 「オメエ、やるじゃねぇか」って言ってもらえましたね。あとは藤波さんや佐山さん、藤原組長とかもの凄い先輩の方々にも「よかったぞ、頑張れよ」って声をかけてもらいました。

──昭和のレスラーたちにお墨つきをもらったわけですね。いまはずっと宮戸さんのスネークピットで練習を？

鈴川 そうですね、今年の5月ぐらいから。基本的には毎日レスリングのスパーリング中心で、あとはまだ少しですけど大江（慎二）さんに打撃も教えてもらったり、出稽古に来たタカ・クノウさんに関節技を習ったり。

──練習も相撲時代とは勝手が違いますよね。

鈴川 まぁ、でも相撲にも関節技はありますからね。差し合いからカンヌキで極めたり。小手投げで相手のヒジを折っちゃったこともありましたから。俺、相手を壊すことが好きだったんですよ（ニヤリ）。

──相手を壊すことが好き！

鈴川 相撲時代は壊し屋って言われてましたから。俺、突っ張りが得意だったんですけど、あれって相手を凄く傷つけるんですよね。指は目に入るし、口は切れちゃうし。でも、その返り血を浴びるとニヤッてなるんですよ。それを見て引いてるヤツがいたらゾクっとするし（うれしそうに）。

──そ、そうですか……（汗）。その相撲時代のことをちょっと聞きたいんですが、そもそも角界入りした経緯というと？

鈴川 最初はスカウトです。元大関の千代大海っていたじゃないですか？ あの人って昔は相当ヤンチャだったんですけど、相撲を始めてあそこまでの地位に成り上がったんですよ。俺もヤンチャしてたし、どうせやるなら千代大海みたいになりたいなって思って。

──鈴川さんは小さい頃からヤンチャだったんですか？

鈴川 問題児でしたね。身体が大きくて頭も悪かったし。でも、部屋に入った当初は一気に痩せましたよ。やっぱりハンパな世界じゃなかったんで。

──相当厳しいって言いますもんね。

鈴川 いやもう、ヤ○ザの組じゃないかってくらい規律は凄いですよ。ウソみたい

試合後に猪木さんには「オメエ、やるじゃねぇか」って言われました

「俺が〝新暴走王〟だ」

な説教とかありますしね。まぁ、最初はやられてあたりまえだし、それに耐えないと強くなれないですから。

——ちなみに鈴川さんは逆に後輩に〝かわいがり〟とかは？

鈴川　まぁ、そのへんはボチボチ、ね（ニヤリ）。

——なるほど（笑）。相撲界からは総合やプロレスに転向した力士が何人かいましたけど、注目はしてました？

鈴川　いや、まったく興味なかったですね。じつは俺、プロレスとか格闘技って全然知らなかったんですよ。宮戸さんのところに来るようになってから、毎日寝る前に猪木さんの昔の試合映像を観て勉強してるんですけどね。

——でも、周りの関取衆でそういうのが好きな人もいたんじゃないですか？

鈴川　そういう人はだいたい血の気が多くて面倒なんで、あんまり関わらないようにしてました（笑）。だいたいK－1とかPRIDEが人気だった頃は俺もまだ下っ端だったから、テレビを観る自由なんかないんですよ。相撲の世界じゃ自由になるのは関取になってからなんで。

——何か息抜きはあったんですか？

鈴川　何して遊んでたかな……。まぁ、逮捕につながるようなことですよ（笑）。

——ダハハハ！　聞きにくいことをご自分から振っていただいて（笑）。で、大麻取締法違反で逮捕された件なんですけど、心境的には〝後悔〟の二文字ですか？

鈴川　まぁ、後悔というよりもいい勉強になりましたよね。「捕まっておいて何がいい勉強だ」って、わかってもらえない人もいますけど。

——いい勉強というのは具体的には？

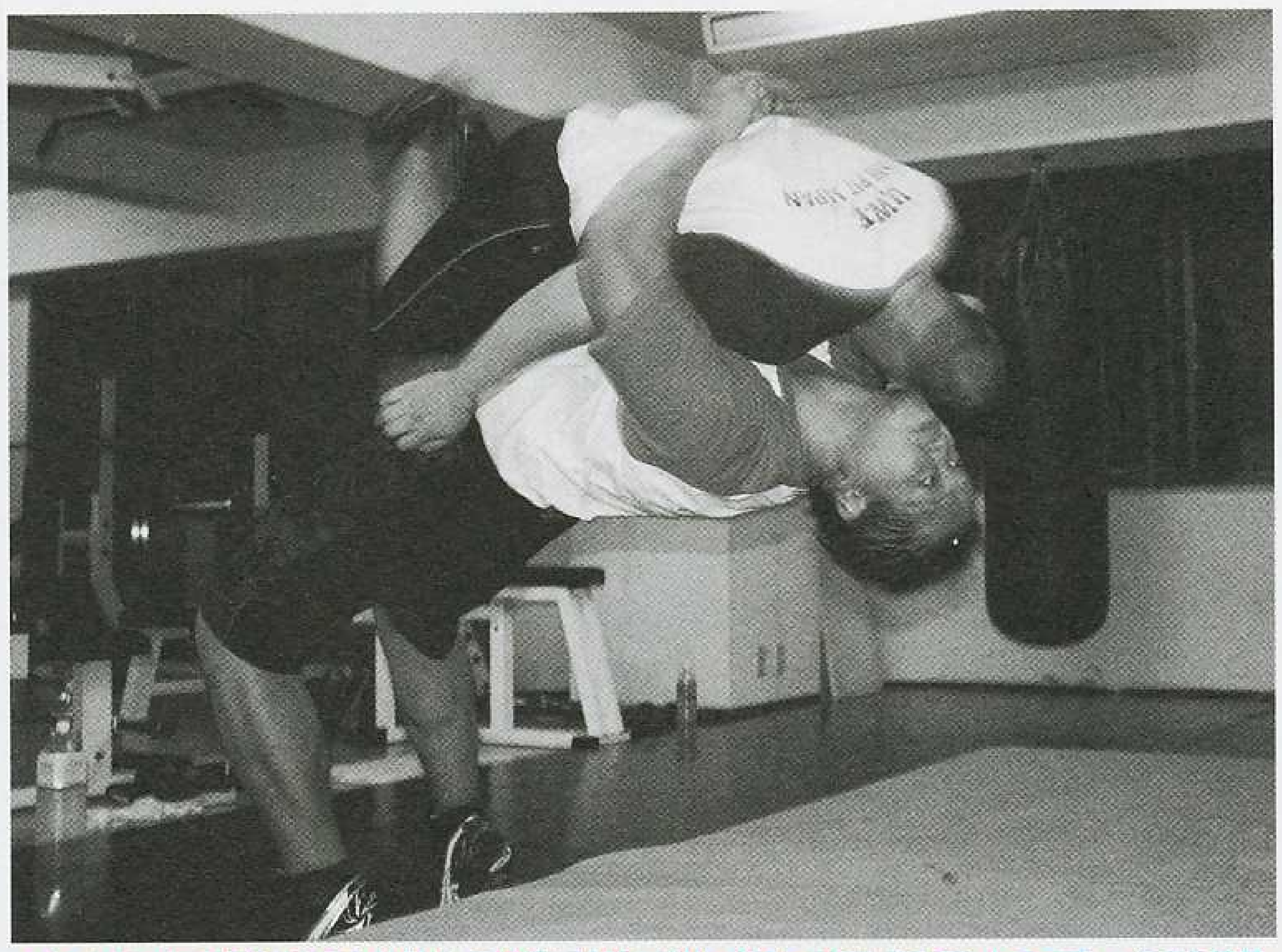
鈴川　人殺しをしたわけじゃないですけど、やっぱり今後の身の振り方が変わってくることをやっちゃいましたから。でも、もともと相撲はずっとやっていくスポーツでもないし、捕まってなかったら猪木さんにも出会ってないし。

——留置場の中ではどんなことを考えてました？

鈴川　う〜ん……、とにかくメシがまずい（キッパリ）。

——あ、そういうこと（笑）。

鈴川　おそろしくしょっぱい魚を食わされるんですよ！　なんの魚かわからないですけど。それで毎日冷や飯だから、5日に一回だけ配給されるヌルい味噌汁ですら温かく感じて。「こんなモン食えねえよ」と思いながらも、食うしかないですからね。部屋も二人部屋で狭かったなぁ……（しみじみと）。



スネークピットで猛練習に励む鈴川は、取材時に強靱なブリッジワークによるフロントスープレックスを披露。
ぜひとも往年のゲーリー・オブライトばりのスープレックスをリング上で見せてほしい!

——え〜と、反省はされてるんですよね？

鈴川　だから「日本の法律を守りましょう」ってことですよね。そこは凄く反省してますよ。やっぱり身内に心配かけましたから。父ちゃんが保釈に立ち会ったり、相撲協会にかけあってくれたり。それをマスコミに撮られるわけだし、親にしてみたら具合悪くなるような話ですよね。そういう思いをさせちゃったんだから、これからは親に笑ってもらえるようなことをしないと。

——親孝行をする、と。

鈴川　この事件で俺のそばから離れていったヤツもゴロゴロいますけど、それはかたちだけで付き合ってた人間をふるいにかけたと思ってるんで。もちろん、俺がまいた種だからしょうがないですけどね。まぁ、いい経験ができましたよ。

——保釈後は実家に帰ったそうですけど、そのときはこれからについてどう考えてました？

鈴川　いろいろ考えましたよ。実家は料理屋やってるんですけど、俺はまだ若いし動けるし、汗を流すような仕事をしたかったんで。それで総合格闘技とかキックボクシングをやりたいなとも思ったんですけど、担当の弁護士から「行きつけの店に猪木さんが来てるので、もしよかったら一度来ないか？」っていう話をもらったんですよ。それからIGFを観に行って。

——ちなみに猪木さんのことはさすがに知ってましたよね？

鈴川　そりゃ知ってますよ！　世界のアントニオ猪木ですから。というか、たまたま実家に帰ったときに、猪木さんが若い頃から出世するまでを描いたマンガを読ん

元若麒麟と愉快な仲間たち 試合後の鈴川のコメント（一部抜粋）

——宣言どおり、マーダービンタが出たが？

鈴川　向こうはちょっと叩いただけで、何コレ？（コールマンのタイムポーズをマネながら）。休憩？　やる気ないんだったら帰ったらいいじゃん（ニヤリ）。

——心が折れた感じだったか？

鈴川　ね、折れてましたね。俺もこんなちっちゃいときからリスペクトしてたんですけどね、がっかりしましたね。俺は試合やるまで酒とか全然飲んでなかったし。昨日もコールマン、前夜祭でこんな大事な試合があるのわかってるのに、観光気分で来てるから酒飲んで、この結果じゃないですか？

（練マザファッカーのボスキャラ、D・Oが割り込んでくる）

D・O　浮かれてたから足もとすくわれただけだぜメ〜ン。コイツが**真の闘魂のしんしよ、げん、あの、真の！、闘魂の伝道者だから！**（カミカミながらもなんとか言いきる）。

鈴川　見えないと思うけど闘魂あるから（と、発達した背中をカメラに見せつけると、「あるね〜」「間違いない」と口々にするラッパーの人たち）。

D・O　ヤツがオールドスクールすぎたってだけでしょ。こっちは**ブランニュースクールメ〜ン。要チェックメ〜ン。ディス、イズ鈴川真一、ユー、ノウ？**」

——土俵とリングの違いは？

鈴川　両国と会場のかたちも違うし、リングとお客さんの席が凄い近い。凄い力をもらえます。

D・O　コイツの仲間は今日300人来てるぜ。それがストリートで生きてきた証って話、ホンモノだってそういう証拠、**ユー、ノウ？**」

鈴川　（猪木）会長が手を差しのべてくれなかったら、このリングにも立てなかったですからね。今日もみんな闘魂カラーで、俺らの仲間。

でたんですよ。それで猪木さんとプロレ

鈴川　いや、全然おもしろくないじゃない

言われ始めてますね。

D・O　こいつが命懸けで闘魂背負ってそう

留置場の中で考えたことですか？とにかくメシがまずい！（キッパリ）

でたんですよ。それで猪木さんとプロレスに俄然興味が湧いてきてたんで。

――それからIGFを観戦してプロレス入りを決めたわけですか？

鈴川 いや、観に行った時点ではハッキリ決めてなかったんですけど、そのあとIGFの事務所に行ったら猪木さんに「いい身体してんじゃねえか。オメエはどうしたいんだい？」って言われたんですよ。それで思わず「プロレスをやりたいんです」って伝えたら、「よし、行けばわかるさ！」って言ってもらって（笑）。

――おぉ、かの有名なフレーズを（笑）。

鈴川 「ええっ!?」って思いましたね（笑）。それで「もうこりゃ、行くしかねえな」って。そうやって猪木会長は僕にチャンスをくれたんです。

――ちなみに鈴川さんは総合格闘技よりもプロレスのほうに興味が？

鈴川 コールマンとの試合がそうですけど、俺のやってるプロレスって、そこらの飛んだり跳ねたりのプロレスと全然違うじゃないですか？ やっぱり闘いを見せたいんですよね。

――そういう意味で、IGFで気になった選手はいました？

鈴川 いや、いなかったですねぇ（平然と）。

――そうですか（笑）。たとえば小川直也さんは？

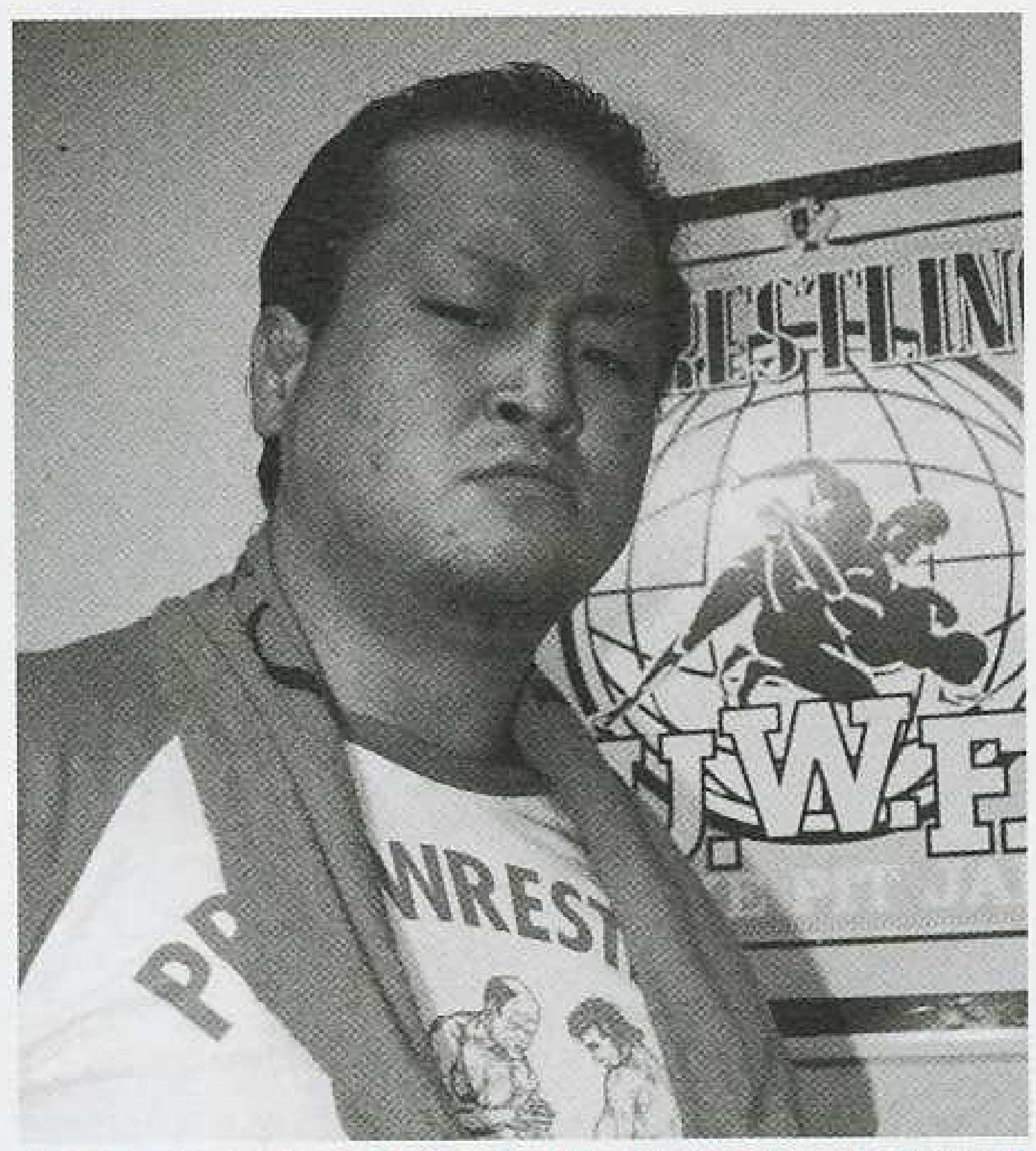
鈴川 あの、まったくおもしろくないんですよ、小川さんの試合って（キッパリ）。

――ダハハハ！

鈴川 いや、全然おもしろくないじゃないですか？ リングの外で吠えてるだけで。橋本真也さんとやり合ってた頃はカッコよかったですけどね。まぁ、IGFを観て気になったのは定アキラ選手ですかね。

――ほぉ、16歳のゲノムファイターですね。どこが気になりましたか？

鈴川 やっぱり気迫が凄かったですよ。名前ばっかで気迫が見えないレスラーとは違うな、闘ってるなって。それでどこの選手だと思ったらスネークピット所属だったんで、「ここに行けば強くなれる」って



すずかわ・しんいち■1983年9月21日、兵庫県出身。中学卒業と同時に押尾川部屋に入門、若麒麟のシコ名で前頭9枚目まで昇進をはたす。09年1月に大麻取締法違反の現行犯で逮捕、力士を廃業。その後、プロレス転向を表明し、9.25『GENOME13』でデビュー。好きな音楽のジャンルはヒップホップだメ～ン。186cm、137kg。

思って。

――前座の試合に闘いを感じたというのはおもしろいですね。

鈴川 一番下が一番迫力ありましたよ。小川さんに迫力は感じなかった。

――小川さんは暴走王って呼ばれてますけど、いまは鈴川さんが〝新暴走王〟って言われ始めてますね。

鈴川 なんか、小川さんはIGFと距離を置いてるみたいなんで、どうせなら暴走王の枠は僕がいただきますよ（ニヤリ）。

――12月の両国大会ではヘビー級トーナメントが開催されますけど興味は？

鈴川 もちろん。だって2億円のベルトですよ？ 新人とか関係なくブチかましてやりますよ。それに両国はひさびさですからね。僕は協会から追放されてるから、相撲を観に行くこともできないんで。

――やっぱり感慨深いものですか？

鈴川 うん、逮捕のときは両国なんて絶対帰ってこれないと思ってましたから。ホント自分の人生、おもしろいことになってきましたよね。やっぱり強さを追い求めていきたいですよ。こういう世界にいると「やらないとやられる」っていうのが凄くあるんで、相手に何も言わせないぐらいの圧力をかけていかないと。

――いまは誰と試合をしたいですか？

鈴川 ちょっと前に新聞で猪木会長が「IGFに石井慧が上がるなら鈴川をあてる」って出てましたよね。まぁ、石井慧には「こっちに来るなら気をつけろよ」って言いたいですよ（ニヤリ）。

――頼もしいですね～。あ、あと最後に聞きたいんですけど、試合のときの髪型に驚いたんですよ（笑）。

鈴川 あぁ（笑）。チョンマゲもそうですけど、ああやって髪を詰め上げると気が引き締まるんですよね。

――ああいう髪型は初めてですよね？

鈴川 いや、相撲を辞めたら即行でドレッドにしてましたよ（ケロッと）。

――そうですか（笑）。やっぱり鈴川さんは規格外ですね、今後も注目してます！

【10年10月4日／都内・UWFスネークピットジャパンにて収録】

D・O こいつが命懸けで闘魂背負ってそう言ってっからさ、**間違いないって話**（「イエー」と口々にするラッパーの人たち。ファッ〇ユーポーズとピースサインを決める鈴川）。

――次の大会は12月3日だが？

鈴川 どこでやるんですか？ 両国だ。ぜひ出れたらいいですね。原点だしね。誰が出るんですか？

――まだ具体的には決まってないが。

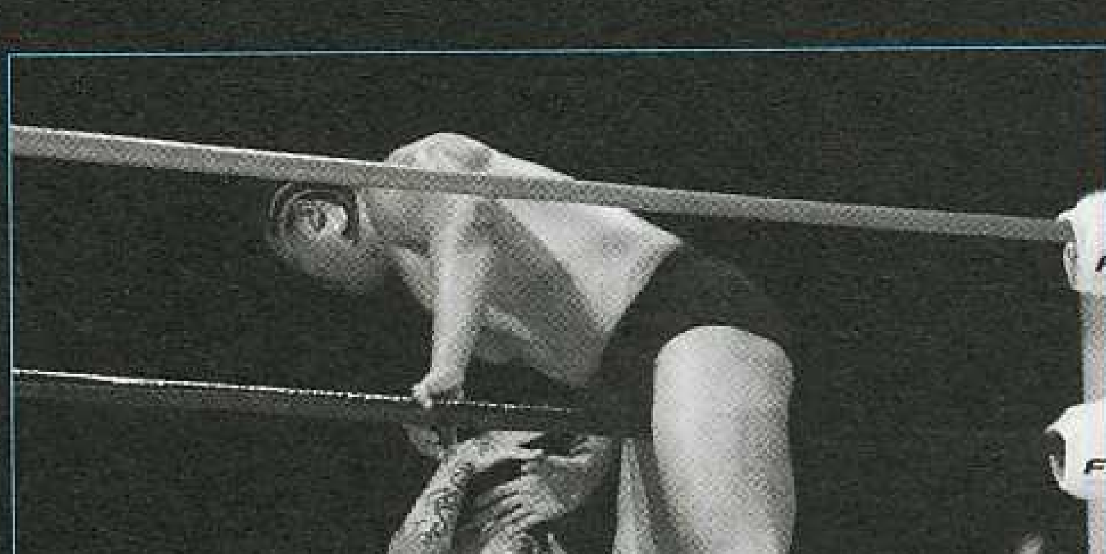
D・O 誰だって関係ねーけど、もっとつえーヤツ呼んでこいって話でしょ！（「間違いねー！」「弱すぎんだろ、今日の相手！」と口々にするラッパーの人たち）。

鈴川 日本人、ナメるなって。

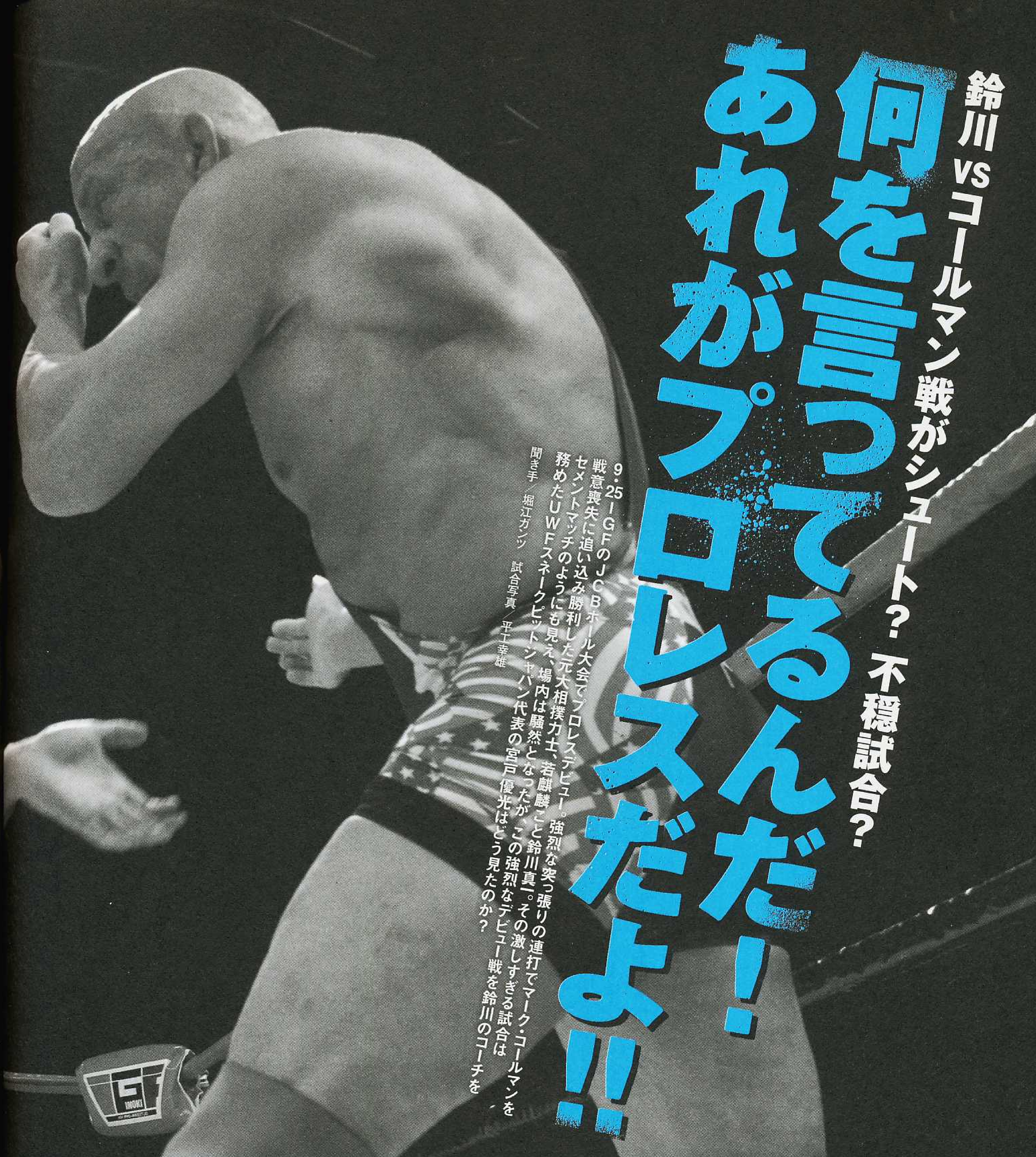
D・O 日本人、わからせただろ！ 行こうぜ、おまえ、疲れてんだろ？（カメラに向かって）**いいかげんにしやがれメ～ン**。撮りすぎだろ！

ラッパーの人 イエ～、**鈴川、真一、〇×※△＊#&!**（カッコよくシャウトするが何言ってんだか聞き取れない）。

D・O これから日本のプロレス界を背負うのはコイツだよ、闘魂背負うのがコイツだよ、伝承者がコイツだよ、コイツがリアルなんだよ、**ビッチ！**（今度は噛まずに一気にまくしたてる）。



試合後に鈴川の労をねぎらうようにD.O.は固い握手。IGFに舞い込んだ珍客、次回以降もご登場いただきたいものだメ～ン。



鈴川vsコールマン戦がシュート？ 不穏試合？

何を言ってるんだ！ あれがプロレスだよ!!

9・25 IGFのJCBホール大会でプロレスデビュー。強烈な突っ張りの連打でマーク・コールマンを戦意喪失に追い込み勝利した元大相撲力士、若麒麟こと鈴川真一。その激しすぎる試合はセメントマッチのようにも見え、場内は騒然となったが、この強烈なデビュー戦を鈴川のコーチを務めたUWFスネークピットジャパン代表の宮戸優光はどう見たのか？

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／平工幸雄

――宮戸さんは鈴川選手をデビューまで指導されていたわけですけど、率直にデビュー戦を観た感想はいかがでしたか？

宮戸　まあ、練習期間が実質、4カ月間くらいしかなかったわけですから、そういうなかでよく頑張ってくれたんじゃないかと思います。僕もIGFに来てから2年経ちましたけど、猪木会長の選手個人に対しての「よく頑張った」という言葉は、初めて聞いたような気がしますからね。

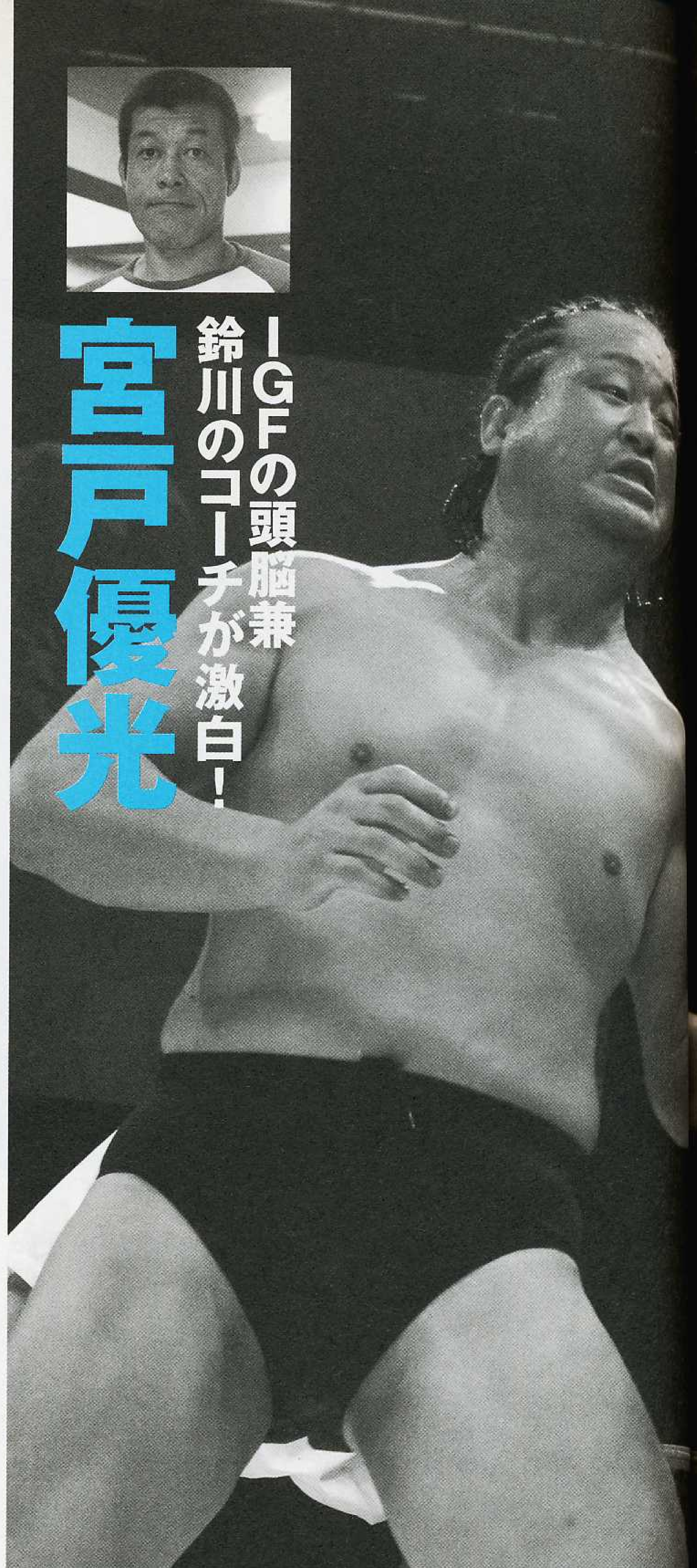
――猪木さんがこの2年で初めて「よく頑張った」と認めたのが、鈴川選手の試合だった、と。

宮戸　ただそれはデビュー戦だからこその評価だとは思いますよ。もちろん、一人前のレスラーとしていい試合だったとか、メインイベンターとしていい試合ができたという意味じゃないと思う。でも、たった4カ月の準備期間で、全盛期の力はないとはいえキャリアに勝るコールマンに対してあれだけできた。へばっちゃったのも相手のほうだったし。最後まで気持ちが折れなかったことはよかったと思いますね。

――そもそもレスリングは4カ月で身につくもんじゃないですからね。

宮戸　そうなんです。ホントに一から、一般の練習生と同じ内容から一緒にやりましたから。相撲からレスリングへの肉体改造をして、もちろん最中ですけどレスリングの基礎の基礎から、打撃までやらせる。これが猪木会長からの指令でしたし、本当にキツかったと思います。

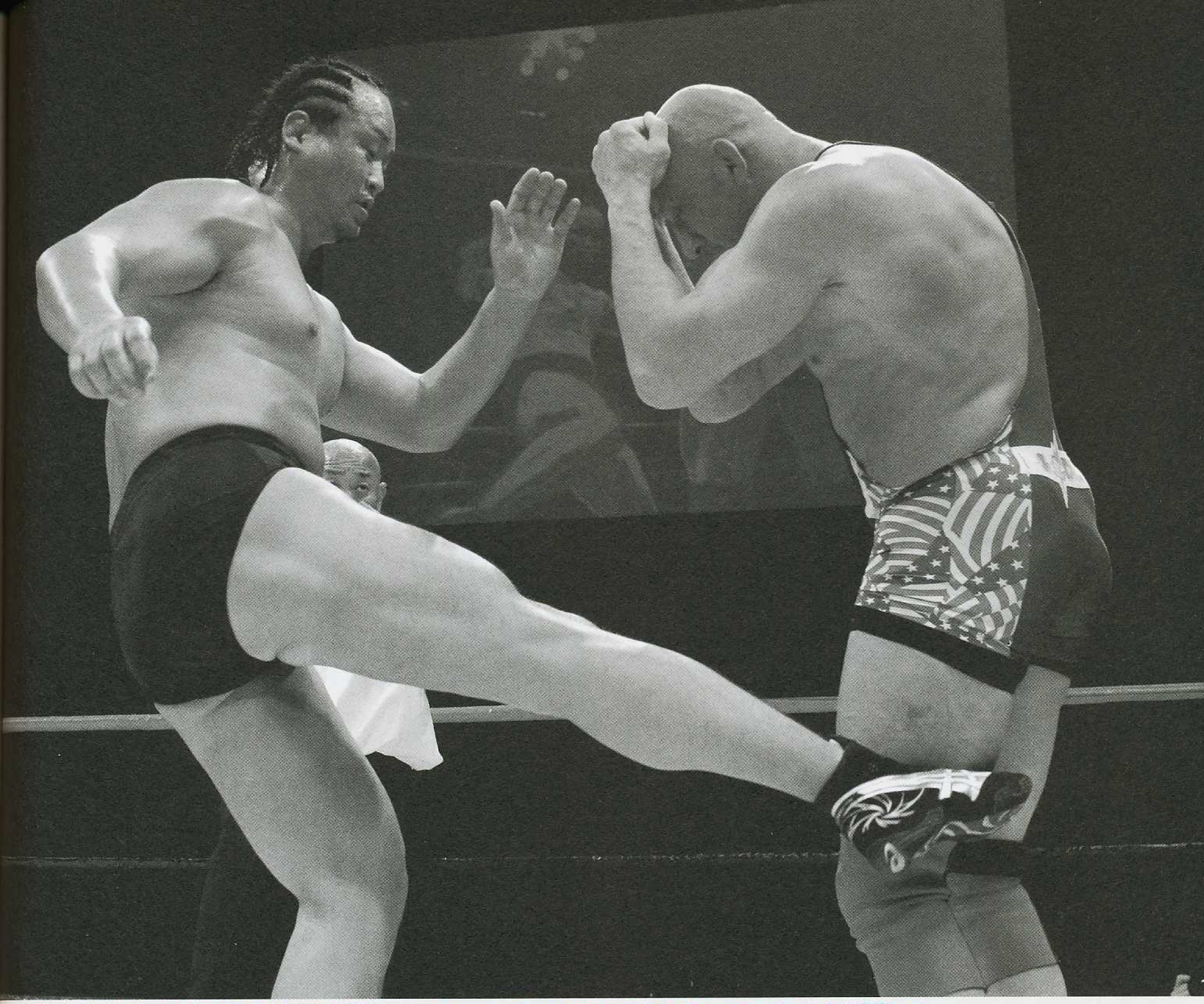
――大相撲である程度の地位までいった人で、ホントに一から始めた人



IGFの頭脳兼鈴川のコーチが激白!

宮戸優光

ってなかなかいませんよね。
宮戸　そうでしょ? 鈴川選手はそれこそ足の運動(スクワット)から始まり、スパーリングではラッパ吹かされながらやってましたからね。
——いまの時代、「プロレスデビュー」というと、いわゆる〝プロレスの型〟と、最低限の受け身を教えるくらいだったりするじゃないですか。
宮戸　(大きな声で)なんですか、それ? そんなのはプロレスじゃないですから! そんなものは「プロレスの練習」じゃない! でも、堀江さんからそういう言葉が出るってことは、よそが〝プロレスの練習じゃないこと〟をやってるなかで、〝本当のプロレスの練習〟を一からやったということでしょうね。
——それがいまの時代だと新鮮だったし、かつての〝プロレス〟を思い出させてくれる感じでしたね。
宮戸　ただ、まだ30パーセントの仕上がり、力でしかないと思いますから。その段階でああいう結果、内容で頑張ったんだから、今後が楽しみだし。素材としては、やっぱりいいものを持っているということですよね。
——鈴川選手は大相撲というメジャーな舞台から来たルーキーですけど、プロレスをまったくナメてない感じは伝わってきました。
宮戸　それは練習の時点で簡単なものじゃないことはわかっただろうし、練習も試合も必死でしたよね。
——宮戸さんも他競技で実績がある人を指導するにあたって、プロレスを甘く見させないというのは、一つのテーマだったんじゃないですか?
宮戸　いや、練習をやってみれば、甘く見れるわけがないんだから。実際に基礎練習やレスリングのスパーリングをやれば、16歳の(定)アキラや鈴木(秀樹)といった前座の選手の下になってやられるわけだから。そりゃ、相撲で培った力はあっても、身体で味わいますよね。ただ、そういうなかで彼がリングで出した力というのは、ナメてるとか、ナメてないというよりも、彼の本番での資質というか、必死さだと思うんですよ。「俺はこの道で頑張らなきゃいけない」「ここで負けたくない、勝ちたい」という思いがそのまま出たんだと思う。それが彼の本来の姿だと思うし。みんな若手のときはそうじゃないですか。必死でがむしゃらでしょ? そういう意味では、デビュー戦にふさわしいがむしゃらさが出ていたと思いますよ。
——ああいうがむしゃらなデビュー戦というのもひさしぶりに感じますよ。うまくやろうなんて思ってない。ただ、相手を倒すことに必死になってるっていうのは。
宮戸　だから猪木会長の合格も出たわけですけど、それだけじゃないんですよね。やっぱり彼が出した張り手、「マーダービンタ」っていう名前をつけてましたけど、あの張り手っていうのは、長年、相撲の世界でテッポウで、手のひらを石のように鍛えただけの威力がありましたよ。それから、あの動じない勝負度胸。あれはさすがキャリア……〝プロ〟だなって思いました。
——相撲というプロの世界でのし上がってきた人ですからね。
宮戸　やはり相撲というメジャーな世界で、幕内まで上がってきた人間でしょ? しかも、衰えてダメになって来たのとは違うから。相撲の現役バリバリで来た人なんて、なかなかいないんじゃないですか?
——では、あらためて力士の強さみたいなものも見えましたか?
宮戸　僕が指導したのは一人だけだから、全体のことは言えないけど、それは両方が見えましたね。お相撲さんの強さとレスリングに向きにくい部分が。だから、苦手な部分を修正しながら、お相撲さんの強さを活かすことがこの4カ月、そして今後のテーマです。ただ今回はプロレスリングのデビュー戦ではあったけど、〝プロデビュー〟ではないわけだからね。
——大相撲という厳しい世界で、プロのキャリアが充分ありますもんね。
宮戸　やっぱりプロで10年以上、しかもメジャーな世界で上位に食い込んでやってきた実績はダテじゃないのは感じましたよ。だから〝お相撲さん〟というより、プロの一線級の図太さというのかな。あと華も感じましたね。練習場では彼、意外に地味に見えますけど、リングに上がったときのあの存在感は、さすが長年プロでやってきたオーラを感じましたよ。堀江さんも感じませんでした?
——やっぱり同じ他競技からの転向組と比べても、アマチュア競技から来た人とはちょっと違いましたね。
宮戸　全然違ったでしょ? いまの総合の選手にありがちな雰囲気は全然なかったし、柔道からの選手なんかと比べても、やっぱりプロの匂いがしましたよ。彼は10代から相撲の



相撲仕込みの突っ張り、通称「マーダービンタ」だけでなく、ローキックやヒザ蹴りなども繰り出していった鈴川。相撲出身ながらスタミナもあり、今後が期待される。

大相撲の世界で10年やってきたから これは〝プロデビュー〟じゃない！

世界に入って、幕内までいってるわけだから。精神的には全然デビュー戦じゃない。プロの図太さがありましたよ。

――だから、若いうちから〝ジャバ〟を離れて、プロの特殊で厳しい世界に入門することで、プロとしての人格が形成されるという。かつのプロレスラーに近いものを感じましたね。

宮戸　そうですよね！　前にも話したじゃないですか。若いうちからずっとこの世界でプロとして鍛えられた人間と、総合も含めたいまの同好会的に練習してる子とではオーラや匂いが違うって。やっぱり鈴川選手はプロの雰囲気を持ってましたよ。

――いまってプロレスが誰にでもできるもののように思われていて、芸能人でもなんでもリングに上げて、それで「プロレスデビュー」と言ってしまう時代じゃないですか。そういうものとは当然違う、本来のプロレスデビューを見た気もします。

宮戸　違うに決まってるじゃない！　そういう人たちは、さっきの話を聞いても「プロレスの練習」なんてしてないじゃない。だから、普通にちゃんとプロレスラーとしてデビューするための練習をしたのが珍しがられるんだから。いかにほかのものが「プロレス」じゃないかってことですよ！　あの日のデビュー戦を芸能人がやる自称プロレスと同じラインでしか語れないとしたら、目を疑うね。

――本来のプロレスを知らない人が増えてるんでしょうね。

宮戸　これが「プロレス」だって知らないんだよ！　じゃあ、彼はここでなんの稽古をしていたんだ、と。プロレスの稽古をしていたんですよ！　芸能人でもなんでも「プロレスデビュー」だとか言ってる人たちが、ここで練習してみろ、と。3日……いや、1日ももたないでしょう。

――いま「プロレスを教わる」とは「段取りを教わる」みたいに思われてる部分もありますから。

宮戸　何⁉　その段取りって！　それはもうプロレスじゃないじゃない‼（怒）。ここで教えてることが「プロレス」だから。そうじゃないものを僕は「プロレス」と呼ぶ気はないから！　どんなものにも「プロレス」と名前をつけて商売にしちゃうようなことは僕は信じられない。プロレスをやるためには、プロレスラーにならなきゃダメなんですよ！

――あと「プロレス」ということで言うと、今回のデビュー戦について、ネット上を中心にファンのあいだでちょっと話題になってるんですよ。

宮戸　どういうふうにですか？

――要はシュートを仕掛けたんじゃないのか、とか試合が壊れたんじゃないのかということなんですよ。でも、宮戸さんとしては、あの試合は「プロレス」なんですよね？

宮戸　プロレスですよ！　一つ言え

「プロレス」の解釈が僕や猪木会長とズレてる人には緊張が走ったでしょう

るのは、本当のプロレスというのはコンディションが悪くて、相手をナメていたら、いくらベテランとはいえ、新人にもやられてしまうということなんですよ。だから、あの日がまさしくそうでしょう。コールマンはプロレスの認識が甘かったのかもしれない。

——シュートも含むものがプロレスだということですよね。

宮戸 シュートだなんだと言うつもりはないですけど、コンディションができてなければヘバってしまう。いいのを一発もらったら負けてしまうこともある。それがプロレスのリングであり、そこで出た結果がすべてだから。

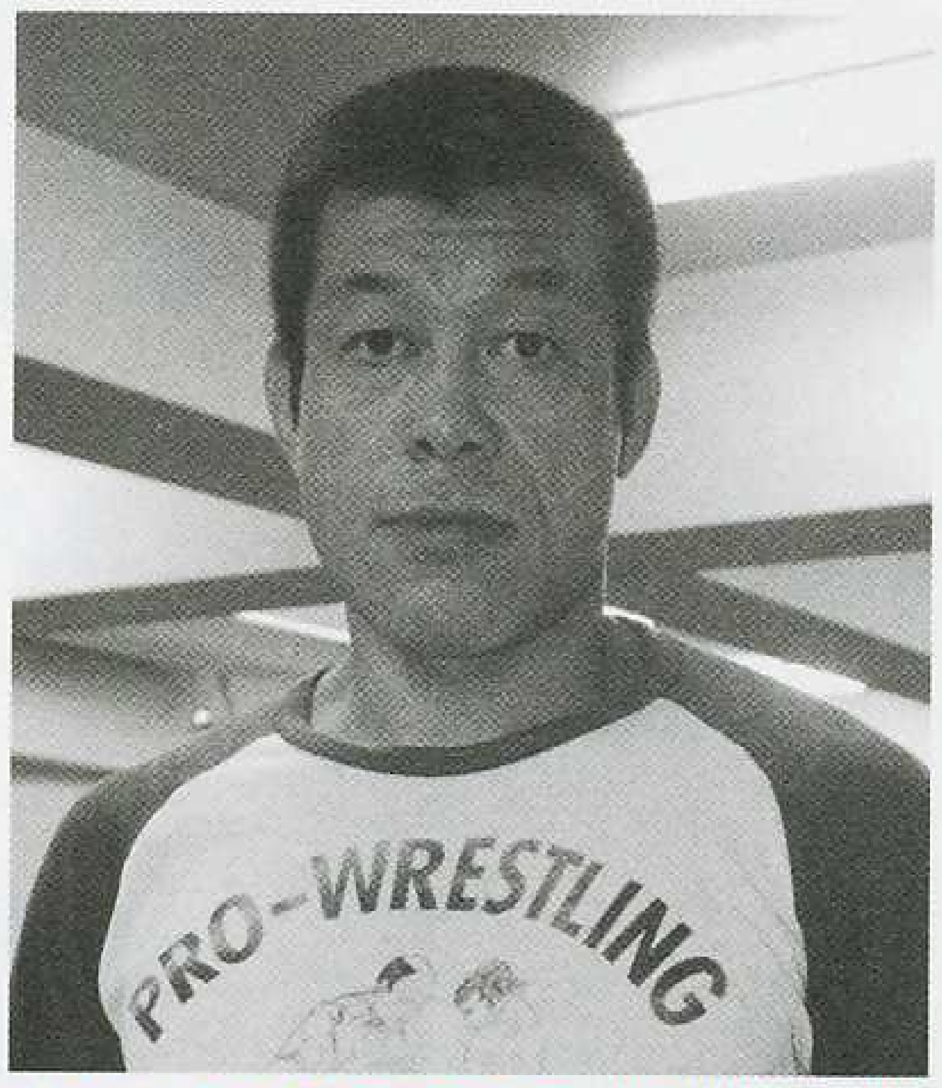
——でも、いまの変わってしまった「プロレス」という認識のなかでは、それは「ありえないもの」と思われてるんじゃないですか？

宮戸 いや、だからそんなものはプロレスじゃないから！　僕に言わせれば、ああいう試合というか、あの試合は本当に「プロレス」ですよ！　ただ、総合と違うことは間違いない。だってルールが違うんだから。グローブなし、3カウントピンフォール、そしてロープブレイクがある。だから総合のルールでやっていたら勝者と敗者が入れ替わっていたかもしれないけど、鈴川選手はまさしくそのルールで勝ったわけですよ。プロレスなんだから、それでいいんです。

——でも、最近のプロレスのなかでは凄く異質でしたよね？

宮戸 そんなこともないでしょう？　僕がIGFに来てから「前座から変える」と言ってきましたけど、これまでも前座はもっと激しい試合もあったし、それこそアキラのデビュー戦なんて本当に激しかったしね。

——スネークピットの選手を中心とした前座は、宮戸さんの言う本来のプロレスだったと思うんですよ。でも、中盤から上のほうの試合や、同じ格闘家出身者の試合でも上のほうの



みやと・ゆうこう■1963年6月4日、神奈川県出身。85年にUWFでデビュー。第二次UWFを経て、UWFインターでは"頭脳"と呼ばれ現場監督として手腕を発揮。95年にUインター退社後、UWFスネークピットジャパンを設立。08年よりIGFのゼネラル・マネージャーに就任した。

宮戸優光

試合なんかとはあきらかに違うじゃないですか。

宮戸 誰とは言わないけど、総合の人間がプロレスで闘うと、本気で闘ってないように見えるヤツがいるのは確かですよね。どんな競技であろうと本気でやらなきゃ、成功なんてできるわけがないんだから。そんなヤツは、どこに行っても「なーんだ」って言われちゃいますよ。

——だから「プロレス」というものへの認識の違いがあるような気がするんですよね。

宮戸 だからね、もし「プロレス」というものへの解釈が僕や猪木会長の考えとズレている人がいたら、やっぱり鈴川選手の試合を観て正直、緊張が走ったと思う。Uインター時代はレスラー全員いつも緊張していたけど、その緊張感というのは、2年前に僕が現場に戻ってきたときにはなくなっていたもの。だから、そういう意味で、あのリングサイドではひさしぶりに「プロレスの会場」にいる気がしましたよ。

——だから、よくこの時代にこういう選手が出てきたなって思います。

宮戸 何人かそういうふうに言ってくれましたけどね。

——やっぱり30代後半より若い人っていうのは、かつての昭和の新日本プロレスみたいなものは知らず、いまのプロレスしか知らないわけですから。

宮戸 みんな見方が斜めからになっちゃってるんですよね。ストレートに観てくれればいいのに、斜めから観るから、鈴川選手の試合を「プロレスじゃない」みたいに言う人が出てくるんですよ。

——でも、斜めから観た人でもビックリしたとは思いますよ。

宮戸 なるほどね。斜めから観てるから、どう解釈していいのか、逆に考えすぎちゃってるファンもいるかもしれない。あの試合は鈴川選手がプロレスルールで必死に闘って、コールマンに勝った試合。それだけですよ。

——宮戸さんからすると「これがプロレスだろう」と。以前からずっと言ってることですけどね。

宮戸 そう！　ずっと言ってること。それがプロレスだ、と！

——でも「プロレス」というものへの認識を変えていくというのは、時間がかかる作業ですよね？

宮戸 かかりますよ。僕はこの2年間、猪木会長の理想に少しでも近づけるようにと、前座から改革してるつもりですけど、もしメインイベンターがしょっぱかったら、そこだけですべてが評価されてしまう。でも、そこを下からくる若い人間が変えていくしかないんですよ。かつてUWFが出てきたとき、新日本の上の人たちみんな、その圧力で焦ってたじゃないですか。そうやってプロレスを変えていったわけでしょ？　第二次UWFも、船木さんたち若い人間が下から突き上げたわけですよ。それをやっていかなきゃ。上の人間はもうできあがってるから、なかなか変わることができない。やっぱり若い力しかないですよ。若い力、そこを信じて伸ばさないと。

——そういう意味でも新日本やUインター同様、道場が大事だったんでしょうね。身体を鍛えるだけじゃなく、若いレスラーにプロレスの精神を叩き込むという。

宮戸 そうなんです！　肉体や技だけじゃなくて、精神や理念からすり込んでいかなきゃ、道場じゃない！

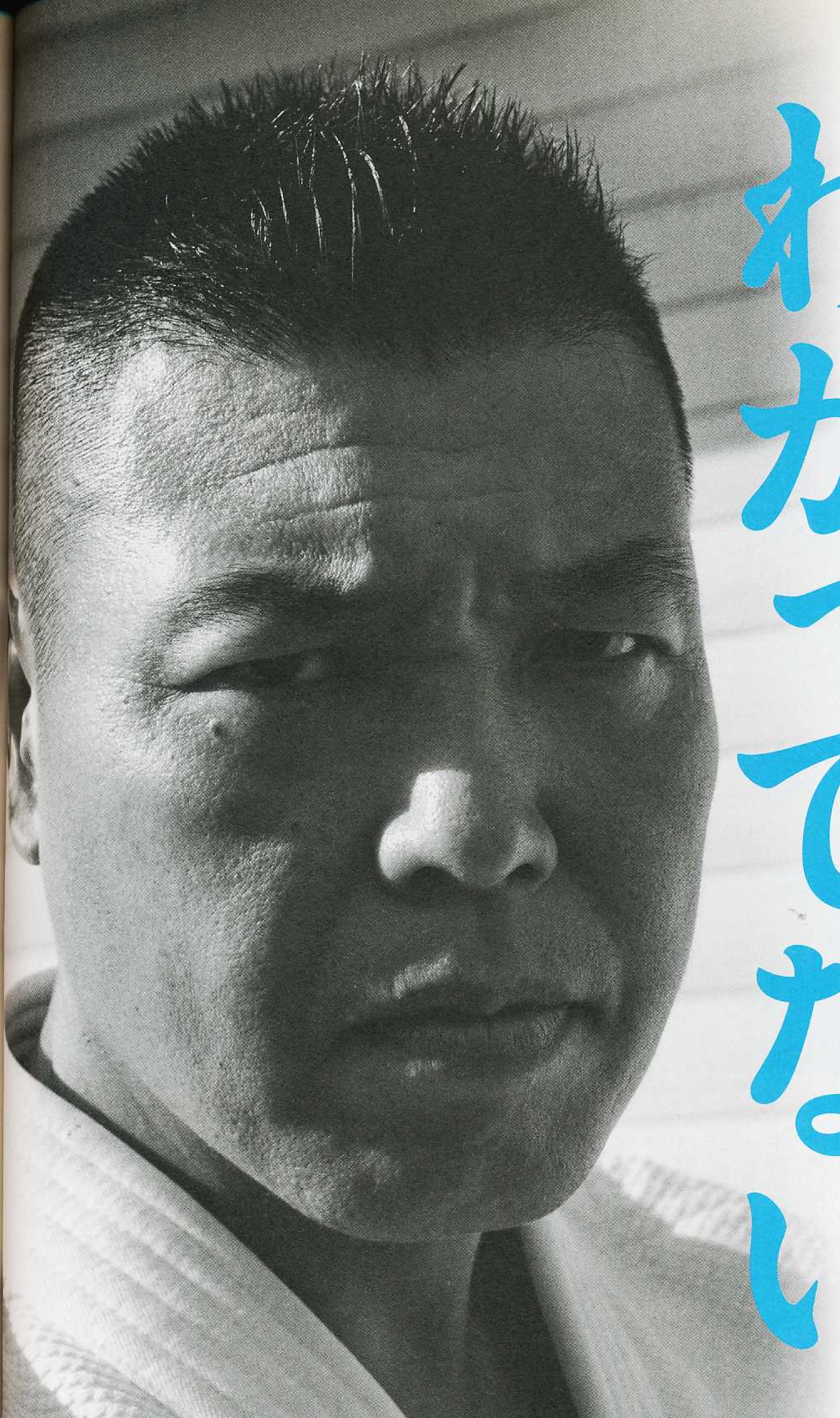
——いずれにしても、これから鈴川選手がどんな相手とどんな試合をしていくのか楽しみですよ。

——宮戸さんのプロレス改革にも期待してます！

【10年10月4日／都内・UWFスネークピットジャパンにて収録】

小川直也の唐突すぎるZERO1バッシングに大反論!!

小川直也は何もわかってない





FOS代表
中村祥之

9.25『GENOME13』JCBホール大会を、ZERO1の選手との対戦をオファーされたとの理由で欠場した小川直也に、FOS代表・中村祥之氏が大反論。ついでにツイッター上で騒動となった山口日昇『ハッスル』代表に対しても、思いの丈をぶちまけてもらった。

聞き手／ジャン斉藤

山口さんの失踪を直に見たのは今回が初めてだったんですよ

——まずはツイッター界隈を騒がせた〝山口日昇失踪騒動〟についておうかがいします。

中村 ……じつは発見されたんですよ、山口さん（ちょっとあきれ気味に）。

——あ、それはそれはおめでとうございます（笑）。

中村 まっ、……無事に発見はされたんですけどねぇ。

——いろいろとありそうですねぇ。今回の失踪話を簡単に整理すると、山口さんは9月14日の月曜日の夜から急に連絡が途絶えてしまったそうですよね。

中村 うん。それで木曜日に山口さんのマンションまで探しに行ったんですけど、オートロックで入れなかったんです。で、同じマンションの居住者の方を待って「じつは会社の同僚と連絡が取れないので、生存を確認するためにどうしても入りたい」と事情を説明したら、それは一大事ということで快く了解していただいて……。

——マンションの管理人はいなかったんですか？

中村 あそこの管理人さんは夕方にはいなくなるんですよ。もう思いあまって行ったのが18時30分頃で、インターホンを押してもドアをドンドン叩いても誰も出ず……。

——自宅からなんの反応もなかった、と。

中村 山口さんには居留守癖があって聞いてたから、ご近所に迷惑がかかれば部屋から出てくるかな～って思ったんだけどね（笑）。

——居留守癖って。まあホントにそのとおりなんですけど（笑）。

中村 それでエアコンの室外機は回ってなかったですよ。でも、電気のメーターはクルクル回ってたから生活はしている。でも、まったく人気を感じなかったのでドアに名刺を挿して帰ろうとしたタイミングで坂田くんも現われたんですよ。

——あ～、坂田亘も山口さんのことが心配で……。

中村 そう。で、ポストまで覗いてさ、郵便物が溜まってたら何日も不在ってことなんだけど、まあそうでもなかった。……ってことは、誰か帰ってきてるなと考えて。だからとにかく大騒ぎしないともうダメだと思ったんですよ。

——それでツイッター上で「山口日昇捜索キャンペーン」を発動させたんですね（笑）。

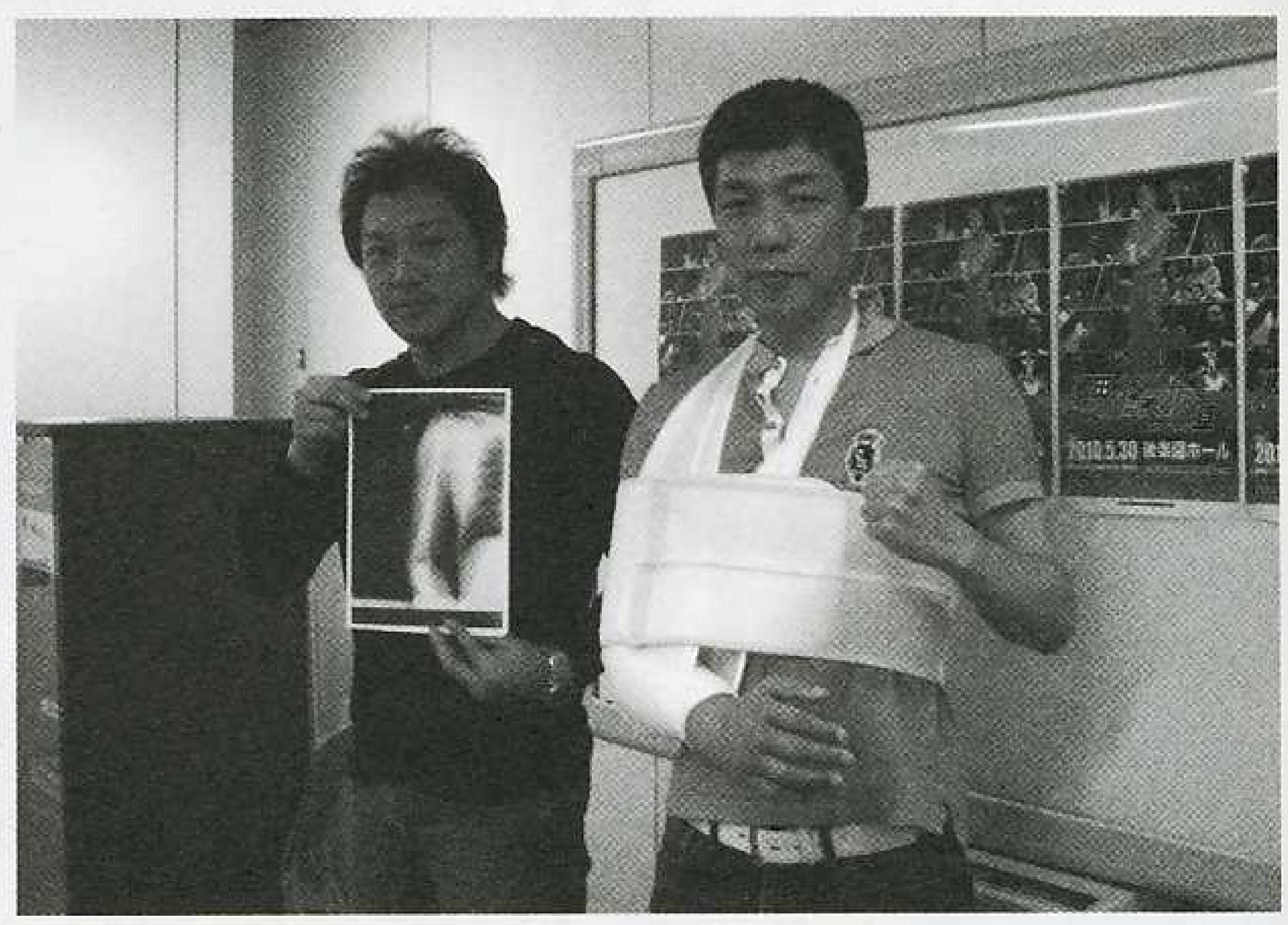
中村 うん。木曜日の夜までに連絡が取れなかったら、警察に捜索願いを出そうと決めたんですよ。これだけ騒いでいるのに家族からの一報もないし、ボクはドアに名刺を挿してきてる。それまでやって連絡がないってことは、これはもう山口さんの身に何か起きたんじゃないか、と。

——でも、中村さんも坂田さんも山口さんの失踪癖はご存知のはずですよね。いつものことだとは思わなかったんですか？

中村 5月にも一度、消えたんですよ。そのときに「一緒に『ハッスル』を復活させるためZERO1の選手もみんな協力してるんだ。いきなり消えたりして失望させないでくれ」って約束したんです。坂田くんやボク、ウチのスタッフの目の前でね。

——そんな約束事が!! まあでもZERO1の厚意で『ハッスル』は存続してるところがありますから……。

中村 ボクはそれを〝男と男の約束〟だと思ったし、そこから3ヵ月間、山口さんは消えることはなかったんですよ。だからもう改心したんだなと思って。


どんなに時代が変わろうが、変わらないのが山口氏の失踪癖。リングに上がって試合をしようが、腕を骨折しようが、消えるときは消えてしまうのだ。志をともにする坂田亘や、協力してくれるZERO1のためにも、なんとか治らないものなのか？

——真人間に戻ったんじゃないか、と。

中村 そんなボクらからしたら今回の件は焦るじゃないですか。契りを交わしたにもかかわらず、みんなで山口さんを盛り立ててるのに突如、消えるわけですから……。携帯も最初はつながってて留守電になってたんだけど、留守電のデータがいっぱいになり、そして最後には電源が切れたんですよ……。これはただ事じゃない、と。

——うーん、いつものパターンだ（笑）。

中村 ……皆さんは笑うかもしれないけど、どこかの砂浜で首まで埋められて助けを求めてるんじゃないかって想像まで頭に浮かんで。ボク、ここでいたたまれなくなって社員に当たり散らして。

——中村さんは優しいですねぇ……。で、山口さんはどちらにいたんですか？

中村 わかんない。ひょいっと家族から電話がかかってきた。

——なるほど（笑）。じゃあまだ直接、会われたわけじゃないんですね。

中村 いや、山口さんとも電話で話したんですよ。「すいませんでした」って。でも電話で責めてもねぇ……。

——しかし約束していたとはいえ中村さんは「いつものこと」とは思わなかったんですか？

中村 ボクは山口さんの失踪を直に見たのが今回が初めてだったんですよ。それに男と男の約束をしたんだから普通は電話の一本くらいあってもいいじゃないですか。ボクらみんなで一生懸命、興行に向けて頑張ってるのに。……それに山口さん、凄く痩せたし、餓死しちゃったんじゃないかとか想像したり。大げさな話。

——なるほどぉ。山口さんの失踪癖を知らなかったら、普通は心配しちゃいますよね。『ハッスル』の借金の件で誰かに監禁されたんじゃないか、とか。

中村 ええ。だから、これはもう捜索願の前にツイッターで騒ぐしかない、と。もう恥ずかしいことですよ……。自分の携帯電話のメールアドレスまでさらして情報を求めてるわけですから。でも、なかには冷たい人もいて「やっぱりな」とか「中村、心配するな。必ず出てくるから」とか。

——ボクもぶっちゃけ、そう思いましたけどね（笑）。

中村 ただ、今回のことで思ったのは、やっぱり癖は治らない。でね、ときどき斉藤さんが深夜にやってるツイキャス聴いてたんですよ。

——ボクのですか？ やめてくださいよ（苦笑）。

中村 うん。で、一度『ハッスル』の話になったときがあったけど、あまりプロレス的な発言してないじゃないですか。

——してないですね。とくに『ハッスル』に関しては全然。

中村 すっごいストレートで、ボクの考えてる山口日昇像と全然違うんですよ。聴いてて「オレのほうが間違ってんのかな……」と思ったんですよ。

——ダッハッハッハッ。でも中村さん、山口さんとの付き合いはけっこう長いですよね。

中村　長いですよ。だから『ハッスル』時代に何度か消えてる話も聞いてるんですよ。でも、ボクは同じ事務所にいたわけじゃないから詳しくはわからない。みんなが「山口日昇が消えた」って騒ぎながらも、じつは居場所を知ってて隠してるんじゃないか、と。社長になったからのんびり海外でも行ってるんじゃないかとか。

——つまり、昔はあまり深刻な問題としてとらえてなかったんですね。

中村　そう。一緒にビジネスをしてたわけじゃないから。知らなかったとはいえ残念で残念で……。坂田ちゃんもジェットにしてもね、裏切られた感が強くて。坂田くんなんて、『ハッスル』というものがあるがために、それを背負うって言ったがためにいろんな人間まで巻き込んでしまった手前ね……。

——正直、坂田さんや中村さんのおかげで助かってるんですもんね、『ハッスル』は。

中村　本来、謝罪なんて絶対にしないあの坂田亘が平身低頭、「本当に申し訳ない!!」「オレが山口さんを怒るから!」って頭を下げて。でも、よくよく考えるとここ数ヵ月、坂田くんもずっと山口さんのことを怒ってるわけだから、それなのにどうして……。

——つまり、山口さんはボディが効いてないんですかね?

中村　ボディが強いというか、普通の人だったらダウンしちゃうんですけど、あの人はダウンするくらいならリングの外に逃げるんです。

——な、なるほどぉ。

中村　山口さんの場合はプロレスルに向いてるというか人生がプロレスっぽいんですよ。「反則も5カウントまでOK」とかよく言うんですけど、あの人はそれをリング上じゃなくて自分の人生に対してやってる。

——でも、プロレスって相手がいて初めて成立するわけじゃないですか。いまって山口さんとプロレスしてくれる相手が……。

中村　減ってる状況だよね。

——ガチで向き合ってる人は多いですよね。

中村　「この期におよんで過去と同じことを繰り返してる」っていう怒りだよね。やってできない人じゃないのに、なんでこんなグウタラになっちゃったんだっていう。

——グウタラですか（笑）。

中村　もうね、ボクから言ったらグウタラですよ。

——僕は90年代の山口日昇を投影しすぎだと思いますね。もうプロレス観も凄く変わってるじゃないですか。



デビュー戦から、『ハッスル』まで、小川直也がプロレス界で活動していくなかで、故・橋本真也さんの存在が大きかったのは確か。『ハッスル』という舞台も、この二人の存在なくしては始まらなかったと言ってもいいだろう。

それなのにいまだに90年代の山口さんを見る目で見てる。

中村　期待しちゃダメなのかなぁ……。いまの山口さん、ホントに対人恐怖症、対面恐怖症だと思うんですよ。

——他人とあまり会話をしないんですか?

中村　まったく。山口さんが本当に心を開いてしゃべれるのって坂田亘ぐらいじゃないのかなって。でも、大谷社長をはじめ、ウチのスタッフは山口さんを誰も見放さないですよ。大谷さんなんか本当に心配して「山口さんになんかあっちゃいけねえ!」って言ってますから。

——申し訳ないですねぇ。

中村　山口さん、子どもを会場に連れて来るんですよ、『ハッスル』やったりZERO1やったりすると。それを見るたびにみんなが「お父ちゃん、頑張ってるから!」って応援したくなるというかさ……。山口さん、たぶん子どもがいなかったら消えてると思うし。

山口さんはダウンするくらいなら リングの外に逃げるんです

——なんか『ハッスル』に非協力的な僕らがダメみたいですね（苦笑）。

中村　いやいや。斉藤さんもよくぞ山口さんに……何年一緒に仕事をしたんですか?

——ボクは10年ですね。

中村　よくぞと思う。凄いと思う。

——やめてくださいよ（苦笑）。

中村　好き嫌いはさておいて、あの人と仕事の付き合いが10年続いてるということは凄い。

——ボクは好きですけどね、山口さん。好きですけど、やっぱり『kamipro』編集長時代の目では見られないですよ。考え方だって変わってるし。

中村　ボクもね、山口さんに期待しすぎちゃいけねえっていうのは今回の件で初めて思った。プレッシャーもかけちゃいけないし。ウチの選手はね、山口さんの悪い部分を見てないし、「この人にはお世話になったことがあるんだから、恩を仇で返しちゃいけない」っていう大谷イズムが選手の末端にまでつながってるからみんな山口さんには優しい。でも、斉藤さんは凄く複雑な立場じゃないですか。

——凄く複雑ですね（笑）。いまだに山口さんはオーナーだったりするし、ダブルクロスとはもう関係ないんだけど、「ボクらは関係ない」って言うと逃げてるみたいになっちゃうし。

中村　興行界でも逃げちゃダメなのよ。ボクはツイッターでね、あまりにも山口さんがヒドイから一回だけグチを書いたんですよ。「逃げるのは簡単だ!」って。そうしたら次の日に電話がかかってきて「カントクには失礼ですけど、ボク、逃げるのが一番嫌いですから」って。……おい、逆ギレかよみたいな（笑）。

——ワハハハハハハ!

中村　だからボクらからしたら逃げてるように見えても山口さんからしたら逃げてるんじゃないんですよ。そこの温度差が凄くあって……。

——山口さんが言ってるのはきっと精神性の問題ですよね。で、中村さんが言ってるのはごくごく社会的対応の話で。

中村　そうそう、ボクが言ってるのは現場に向き合うか、向き合わないかっていうこと。嫌なことでも向き合わなかったら仕方ないじゃないですか。そら人間、いいことばっかりないじゃないですか。

——山口さんの精神的には「俺は向き合ってる!」っていうプライドがあるんでしょうね。でも、周りの人間には伝わりづらいですよね。

中村　わかんない。ホントにおっしゃるとおりで、全然わからない。

——一生わからないかもしれない

小川さんは今後このプロレス業界に一生携わるべきじゃない（キッパリ）

（笑）。というわけで、本題に入る前にかなり時間を取ってしまいましたけども。

中村　いえいえ。

――小川直也さんのことなんですけども、ウェブ上でかなり激しいやり取りがありました。小川さんがIGFとフリーになったそのきっかけが、小川さんとZERO1さんのマッチメイクが組まれようとしたからと小川さんは主張してるわけです。これ、ファンからするとまったく意味がわからないと思うんですよ。

中村　ボクはもうさっぱりわかんなかった。

――小川さんからすると「橋本真也を裏切ったZERO1勢と絡めるか！」ということのようですね。

中村　……今回の件、ある関係者から「小川さんがこんなことを言ってますけど」っていう連絡があったんです。「小川さんは何を言ってるんだろうな?」と思って、ウェブの「オーちゃんの不定期ブログ」を見たら……「八つ当たりするのウチ?」って（苦笑）。

――八つ当たり！

中村　うん。それを読んでまずピーンときたのが、IGFからギャランティを下げられたんだろうなって。

――あ～（笑）。

中村　あの人、「銭ゲバ」とかいろんなこと言われてるけど、カッコつけたがりじゃないですか。だからIGFからギャランティを下げられたってことを原因にしたくないから、ほかに対して不平不満を言うことにしたんじゃないですかね。でも、ノアや鈴木みのるさんに対してはさんざん言いつくしちゃった。それで「ZERO1に当たるしかないんだろうな」って。

――そもそもIGFのほうからZERO1さんに小川さんのマッチメイクの話はあったんですか?

中村　ないないない。そんなのまったくない。IGFの高橋社長とウチの沖田がお茶を飲んだぐらいで。

――交流するんだったら今回の大会だってZERO1から誰かしら出てるわけですもんね。

中村　ホントですよ。何を話したかと言えば、IGFには道場がないじゃないですか。でも、ウチの道場で時間をずらして夜に使うことは可能なんです。それこそ学生プロレスにもボクは開放しようかと思ってるぐらいなんで。せっかくこんな東京の立地条件のいいところに道場があって、リングがあるわけだから。やっぱり選手ってリングで練習したいと思うと思うんですよ。そんなテクニカルな話をしただけなのに。

――そんな話をも被害妄想的にとらえちゃった可能性はあるっていうことですか?

中村　そう。それにIGFが何も発表してないのに、アレをブログでやっちゃいけないでしょ、この世界。それが暴走王の仕事だと思ってるんだったら大きな間違いであって、彼は今後このプロレス業界に一生携わるべきじゃない（キッパリ）。

――プロレスの文脈からすると、この騒動がきっかけで何か始まるのかなってとらえられますよね。

中村　これを火種として今後大きくしていく場合のものと、絶対に触ってはいけないものってあるじゃないですか。ましてや小川さんはあんなこと言ってるけど、『ハッスル』でボクらと一緒に仕事をやってんじゃんって話で。

――そうなんですよね。ZERO1とは『ハッスル』でいろいろやってきたわけだから、どうしてこのタイミングで橋本さんの件を騒ぐのか?という戸惑いはファンにあると思うんですよね。

中村　それを言われたら小川さん、もの凄く苦しいと思う。「オレは金のために『ハッスル』をやってたんだ!」って言うならそれはそれだけど……。で、あたかも自分が橋本さんのことを思ってて、あの頃のことをガタガタって言ってるんだろうけど、小川さんはあのときのことを100知らないっていうの。たぶん30しか知らない。

――橋本さんが亡くなられた直後って、裏側は凄く混乱してたと思うんですよ。いろんな話が飛び交ってましたし。

中村　うん。

――たとえば立場によって物の見え方って全然違ってきたと思うんですね。

中村　たとえばね、仮に橋本さんがボクに対して（文句を）言ってたとしてもボクに対してだけ。選手のことを誰一人、橋本さんは絶対に悪くは言わない。大谷にしても、佐藤耕平、崔領二、誰にしても絶対に言わない。

――橋本さんは旧ZERO-ONEの経営的破綻を自分で背負う覚悟があったし、選手たちが別のかたちで団体を立ち上げることに文句はなかったということですか?

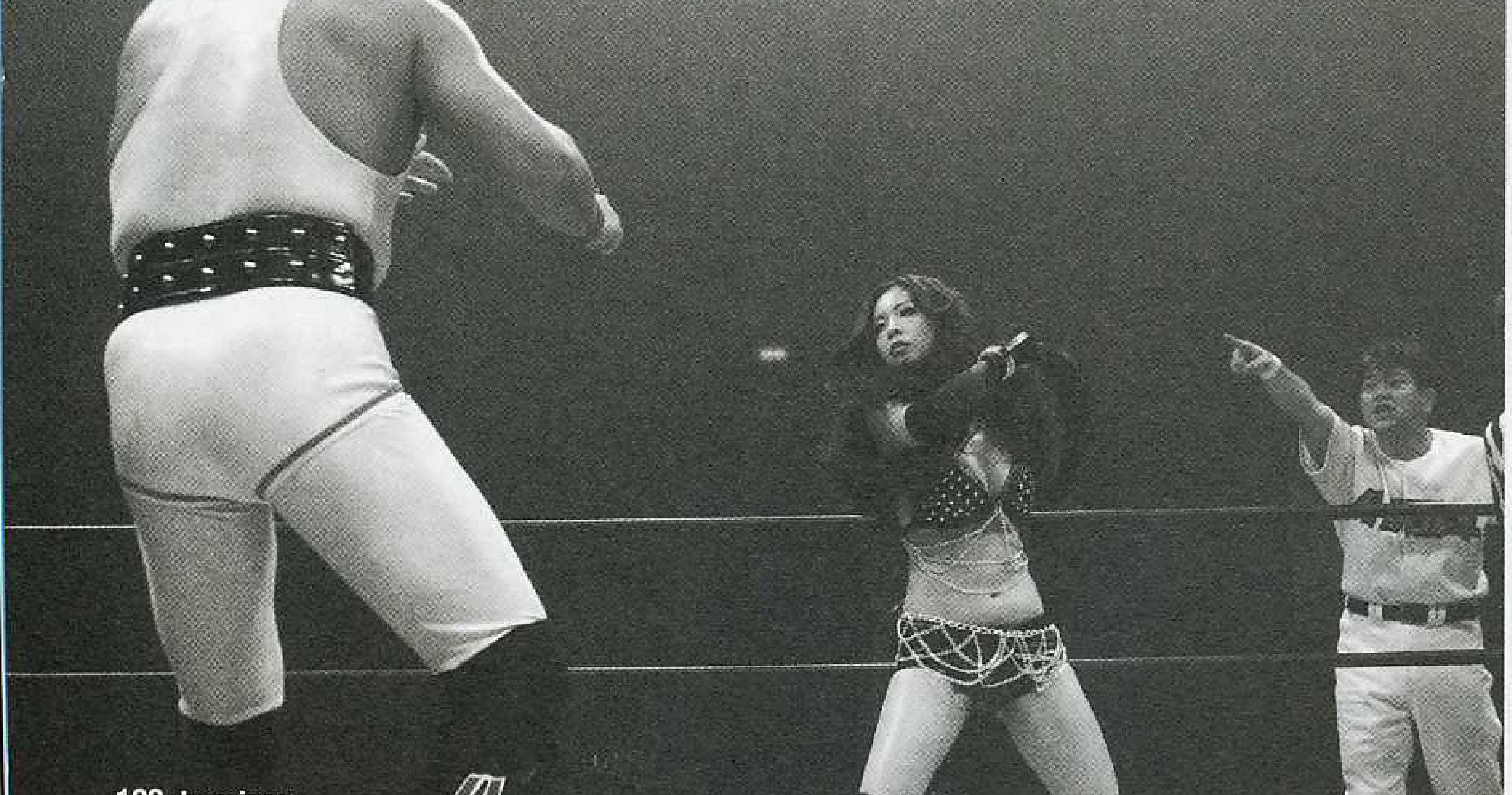
中村　うん。あのときにね、橋本さんが選手との話し合いにボクは入ってないですよ。その話し合いが行われたのはこの道場ですよ……。道場に選手を集めて話をしたあとに、全員会社に集まって弁護士さんを含めて会った。それで選手側から「みんなと一緒にプロレスを続けたい」っていう希望があがったんです。

――違うかたちで継続したい、と。

中村　うん。小川さんは「クーデター」って言ってるけど、クーデターって体制の中から起きるものじゃん。そうじゃなくて、橋本さんの体調は凄く悪かったし、これ以上橋本さんの金銭的な面の負担を考えたときに、ZERO-ONEは一度解散するという結論を見出したわけだから、クーデターとかバカじゃないのって話。じゃあ小川さんはあの話し合いの現場にいたのかって。小川さんはこういうことを言えば言うほど橋本さんの首を絞める。ハッキリ言えば、橋本真也がいなかったら小川直也はここまで有名にもなってないし、ここまでギャラを稼げなかった。橋本さんがいたから小川直也という存在は大きくなっていったでしょ。

――デビュー戦から〝1・4事変〟、『ハッスル』まで、小川直也を語るとき橋本さんの存在は避けては通れないで

中村氏は『ハッスル』では中村カントクというキャラクターで登場。ハッスル軍の盛り上げ役として、試合中もリングサイドを賑わした。ハッスル軍のキャプテンでもあった小川とは、橋本さん亡きあとも、リング上で絡むことは多かったように思うのだが……。



ボクらから言えば、小川直也が橋本真也につくすのはあたりまえ！

すね。

中村 小川さんは凄いよ。スター性があったのも認める。でも、その起点は何かっていったら猪木さんじゃなくて橋本真也ですよ。それをね、ホントに自分の都合のいいときだけ使う。話題がなくなったら記者を連れて墓参りしてさ。確かにさ、橋本さんもオレのことは憎んだかもしれない。でも、選手のことは一切憎んでないと思う。これは小川さんのおおいなる勘違いっ!!

——今後、小川さんにはどう向き合っていきたいですか？

中村 ハッキリ言って、リングで闘ったら負けるかもしれないけど、小川直也っていう存在自体は怖くもなんともないもん。この人がプロレス業界から消えようとなんだろうと勝手にしてくれっていう話で。ボクらからしたら、この人が最後に本気でやる気を出したら上がるリングはプロレスじゃなくてSRCなのかDREAMなのかわからないけど、格闘技しかないでしょ。プロレスのリングに復帰してくれと思ってるファンも少ないだろうし。

——業界のニーズはないですか？

中村 それだけ小川直也に対する価値がないってことで。昔は新日本プロレスとかUFOとか橋本真也とかいろんなものが彼にくっつけてくれただけの話であって。彼自身がつけたものじゃないもん。あるんだとしたらプロレスラーのなかだと中邑真輔。でも、それで切符が2万枚売れるかっていったら売れないですよ。だから武藤さんなんてハナから使う考えはないと思うし。

——武藤さんはシビアでしょうね。

中村 小川さんがずっとウチに上がってくれてたことは凄く感謝してるし、橋本さんもその点では感謝してる。でもボクらから言えば、小川直也が橋本真也につくすのはあたりまえ！ だから小川さんが言えば言うほど自分が苦しくなるだけで。オレはいまでも小川さんのことは嫌いじゃないし、憎んでもいないし、あんなこと言われたって「あ、ギャラを下げられた腹いせかな。仲がいいと思われるZERO1に対して毒を吐いたのかな」って。だってボクはプロレスのコメントだと思って取るしかなかったから。だからプロレスのコメントで返しただけの話。それをクーデター、クーデター、クーデターって、なんだろな。かわいそうな人だと思っちゃう。

——これで小川さんとZERO1さんと何か始めるということは一切ないわけですね。

中村 うん。「どインディーに上がるつもりはない」だなんだって言うけど、ほっといてくれ！っていう。だって必要ないもん。オレも何回かIGFを観に行ってるけど、小川さんはリングに出てくるまでカッコイイ。でも、ゴングが鳴った瞬間にみんなは小川直也を観てない。逆に澤田くんのほうが凄い弾けてるし、「プロレス好きなんだろうな」っていうのが垣間見えてくる。逆に言うと、こういうことを言わなきゃ目立てない小川直也がかわいそうだなっていう。ストレスを発散したいなら、たまにはウチの道場に来ればいいのに。



なかむら・よしゆき■1966年5月22日、東京都荒川区出身。学生時代は長州力のリキプロダクションでアルバイトを経験し、大学卒業後に新日本プロレスに入社。2001年に橋本真也とともに新日本を退社し、ZERO-ONE旗揚げに参加。現在はZERO1を運営するファーストオンステージの代表を務めている。

——なるほど（笑）。

中村 子どもに柔道を教えることも必要だろうけど、自分がいちプロレスラーで、いち格闘家であって、練習のパートナーもいないのであればウチに来ればいいじゃんって。こんなことを言っても許すからさ。みんなでワイワイガヤガヤやればいいじゃん。自分だけいつまでも雲の上の存在だと思ってる。そりゃあみんな雲の上の存在だと思ってますよ。小川直也ってのはホントにアマチュアでも実績あるし、格闘技でも実績がある人なんです。だったらそのノウハウを誰でもいいから若い子に伝えてあげればいいじゃない。過去のことをほじくり返してやるのは小川直也らしくない。こういう情けない姿は見たくもないし。ずっと憧れの存在であってほしい。ホントにね、小川直也ってみんなの憧れであるべき人なんですよ。たとえばプロレス一試合で500万円取れるレスラーがいまいます？

——いまはいないでしょうね。

中村 可能性があるとしたら小川直也しかいないじゃない。ましてや払える団体もIGFってかぎられてるじゃない。それだけスーパースター。そんなスーパースターはね、こういう発言をしちゃいけない。ましてやこんなにカラーでここまで載っけてもらえるんだから。

——す、すいません（笑）。

中村 いやいや。それだけ取り扱う側にしても小川直也ってのは凄い人だっていう姿勢じゃないですか。この件に関してはウチの選手だって言いたいことは山ほどある。でも、止めてるんです。

——大谷さんには言いたいことがありそうですねぇ。

中村 ホントですよ。あのときの会社の状況って、『kamipro』と似てるところはあると思うんですよ。

——あ、そうかもしんない。でも、山口さんには橋本さんに見えた男気はなかったです（笑）。

中村 たとえば「今日かぎりでダブルクロスじゃなくなるよ」って言われたら、みんな戸惑いがあるじゃないですか。あのときの気持ちって現場の人間しかわからないと思うんですよね。それをさ、外野の人間にアーダコーダ言われたくないじゃない？

——お気持ちはわかります。

中村 まあ、小川さんはしゃべればしゃべるほど、墓穴を掘ってる感じはするよね。

——小川さんに最後に会ったのはいつですか？

中村 『ハッスル』に小川さんが出てたぐらいじゃないかなあ。っていうか、過去に小川さんと揉めたこともないし……小川さんと闘ったことはあるけど（笑）。

——そういえば！

中村 うん（笑）。小川さんにはホントに感謝してるんですって。ZERO1を旗揚げした頃はもの凄く助けてもらったし、橋本さんがケガしたときもノーギャラみたいな感じでずっと地方もハチマキ巻いて小川さんは出てくれたし。感謝もしてるし。だから「ZERO1なら言ってもいいか」みたいなものがあったかもしんない。

——そうかもしれないですね。

中村 で、いざ話しだしたら憎む理由を探すのに苦労したと思うんです。で、こういうふうに書かざるをえなかった、と。オフィシャルな発表なしにブログに書き込むってことは、相当な怒りだったと思いますよ。でも、ボクらは許しますよ。そんなに怒ってるならリングに発散してください。いつでも道場で待ってますから一緒にに練習しましょう！

——山口さんから小川直也までご苦労さまです（笑）。

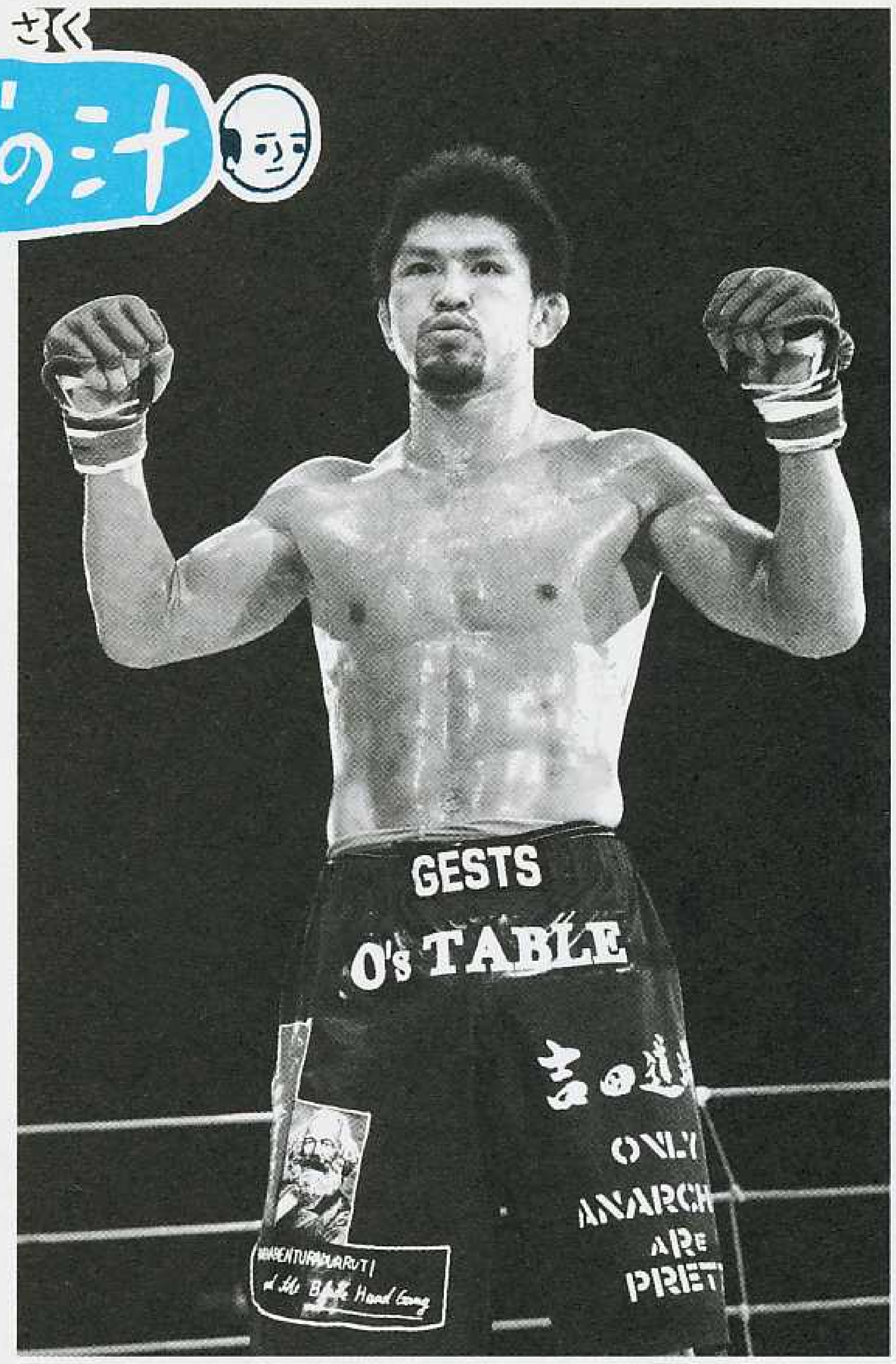
【10年9月某日／都内・ZERO1道場にて収録】

第59回

桜庭vsメイヘムも見ごたえあったね

花くまゆうさく

豆リングの汁



ヒクソンが日テレ『スッキリ!!』に生出演し、加藤浩次と少し絡んだ。加藤は見た感じ、じつに体幹が強そうだなと前から思っていたが（『めちゃイケ』でのジャイアントスイングは安定感バツグン）、この日も下からヒクソンを蹴り上げる脚は馬のような力強さに見える。

そんな面倒な状況を、瞬時にアキレス腱固めで終わらせたヒクソンの判断はお見事。生放送のあの場面では、あれがベストだと思う（考えすぎかしら?）。

グレイシーのアキレスは一部でグレイシーアキレスと呼ばれるぐらいですが、日本マット界と関わる以前の昔の映像を観ても、一族はスパーでアキレスをやっています。

どのような経路でアキレスが伝わったのか興味あるなぁ。僕が日本で初めてアキレス腱固めを観たのは、全女のジャンボ堀だったと思う。記憶違いでなければ、UWF出現前だったはず。

ちなみに三角絞めを初めて観たのは『1・2の三四郎』の岩清水。あれはコーフンした。

DREAMのPPV観て驚いたのは、小見川の奥さんが巨乳美女だったこと！　試合も完勝で全然クソったれじゃないよ。「うらやましい！」と思ってたら、次の高谷の奥さんもスゲエ美女!!　みんなやるね！



Hanakuma Yusaku
◎本文では触れてないけど、北岡vs弘中は見ごたえあった！

金ちゃんのどこまでやるの?



●第51回●テーマ曲誕生秘話の巻

今回の『kamipro』はプロレスの入場テーマ曲についての特集があるらしいね。俺ももともと子どもの頃からプロレスファンだからさ、中学時代とかはカセットテープにテーマ曲をダビングしてよく聴いてたよね。

やっぱりレスラーの入場テーマ曲は、その曲をちょっと聴いただけで、そのレスラーの姿が連想できるくらいじゃないとダメだと思うんだよ。そういう点でいうと、猪木さんはもちろん、長州さんとか、スタン・ハンセン、ブルーザー・ブロディ、アンドレ・ザ・ジャイアント……一流のレスラーはみんな、入場テーマ曲もいいんだよ。

ただ、『マッチョ・ドラゴン』だけはいただけなかった！　俺は新日ファンで、藤波さんのファンでもあったからさ、その前に使ってた曲『ドラゴンスープレックス』が好きだったんだよ。長州さんとの名勝負数え唄のときとかも、いっつも聴いてたわけだからさ。それが『マッチョ・ドラゴン』に変わったときは、もうガッカリだったよね。

俺は新日本vsUWFの対抗戦のときだって、新日本、藤波さんの応援だったからさ。前田日明の『キャプチュード』なんか大嫌いでムカついてたくらいだからね（笑）。でも、リングスに入ってあらためて聴くと、いい曲なんだよ。ホント、あの曲が流れてくると「前田コール」をやりたくなるのがわかるもん。

で、俺はもう中学・高校の頃から、将来はプロレスラーになりたいと思ってたからさ、やっぱり「デビューしたら、こんなテーマ曲で入場したい」とか考えてたんだよ（笑）。その頃、俺が使いたいと思ってたのは、ブルース・リーの『死亡遊戯』！　俺はカンフー映画のファンでもあったからさ、「デビューしたら絶対にこの曲で入場したい」ってずっと温めてたんだよ。

ところがある日、ボクシングで辰吉丈一郎の人気が出てきてさ、辰吉が入場テーマ曲に『死亡遊戯』を使ってるってことが判明したんだよ！　あのときは腹が立ったね〜。「〝俺の曲〟を使いやがって！」ってね（笑）。

結局、Uインターでデビューしたときはラウドネスの曲を使ったんだったかな？　そのあと、Uインターのオリジナルテーマ曲集を作ることになったとき、『死亡遊戯』に似た曲を作ってもらったんだけどね（笑）。これはほんの短期間で使わなくなっちゃったけど。

いま使ってる曲は、デビュー3〜4年目の頃から使ってるのかな。ある日、『ブルース・リー物語』っていう映画を観てたら、そのテーマ曲『ブルース・リー・ストーリー』がカッコよくてさ。そこからずっとその曲を使ってるんだよ。

いまはだいぶ「金原の曲」として定着したんじゃないかと思うけど、使い始めた頃は、宮戸（優光）さんが「若手が偉そうな曲使いやがって」みたいに言ってたらしいんだよね（笑）。

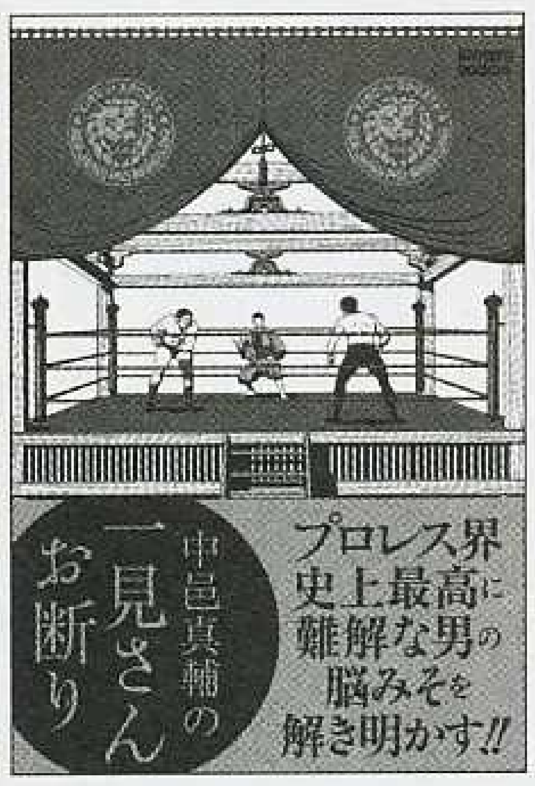
やっぱり宮戸さんはUインターの現場監督として、テーマ曲から何から、すべてに目を光らせていたからね。ゲーリー（・オブライト）は自分でテーマ曲を持ってきたんだけど、あれがイメージにピッタリでカッコよくてね。宮戸さんも「あいつは自分のことがわかってる。いい曲持ってきたよ」ってほめてたからね。

でも、その宮戸さん本人はガンズ・アンド・ローゼスの『ウエルカム・トゥ・ザ・ジャングル』を使っててさ。じつは俺らは、「なんであの曲？　宮戸さんの曲が一番似合ってない」とか言ってたんだけどね（笑）。

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中！
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

kamipro books 驚ガク! 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ! 死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!

中邑真輔の一見さんお断り



プロレス界史上最高に難解な男の脳みそを解き明かす!!

昨年、唐突にアントニオ猪木への挑戦をリング上でブチ上げて物議をかもすなど、その行動と発言が刺激的な男・中邑真輔。そんな男が初の単行本をリリース。"プロレス界で最も難解な男"がつぶやく10万字!! その名も『中邑真輔の一見さんお断り』。タイトルとは裏腹に一見さんは大歓迎だったりする内容です!

B6変型判 224ページ
定価=1,890円(本体1,800+税)

悪役道 ヒールたちのブルース



悪の道を歩けるのは選ばしれ者のみ!

"悪の道"に精通する豪華16名が珠玉の"ヒール哲学"を激白! 反則攻撃、挑発行為、ラフファイト、モンスター、エゴイスト、アナーキスト、アンチヒーロー……。悪とは何か? 悪役とは何か? 本書は因縁の内藤大助戦に勝利を収めた亀田興毅をはじめ、『kamipro』誌上に掲載されたさまざまな悪役のインタビューを厳選収録。時代に憎まれし、ヒールたちのブルースを聴け!

B6変型 304ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

新日本プロレス学習帳



"業界の盟主"の魅力を凝縮したインタビュー12連発!

★鈴木みのる&獣神サンダー・ライガー★小林邦昭★平田淳嗣★金本浩二★山本小鉄★新倉史祐★田中秀和★中西学★天山広吉&金原弘光★マサ斎藤★永田裕志★中邑真輔

『kamipro』に掲載された新日育ちのレスラー&関係者のインタビューが一冊に! これを読めば老舗団体の過去・現在・未来がまるわかり!

B6変型判 320ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

魔王 秋山成勲 二つの祖国を持つ男



秋山成勲なのかチユ・ソンフンなのか——。

2006年12月31日大晦日、秋山成勲vs桜庭和志戦で発生したクリーム塗布事件。この一件以降、秋山は日本では悪質な反則選手、片や韓国では悲劇の元・在日韓国人と、評価が真っ二つに分かれた。本書籍は秋山成勲が、柔道界での挫折ののち、総合格闘技家としてデビューして"魔王"と呼ばれる怪物に至るまでを検証するノンフィクションだ。

B6変型判 264ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

生前追悼 ターザン山本!



え、ターザンが死んだ!? 90年代プロレスを徹底検証!

★浅草キッド★いしかわじゅん★堀辺正史★更級四郎★松本晴夫★杉山頴男★谷川貞治★山口日昇★金沢克彦★市瀬英俊★小島和宏★菊地成孔★Oka-Chang★原タコヤキ君★椎名基樹 ほか

『週刊プロレス』編集長として辣腕を振るった山本さんの人生を通して、90年代プロレスブーム、はたまたプロレスという生き様を振り返る!

B6変型判 304ページ
定価=1,470円(本体1,400円+税)

PRIDE機密ファイル 封印された30の計画



ついにその秘密のベールを解禁!! PRIDE幻の超極秘プロジェクト!!

★高田vsヒクソンの前座に前田日明登場!?★長州力、橋本真也、船木誠勝の参戦計画★ホイスvsケアー消滅の計画★PRIDEが小錦獲得に動いた!?★"皇帝"ヒョードルを二度破った男 ほか

その消滅から早2年——世界最高峰のリングに封印された30の計画を発掘! さらに青木真也、三崎和雄ら6大インタビューも同時収録!

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

U.W.F.変態新書



ダメな大人たちへ捧げる"変態"とUWFの晩餐!

★UWF★前田日明★船木誠勝★高田延彦★桜庭和志★ターザン山本!★キン肉マン★PRIDE★プロレス★変態とは何か?(菊地成孔スペシャルインタビュー)★変態解説

プロレス界の一大潮流となったUWF。そのUWFに人生を学び、人生を狂わされた変態的プロレスファンたちが、UWF神話を語り倒す!

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

八百長★野郎



ミスター高橋本から7年……"呪いなき"時代のプロレス再入門書!!

★マッスル坂井★大槻ケンヂ★菊地成孔★森達也★杉作J太郎★ミスター高橋★菊池孝★高木三四郎★ハチミツ二郎★鶴見亜門★プロレス業界初"台本"全文掲載!

カミングアウト当事者から元ファンの知識人まで総動員してプロレスを再考! "プロレスの向こう側、『マッスル』"の世界に迫る!

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

PRIDEはもう忘れろ!



フジテレビショックから始まった日本マット界激動の歴史を追う!

フジテレビショックは日本格闘技界に何をもたらしたのか? 本誌でおなじみのライター橋本宗洋が送るMMAクロニクル。本書は、本誌携帯サイト『kamipro Move』で好評連載中の週刊コラムを厳選収録したものである。PRIDE凋落の時期からスタートした連載は、あらためてPRIDEの存在意義、役割を見つめ直し、そしてPRIDE消滅後、それでも生き続ける格闘技のおもしろさを綴っている!

B6変型判 336ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

吉田豪のセメント!! スーパースター列伝 パート1



吉田豪インタビュー11連発!! インタビュー本の最濃傑作!

★ストロング小林★阿修羅原★康芳夫★倉持隆夫★サムソン・クツワダ★猪木快守★イーデス・ハンソン★田中健一★小川宏★鶴見五郎★田代まさし

プロインタビュアーの吉田豪が、『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビューの一部を完全徹底再録!!

B6変型判 344ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

eb! enterbrain
おかげさまで10周年 エンターブレイン ANNIVERSARY 10th

発行/株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)
発売/株式会社角川グループパブリッシング
[エンターブレイン総合サイト] http://www.enterbrain.co.jp/



俺がリングで歌うわけ

歌う世界王者がバッシングを乗り越え
いままた熱唱する理由を激白！

WBA世界フライ級チャンピオン

亀田大毅

リング上で歌う女子プロレスラーはいたが、ボクサーではこの男ぐらいのものだろう。デビュー以来、KO勝利するたびにリング上で熱唱してきた亀田三兄弟の次男・大毅。内藤大助戦で反則を犯し謹慎の身となってからは、歌を封印していたが、今年2月に世界王者になったのを機に歌も大復活！そんな歌う世界王者・亀田大毅に歌へのこだわりをたっぷり聞いてみた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／吉場正和

——『kamipro』という格闘技雑誌の取材なんですが、今日はよろしくお願いします。

大毅　『kamipro』って聞いたことあるな。

——以前、一度インタビューさせていただいてるんですよ。

興毅　（横にいた興毅が口を挟み）格闘技の雑誌や。ちゃんとおもしろくしてくれるから、少々なこと言っても大丈夫やと思うで。

大毅　あ、そうなん？

興毅　ちゃんと言うたら、それなりの文章にして、おもしろくしてくれるで。（聞き手に向かって）格闘のことより、おもしろいこと聞きたいんやもんね。

——はい、そうですね（笑）。

興毅　大毅はおもろいと思うで。三兄弟の中でも独特やからな。

大毅　でも、格闘技雑誌で俺って、あかんやん。俺、格闘技者じゃないからな。

興毅　格闘好きちゃうもんな。

——そうなんですか？　ボクシングの世界チャンピオンなのに？

大毅　世界チャンピオンにはなりたかったけど、もうなったから。俺はもう負けても関係ないねん。何回防衛したいとか、お兄ちゃんみたいに何階級制覇したいとか、そんな気持ちないねん。

興毅　大毅は夢がないらしいんよ（笑）。

——そうなんですか（笑）。

興毅　まあ、そんな大毅の話、聞いてやって。

——でも、あれだけ練習して、キツい減量をするわけですよね。そのモチベーションはどこから出てくるんですか？

大毅　自分の持ってる力を出したいだけかな、そのためにやってるんよ。

——ここまで来たら、好きじゃなくてもやるしかないって感じですか。

大毅　でも世界チャンピオンに二回負けたやんか。いまだから言えるけど二回目負けたとき「これ、また1年とか2年かかって世界戦すんのかなあ」とかって。で、親父が「おまえ、どうする？　デンカオセーン（・カオウィチット）とやって勝てるか？　もう一回やるか？」って言ってな。親父も悔しかったと思うんやけど、俺も悔しかったし「できるんやったらやりたい」って言って。それで3回目の世界戦が決まって。

——今年2月の世界戦ですね。

大毅　でも「俺、ここで世界チャンピオンになれなかったら、一生なられへんな」と思って。ここで獲れなかったら、ヘタしたら次にできるの5～6年先になる。「これはもう無理や」「ここでダメやったらやめよう」と思うて。

——ここで獲れなかったら、世界王者への道がはてしなく遠くなってしまう、と。

大毅　そう。だから「それやったら違う道行ったほうがええんかな」とも考えたし。だからあのときが人生で一番、練習を頑張った。

——じゃあ、デンカオセーンに勝って、「俺、やればできるんじゃねえか」みたいな感じですか。

大毅　やればできるっていうか、やらんでもできてたん。だって現実、二回しか負けてないからな。

——いままでは、そこまで必死に頑張らなくても勝ててた、と。

大毅　頑張ってないことはないけど、（兄弟）3人の中では一番やってないと思う。でも、あのときは大晦日も元旦もなく毎日必死に練習した。あんだけ練習したことはないなあ。このあいだの試合（坂田健史戦）もそこまでしてなかった。

——では、坂田戦は「いつでもやめてやる」みたいな開き直った気持ちが功を奏したんですかね。

大毅　「やめたるわ」っちゅうか、俺、いままで19戦したけど練習でやってる自分のボクシングができてないねんな。半分も出せてない。だから、いまはそれを出すためにやってるだけかな。昔は「世界チャンピオンになるため」だったけど、もうなったから。

——世界チャンピオンの目標は達成したから、今度は自分の満足いく闘いをしたい、と。

大毅　そう。だって、世界チャンピオンになりたかったときは、勝たなアカンからって小心者になってもうて。自分のボクシングができへんかったんや。でもチャンピオンになったから、そんなガチガチにならんでも、べつに負けたってええわけやし。もう開き直っていこうかな思うて。世界チャンピオンになったから防衛戦も注目されるし、その注目される場で、ええボクシング見せたいなって。

——実際、今回の防衛戦は評価が高いですよね。

大毅　相手も日本人で一番強かったから。でも、もっとできた。全然まだまだや。俺は5回防衛したいとか、ないから。俺、たぶん5回も防衛できへん。そんな強ないし。それより、なんか人の記憶に残るような試合がしたい。「あの試合凄かったなあ」とか、ずっと言われるような。俺、そういう試合が一試合もないから。だからアカンねん。

——でも、今回はかなりいい線いってたと思いますけどね。チャンピオンになって、勝ち負け以上の目標ができて、またボ



田大毅

ST3
)

クシングが楽しくなってきたんじゃない
もん。勉強のためにみんなで観に行かさ

亀田



デビュー当時は実力がないのわかってたから歌でも歌って特典つけてあげたいな、思うてな

亀田大毅の（歌うのが）好きな歌BEST3

1位『ONLY LOVE』（ハウンドドッグ）
2位『Heart of Gold』（T-BOLAN）
3位『ロード』（THE 虎舞竜）

クシングが楽しくなってきたんじゃないですか？

大毅　いや、一回も楽しいと思ったことないよ（笑）。

——つらいことだらけですか（笑）。

大毅　つらいことが多いし、殴り合いやからな。正直、俺に子どもが生まれたら、ボクシングをさそうとは思わへんし。しんどいし、食べられへんかもしれんやんか。

——ボクサーだけで食べていける人は、ホントに少ないですもんね。

大毅　俺もそう思うんやけど、そのなかで素晴らしいことは、殴り合いで感動を与えられることかな。ケンカなんかしたってなんにもならへんけど、ボクシングは殴り合いで泣いてくれたりするからな。

——そうですよね。いま、ご自分でもファンとの関係が凄くいい感じになってる気がしませんか？

大毅　え、たとえば？

——以前はパッと祭り上げられながら、バッシングによって潮が引くようにいなくなる時期があって。いまはまた本当に応援してくれるファンがついてくれているような。

大毅　まあ、そう感じるけどな。だから、そういう人たちのためにもいい試合せなアカンねんて。もちろん勝つのは最低ラインやけど、やっぱり観に来てくれてんねんから、楽しんでもらいたい。ボクシングのチケットって高いやんか。

——そうですね。

大毅　みんな死にもの狂いの減量に耐えてきてるから、それぐらいの値段になるんやけど。それにしても高いやんか。一般の人はべつにボクサーの苦労なんて知らんし。俺だって子どもの頃「ボクシングのチケットってこんなに高いんや」って思うたもん。勉強のためにみんなで観に行かされたときも、寝てたもんな（笑）。

——会場で寝ちゃいましたか（笑）。

大毅　だって、そんなにボクシングわかってない頃は観てても楽しくないやんか。正直、華やかでもないし、暗〜いやんか。勝ってもちっちゃい試合やったらインタビューもなしで頭下げてリングを降りていって。メインでも、試合後に「どうもありがとうございました！」って言うぐらいやし。もうちょっとなんかあるやろ、って昔から思ってたから。

——もうちょっとビギナーが楽しめるようにしたほうがいいんじゃないか、と。

大毅　俺はそういうところをなんとかしたいと思ったから、パフォーマンスしたり、ファンにプレゼントしたり、俺やったら歌を歌うとかな。歌はヘタクソやねんけど、なんかしたいねん。ちょっと特典つけてあげたいな、思うてな。

——あ、あの歌はご来場のお客様への特典なんですね（笑）。

大毅　そう。とくにデビュー当時は、自分の実力がそこまでないのもわかってるから、ボクシングでそこまでの感動を与えることはできひんな、と。なんかないかなあと思って、ほんなら歌が好きやし、歌おうかな、と。

——その発想が普通のボクサーと違いますよね。

大毅　ボクシングはマジメにやるけど、試合後は関係ないしな。興行やから、お客を喜ばさなアカンからなあ。

——それで最初はその歌で喜んでもらっていたのが、あまりにも有名になりすぎて……。

大毅　批判とかもあったなあ（苦笑）。

——こっちはサービスでやってるだけな

のに、と。

大毅　なんか知らんけど「リングで歌うな」みたいになってんなあ。なんでやねん、みたいな。

――内藤戦以降は、なぜか歌わないことが反省のしるしみたいな（笑）。

大毅　ホンマやな（笑）。試合後に歌うなんて、これまでなかったやんか。やっぱり、やったことないことやると、そういう声も出てくんねん。

――世界チャンピオンになって、歌を解禁しましたけど、それは前から考えてたんですか？

大毅　多少はな。結局、ボクシングがメインやから。「今日、勝ったら歌やな！　KOしたるわ」とか、そんなこと全然考えてないし。

――歌うために闘ってるわけじゃない（笑）。でも、デンカオセーンの前には、ちゃんと自分で作った歌を用意してたんですよね。

大毅　うん。あれは一年、謹慎処分を受けたときに作ってん。なんにもすることなかったしな、「歌でも作ろうか」と思うて。

――歌詞を見てみると、ちゃんとファンへのメッセージになってるんですよね。

大毅　そうそう。

――歌でメッセージを伝えるボクサーって、これまた珍しいですけど（笑）。

大毅　やっぱりリングの上で、どうしてもしゃべられへんやんか。それを歌にして、何度か歌っていれば、いつかは届くやろ、と。

――俺の気持ちが歌に乗って届く、と。

大毅　そうそう。届いてくれたらいいけどな。で、「リングで歌ったらいかん」って言われたから、今度は花道で歌ったろと思って（笑）。

――神聖なリングを汚さずに歌った、と。

大毅　やっぱりボクシングが好きな人は、「リングは歌う場所やない」って思うんやろうけど、俺はそんなにボクシング好きじゃないからな（笑）。

――ダハハ！　どっちかと言ったら、歌のほうが好き（笑）。

大毅　まあ、歌は好きなだけやけどな。

――ここ2試合、自作の『みんなへ』という歌を、電子ピアノで弾き語りしてますけど、ピアノはいつから習ってるんですか？

大毅　いつかなあ。なんか歌うようになってから「ピアノでも覚えろよ」みたいに言われて、習ったんやけど、そんな何年もやってない。

――そんな短期間で弾き語りができるようになっちゃうもんなんですか？

大毅　それがけっこう簡単やってん。メジャーなコードだけやったら、なんか弾けるようになって。あんまピアノの練習ばっかしとったら、親父に怒られて（笑）。「そんなヒマあったら、ボクシングしろよ！」って。

亀田大毅 熱唱史

『ONLY LOVE』（ハウンドドッグ）
2006.2.26 vsサマート・シットサイトン

『ff（フォルティシモ）』（ハウンドドッグ）
2006.5.5 vsキティポップ・サンディジム

『Heart of Gold』（T-BOLAN）
2006.6.5 vsヨッピー・ベヌー

『ロード』（THE 虎舞竜）
『Dear』（T-BOLAN）
2006.8.20 vsウィド・パエス

『いつかのメリークリスマス』（B'z）
2006.12.20 vsモハマド・サディック

『love song』（森友嵐士のオリジナル）
2007.2.24 vsビッキー・タミフル
2007.4.30 vsクリストファー・テポラ
2007.7.28 vsファベッチノーイ・クラティンデーンジム

『道』（EXILE）
2007.4.30 vsクリストファー・テポラ

『みんなへ』（亀田大毅）
2010.2.7 vsデンカオセーン・カオウィチット
2010.9.25 vs坂田健史

テレビでは俺の歌がカットやってん！　TBS、ビビッてんねん！

――そりゃそうですね（笑）。

大毅　まあ、それでもやり続けて。「俺でも歌を作れるんやないかな」って思って、初めて作った曲が『みんなへ』。

――あ、あの曲は処女作でしたか。

大毅　最初に作って、寝かしといたんや。ワインと同じで歌も寝かせば、いい味が出てくんねんて。曲ができたあと、1年間、いろんな嫌なこともあったけど、そういうことも全部、詩に書き出して。それでできあがったんやもん。1年戦争やで。

――謹慎中の思いがあの曲に凝縮されている、と。

大毅　そうそう。だからもう、できあがったときは、「これはちょっと早く歌わないかんな」って。「世界チャンピオンになったときに歌おうかな」って、軽い気持ちで思ってたわ。歌のことばっかり考えてたら、親父にまた怒られるから。1年間試合ができへんかったから。しかも、年齢的に一番伸びる時期にできへんかったから。

――そしたら歌の才能が伸びちゃった、みたいな（笑）。

大毅　まあ、才能は伸びたか知らんけど、歌を1年寝かしたのは意味があったな。

――そしていま、また試合後の歌もポジティブにとらえられ始めてますよね。

大毅　やっぱり1年間寝かしたのがよかったんやろな。

――ところが、このあいだの世界戦のあとの歌は、テレビでは流れなかったんですよね。

大毅　そう、カットやってん！

――きっとテレビ局としては、せっかく禊が済んで、亀田大毅の評価が上がってきたのに、歌を流して「やっぱり反省してない」っていう声がくるのが嫌だったんでしょうね。

大毅　そう。TBS、ビビッてんねん。でも、俺の歌なんか聴きたくないっていう人がおるのもわかるから、好きな人だけが試合後も残って聴いてくれたらええねん。全国民に捧げたい歌ではないから。

――『みんなへ』っていうのは、支えてくれたファンに捧げた歌ですもんね。

大毅　やっぱり俺の歌を楽しみにしてくれてる人もおるんよ。そういう人たちのためにも……なあ？

――歌い始めた初期は「次はこれを歌ってください」みたいなリクエストもあったんですよね？

大毅　あった！

――だから年齢に合わない曲が多かったんですか？

大毅　いや、俺が歌うのは親父の車の中で聴いて好きになった曲が多いんよ。T-BORAN、THE虎舞竜とかな。最近の歌はEXILEくらいやな。

――ハウンドドッグとかも歌ってましたよね。

大毅　歌ったな～。だから俺は親父世代の歌を歌うやろ？　そうすると、ハウンド

ドッグとか好きなボクシングファンが「ハウンドドッグ歌いやがって、ボケ！」って

――ダハハハハ！　そりゃそうだ（笑）。

大毅　でも、俺は歌手じゃないから、間違

田祭り』が開催されるという噂がありますけど、年末も試合はできそうですか？

大毅　上げられたらと思ってますんで。

大毅　まあ、お兄ちゃんと和毅はボクシン

ドッグとか好きなボクシングファンが「ハウンドドッグ歌いやがって、ボケ！」って思うんよ（笑）。

──俺のハウンドドッグを勝手に歌うな、と（笑）。

大毅　ホンマやったら、最初はリングで歌って、このあいだはピアノやったから、今度はステージの上で歌ったろうかなと思ってんねんけどな。ライブみたいに。「そんな力あったらリングで出せえや！」って親父は怒ると思うねんけど（笑）。

──でも、このあいだのピアノ弾き語りも世界戦をフルラウンドやったあとですからね。

大毅　大変やねんで。2月のデンカオセーンのときは、さすがにしんどかった。終わったら、なんでか知らんけど熱出てん。歌のせいちゃうかって思って（笑）。

──残されたエネルギーをすべて歌に注入してしまい、発熱（笑）。

大毅　ま、減量の疲れとかもあってんけど。高熱が出て、祝勝会に行かれへんかってん。あれはやばかった。

──ある意味、命を削って歌っている、と。

大毅　謹慎してから初めての歌やったからな。

──しかも、歌だけでなく初のピアノ弾き語りですからね。

大毅　カリスマあるわ、ホンマに。あのときなんか自分じゃないみたいやったもん。ただ、ちょっと失敗したんは、ピアノ弾くのに、バンデージはめてたから、指が届かへんねん。

大晦日は『亀田祭り』と『紅白歌合戦』を歌でハシゴするのもええかな（笑）

──ダハハハハ！　そりゃそうだ（笑）。

大毅　でも、俺は歌手じゃないから、間違っても恥ずかしいとも思わへん。緊張もせえへんかったし。やっぱ試合のほうが緊張するわな。ボクサーやから。

──あたりまえです（笑）。

大毅　だから、歌を間違えてもかまわへん、負けてもかまわへんって、開き直るのもええのかもな。だから、これからは防衛とか、何階級制覇やなしに、自分が満足する試合を一回でいいからしたい。みんなが「うわ〜、アツかったな今日の試合！」



かめだ・だいき■1989年1月6日、大阪府出身。亀田三兄弟の次男。2006年にプロデビュー。07年11月の内藤大助戦での反則行為により、1年間のライセンス停止処分を受けるが、2010年2月にデンカオセーン・カオウィチットを破りWBA世界フライ級王座を奪取。同年9月には坂田健史に判定勝ち。初防衛をはたした。168cm、右ファイターボクサー。

って語り合ったり、「感動したな〜、今日の試合！」っていうぐらいの試合をせな。俺はボクサーとしてここにおんねんからな。

──あたりまえのことながら、歌はそこに付属されるボーナスってことですよね。で、いま年末に亀田三兄弟揃い踏みの『亀田祭り』が開催されるという噂がありますけど、年末も試合はできそうですか？

大毅　できると思うで。俺次第では。『亀田祭り』っていうのは、俺知らんねんけどな。新聞見てビックリしてんもん。「三兄弟揃い踏みって、俺が出えへんって言ったらどないすんねやろな」って。

──揃い踏みするだけで、「亀田大毅は歌で登場します」っていうオチでもいいんじゃないですか（笑）。

大毅　ああ、そうしようか。「二人が勝ったら歌います」って、俺がいいとこ取りすんねんな（笑）。

──『亀田祭り』は大晦日になりそうなんですか？

大毅　いや、全然知らんねんて。でも、大晦日やったらクリスマスも減量せなアカンのか。ちょっと嫌やな。

──やっぱり、ここは歌で登場して打倒・紅白を目指しましょうか（笑）。

大毅　いや、5時頃試合やって、終わってから紅白に駆けつけるよ。「みんな、歌は紅白で聴いてくれ」とか言うて（笑）。

──『レコード大賞』と『紅白』のハシゴはありますけど、ボクシングと『紅白』のハシゴは初でしょうね。

大毅　TBSやから『レコード大賞』で歌うのでもええかな。

──それもいいですね。でも、いま『レコード大賞』は大晦日じゃなくて、30日なんですよ。

大毅　今年は31日にしてもらおうや。

──亀田大毅の『一人レコード大賞』とかでもいいですよ（笑）。とにかく、年末はボクシングと総合格闘技が相乗効果で盛り上げられたらと思ってますんで。

大毅　まあ、お兄ちゃんと和毅はボクシングやろうけど、俺は試合せずに歌だけかもしれんから（笑）。

──じゃあ、せっかくなんで新曲を期待してますよ。

大毅　じつは新曲、いっぱいできてんで。

──あ、もう用意っていうか、すでにできてんねん。50曲ぐらいあるで。

大毅　用意されてるんですか。

──オリジナルがすでに50曲！　凄いですね（笑）。

大毅　でも、完成に近づいてるのは、あと2、3曲だけやけどな。メロディーは50曲ぐらいあるんやけど、詩を入れるのがまた難しい。

──それでもストックが50曲はとんでもないですね。

大毅　しかも、俺は録音してないから。歌手の人に聞くと、みんな曲ができたらレコード録っておくらしいんや。忘れるから。でも、俺は（頭を指しながら）ここがレコードやから忘れへん。50曲、全部入ってんねん。

──すべての曲が頭に入ってますか。天才モーツァルト級ですね（笑）。

大毅　うん、いつでも引き出せるから。俺自身がレコードや。


──では、そんな音楽の天才、亀田大毅選手のことは、これから「浪速の弁慶」ではなく「浪速のモーツァルト」と呼ばせていただきます（笑）。

大毅　それ、もうおるやろ！

──あれ？　なんか聞いたことある名前ですか？（笑）

大毅　他人の名前取ったらアカン。また怒られるわ（笑）。

【10年10月2日／都内・亀田ジムにて収録】



東北の英雄が奇跡の迷曲『セパラドス』誕生秘話、ついでに山本KIDブログでおなじみのUFOを激語り！

ミュージシャン

The Great SASUKE

ザ・グレート・サスケ

「私はボン・ジョヴィを超えた」

音楽を語らせるならこの人！　マット界の奇才、サスケ先生が登場だ！
どうしてまた『セパラドス』を自分で歌っちゃったのか？
どうしてまたアンヴィルの格好をしちゃってるのか？
おいそが氏の東北の英雄が電話インタビューで答えてくれちゃいました！

聞き手／鈴木佑　試合写真／平工幸雄

――サスケさん、今回の特集テーマは音楽なんですよ。そこで、かつてC

サスケ　そうですね。サスケとして凱旋帰国した当初も、通常の『セパラ

んだろうっていうね（笑）。でもさすがに商品としてCDができあがった

サスケ　いやいやいや（笑）。で、キングレコードさんがありがたいのは

って！」って声が聞こえるようになったんですよ。それがきっかけで、かな

『セパラドス』はランキング番組で十何週もトップをキープしたんです

—サスケさん、今回の特集テーマは音楽なんですよ。そこで、かつてCDを出したり、いまはヘビメタバンドのアンヴィルをキャラのモチーフにしてるサスケさんに、ぜひお話を聞きたいと思いまして！

サスケ　いえいえ、何をおっしゃいますやらですよ～。というか、やっぱりマット界で歌といったら藤波（辰爾）さんでしょう！（笑）。

—もちろん、藤波さんにもお話を聞いております（笑）。さて、そもそもサスケさんは、なぜあの名曲『セパラドス』を自分で歌おうと思ったんですか？　もともとは浅井嘉浩さん（現ウルティモ・ドラゴン）が使用してたわけですが。

サスケ　まぁ、まず一言で表わせば、浅井さんへのあてつけですよね。

—あてつけ！（笑）。

サスケ　当時、浅井さんがユニバーサル（・プロレスリング）を辞めてSWSに移籍する流れのなかで、まだマスクを被る前の私がメキシコ修行から一時帰国したんですね。そのときにあてつけとして、浅井さんと同じコスチュームを着て、同じテーマ曲で入場したんですよ。

—それは新間寿恒さん（ユニバーサル代表）の意向だったんですか？

サスケ　いや、どちらかというと私の意向でしたね（笑）。

—なるほど（笑）。でも、そのときはサスケさんが歌ってないバージョンでしたよね？

サスケ　そうですね。サスケとして凱旋帰国した当初も、通常の『セパラドス』でしたね。で、みちのくプロレスを旗揚げして間もない頃に、当時レフェリーのテッド・タナベさんが、たまたまキングレコードの大槻さんという方と知り合いだったんですよ。その親交のなかでタナベさんが、「サスケになんか歌わせようぜ」なんていうノリになりましてね。

—それは悪ノリみたいな感じで？

サスケ　いや、それがテッドさんは真剣だったんですよ。さらに大槻さんがより真剣で（笑）。ただ、私としては歌なんて人前で歌ったこともないし、戸惑いはありましたよね。むしろ苦手なほうですし。

—ボイストレーニングとかしたんですか？

サスケ　いやいや、全然しなかったです。いまにして思えば失礼な話ですね。しかもメジャーレーベルでCDを出すっていう、事の重大さをまったく理解せず。でも、なんだかんだでレコーディング自体は1時間くらいで終わったんですよ。継ぎはぎしながら。

—いわゆるいいとこ取りを？

サスケ　まあ、いいとこなんてなかったですけどね、悪いとこ集めみたいな感じで（笑）。

—『kamipro』でも当時、よく高音域を「鶏を絞め殺したときの声」ってネタにさせていただいて（笑）。

サスケ　ガハハハ！　いや～、ホントになんであんなもん出しちゃったんだろうっていうね（笑）。でもさすがに商品としてCDができあがったときはうれしくて、何回も繰り返し聞いちゃいましたね～（しみじみと）。その当時はまだアナログな時代だったんで、CDなんておいそれと自作できなかったですし。

—いまでこそ自主制作も珍しくないですもんね。

サスケ　そうそう。だからホントに歌がヘタなのはそっちのけでうれしかったですよ。会場以外に普通にCDショップとかでも並んでましたからね、フフフ。



サスケは96年のみちのく両国大会で高野拳磁with Tとして登場。当時、隆盛を誇った小室哲哉ばりにシンセサイザーをクネクネと演奏。ちなみに小学校の頃にエレクトーンを習ってたとか。

—ちなみにどれくらい売れたんですか？

サスケ　う～んと、ちょっと詳しい数字は忘れましたけど、初回の印税で数十万は入ったんじゃないですかね。たしか一枚売れると印税が5パーセントくらいなのかな。

—おぉ～、それは破壊王の『橋本元年』よりは売れたんじゃないですかね（笑）。

サスケ　いやいやいや（笑）。で、キングレコードさんがありがたいのはですね、いまだに廃盤にせず流通してるってことなんですよ。「もう恥ずかしいからやめて！」と思いつつも、3カ月にいっぺんは印税計算書が届くっていう。まぁ、CDを出したときはカミさんにエラい怒られましたけどね。「こんなヒドいスペイン語はないわよ！　歌手でもないのによく平気で歌えるわね」って、まるでもう恥知らず扱いで（笑）。

—メキシコ人の奥さんは発音がネイティブですものね。

サスケ　でも、発売後に岩手では思わぬ大きな反響がありまして、地元のAMラジオ局の音楽ランキング番組にリクエストが殺到したんですよ。異常にリスナーの方におもしろがってもらっちゃって。

—鶏殺しの『セパラドス』がヘビーローテーションでかかってましたか（笑）。

サスケ　そうそう（笑）。十何週連続で1位をキープしたんですよ。なんでも、その番組でそこまでトップの座に君臨したのは、寺尾聰の『ルビーの指輪』以来だったらしくてね。

—レコード大賞受賞曲と並んだ、と（笑）。

サスケ　そんなズンドコな伝説を残してしまいましたね～、はい（笑）。で、私があの曲を歌わされたのもリリースした年くらいで、しばらくはプロレス業界的にも忘れさられてたんですね。でも1999年とか2000年あたり、まさに世紀末を迎えたときにみちプロの後楽園大会なんかで、やたらと客席から「『セパラドス』歌って！」って声が聞こえるようになったんですよ。それがきっかけで、かならず大会終了後には私が『ゼパラドス』を歌うという、そんな妙な慣例ができちゃいまして。

—それは試合後でお疲れでしょうし、口パクだったんじゃないですか？

サスケ　いや、もう生歌でしたよ。あの高いキーの部分もへんに歌いこなせるようになっちゃって。とくに練習もしなかったんですけど、けっこう人前でカラオケを歌う機会も増えてたのがよかったのかもしれないですね。

—それはいわゆる営業のときなんかに？

サスケ　そうですそうです。でも、さすがに『セパラドス』はカラオケに入ってないので、ほかのものを歌ってましたけどね。

—ちなみにどういった歌ですか？

サスケ　もう、私はもっぱら洋楽です！（キッパリ）。

—もっぱら洋楽！（笑）。その中でもフェイバリットは？

サスケ　やっぱり高校時代からボン・ジョヴィが大好きなんですよ。来日ライブは欠かさず行ってますし。いや、もうボン・ジョヴィはね、だいぶ歌ってますよね、いまでも。

—ほ～、ボン・ジョヴィを歌いこなしちゃいますか？

サスケ　あの～、最初はかなり苦戦しましたよね。まずキーが高いですし、やたら難しいんですよ、ボン・ジョヴィの曲って。譜割りっていうらしいんですけど、音に対して言葉が詰まっているので、カラオケでも歌詞を追うようにしちゃうと、もう全然歌えないんですよね。





サスケ先生が映画『アンヴィル! 夢を諦めきれない男たち』に感化されたことを聞きつけた本誌は、アンヴィル本人たちとの対談を実現! これがきっかけでサスケ先生はアンヴィルキャラへの道を突き進むことに?

ザ・グレート・サスケの好きな歌BEST3

1位『メタル・オン・メタル』(アンヴィル)
2位『Rain Dog』(松本哲也)
3位『消え行く花のように』(ロクセット)

私は魂で歌うというか、歌詞を覚えてなくても雰囲気でごまかします

―となると、そこは自分なりにアレンジを?

サスケ そうですね、いわゆるミュージシャンの人たちがよく言うように魂で歌うというかね。

―ロックですねぇ(笑)。

サスケ もうね、目で歌詞を追わない歌い方っていうのに気づいたんですよ。歌詞をそんなに正確に覚えなくても、雰囲気でごまかすっていう(笑)。

―ちなみにボン・ジョヴィで好きな曲は?

サスケ やっぱりマイフェイバリットは『It's my life』ですね! あれなんかはもう完全に自分の歌にしちゃいましたよね。たぶん、ジョン・ボン・ジョヴィさん本人よりうまいと思います。

―ダハハハ!

サスケ それで私が盛岡界隈で『It's my life』を歌い込んでいたら、同級生のバンドやってる連中から声がかかって、何度かゲストヴォーカルとしてライブの生演奏でも歌ったことがあるんですよ。

―それは聞きたいな～。どんな反応なんですか?

サスケ それが皆さん、意外と喜んでくれてね。私が『It's my life』を歌うと場が最高潮に盛り上がるみたいな、そんな感じなんですよね。なので、ジョン・ボン・ジョヴィさんには申し訳ないですけど、私のほうが……。

―うまい、と(笑)。あと、いまサスケさんはアンヴィルキャラになってるわけですけど、それは映画へのオマージュとして?

サスケ もちろん。そういえば先日、代表曲の『メタル・オン・メタル』をカラオケで初トライしたんですよ。いまってほら、全国でその日に同じ曲を歌った人をランキング形式で調べることができるじゃないですか? 戯れにそれを試しにやってみたんですね。そしたらね、なんと全国で1位になっちゃいましたよ、私(自信満々に)。

―へ～、それは非常におめでたいんですけど、その日は全国で何人くらい歌ってたんですか?

サスケ え～と、全国でその日歌った人は3名でしたね、ガハハハ!

―3人中、見事1位でしたか(笑)。

サスケ なんにしろうれしかったので、当然『メタル・オン・メタル』もマイレパートリー入りをはたして、夜な夜な歌ってますよ、はい～。

―基本的に好きなのはHR/HM系なんですね。

サスケ 歌うのはそうですね。でも聴くのはわりとポップス系が好きですね。

―あ、そうなんですか? では好きなアーティストは?

サスケ まずはシンガーソングライターの井上昌己さんですね。最近、けっこう仲良くさせていただいてましてね(笑)。そしてこれはこだわりなんですけど、カイリー・ミノーグですね。この二人は私と同年代なんですよ。やっぱりその、41歳でいまも輝き

続けているのは、世界中を見渡して
なんですけど。
ブログにUFOが写り込んで話題に
は言えなくもないな、という。
だったり地球脱出のためのUFOです

KIDさんのブログのUFOは
ニセモノと言えなくもないな、と

続けているのは、世界中を見渡しても井上昌己さんとカイリー・ミノーグ、そしてザ・グレート・サスケぐらいかなっていうふうに思ってるんですけどね。

——なるほど（笑）。

サスケ　そもそも井上昌己さんは、今年の夏にイベントの仕事でご一緒してからすっかりファンになっちゃいまして。彼女はデビューがたしか1989年かなんかで、その当時は『熱闘甲子園』のテーマ曲を歌ったりして、励まし系ソングのハシリだった人ですよね。息の長い方で、私にとっては同じ音楽業界の先輩というか。

——同じ音楽業界（笑）。カイリー・ミノーグは？

サスケ　もう、とにかくデビュー当時から大好きなんですけど、彼女はアルバムを出してもスベることが多々あるんですね。売り上げ的にも内容的にも。でも、カイリー・ミノーグの凄いところはそこから立ち直るんですよ。その浮き沈みの歴史に魅せられるというか。地元のオーストラリアとヨーロッパ全土では圧倒的な支持を受けて、出すアルバムは全部チャート1位なんですけど、日米ではあまりウケてないんですよね～。

——サスケさん的には広めていきたい、と？

サスケ　そうですね、一方的に日本の応援団長として。あと、最近はOLIVIAにもホレ込んでますね。アメリカ人とのハーフのアーティストなんですけど。

——サスケさんは音楽の好みも振り幅が広いんですね～。

サスケ　いや、あのコのダークで独特な世界観が、私のストライクゾーンにドンピシャでね。いつかみちのくにスペシャルゲストとして呼んで、ライブパフォーマンスをしてもらいたいですねぇ。

——ミュージシャンとして、音楽にはいろいろとこだわりがある、と。あ、サスケさん、音楽とまったく関係ない話なんですけど、最近マット界を騒がせたUFO情報についても聞いていいですか？

サスケ　はいはい、私はUFO研究家ですからなんなりと。

——あの、山本〝KID〟徳郁さんのブログにUFOが写り込んで話題になってるのは知ってます？

サスケ　あ～、はいはい、ブログそのものは見てないんですけど、ネットのニュースで見ましたね。ちなみにどんなかたちのUFOなんですか？

——いわゆる円盤型で凄くアナログな感じなんですよ。

サスケ　ほーほー、ちょっといまネットで調べて見てみますね。え～と、あ、ありましたね。どれどれ……。（しばしの沈黙のあと）エ～～～!? え、何コレ？ エ～～～～～!?

——ダハハハ！ いいリアクションしますね（笑）。

サスケ　いや、まぁ、これは、う～ん……また懐かしいUFOですよね、ずいぶんね。

——ズバリ、これはサスケさんの目から見てホンモノなんでしょうか？

サスケ　あの～、まあUFO研究家から言わせてもらうと、ニセモノとは言えなくもないな、という。



ざ・ぐれーと・さすけ■本名・非公表。1969年7月18日、岩手県出身。新日本プロレス学校を経て、90年3月にユニバーサル・プロレスでデビュー。現在はみちのくプロレス会長として、さまざまなリングで活躍中。180cm、88kg。

——言えなくもない（笑）。

サスケ　いや、これ、でもなんだろうな……。ちなみにKIDさんご本人はUFOに対してコメント出してるんですか？

——とくには触れてないんですよ。で、そのときのブログが釣りに行ったけど成果がなかったという内容なので、一部では「UFOで人が釣れた」なんて言われてるんですけど（笑）。

サスケ　ガハハハ！ しかし妙に昭和チックなUFOですねぇ。いまの時代にこのかたちはないというか、凄くあの～、うん、よくできた写真ですね。

——よくできた写真（笑）。

サスケ　一見、いわゆるアダムスキー型と呼ばれるUFOに見えるんですけど、底面の着陸ギアと呼ばれる球形のものが4つくらい写ってるんですよね。アダムスキー型だと普通は3つですから。

——一個多い、と。

サスケ　あとはてっぺんにアンテナみたいなものがちょろっと伸びてますでしょ？ これもね、いかがなものかなというか、アダムスキー型というよりナチスドイツの残党が作ったタイプのUFOに似てますよね。

——ナチスの残党が作ったUFO！（笑）。

サスケ　そうそう。ちょうど第二次大戦中と終戦後に、ナチスの残党が南極を拠点に、アルデバラン星人と結託して極秘開発したUFOに似てますね、はい～。

——ア、アルデバラン星人、ですか？（汗）。

サスケ　そうですね。まぁ、世界侵略だったり地球脱出のためのUFOですよね。で、このアンテナっぽいのは機関銃みたいなものなんですよ。ナチスにとってUFOは兵器みたいなもんですから、戦車の発展型といいますか。

——は～……。でも、なんでそんなものがKID選手のブログに写ったんですかね？

サスケ　いやぁ、これについてのKIDさんの見解をぜひ聞きたいですねぇ。これは非常に興味深い、おもしろい写真ですよ。あながちニセモノと言いきれない、何か独特のオーラがありますね、この写真には。

——ちなみにUFOを呼び寄せるオーラを持ってる人、みたいなものってあるんですか？

サスケ　いや、それは残念ながらないんですよ。UFOっていうのは物理現象なのでいたら写るし、いなかったら写らない、ただそれだけのものであって。しかし、この写真はホントに光の加減とかうまくできてますよ。もし作りものだとしたらね。

——ホンモノっぽいっていう。

サスケ　ぽいですねぇ～。もしかしたら本物かもしれないですし。

——ナチスドイツのかもしれない、と（笑）。

サスケ　そうですよ、タイムスリップして出てきたのかもしれない。ただとりあえず、いま現代においては見れないかたちであることは確かですね。いやぁ、いいもの見たなぁ。逆に新鮮ですよね、はい～。

——サスケさんのご意見も新鮮でした（笑）。今日も貴重なお話、ありがとうございました！

【10年10月7日／電話取材にて収録】

The Great SASUKE



ヒョードルに青木に川尻、豪華ファイターが実名で約60名も登場する対戦格闘ゲーム上陸!!

MMA版ロイヤルランブル!?

狂乱のサイコスター

ジェイソン・〝メイヘム〟・ミラーが『EA SPORTS 総合格闘技』に狂喜乱舞る!!

11月中旬にエレクトロニック・アーツ株式会社から発売される、PS3／Xbox 360用格闘ゲーム『EA SPORTS総合格闘技』。ストライクフォースのファイターを中心に、日本人選手も多数登場する本作を、MMAのファンタジスタがゴキゲンモードで徹底解説！

聞き手／鈴木佑

——メイヘムさん、今日は『EA SPORTS 総合格闘技』の宣伝用映像の撮影だったそうですね！

メイヘム　ハイ！（日本語で）。凄く楽しかったよ。ストーリー的には、俺が「ゲームのパッケージにしてくれ」って売り込みに行くんだけど、プロデューサーに「私にゲームで勝ったらいいよ」って言われるんだ。そこで俺は負けちゃうんだけど、また猛練習して挑戦する。でもやっぱり負けて、最後にはプロデューサーを殴ってボコボコにしちゃうっていう設定なんだけどね。

——ハハハハ、メイヘムさんらしい破天荒なストーリーですね〜。

メイヘム　ほかにもヨシダサン（吉田秀彦）やアオキサン（青木真也）、カワジリサン（川尻達也）も宣伝映像を撮ったらしいよ。たぶん、俺はサクラバサンに勝ったから、ごほうびで撮影してもらったんじゃないかな（笑）。

——なるほど（笑）。さて、この『EA SPORTS 総合格闘技』の魅力を教えてもらいたいんですが？

メイヘム　いままでに格闘ゲームもいろんなものがあったけど、このゲームはリアルの格闘技に最も近い感じに仕上がってると思うよ！

——なんでも実際にゲーム制作にも協力したとか？

メイヘム　うん。たとえば、ほかの格闘ゲームだとスタンドの攻防で打撃を受けると、すぐにダウンになることが多かったんだよ。でも、実際のMMAではダメージをもらってもすぐには倒れず、タックルや押さえ込みにいく展開だってあるだろ？



思わずイスに飛び乗りながら『EA SPORTS 総合格闘技』に熱中するメイヘム。狂乱のサイコスターは筋金入りのゲーマーだったのだ！

だからこのゲームにはそういうシーンも入れてほしいってアドバイスしたんだ。
――まさに現場の声ですね。
メイヘム　あとはキング・モーも制作に協力してたよ。彼も俺と同じように筋金入りのゲーマーだからね。
――日本でもおなじみのファイター二人が協力したゲームだ、と。
メイヘム　俺はファイターと同時にゲーマーだから、アドバイスするにはうってつけだと思うしね。
――もともと格闘ゲームは好きなジャンルなんですか？
メイヘム　ソウデス！（日本語で）。昔からよくやってたのは『ダブルドラゴン』。あとは『ストリートファイター』かな。それに今回と同じEA SPORTSの『ファイトナイト』っていう格闘ゲームにもハマったね。ほかのジャンルだと、街の中を歩きながら物を壊していくような、ちょっとバイオレンスなのも好きだし（笑）。
――ちなみに日本に来たら必ずゲームセンターに行くって聞いたんですが？
メイヘム　ゲーセン、ダイスキ！（日本語で）。FPS（ファーストパーソン・シューティングゲーム）みたいな銃を撃ちまくるやつが得意なんだ。バババババッ！（銃を持つ構えで）。
――ハハハ。さて、このゲームにはメイヘムさんも実名で登場するわけですけど、ゲームのキャラになるのは初めてですか？
メイヘム　ソウデス！（日本語で）。『ストリートファイター』のブランカに動きが似てるって言われたことはあったけどね、ハッハッハッ！
――確かに奇想天外な動きは似てますね（笑）。でも、自分がゲームに登場するのはうれしいんじゃないですか？

ゲームではニック・ディアスに何回も勝ってるよ!


操作にはアナログスティックを使用し、パンチやエルボー、ヒザ蹴りを直感的に繰り出せる方法を採用。リアリティ満点のグラフィックと相まって、ド迫力のファイトを堪能できる!

メイヘム　イエス！　格闘ゲームに自分が出るのは子どもの頃からの夢だったんだ。だから、トテモウレシイ！（日本語で）。最近、いろんな夢がかなってるんだよね、憧れのサクラバサンにも勝てたし。いまもいい夢を見てる途中だから、このまま起こさないでほしいよ（笑）。
――このゲームで遊ぶときに使うキャラクターは？
メイヘム　もちろん自分さ！　と、言いたいところだけど、対戦する相手によって、ストライカーとかグラップラーとか使い分けるようにしてるんだ。相手との相性を考えてね。意外とクレバーだろ？（笑）。
――確かに（笑）。自分のキャラを使って夢のカードを実現しました？
メイヘム　そうだね。でも、デモのときにいろんなファイターと闘ったんだけど、その段階ではヨシダサン（吉田秀彦）が登録されてなかったんだ。だからヨシダサンと闘いたいね、イッポン！（※注・階級を越えての闘いはできません）。あと、ニック・ディアスとは何回でもやりたい！
――ストライクフォースのリングで乱闘騒ぎになった因縁がある相手ですね。
メイヘム　だけど、ヤツはゲームの中でも僕を恐れてるみたいだよ、こっちの連戦連勝だからね！　あと、チャンピオンのジェイク・シールズにも何回も勝ってるよ（笑）。
――ちなみに、ゲームは試合のシミュレーションになりますか？
メイヘム　そうだね。もちろん実際の試合とは違うけど、映像に迫力があるし、実際の試合の臨場感に近いものは味わえるね。ただ、自分のキャラはもっと強くてもいいかなとは思ってるけど（笑）。
――メイヘムさんは観客を楽しませるような試合をしますが、このゲームをやるときも意識するんですか？
メイヘム　もちろんだよ！　サクラバとの試合前のトレーニングキャンプでも、空き時間にこのゲームをやってたんだけど、観てる仲間たちにも楽しんでもらえるようにやってたよ。まぁ、もともとこのゲームは観てるだけでも充分楽しめるからね。
――それでは最後にファンに向けて、ゲーマーとしてメッセージをお願いします！
メイヘム　さぁ、いまこの雑誌を読んでるなら、それを投げ捨てて、すぐに『EA SPORTS総合格闘技』をするんだ！　ハッハッハッ！　まぁ、ジョークはさておき、プレイするときは俺を使ってくれよな。相手はヨシダサンでもアオキサンでもヒョードルでもいいぜ！　あとは選手作成モードで、君のお父さんも作ってくれ。
――え、なんでお父さんなんですか？
メイヘム　そしたら俺が君のお父さんをやっつけてやるぜ！　ハッハッハッ！
【10年10月1日／都内・エレクトロニック・アーツ株式会社にて収録】

メイヘムが出演する映像については『EA SPORTS 総合格闘技』公式サイトをチェック！　アドレス→http://easports.jp/mma/2010/

——ヒクソンさん、お会いできて光栄で



Gracie
ヒクソン・グレイシー

――ヒクソンさん、お会いできて光栄です。まずは今回、本（『ヒクソン・グレイシー最強の法則』ダイヤモンド社）を出版された理由から教えてください。

ヒクソン　本を出そうと思ったのは、やはりファイターとしての現役を引退したことがきっかけだね。闘いから離れたあと、自分がこれまで培ってきた経験や、心の持ち方などを、皆さんと共有したい。人々の助けになりたいと思ったんだ。多くの人はリングで闘うことはないけれど、日々の生活のなかで、プレッシャーを感じたり、問題に直面したりすることは、誰にでもあることだ。そんなときに、どのように自分自身をコントロールするか、そういったメンタルの部分で私の経験や知識が人々の役に立つだろうと思ったんだよ。

――では、いろんな人にとっての人生のヒントが散りばめられている、と。

ヒクソン　みんな、よりよいライフを送りたいと思っている。そのためには、自分の気持ちを管理しなければいけない。実生活もファイティングもそこに共通点があると思うんだよ。いま格闘技においても、肉体的に強くなることばかりが重要視されているが、本来は広い意味での〝テクニック〟が最も重要なんだ。人々は生きる術を見つけることによって、よりよい人間になることが必要だし、ファイターはよりよいファイターになる必要がある。

――ヒクソンさんはやはり、いまの格闘家がフィジカルに頼りすぎだと感じているわけですか？

ヒクソン　いま柔術でもMMAでも、どうしても肉体的な強さを求めすぎて、みんな技術を忘れてしまっているんだ。それは時間制限があり、体重別の試合ばかりになったことが大きな原因だろう。もし、時間制

無敗のままリングを去った男が
現役晩年の真実を語る

PRIDEの終わりが私のファイターとしての引退を決断させた

あのヒクソン・グレイシーが初めて本を出版。そのプロモーションでひさしぶりに来日をはたした。
2000年5月の船木誠勝戦以来、次の試合が期待されながら、結局そのまま試合をせずに
現役引退を宣言してしまったヒクソン。その決断の裏には何があったのか。またヒクソンはいまの格闘技界をどのように見ているのか？

聞き手／堀江ガンツ　撮影／笹井孝祐

Rickson

限、体重制限を外したら、みんなもっとその局面に合ったアプリケートを使うようにならざるをえない。テクニックとは本来、その局面におけるベストなアプリケートをアジャストし、使っていくものなんだよ。

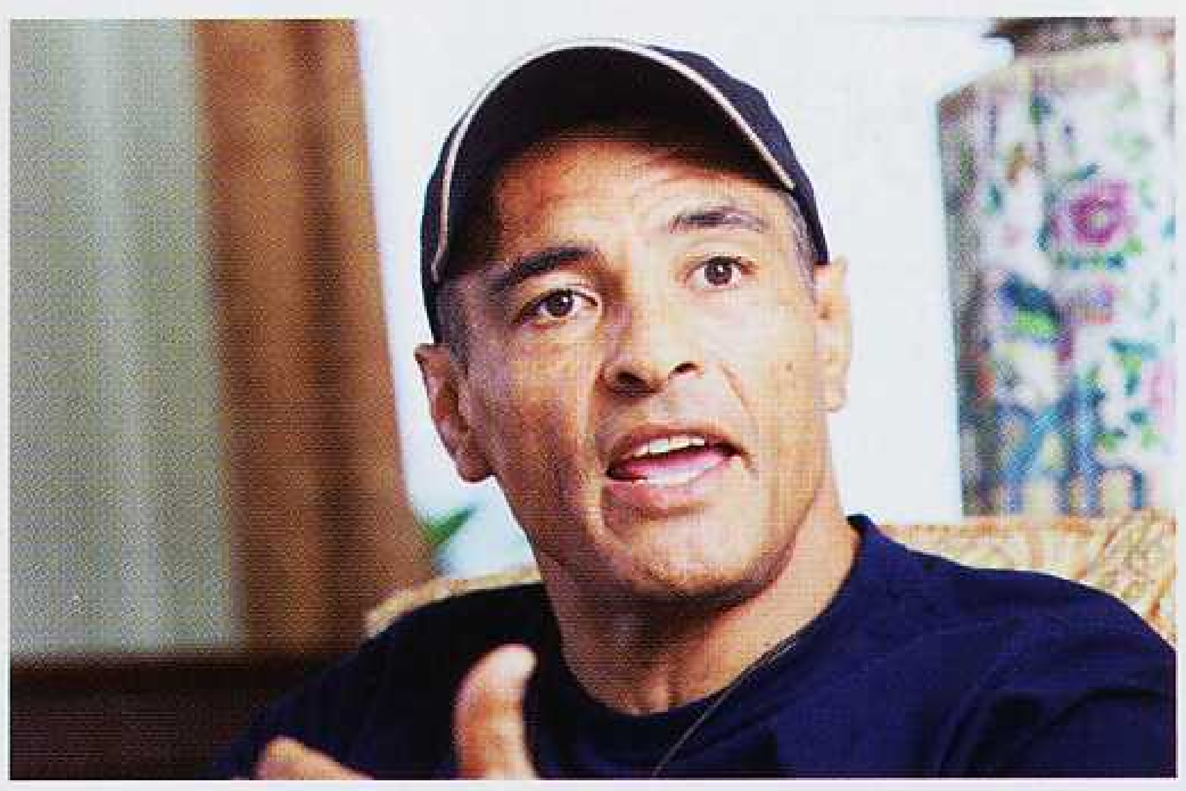
——それはやはり5分3ラウンドという形式では表現し難いものですか？

ヒクソン　いまのファイターは、みんな充分なトレーニングを積んで試合に臨んでいるので、5分3ラウンドという時間内で、ガス欠を恐れずにフィジカルの強さで勝つことができるんだ。しかし、もし相手が自分よりはるかに大きかったら、単純にフィジカルで攻めることはできない。また、時間制限がなければ、最初から全力で攻めるようなことはできない。おそらく、誰でもまずは攻めるよりも、いかに自分を守るかを考えるだろう。自分を守りながら戦機を見いだし、その局面に合った技術をトランジションし、チャンスがあればフィニッシュする。これは柔術が本来持っていた考え方でもある。柔術はいかに自分より（体力的、体格的に）強い人間に、弱い人間が勝つかということが重要だからね。

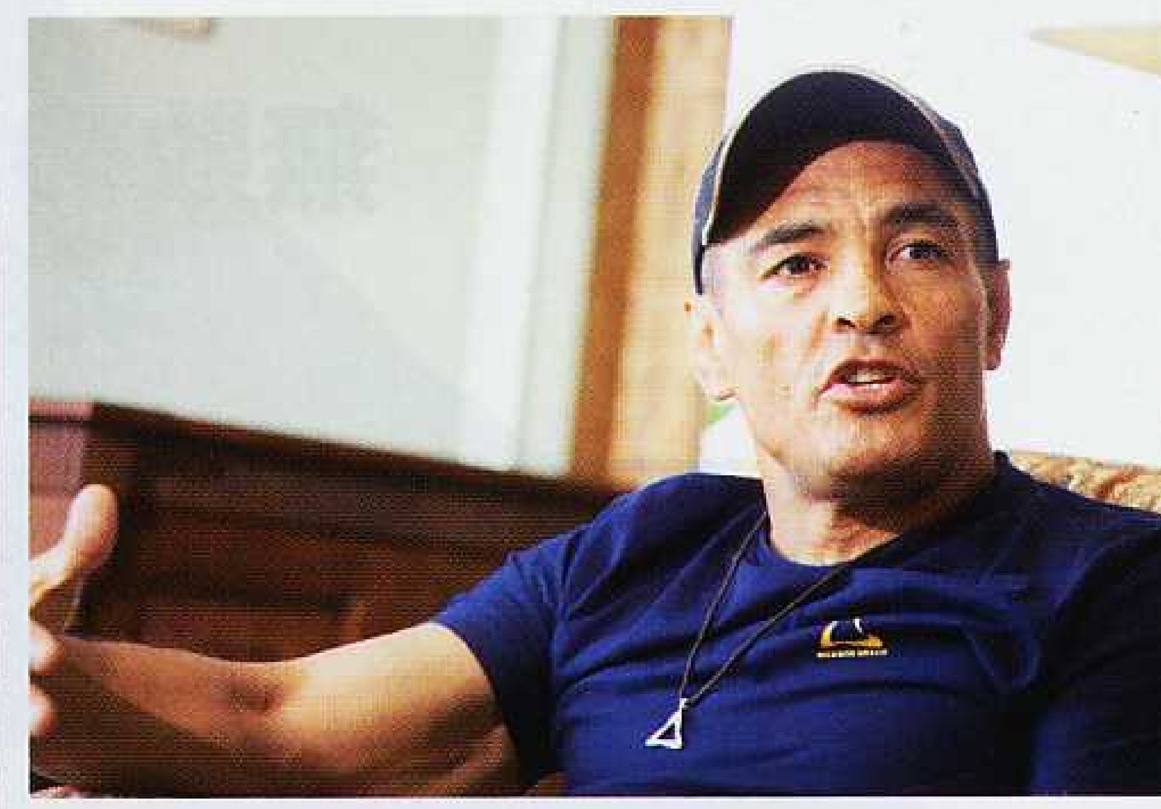
——ヒクソンさんの言う、時間と体重制限のない試合というのは、メジャーな舞台では2000年5月の桜庭和志vsホイス・グレイシー戦が最後だったと思いますが、あの試合はどう評価していますか？

ヒクソン　あの試合は、ホイス以上にサクラバが、いま私が言った本来の〝テクニック〟を使った試合だと言えるだろう。ホイスは初期UFCの頃こそ私と近い関係にあったが、PRIDEのときは少し離れてしまっていた。本来必要であるサポートを充分に受けられなかったのだろう。

——本当の意味で、〝ファミリー代表〟として闘うことができなかった、と。







Rickson Gracie

本当はフナキと闘った翌年すぐにサクラバと闘うのがベストだった

ヒクソン　だからサクラバ戦のときは、彼自身も精神的に不安定な状況だったし、ホイス自身の準備がまったくできていなかったことが問題なんだ。

——逆に桜庭選手はしっかり準備ができており、自分をコントロールすることができた、と。

ヒクソン　あの試合でサクラバは非常にリラックスして試合をしていたね。彼は自分の気持ちをコントロールするのがうまいし、打たれ強いし、心が折れない。常に慎重で、勝機を待つことができた。それができる選手は、試合が長引けば長引くほど、強くなっていくんだ。そして、それができなかったホイスは、どんどん追い込まれていき、最後は闘えない状況になってしまったのだろう。

——では、いまあらためて桜庭選手のことはどのように評価していますか？

ヒクソン　いまは歳を取ってしまい打たれ弱くなってしまったが、いまだリングに上がると勇敢なファイターの姿を見せてくれる。心の強い選手だと思っているよ。

——多くのファンが望んでいたヒクソンさんと桜庭選手との試合が実現しなかった理由をどのように考えていますか？

ヒクソン　試合というものは、さまざまな条件が一致したときに実現するものだ。サクラバとは、そのピースが合わなかったんだよ。本当はフナキ（船木誠勝）と闘った翌年、サクラバとやるのがベストだったし、PRIDEからのビッグオファーも実際にあったんだ。しかし、残念なことにその頃、私の息子が他界してしまった。

——ああ、ハクソンさんが事故死してしまったんでしたね……。

ヒクソン　もし私が自分のことだけを考える男だったら、息子の死があってもトレーニングを中断することなく、試合に集中することも可能だっただろう。しかし、私にとって一番大事なのは、家族を守ることだった。だから、息子が亡くなったあと、家族との時間を大事にし、トレーニングから離れていたんだ。そして、息子が亡くなった1年後に私がトレーニングに戻ったときには、サクラバの状況が変わっていた。彼はヴァンダレイ・シウバに連敗を喫し、そのことで私との対戦というのも、以前のようなビッグオファーではなくなってしまったんだ。そういったこともあって、サクラバとの試合は実現しなかったんだよ。

——タイミングが悪かったんですね。いま振り返って、「引退前に闘っておけばよかった」という思いはありますか？

ヒクソン　それは「イエス」とも「ノー」とも言える質問だね。サクラバとやりたい気持ちもあったし、そのあと世界最強と呼ばれたヒョードルと闘いたい気持ちもあった。しかし、それは実現しなかったし、その実現しなかったという事実を私は受け入れている。またこれ以上、自分を試す必要もなかったんだ。

——「ヒョードルとやりたかった」というのは、勝つ自信があったということですか？

ヒクソン　もちろん。私はこれまで判定

のポイント差で勝利したことはないんだよ。すべて一本で極めて勝利している。だから、ヒョードルと対戦しても、彼が自分に対して困難な局面を作ることができるなんて、想像ができないんだ。

——ヒョードルが困難な局面すら作れませんか。

ヒクソン　過去において、一度も経験したことがないものを、どのように予期したらいいんだい？　もちろんヒョードルはグレートファイターさ。ただ、ほかにもグレートファイターはいるし、時間無制限という本来の試合形式であれば、勝つ方法はいくらでもあったんだ。

——そのヒョードルは、先日初めてファブリシオ・ヴェウドゥムに一本負けを喫しました。あの試合をどうお考えですか？

ヒクソン　あの試合でヒョードルが敗れた一番の要因は、対戦相手を甘く見すぎたことだ。彼は自信が過信となり、ファブリシオのレッグワークをみくびっていたのだろう。あのように対戦相手を甘く見ていた状態なら、ミノタウロでも、アンデウソンでも極められただろう。ヒョードルはミスの代償を支払ったということさ。

——そもそもヒクソンさんが引退を決意した理由はなんだったんでしょうか？

ヒクソン　引退を決意するまでには、相当な時間があったんだが、私はそのあいだ、いいオファーが来るのを待っていたんだ。とくに引退前に最後の1～2試合をやろうというわけではなく、試合の日が自分にとって満足できるペイディ（給料日）となるようにね。ところがPRIDEがUFCに買収されたことによって、日本のMMA熱が下がってしまい、もう私にいいオファーが来る状況ではなくなってしまったんだ。

——では、PRIDEがなくなり、今後いいオファーが来る可能性がなくなったから、引退を決断した、と。

ヒクソン　それと同時に、年齢的な問題でトレーニングを積んでもかつてと同等の動きをするのが困難になってきてたのも事実だし、また身体中に痛みやケガもあり、ハードなトレーニングを続けられる状況ではなくなってしまったんだ。そのような要因が、ファイターとして試合をすることをやめる決断をさせたんだよ。



2000年5月の船木誠勝戦以来、次の試合が期待されていたヒクソンだったが、結局、最後のビッグファイトは実現せずに静かに現役を引退。無敗のままリングを去ったかたちとなった。

——逆に言うとPRIDEが繁栄していた2005年ぐらいまでに、たとえばヒョードル戦などが、いいオファーであったら、やっていた可能性があったわけですか。

ヒクソン　まあ、そのとおりだけど「LIFE GOES ON」さ。

——最後に集大成となるような試合がしたいとは思いませんでしたか？

ヒクソン　そういう思いはなかった。自分が歩んできたプロのキャリアを見直すと、何もやり残したことがないと感じているんだ。そして引退を決めたとき、今後の人生の新たな目標を考えるようになった。それはマーシャルアーツのテクニックをもっと多くの人に伝えること。それもセルフディフェンスを重視した、哲学的なコンセプトを共有することを、次の10年の目標にすえたんだよ。

——グレイシーファミリーのなかから、いまのMMAのチャンピオンを育てようとは思いませんか？

ヒクソン　私にとってMMAはマーシャルアーツの精神を象徴するものではないんだ。いまのMMAはエクストリームなスポーツで、とてもバイオレンスであり、アクション的なものだ。本来の〝バーリ・トゥード〟で勝つための要素とは、時間や体重制限のないなかで、いかに戦略的に習得したテクニックを使えるかなんだ。テクニックのなかに忍耐を含めたさまざまな要素があるので、より戦略的な選手がいい結果を出せるものだ。しかし、MMAにはその忍耐という要素がないんだよ。そのため、好機を待つというのではなく常に攻撃的に攻めるということになってしまう。それは私の求める闘いではない。

——MMAというスポーツで勝つための選手を作る気はない、と。

ヒクソン　考えてみてほしい、私自身、〝MMA〟の試合をしたことは一度もないんだよ。私の闘いはすべてが〝バーリ・トゥード〟だった。時間制限も体重制限もないルールのもとでね。MMAとバーリ・トゥードは似てはいるけど、まったく異なるコンセプトのものなんだ。

——ヒクソンさんは、いまのMMAを観ていてどう感じていますか？

ヒクソン　間違えてほしくないのは、MMAというエクストリームスポーツが自分の求めているものではないだけで、否定しているわけじゃないんだ。だから、いまのUFCなどを観ていると、素晴らしいMMAのファイターがたくさんいるのは事実だ。ただし、そのほとんどはMMAのイベントで勝利を収めるためだけに準備をしている。だから本当の意味で私に感銘を与えるような選手がいないのが現実なんだ。マーシャルアーツ本来のテクニックを充分に活用しているか、という観点からだとね。

——MMAファイターとしては素晴らしいけれど、バーリ・トゥーダーとしての素晴らしさではない、と。

ヒクソン　BJペンやGSP（ジョルジュ・サンピエール）、アンデウソン・シウバ、デミアン・マイアらは、私の言う〝本来のテクニック〟を持った素晴らしいファイターだと思う。しかし、残念ながらいまのMMAのルールのなかでは、そのテクニックが駆使できない状況になってしまい、彼ら自身もフィジカルの強さでの勝負になってきてしまっている。

——いまUFCのヘビー級王者であるブロック・レスナーも、まさにフィジカルの怪物ですよね。

ヒクソン　300ポンドもある彼の場合は、コンディショニングを最高の状態にすることで、その身体を大きさとパワーを最大限に活用し、試合に臨んでいる。私は近い将来、テクニシャンのファイターが彼を倒すことを楽しみにしているんだ。もし

レスナーは私がプライムタイムなら真っ先に闘いたかった相手だよ

私が現役のプライムタイムの時期であったなら、ブロック・レスナーは真っ先にチャレンジしたかった相手だよ。

――ヒクソン・グレイシーvsブロック・レスナーは、めちゃくちゃ興味ありますね！

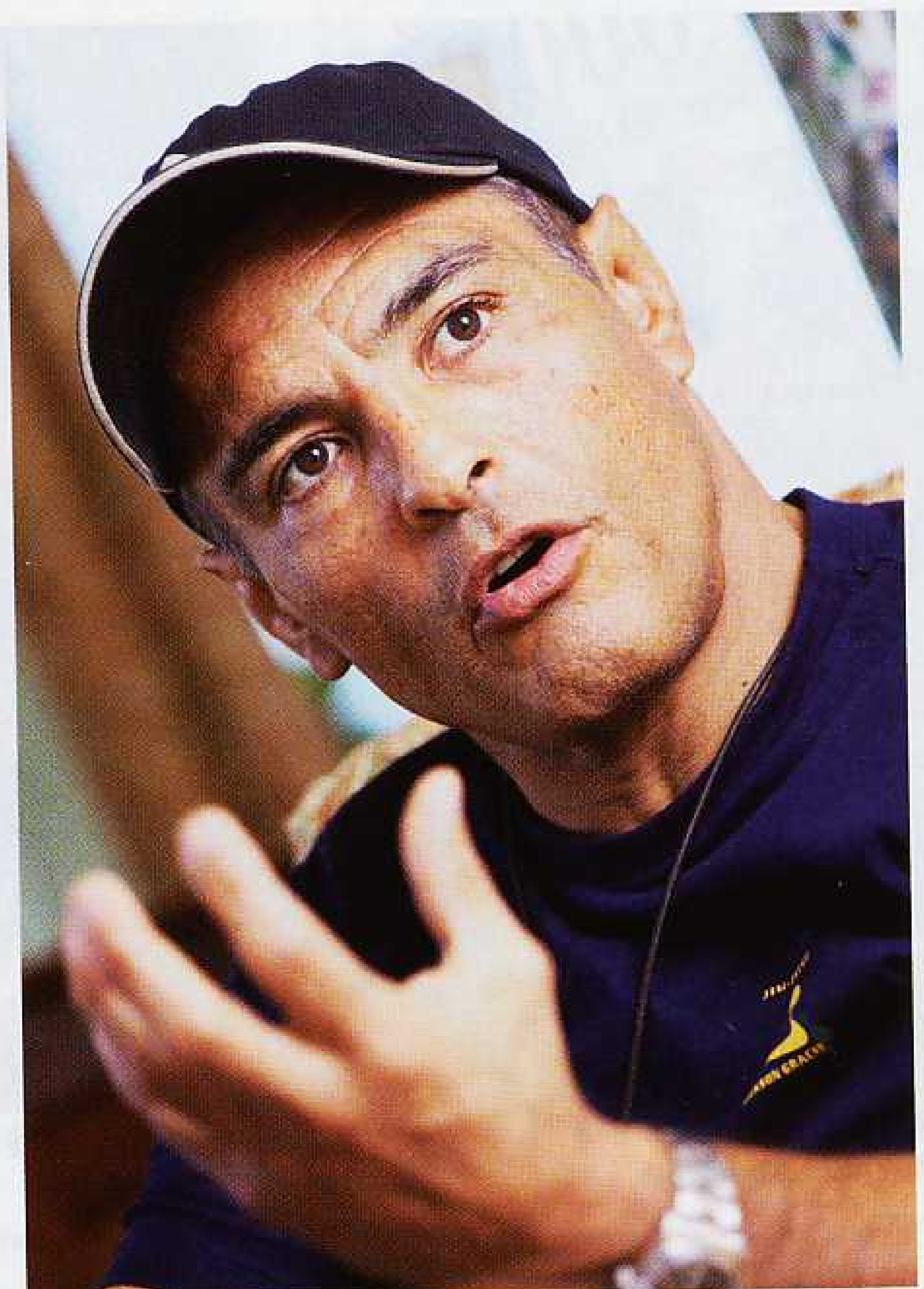
ヒクソン　レスナーは巨大な身体に加え、素晴らしいレスリングスキルも持っている。さらに最近はボクシングのスキルも身につけてきてはいるけど、だからといって、マーシャルアーツ本来のテクニックを身につけたわけじゃないんだ。そして、ああいう大きな相手を倒すことができるのが、テクニックだ。私はマーシャルアーツ本来のテクニックを持ったファイターが彼に挑戦し、勝利を収める日を楽しみにしているんだ。

――いま、ヒクソンさんの言うバーリ・トゥードの試合というのは、ほぼ絶滅状態にありますが、「ヒクソン・グレイシー杯」の柔術トーナメントのように、あなた自身が本来のバーリ・トゥードイベントを開催するというアイデアはありませんか？

ヒクソン　その答えは「ノー」だね。私は自分が柔術の象徴であり、代表者であると思っているんだ。柔術は最も優れたアートであり、バーリ・トゥードにも有効であると証明されているように、とても効率のよいものなんだ。ヒクソン・グレーシー杯は、柔術をスポーツとしてプロモーションしているものなんだ。もちろん、それはセルフ・ディフェンスとしての柔術ではなく、競技としての柔術でね。私は生徒に柔術やマーシャルアーツを教えるとき「どのように競争するか」ではなく、「どうしたら安全であるか」を教えている。しかし、バーリ・トゥードの大会に出場するというのは、「どのように競争するか」が問われてしまうだろう。

――確かにそうですね。

ヒクソン　ファイターになろうという人間は、すでに精神的にファイトする準備ができているんだ。だから、ファイターたちは一般の人たちとは違った考え方を持っている。おそらく私の生徒が1000人いたとすると、ファイター的な考えを持っているのは50人程度で、残りの950人はピースフルな生活を望んでいて、柔術やマーシャルアーツを身につけることで、よりよい人生を送りたいと思っている。〝柔術〟を自分なりに翻訳すると、①セルフ・コンフィデンス（自信を持つこと）、②ピース・オブ・マインド（平和な心を持てること）、③ビー・コンフォタブル・アンダー・ザ・プレッシャー（問題に直面しても平常心でいられること）、という3つの要素となり、社会のためにとても重要なことだと信じているんだ。その柔術を広めるために、大会を開いてはいるけど、バーリ・トゥードを広めようとは思っていない。私はたまたまウォリアーの心を持つ柔術家だっただけで、生徒たちにバーリ・トゥードを経験させたいとは思っていないんだよ。



RICKSON GRACIE■1959年11月21日、ブラジル出身。グレイシー柔術の創始者エリオ・グレイシーの三男。伝説的な強さを持ち、94年と95年に『バーリトゥードジャパン』で連続優勝。『PRIDE.1』で髙田延彦に完勝し、その幻想は巨大化した。その後、髙田と再戦、船木誠勝との対戦を最後に現役を引退した。

――日本の柔術家であり、MMAのチャンピオンである青木真也選手のことはどう評価していますか？

ヒクソン　彼は間違いなく素晴らしいテクニシャンだね。『ブドーチャレンジ』（ヒクソンが主催した組み技格闘技大会）で、彼の試合を観たとき、そのスピードとタフさに感銘を受けたんだ。もちろんMMAの試合もテレビを通じて観ているけれど、試合内容がいいものが多いよね。ただ、シンヤは全体的に見るともっと伸びる要素があると思うんだ。

――それはどういった部分ですか？

ヒクソン　シンヤの試合を観ていると、ときどき自分の感情をコントロールできないのか、攻撃的な感情を出しすぎてしまい、ポジションが甘くなってしまうことがある。よりテクニカルなファイターになるためには、自分からトラブルに陥らないよう、いかに安全な状況に身を置き、パンチなどの攻撃を防御するかが必要になると思う。とにかく、アタックを続けるのではなく、安全なポジションを保ちながらチャンスを呼び込むことが重要なんだよ。

Rickson Gracie

――わかりました。では、最後にヒクソンさんが現役時代、一番印象に残っている試合はなんでしたか？

ヒクソン　「一番印象に残っている試合」と聞かれたら、私にとって最初のバーリ・トゥードとなったズールとの試合だね。あのとき、身体の大きなズールの猛攻によって、1ラウンドで体力を消耗してしまい、自信を失いかけてしまったんだ。しかし、インターバルの最中に父が「自信を持て」と後押ししてくれたことで、勝つことができた。そのとき「最大の敵は自分自身である」と悟ったのさ。

――そういった気持ちの持ち方も、今回出版された本に出ているわけですか？

ヒクソン　そのとおりだね（笑）。日本の皆さんには、ぜひともこの本を読んで、自分の人生の役に立ててもらえたらと思っている。この本は、いままでリングに上がったことのない人にも役立つものになることを信じているんだ。多くの人に読んでもらえたらいいね。

【10年9月22日／都内・某ホテルにて収録】

おかげさまで10周年 エンターブレイン ANNIVERSARY 10th

創立10周年記念企画14誌合同

年間定期購読キャンペーン実施中!

エンターブレインは今年で10周年を迎えました。日ごろから読者の皆さまにはご愛顧いただき、厚く御礼申し上げます。
なお、このたび創立10周年記念企画といたしまして、エンターブレインが刊行している14誌合同での年間定期購読キャンペーンを実施中です。
下記のとおり4つの特典をご用意いたしました。これを機会にぜひとも年間定期購読をお申し込みいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

kamiproではもれなく、ノベルティーグッズの特製Tシャツがもらえます!

kamiproの年間購読料は10,340円(送料込み)
特別定価が何回あっても、追加代金はいただきません!



※この画像はイメージです。実際の特製Tシャツはデザインが変わる場合があります。



ここがスゴイ! キャンペーンで得する4つのポイント。

1. 年間定期購読で1ヵ月分サービス
(※週刊ファミ通、コミックビーズログ キュン!、Fellows!は除く)
2. 特別定価と送料はサービス
3. 各誌ノベルティーグッズ付き
4. 申し込み2誌ごとに図書カード(500円分)をプレゼント



創立10周年記念特設サイトURL　http://www.enterbrain.co.jp/10th/　ケータイで購入

定期購読に関する注意事項

- 当キャンペーンは、2011年3月31日のお申し込み分までが対象です。
- お申し込みは、弊社通販サイト【エビテン(ebten)】で受け付けております。http://ebten.jp/eb-store/
- お届け開始号は、エビテンのお申し込みページをご確認ください。
- 商品のお届けは発売日から2〜3日ほど遅れる場合がございます。
- 商品のお届け先は、日本国内に限らせていただきます。
- クレジットカードでのお支払いの場合、お届けを開始する月に決済を行ないます。
- 代金引換でのお支払いの場合、商品お届け開始号のみ佐川急便の宅配便にて発送を行ないますので1年分の代金を配達員にお支払い下さい。
- 年間定期購読をご契約いただきますと、中途解約に応じることはできません。
- 当キャンペーンのお問い合わせは、祝日を除く毎週月曜日から金曜日までの正午から午後5時のあいだに弊社カスタマーサポートで受け付けております。☎0570-060-555
- その他の注意事項は、申し込みサイトをご確認ください。

年間定期購読ができるエンターブレインの14誌&ノベルティーグッズ

※各ノベルティーグッズは変更になる場合がございます。　※表示価格は、すべて消費税込みで掲載しています。

週刊ファミ通
毎週木曜日発売/定価370円
年間購読料=18,000円

Tシャツ

ファミ通DS+Wii
毎月21日発売/定価690円
年間購読料=7,590円

図書カード

ファミ通Xbox 360
毎月30日発売/定価690円
年間購読料=7,590円

Tシャツ

ファミ通WAVE
毎月30日発売/定価990円
年間購読料=10,890円

DVDケース

アルカディア
毎月30日発売/定価980円
年間購読料=10,780円

Tシャツ

サラブレ
毎月13日発売/定価720円
年間購読料=7,920円

トートバッグ

コミックビーム
毎月12日発売/定価540円
年間購読料=5940円

手ぬぐい

B's-LOG
毎月20日発売/定価880円
年間購読料=9,680円

ポストカードホルダー

GOLF mechanic
毎月4日発売/定価990円
年間購読料=10,890円

タオル

ファミ通Connect!On
毎月27日発売/定価800円
年間購読料=8,800円

Web Money カード

Kamipro
毎月23日頃発売/定価940円
年間購読料=10,340円

Tシャツ

オトナファミ
11月から毎月20日発売/定価580円
年間購読料=6,380円

ポーチ

キュン!
偶数月15日発売/定価680円
年間購読料=4,080円

ミラー

Fellows!
偶数月15日頃発売/定価680円
年間購読料=4,080円

フローティングペン

——えー、このたびははるばる大阪まで

ちゃい頃から活発だったんですか？

になったら確かに凄いですからね！

じゃないですか？

『Girls S-cu



幼少時代から
現在までを
徹底解剖!

大阪、楽しいっしょ？

RENAのお膝元
大阪大潜入!

前号の表紙が大好評だったRENA。今回はRENAのお膝元・大阪にお邪魔した。RENAの自宅から愛犬とのツーショット、そして行きつけのお店までいろいろ案内してもらったぞ。さらにインタビューでは幼少時代の話をたっぷりと。“レナおじ”たちよ、シビれまくれ!

聞き手／松下ミワ　撮影／川野修　写真協力／RENA

学校に行かなくなったのは5、6年生。一学期全部行かなかったこともあります

――えー、このたびははるばる大阪までやってまいりました！

RENA お疲れさまです（笑）。

――いえいえ。いやー、のどかでいい街ですねえ。

RENA アハハハハ！ でも、遠いでしょ？ 今日は日帰りなんですよね？

――ええ、じつはそうなんですよ。

RENA じゃあ、夜はかなりしんどいですねー。ククク。

――むむっ！ RENA選手はいつもホントに大変な思いをして試合してるんですね。もう生まれたときからずっと大阪なんですか？

RENA 生粋の関西人ですよ！

――幼少時代はどんな子どもでした？

RENA どんな？ うーん、どんなんやったんやろ。でも子どもの頃は幼稚園でよう一輪車してたのを覚えてますね。メリーゴーランドって技があるんですけど、初恋の男の子と手をつないでぐるぐる回ってましたよ。

――あらら、初恋の人と。両想いだったんですか？

RENA いや、私ともう一人の女の子とその男の子と3人で遊ぶのがいつものことだったんで、微妙ですねえ。

――甘酸っぱいですねえ。やっぱりちっちゃい頃から活発だったんですか？

RENA ……活発なんですかねぇ。でも運動は好きでしたよ。疲れるのはイヤでしたけど。基本的に怠け者なんで、自分がしたいことしか動かないんですよ。

――自由すぎます！

RENA でも、お母さんのママさんバレーについていって、同級生とかの子どもがワイワイ来ると、その子とちびっこバレーとかして遊んだりしてましたね。

――じゃあ、身体を動かすのは好きだったんですね。



RENAの部屋初公開！……かどうかはわからないが、大阪到着後、最初に向かったのがRENAの自宅。部屋に置ききれないくらいのトロフィーが。一部"レナおじ"からは「畳が素晴らしい!」と大絶賛。理由はUSTかどこかで聞いてみてください〜。

RENA ガンガンいきますよ！

――ワハハハハ！ やっぱりそこは4人姉妹の末っ子ということで、ガンガンいかなきゃ負けてしまう環境があったからですか？

RENA どうかなあ？ でも、ケンカになったら確かに凄いですからね！

――誰が一番強いんですか？

RENA 誰やろ。確実に末っ子は一番弱いですよ。

――じゃあ、けっこう悔しい思いを？

RENA もうたくさんしてますよお！ でも末っ子には〝必殺・親にすがる〟って手がありますからね。そうなったらもう泣いたモン勝ちですよ。怒られるのはお姉ちゃんなんでね。ククク。

――それはそれでズルい！ じゃあけっこう泣き虫だったんですね。

RENA ただ、人の前で泣くのはイヤなんで、トイレに行って泣いてました。好きなだけ文句言って、トイレにバーッて逃げて、ガチャッて鍵を閉めて。

――みんなトイレに行けなくなるじゃないですか（笑）。ちなみに、一番上のお姉さんから何歳ずつ離れてるんでしょう？

RENA 8コ、6コ、3つですね。だからけっこう離れてるんですよ。でも、一番上とはどつきあいしてましたからね。

――8コ上ともどつきあい！

RENA そのときはもうお姉ちゃんに子どもがいて、まだ赤ちゃんだったんですよ。で、私が何か物を投げたら赤ちゃんに当たりそうになったんですよね。そんで「何すんのよー!!」って感じで口論になって。でも、べつに赤ちゃんに狙って投げたわけじゃないから言い返しちゃったんですよ。そしたら馬乗りで殴られて青タンができましたよ。まぁでも、あれは確かに私が悪い（笑）。

――そんな激しいケンカを！

RENA 私はもう髪の毛を引っぱって抵抗するぐらいしかできないですからね。

――なかなかサバイバルですねえ。でも、4姉妹というのは近所でも評判だったんじゃないですか？ 『Girls S-cup』の会場で編集部員がRENA選手のお姉さんを見かけたらしいんですが、めちゃくちゃ美人だったと言ってましたよ。

RENA いやいや。お姉ちゃんは昔からよくキレイとかカワイイとか言われてましたけど。でも、みんな性格は激しいですね。気をつけたほうがいいですよ。

――なるほど（笑）。RENA選手自身、遊ぶのはやっぱり女の子のほうが多かったんですか？

RENA そうですね。「ニケツで鬼ごっこ」って、自転車に二人乗りして鬼ごっこする遊びとか、あと男の子とはBB弾の鉄砲とかで遊んだりしてたかなぁ。親がすっごいうるさい友だちが一人いたんですけど、門限6時だって言われてたから「もうヤバいって！ あと5分で帰らな！」とか言いながら遊んでましたね。

――そんなRENA選手ですが、小学校時代はあまり学校には行ってなかったと聞きました。

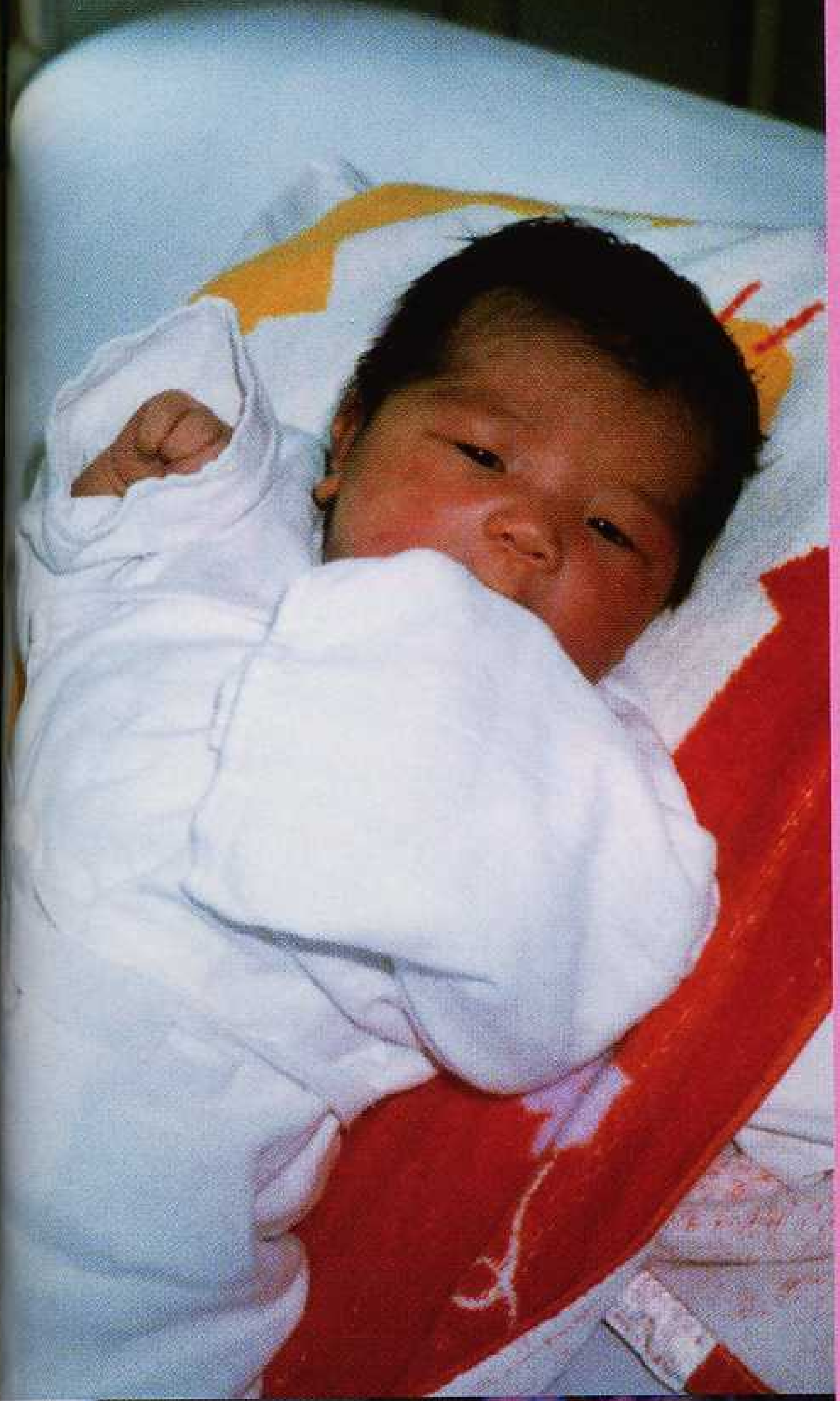
RENA 行ってないですねえ。2年生ぐらいからちょこちょこ行かんようになって。でもそれもまだマシな程度で、5、6年生が一番ピークでしたね。一学期まるまる行かなかったこともありました。

――まるまる！ またどうして？

RENA まあ親のゴタゴタとかがあって……お姉ちゃんもお姉ちゃんで悪かったんで「休んでもええやろ」ぐらいの感じだったんですよ。そういうお姉ちゃんたちのせいで私もグレました（笑）。

――完全に人のせいにしてますね（笑）。

RENA ハハハハ。だから久保田家のことはみんな知ってたというか、けっこう有名でしたね、いろんな意味で。だからいじめられることもないし。やっぱ小学









赤ちゃんの頃の写真など、RENAの子どもの頃の貴重な写真の数々。上から3番目の写真は、当時RENAが好きだったという男の子が写っているぞ。愛らしいこの当時は、まさか最強の女子格闘家になるとは思っていなかった!?

校、中学校はお姉ちゃんおったら強いじゃないですか。

——じゃあ、学生時代はある意味お姉ちゃんのせいでもあるし、お姉ちゃんによって助けられた部分もあった、と。

RENA 守られてました。ある程度何しても何も言われませんでしたからね。

——でも先生からは目をつけられたんじゃないですか?

RENA いや、そんなに。よくしてくれた先生にはいい生徒だったと思いますよ。

——先生によって態度が変わる、と。

RENA そうですね。ダメですね。アハハハ! でも私、6年生のときに道場に通うようになって、及川先生に出会って。それで先生たちともだんだん親しくなってきて、中学校ぐらいにはだいぶ仲良くなって、よくしゃべるようになってたんですよね。その頃からよう「おまえ、学校行ったんか?」「今日は行った」とか注意されてて。でもウソついてバレたら怒られるので、それが怖くて及川先生には正直に報告してました。

——なぜ及川先生にだけ?

RENA 怖かったのもあるし、真っすぐな人なのでウソついたら凄い罪悪感で「バレたらどうしよう」っていうのでドキドキしちゃって。だからウソはつけないです、いまでも。

——そもそも、どうして及川道場に通うようになったんですか?

RENA 小学校から帰るときに、ちょっと看板見つけて。それで通うようになったんですけど、コレぐらいですよ。私が何かをガッツリやってるのは。

——それは先生に惹かれた部分もあるんですか? それよりも格闘技に興味があったから続けられたんですか?

RENA やっぱ及川先生の情熱があったからやと思いますね。ほかの先生やったらやめてたかもしれないです。

——じゃあ、及川先生はRENA選手にとって一番信頼できる先生なんですね。

RENA 学校の先生とかよりも全然。あとは中学校3年間ずっと担任だった先生ぐらいですかね。でも、中学校は及川先生のおかげでちょこちょこ行きだして。でもずっと休んでたんで苦労しました。一日6時間も閉じ込められると思ったらすっごいイヤで。

RENA

——学校は〝監獄〟でしたか。

RENA でも行ったときは及川先生に「行った!」って言えるから、それだけが学校に行く理由でしたね。それで休んだときは自分から絶対にその話題に触れないんです(笑)。

——ハハハハ! でも、ある意味わかりやすいですよ、それ。

RENA そうそう。それでバレるっていう(笑)。だって私、自分が自慢したいこととか自分から言うもん。うしろめたいことは自分から言わんもん。ハハハハハ!

——ちなみに学校の勉強はやっぱりキライだったんですか?

RENA 全然。体育以外は嫌いでした。

——音楽とかもですか?

RENA 音楽は先生が嫌いだったんでね。音楽の先生は「チェッチェ」っていうあだ名だったんですよ。

——なんですか「チェッチェ」って(笑)。

RENA なんやったっけなあ。たしかチェッカーズのなんかだったかな。よくわかんないですけど。で、3年間の担任はマサくんって言ってました。

——先生を「くん」呼ばわり。本人に向かって言ってたんですか?

RENA 本人にですよ(笑)。「ヨネシ」とか、「タカさん」とか。小学校時代は「トトロ」もいました。トトロ好きやから。

——ほう、「トトロ」もいましたか。

RENA めっちゃ詳しいんですよ。トトロの歳とか、絶対知らないじゃないですか。でも「コイツは何年生きとって、コイツは何年生きとんねん」みたいな。普通知らないでしょ? 凄くないですか!?

——確かに(笑)。しかしお話を聞いていると、学校生活自体がイヤだったってわけじゃないんですね。

RENA はい。ただめんどくさかっただけですね。

——同級生の方たちとはどうやってコミュニケーションをとってたんですか?

RENA なんか朝、小学校から毎日一緒に行ってる子がいてたんですよ。そんで、その子が毎朝来て「もう行くで~」って叩き起こされるんですけど、「今日は行けへん、先行って」とか。

——そういうテンションなんですね。でもそんなRENA選手が初めて必死にな

私、自慢したいことは自分から
言うもん。うしろめたいことは
自分から言わんもん（笑）



ったのが格闘技だった、と。

RENA　そうですね。

――もともと格闘技はどういう印象でした？

RENA　う〜ん、K―1とかやってるのはたまに観たり観なかったりで、そんなに興味はなかったんですけどね。でも道場行ったらおもしろそうだったんです。最初はキッズクラスだったし。

――それを話したとき、お母さんはどういう反応でした？

RENA　「あんたが学校行くんやったら考えるわ」って。

――交換条件を出されたわけですね。

RENA　だから最初に見学行ってから何ヵ月間も行けなかったですよ。でも私も学校行かずにけっこう粘ってたんでしょうね。そしたら「もうええわ〜、しゃあないな〜」言うて。とりあえず入れたれみたいな感じじゃないですかね。「そこまで言うんやったら」って。それまでそんなに私が「これ習いたい！」とか言うこともあまりなかったんで。

――ほかにも習いごとはしてました？

RENA　ソフトボールもやってましたね。小学校のときに友だちがやってたから一緒にやり始めたんですけど、土日に練習なんで遊べないじゃないですか。それがイヤで行ったり休んだりで。

――やめちゃったんですね。

RENA　あと書道もそろばんもしてました。でも書道はお姉ちゃんが行ってたからやったのと、そろばんは友だちがやってたんで「一緒に行け」みたいな感じで。だから唯一自分から始めたのが格闘技なんですよ。

――やってみて、楽しかったですか？

RENA　うん。めっちゃ楽しかったで



写真に写っている上久商会は、RENAが子どもの頃から通っている駄菓子屋。ここでお菓子を買い込んで、目の前の空き地でみんなでたむろしてたとか。この日はひさびさの来店だったのか、600円ほどの駄菓子を大人買い。

道場はめっちゃ楽しかったですね。なんか性に合うというか、いいなって

すね。なんか性に合うというか、あ、いいなって。それ以降、やめたいって思ったことはあっても口に出したことはないですよね。

――ちなみに、どんなときにやめたいと思いました？

RENA　しんどいとき（笑）。あとはやっぱり遊びたいときに「やめたら遊べんのにな」と思ったことはありますよ。でも私は遊べないから、友だちには「練習言ってくるわ」って言って、終わってから「まだ遊んでる？」って言って出かけたりとかですね。だから、よう「あんた付き合い悪い」って言われますよ。

――それでもやっぱり練習のほうを選んでたんですね。

RENA　楽しかったんですよね。友だちもビックリしてたと思いますよ。「RENAが真面目に通ってる！」みたいな（笑）。

――でも、それでデビューしてここまで来たわけですからね。

RENA　だからみんな昔の同級生とかしゃべりかけてきますよ。「そんなに仲良くなかったやん！」っていう子がしゃべりかけてきたりとかね。「よう近寄ってこれるな」と思いながら対応してますけど（笑）。

――ハハハハ。それで、高校時代なんですが、RENA選手はスポーツ科だったと聞きました。

RENA　そうです。普通の授業もあるんですけど、テーピングの授業があったりとかするんですよ。

――なんでそこを選んだんですか？

RENA　やっぱり普通の女の子よりスポーツしてるほうがええかなと思ったんですけど。そこはそこで苦労しますよ。私は格闘技をプロとしてやっているということで免除してもらえてたので部活には入らなかったんですけど、普通は必ず運動部に入らなあかんかったんですよ。

――RENA選手だけは特別だった、と。

RENA　だから部活の人間は部活の人間で集まって、やっぱり帰りも一人やし、思い描いていた高校生活じゃなかったですね。全然制服かわいくないし、仏教学校やし、男女（おとこおんな）ばっかやし（笑）。

――男女ってなんですか（笑）。

RENA　先輩が来たらみんな直立不動ですよ。RENAだけでしたよ、平気で座ってんの。「え、立たなあかんの？」って。

――上限関係が厳しかったんですね。でもいいですね、そういうへんなしがらみを避けて通れたというか。

RENA　まあ、そうですね。でもやっぱ、やっぱ高校はちょっと……。

――後悔してます？

RENA　うん。もっと楽しみたかったですね。高校生見たらうらやましいなと思いますよ、いまでも。

――そうなんですね。でも、道場に入ってよかったという思いのほうがもちろん強いというか。

RENA　そりゃ、そうですよ！　もう、そのおかげでシュートボクシングのプロ選手になれて『Girls S-cup』で優勝できて表紙にまでならせていただい

RENA

たんでね。お母さんからは「こんなにかわいく撮ってもらえてよかったなぁ。別人みたいや。詐欺や」って言われますけど（笑）。

——お母さんも喜んでる証拠ですね。

RENA　いつものことですよ。「うわー、ビックリした！」とか「あー、こわっ！」とか言うと「何言うてんねん、あんたの顔のほうが怖いわ」とか言ってきたり。それで私が「あんたこれでも少しは評価してくれる人おんねんで」って言ったら、「眼医者紹介したろか」とかね（笑）。

——凄いかけ合い！　でもお母さんは安心されてるんじゃないですか？

RENA　ただやっぱ怖いみたいですけどね。ケガもありますし。今年の『Girls S-cup』の前は、なんも知らんくせに、なぜかお母さんが「今回って前よりプレッシャー多いやんか」とか言うてました（笑）。「そのプレッシャーに応えられなかったアンタを見るのがつらい！」とか一人で言うてましたよ。聞いててておもしろいでしょ？

——素晴らしいお母さんです（笑）。

RENA　お母さんもずっと大阪でね、肝だけは据わってますよ。ホンマに気抜いた瞬間、ケツ蹴ってきますからね（笑）。

——お姉ちゃんたちはRENA選手の活躍についてはなんて言ってるんですか？

RENA　そんなんなんも言わないですよ。家族のなかで「凄い」とか絶対言わないですよ。お母さんとかと二人になったらちょこちょこ言ってるみたいですけど。思ってても絶対に口に出さないですね（笑）

——シャイなんですね。ちなみに、RENA選手って恋愛禁止とかそういう掟はあるんでしょうか？　AKB48ばりに。

RENA　いや、全然そんなん言われないですよ（笑）。でも、先生には「おまえ、メールするといつでも返ってくるやんけ」って言われますね。道場の手伝いとかも断ったことないから「おまえ、たまには断われよ」とか。

——あんまりそういうのには憧れないですか？

RENA　クリスマスと誕生日ぐらいですかね、寂しいのは。あとは全然。練習のほうが楽しいですよ。なんか恋愛とかしててケンカしたりするのもうっとうしいじゃないですか。それに、男できたらダメになるタイプなんで（笑）。

——あらら、そうなんですか。

RENA　だからそれは格闘技を辞めてからですねえ、残念ですけど。

——目標は25歳で引退でしたっけ？

RENA　そこまで行ったらいいほう……かな。ククク。

——むむっ！　なんかその先の設計図みたいのはあるんですか？

RENA　うーん、ジムは持ちたいし、フィットネスみたいのも覚えたいなと思ってますね。でもまだ年齢が年齢なんでちょっとわからないですけど、いろいろやってみたいなという気持ちはありますよ。

——ただ、我々としてはずーっと続けてほしいですけどね。

RENA　心配せんでもまだまだやりますから。次の『Girls S-cup』も獲らないといけないし、SBレディースのベルトも絶対獲るし。……って、自分で言ってて怖なってきたわ！

——ハハハハ！　またあのワンデートーナメントの恐怖がよみがえりますか。

RENA　でもまあ、私が勝たなかったらダメなんでね、ガンガンいきますよ。またお母さんがソワソワしだすかもしれないですけど（笑）。

——「プレッシャーに負けたRENAを見るのが怖い」って？

RENA　そうそう。ああ、もう考えただけでもうっとうしなってきたわ（笑）。

【10年10月2日／大阪・RENAおすすめのお好み焼き屋で収録】

夕方前にうかがったのは、及川道場のキッズクラスに通っている生徒の実家でもあるお好み焼き屋『くにちゃん』。地元が大阪であるにもかかわらず、RENAは「広島風のほうが好きなんで」と、大阪風を頼まず……!! さすがだ!











れーな■1991年6月29日、大阪府出身。小学6年生のときに及川道場へ入門。グローブ空手の大会で実績を積み、07年に『クボチューン・レーナM15』のリングネームでJ-GIRLSでプロデビュー。09年に『Girls S-cup』で優勝。そして10年同イベントでもベルトをさらい、見事2連覇達成。SBのガールズのベルトも含め、女子のあらゆるタイトルを狙う女子立ち技最強の格闘家。160cm、52kg。

師匠が語るRENAとは？

「彼女は自分を変えた格闘技に感謝してると思いますよ」

及川知浩



おいかわ・ともひろ■1975年12月4日、大阪府出身。00年、シュートボクシングでプロデビュー。SB日本スーパーフェザー級のベルト保持者。RENAの師匠であり、父親のような存在でもある。RENAのセコンドで声を張りあげる姿がよく目撃されている。

—今回の大阪取材のシメとして及川先生にお話をおうかがいできればと思います。RENA選手によると及川道場には小学校6年生の頃から通ってるそうですね？

及川　懐かしいですね。RENAが6年生のときにお母さんと一緒に道場をのぞきに来てて。そのときに、お母さんのうしろに隠れるようにして下向いて。

—内気なイメージだったんですね。

及川　なんか空気も凄く暗ーい感じで。だからいまと全然違いますよ。いまは人生180度変わっちゃったみたいな感じになってますけど（笑）。それにRENAの場合、なかなか帰らなかったんですよ。

—家にですか？

及川　昔はジュニアクラスがだいたい20時に終わってたんですけど、RENAはずーっと残ってるから「帰れ、お母さん心配するやろ」って言ってたんです。でも、話を聞くうちに家庭の内情がなんとなくわかってきたのがスタートやったんですよ。お母さんも夜遅くまで働いていらして、アイツ、帰っても一人ぼっちやったんですよね。それで自分ができることはなんでもしてあげないとあかんなって。

—当時は学校にもほとんど行ってなかったという感じだったんですよね？

及川　そうですね。だから極端な話、僕たちが親代わりみたいな感じで、「今日は学校行ったんか？」とか、アイツが夜フラフラしていないかというのを、道場関係のみんなでアンテナ張って見てたりとかしてましたよ。で、「どこどこにいてるで！」ってなったら、バーッて探しに行って。だからはじめは人付き合いとかしゃべり方も全然何もゼロだったんですけど、一から全部たたき込みましたね。

—ホントに親みたいです！

及川　でも、「道場におったらええよ」ってことを言うと、プロ選手が練習してるのも近くで見るわけじゃないですか。もともと意識のレベルがもの凄く高かったから、どんどんうまくなってきてね。

—ああ、なるほど。

及川　プロ選手も時間が空いたら「やるか？」とか声かけたりしてましたから。だから道場におったら誰かが面倒見るし、プロレスごっこしたりとかね。でもアイツ、最初は「ダメ」「ムリ」「しんどい」が口癖だったんですよ。

—へえ～、いまのRENA選手からすると意外ですね。

及川　でしょ？　ただ、やっぱり負けん気は誰よりもあったんですよ。だからバンバンバンバン勝ちだしたんですよね。その時期から道場の子どもたちとか親御さんとかから「RENAちゃん凄いね！」って言われるようになって。子どもたちも「RENAちゃん、RENAちゃん」って。だからみんなからそう言われるのがうれしくなって、そっからですかね、いろんな面で変わってきだしたのは。

—才能の部分ではどのくらいから開花し始めたと思いますか？

及川　だから中学に入ってある程度……というか、すでに中学生離れしてたんですよ。というのが、中2ぐらいから一般クラスで試合していて、40戦くらいしていて一回しか負けてなかったのかな。ただ、中学生の時期って気持ちが上下しがちじゃないですか。

—多感な時期ですよね。

及川　だからそういうのを修正しながらですよ。夜遊びに行きたいってなったら、外に出て言っちゃうんで「いま、どこおんねん！」とかね。たぶんアイツも僕のトーンでわかると思うんですけど。

—先生が怒ってる、と（笑）。

及川　でも、ウソはつかなかったんですよね。「どこどこいてる、もういまから帰る」「はよ帰れ！」って感じで。

—もう先生にとっては娘のような感じですね。そんな先生にとってはやっぱり『Girls S-cup』も二連覇したりとか、これだけ活躍しているのはもうRENA選手の才能からすると当然だと思いますか？

及川　まあ『Girls S-cup』は優勝するとは思ってましたよ。だって普通のプロ選手と覚悟が違いますもん。僕がよう口にするのは「おまえが本気でやったら時代変えれるくらいのものがある」と。「本気になってみいひんか」ってことを言っていたんです。そしたらRENAも「自分はマイナスからのスタートだったから、これで行きたい」って。それは格闘技に対して凄く気持ちが強くて、自分のためというよりかは、逆に自分を変えてくれた格闘技や道場のために闘ってるというのが凄く伝わってきますね。そのへんの気持ちは普通のプロ選手とは全然違いますよ。

—ここまで芯があるというのは本人のもともとの性格なんでしょうか？

及川　負けず嫌いという性格は強かったですけども、やっぱり自分を変えてくれた格闘技に対する思い入れじゃないですか？　でも……今回の『Girls S-cup』はけっこういろいろ大変だったんですよ（笑）。

—そういえば、プレッシャーが凄すぎてイライラしまくってたって言ってましたよね。

及川　ええ。とくにベルトを獲ってからはいろんなプレッシャーがありますし、自覚を感じているんでしょうしね。でも、そういうときは練習をやめてガッツリ話をするんですよ。僕の経験談もできるだけ話しますし。女性だから男の僕に理解できないことは、信頼できる女子のキックの選手に心のうちを聞いていただいたりもしているんですよね。

—理想的な環境ですね。ちなみに、やっぱり女性だから気を使うこともあるんですか？

及川　逆に使わないといけないとは思いますけど（笑）。僕もめっちゃストレートなんですよ、熱すぎて。魂でバーンとぶつかるから。いいときもあるし、悪いときもあるし。ただ、6年生のときからずっと父親みたいな感じでサポートさせてもらっているんで、誰よりも師弟関係の信頼関係っていうのは強いと思いますね。

—そんな先生から見て、RENA選手にはこの先どうなってほしいですか？

及川　やっぱり歴史に残るような選手になってもらいたいですね。シュートボクシングはもちろん、女子格闘技全体を牽引する選手になってもらいたいと思っています。だから、海外や大きな興行でも小さな道場での試合でも、僕らシュートボクシングの人間なんで、シーザー（武志）会長や協会から「行け」と言われればどこにでも行きますし。まだまだこんなもんじゃないんでね。

—もっと活躍してもらわないと、と。

及川　こんなもんじゃないです。この前の『Girls S-cup 2010』のビデオを観て課題点ももう全部書き出して渡しているんでね。「まだまだ全然アカンよ」と言ってますよ。

—厳しいですけど、それが強くなる秘訣なんでしょうね。

及川　心の中では少し認めてる部分はあるんですけどね（笑）。でも本人の前ではそんなことは言いません。

【10年10月2日／大阪・及川道場にて収録】


15周年
サラブレ
サラブレ
11月号
2010 November
特別定価740円
秋華賞から有馬記念まで、知っておきたい
秋GI・重賞の有力馬、
買い時・狙い時
絶賛発売中!!
2年目に大ブレイクした若手騎手の師弟対談
根本康広調教師×丸山元気騎手
ヴィクトワールピサ、ナカヤマフェスタ
凱旋門賞詳報
良血馬続々デビュー、新種牡馬再検証他
有力2歳馬ロックオン
3~5年間長期安定黒字の金脈条件はこれだ!
KATSUMI ANDO
101%銀行馬券ガイド
2010年10~11月東京・京都・福島編
付録小冊子
買い続ければ必ず儲かる!?
101%銀行馬券ガイド
お待たせしました!単行本第2弾
うままんが日記2
【収録馬】アグネスデジタル、アドマイヤベガ、ヴァーミリアン、ウオッカ、エアグルーヴ、カネヒキリ、カンパニー、サンデーサイレンス、ゼンノロブロイ、ダイワメジャー、タニノギムレット、テイエムオペラオー、トウカイテイオー、ナリタトップロード、ブエナビスタ、メジロマックイーン、ユキチャン、レッドディザイア など。
A5判 128ページ 定価1260円(税込み)
絶賛発売中
どちらもウオッカの書き下ろし新作収録!
美麗フォトと渾身のストーリーで贈る!
名馬物語 2001-2010 ~21世紀の名馬たち~
エンターブレイン・ムック
【収録馬】ウオッカ、キングカメハメハ、トウザヴィクトリー、ディープインパクト、タップダンスシチー、デュランダル、ファインモーション、ネオユニヴァース、ハーツクライ、シーザリオ、ゼンノロブロイ、シンボリクリスエス、メイショウサムソン、スイープトウショウ、テイエムオーシャン、アグネスデジタル、ダイワスカーレット
A4判変型 146ページ 定価1400円(税込み)
ANNIVERSARY 10th thanks! eb!
enterbrain 株式会社 エンターブレイン 電話0570-060-555(代表) URL:http://www.enterbrain.co.jp/ 発売元:株式会社角川グループパブリッシング

9.26ヴァルキリー激勝で、無差別級のベルトに王手!



女性人気も出るとうれしいです♥

21世紀のレジー・ベネット

中井りん 雨の湾岸を行く――

ダッダーン! ボヨヨン! ボヨヨン! でおなじみの中井りんが、またまた『kamipro』に登場ダーッ! ヴァルキリー無差別級トーナメント1回戦に勝利し、その翌日に取材をさせてもらったのだが、その日はなんと雨――。♪雨は冷たいけど、濡れていたいの～。というわけで、哀愁漂いまくる中井りんの衝撃ショットを堪能せよ!

聞き手／松下ミワ　撮影／吉場正和
試合写真／©GCMコミュニケーション

表紙になりたいです! 優勝したらぜひよろしくお願いします

——いやあ、昨日の大会は本当に凄かったです!

りん ありがとうございます。フフフ。

——何が凄かったって、試合はもちろんですけど、試合後に中井選手を囲むファンの方々の数が凄まじかったですよね。試合後は毎回あんな感じなんですか?

りん ああ、そうですね。たぶん、2月の大会はもっといて、倍ぐらいはサインした気がします。

——倍もいましたか! 昨日だけでも軽く50人ぐらいいましたよね。試合直後にあんなに囲まれて困りませんか?

りん そんな、困らないですよお。逆にとってもうれしいです。エヘヘヘヘ。昨日はメインだったんで、なかなか控室に帰れなかったんですけど、でもファンの方に来てもらえるのは凄く光栄に思ってますよ。逆に待ってもらってるのもちょっと悪いといいますか。

——やはり中井選手はサービス精神旺盛なんですねえ。聞くところによると、『kamipro』を持ってきてサインをおねだりしてたファンもけっこういらっしゃったとか。

りん ああ、昨日はそうでしたね。というか『kamipro』さんでは中井の写真をたくさん使ってもらってとってもうれしいかったです。エヘヘヘへ。

——こちらこそありがとうございました。ちょっとビックリしましたけど。

りん そうですかあ? アハハハハ! あれって、ページに使う写真とかは全部松下さんが決めるんですか?

——ええ。一応、聞き手兼ページ担当者ということで、いろいろ決めさせていただいてます。

りん ……表紙も松下さんが決めてるんですか?

——ひょ、表紙ですか!?(笑)。ええっと、表紙は編集長という人がいてですね、その方がページ数とか表紙を決めることになってるんですよ。どの雑誌もだいたいそうだと思いますけど。

りん ふーん、なるほど……(考え込んで)。

——……表紙になりたいんですか?

りん なりたいですよお! ヴァルキリーで優勝したらお願いします(真剣に)。

——わ、わかりました。編集長にその旨、伝えておきます!

りん よろしくお願いします(再び真剣に)。あの、そして毎回載せていただいてありがとうございます。

——こちらこそ、いつも大反響で。

りん でも、昨日は『kamipro』を持った方は……10人はいなかったですけど、7、8人かな? 一人の人が2冊持ってきたりもしてましたね。

——一人2冊もですか!

りん あ、2冊というのは、前に載せてもらったヒョードル表紙の号(『kamipro Special 2010 AUGUST』)と、今回の号(『kamipro No.151』)を1冊ずつってことですよ。私が載ってるページを開いて、そこにサインをして。でも、私が本を折ってサインを書こうとしたら「折ったらダメです!」って言われたんですよね。

——ファンの方々もいかにいい状態で残すか必死なわけですねえ。それで、やはりここは『kamipro』読者のためにも、我々も中井選手のサインをもらいたいと思ってるんですよ。

りん あ、そうなんですかあ。アハハハハ! じゃあ、もしよかったらこれもどうぞ。はい!(といって、秘蔵のスナップショットを取り出す。詳しくは読者プレゼントページをご覧ください)。これ、読者の方にプレゼントしてください。

——こ、これはまた前にも増して素晴らしい写真ですね!

りん なんか、恥ずかしいですけどね、エへへへへ。これ、中井からチケットを買ってくれた人に特典であげてるものなんですけど、格闘技界を開拓していく気持ちでというか、試合前だったんですけど、撮影も時間をとって頑張りました。

——ほっほー、中井選手の頑張りには本当に頭が下がる思いです。しかし、ファンの方たちは昨日は大満足だったでしょうね。こんな写真がもらえるうえに、中井選手のあんな素晴らしい一本勝ちを観られるなんて。

りん エヘヘヘ。ありがとうございます。昨日はメインだったので、なんとか私が盛り上げないといけないって思ってて。試合は、皆さん、いつも一本かKOを期待してるでしょうから、それが達成できて凄くよかったです。

——昨日はセコンドの館長(修斗道場四国館長・WILD宇佐美)が指示を飛ばす間もないくらいにあっという間に決まったというか。

りん 相手の動きに合わせて入ったらうまくいったという感じだったんですよね。毎回、試合の内容に納得いかないと試合後すぐに大反省会をするんですけど、昨日はそれもなく、よかったです。

——そして、これはたいへん意外なんですが、中井選手は昨日の大会が初めてのメインだったんですね。

りん そうなんですよ。なんか除々に上がっていってメインということになったんですけど、やっぱり自分の試合だけじゃなくて、大会を盛り上げないといけないという思いが凄くあって、いろいろ入場から試合から考えたんですけど、入場は結局何もできなかったんですよねえ(残念そうに)。

——でも、入場も非常によかったです。



9.26ヴァルキリーで無差別級トーナメント1回を腕十字で突破した中井。次回、決勝で勝てば初の王座戴冠となる。しかし、試合も凄いけど、ファンの方々の追っかけも凄い!

前も言いましたけど、獰猛な〝ヴァンダレイ・モード〟に切り替わってたというか。

りん　アハハハ！　またそんな顔してましたあ？　でも、〝ヴァンダレイ・モード〟っておもしろいですね。フフフ。

――本当に勇ましいというか。それで、あの腕十字での圧勝劇があったわけですが、そもそも今回の無差別級トーナメントはどういう経緯で決まったんですか？

りん　ええっと、でも主催者から普通に言われてですね。ずっとベルトがほしいと言ってて、それでなんとか組んでいただいたという感じです。

――「ベルトがほしい」という中井選手の訴えを聞いて実現したというか。

りん　そうですね。それはあると思います。あらゆるところで「ベルトがほしい」って言ってたんで。

館長　ただ、無差別級というのは想定になかったもんですから、ちょっとビックリしたんですけどね。

――ほう。そうだったんですか。

館長　でも、無差別級って言葉どおり全部の階級じゃないですか。全部の階級で、なおかつあらゆるすべての格闘技を合わせても、国内で中井に勝てる選手は誰もいないと思ってるんで、無差別でもなんでも受けようということで受けたんですよね。

――逆に中井選手の強さを証明できるというわけですね。それを聞いたとき、中井選手はどう思いました？

りん　もっとおっきくならないといけないなって。体重とかももっと増やしたほうがいいかなって思いました。だから、前にも増してたくさん食べるようになりましたし、そのへんも頑張らないといけないなって。

館長　おとといの計量で65・7キロだったんですよ。4年前に格闘技を始めたときは52キロ級ぐらいしかなかったもんですから、13キロぐらいは増えてますね。

――そんなに！　プロレスラーみたいですね。

りん　アハハハ！　でも、いまもまだ頑張って増やそうと思ってますね。食べる量を増やして、なるべくいいものをたくさん取り入れるというか。とくに何キロまでとかいう目標みたいなのは作らずに、自分が動ける一番いい体重まで持っていきたいなって思ってます。

――なるほど。ちなみに、トーナメントのもう一つの山で闘ってた佐藤瑞穂選手と武田美智子選手のほうが大きかったですもんね。



雨上がりの湾岸を歩く中井りん。風に吹かれるロングヘアがたまらない。そんな中井は、じつは『笑っていいとも!』から出演オファーが来たそうだが、企画が合わず、出演を断ったとか。タモさんと絡む中井りんを見てみたかったが……残念すぎる!

NAKAI RIN

私にとって今度のベルトは通過点。必ず獲って世界を目指したいです

りん　そうですね。私の試合も一つ前だったからほとんど試合は観られてないんですけど、武田さんがとくに大きかったですよね。

館長　でも、武田選手は自分より小さい佐藤選手に負けましたし、佐藤選手も前に中井に負けてるんで、とくに大きいから負けるということではないんですよ。

――ほう。じゃあ決勝戦は佐藤選手との再戦ということになるんですね。となると、もうベルトは目前だ、と。

りん　いやいやいやいや、油断しちゃダメですよお。こっちのほうがプレッシャーがありますし、絶対に負けられないですよね。

――でも、試合後には「ベルトに対する気持ちは誰よりも強い」と言われてましたもんね。

りん　それはそう思います。私が一番強いです。必ず獲らないといけないと思ってます。今度のベルトは通過点だと思ってるんで、必ずベルトを獲って、世界を目指したいと思ってますね。

――その「世界を目指す」というのは、ストライクフォースを視野に入れているということですね。

りん　そうです。でも、すぐ試合ができると思ってるわけじゃないんですよ。皆さん「優勝したら、次の試合からストライクフォースですか？」とか聞かれるんですけど、そのへん誤解をしている人がいるみたいなんですが、私は海外の試合に出たとしても、海外に集中して国内に出ないということではなくて、できるかぎり国内のヴァルキリーに出場し続けたいと思っているんです。

――ちょっと気が早いかもしれませんが、チャンピオンになったら防衛戦もしないといけないですしね。

りん　そうです。そして、ヴァルキリーのチャンピオンが同時に海外のチャンピオンだとヴァルキリーの価値が上がると思うんですよ。だから私がそうなってヴァルキリーや日本の女子格闘技を引っぱっていきたいというぐらいの勢いでやっていきたいと思ってます。

――それはもっと中井選手の試合が観たい日本のファンも安心ですね。

りん　エヘヘヘヘ。だから期間を置いてというか、いい時期に行けたらいいなと思ってます。だた、なるべく遅い時期のほうがいいのかなとは思ってますけど。

――それはどうしてですか？

りん　それは……。

館長　中井はまだ日に日に強くなって成長し続けていますからね。できるだけ遅いほうが中井には有利なんです。

りん　それに、ヴァルキリーのチャンピオンになったら防衛戦だってしないといけないですし、エヘヘヘ。

――ところで、以前お話をうかがったときに、ヴァルキリーとかジュエルスとか団体の垣根はあまり意識してないと言われてましたけど、ベルトを獲ったらジュエルスに乗り込んでいってやるという思いもあるんでしょうか？






男性からの人気は写真とかで頑張ってるからだろうなって。でも、女性人気って……

りん　うーん、乗り込んでいってやるというか、逆にヴァルキリーに来ればいいいと思うんですよね。私はパウンドありのほうがいいし、ヴァルキリーのチャンピオンだったら向こうから来てくれたほうがいいですよ。

——はー、カッコいいですねえ。

りん　エヘヘへ。そうですかあ？　同性の方からそう言われるとうれしいです。昨日も撮影に女の方が来てくれたんですけど、凄くうれしかったんですよ。たぶんちょっとはわかると思うんですけど、男性からの人気は写真とかで頑張ってるからだろうなと思ってて、でも女性人気ってそうじゃないじゃないですか。

——な、なるほど。ちなみに、次の〝作戦〟も練ってる感じでしょうか？

りん　一応、メイドさんみたいなことはちょっと考えてるんですけどお、いつ登場するかとか、ちょっとわからないですけどね。もうあんまり脱ぐのは恥ずかしいんで、着ていきたいんです。

——まあ、寒くなる時期でもありますからね。

りん　エヘへへへ。皆さま、どうなるか期待してくださいって言いたいです。

——さて、ぜんぜん話は変わりますが、中井選手は音楽なんかは聴きますでしょうか？

りん　はー、音楽ですか？

——というのも、今回の『kamipro』で音楽特集をやるんですよ。

りん　そうですねえ、練習中はもうダンスミュージックばっかりで、凄くノリのいいダンスミュージックをけっこうかけてノリノリでシャドーとかしてるぐらいですね。日本語の歌詞だと深く考えちゃうんで。

NAKAI RIN

——歌詞の意味を熟考してしまうわけですね。

りん　そうなんです。でも、普段はそんなに聴かないほうだと思いますよ。

——ご自身が歌ったりはしないんですか？

りん　（急に硬くなって）まったく歌いません。苦手なんで、音痴なんで。

——カラオケも？

りん　行かないです。

——ほう。館長はどうなんですか？

館長　いやー、僕も行かないですねえ。もう若くないんで。でも、中井は歌うのもいいかもしれないですね、歌を練習させて歌手の方面にいってCDを出すぐらいまでになればいいというか。

——いやー、そうですよね。そしたらまた露出が急激に増えますから。バンバン人気が上がりますもんね。中井選手、リング上で歌うのはどうですか？

りん　うーん……。

館長　たとえば、アイドル歌手としてデビューするとかね。

りん　ああ、なるほどお。歌って、格闘技してかあ……。うーん、でも歌に自信があるんだったらそれもいいと思うんですけど、かなりダメな分野なんで、ちょっとダメかなあ。

——あらら。じゃあ中井選手は中井選手らしいパフォーマンスで今後も頑張っていかれるということですね。

りん　そうですね。たぶん、誰にも真似できないと思うので。

——それはそう思います（笑）。

りん　なので、何が飛び出るかわかりませんけど、今後の中井を楽しみにしていていただければと思います。フフフフフ。

【10年9月27日／都内・某所にて収録】



なかい・りん■1986年10月22日、愛媛県出身。06年10月にパンクラスでプロデビュー。その後スマックガール→ヴァルキリーに参戦、WINDY智美や藪下めぐみを下し、現在7連勝中と正真正銘本物志向のファイターである。現在、初のベルトとなるヴァルキリー無差別級トーナメント優勝に向けて奮闘中。このページで衝撃を受けた方は、ぜひホームページ（http://rinnakai.sakura.ne.jp/）もご確認ください。156cm、61.2kg。

「格闘技業界と社会の秩序を考える」な読者プレゼント

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記のうえ、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（商品は2010年11月26日（金）頃発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦あなたが好きな「入場テーマ曲」といえば?⑧あなたがkamiproに望むことは?

【宛先】〒162-0805 東京都新宿区矢来町41-1 ザ・フタガミハウスNo.1
（株）ツー・スリー内『kamipro』編集部　「二枚舌を三枚におろしてやる」係まで

※応募締切は2010年11月12日（金）当日消印有効

PRESENT 01 SPECIAL PRESENT

1名様



RENA直筆サイン入り『kamipro』151号

［非売品］

今月で本誌3号連続登場となるRENA。今回は表紙を飾った前号にサインを入れてもらいました！「大阪楽しいでー!!（笑）」の文字がキュートすぎるにもほどがある！

RENAオフィシャルブログ■http://plus-u.jp/blog/sbreina/

PRESENT 02

1名様



RENA直筆サイン入りTシャツ

［非売品］

これまたRENAから素敵なプレゼント！　本人同様にスポーティでさわやかな白のTシャツだい！　こちらのサイズはM。

PRESENT 03

1名様



中井りん直筆サイン入りブロマイドセット

［非売品］

こちらもすっかり本誌の人気者、りん様がオリジナルブロマイドをボヨヨンとプレゼント！　サイン入り本誌もセットで！

中井りんの日記■http://d.hatena.ne.jp/

PRESENT 04

1名様



山本“KID”徳郁&福田力直筆サイン色紙

［非売品］

今号で実現したKIDと福田の対談。KIDは福田がムリーロ・ニンジャ戦に臨むときも「チャンスだから死ぬ気で行け」と激励したんだとか。

山本“KID”徳郁BLOG■http://blog.krazybee.jp/

PRESENT 05

1名様



「TRIANGLE CHOKE」直筆サイン色紙

［非売品］

これはカッチョいい！　メイヘム、TK、菊野の三者による、正真正銘この世に1枚のサイン色紙！ぜひいつかライブをやってほしいものだ。

DREAMオフィシャルウェブサイト■http://www.dreamofficial.com/

PRESENT 06

1名様



坂本龍一&カクトウギ セッション『SUMMER NERVES』（LPレコード）

闘道館からは今号の特集に合わせて、坂本龍一が79年に出したLPレコード！　昭和全日マットでおなじみの『カクトウギのテーマ』を収録。

闘道館■http://www.toudoukan.com/

PRESENT 07

1名様



単行本

『嫌われ者。』プロ格闘家が見たPRIDE時代とその後の“光と影”

［イースト・プレス／¥1,470（税込）］

あの高瀬大樹のブログ“光と影”が一冊に！　ブログでは記されなかったさらなる衝撃事実も!?

高瀬大樹オフィシャルブログ■http://ameblo.jp/takase-d/

PRESENT 08

1名様



尾崎魔弓直筆サイン色紙

［非売品］

OZアカデミー次回大会は12月12日に新宿FACEで開催。お問い合せはTEL.03-5926-3491（OZアカデミー）まで!

OZアカデミー女子プロレス公式HP■http://www.oz-a.com/

PRESENT 09

1名様



マーティ・フリードマン&ヨアキム・ハンセン直筆サイン色紙

［非売品］

メタル談義に花を咲かせたマーティとヨアキムの寄せ書きサイン色紙！　メタラーで格闘技ファンならこれはなんともゲットしたいところだ!

PRESENT 10

1名様



マーティ・フリードマン直筆サイン入りCD『BAD D.N.A.』

［エイベックス・エンタテインメント／¥2,600（税込）］

現在絶賛発売中のマーティの最新アルバム『BAD D.N.A』！　その世界を興奮させた超絶ギターテクにヘドバンしながら酔いしれろ!!

Marty Fan.com■http://www.martyfan.com/

PRESENT 11

1名様



DVD

『新☆四角いジャングル』

［GPミュージアムソフト／¥3,990（税込）］

あの真樹日佐夫原作の格闘ドラマ！　マット界からは棚橋弘至、ミノワマン、風香、鈴木みのる、菊田早苗、佐山聡がキャストとして参加!

オフィシャルWEBサイト■http://new-square-jungle.jimdo.com/

kamipro152 応募券 アルバイト

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/

kamipro 紙のプロレス

No.152
2010年11月6日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一
青柳昌行

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
堀江ガンツ
松下ミワ
スズキィ
八木賢太郎（"DIY"のため非番）

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
高橋くん

編集次長（エイシンッフラッシュ!）
松林 貴

デザインGM
出田 一（TwoThree）

デザイン隊長
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
鐘田やっちゃん
白木みのる（以上、TwoThree）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
吉場正和
山口比佐夫
戸成嘉則
タイコウクニヨシ
梅木麗子
金山フヒト
丸山剛史

ポヨヨン! ポヨヨン!!
入江りん（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

業務部
樽本"米坪変更"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

編集チアガール
金川"ナツコ"奈津子
安部"クリン"悠子

秋めきマダム
廣橋久美子

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431
東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

発売元
株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177
東京都千代田区富士見2-13-3

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン
スポーツ企画編集部 ☎03-3265-7166

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL: http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。



真冬のミステリー特集

特集 UFO

※この特集は超高確率でアブダクトされる可能性があります。

NEXT ISSUE

10.24 DEEP、10.30 SRS、11.8 K-1MAX詳報

No.153は11月22日（月）発売予定!

※地域によっては発売が多少遅れることもあるんだメ〜ン!



人類最強を、
決めようじゃないか。
EA SPORTS
総合格闘技
道場
世界一強い男を決めろ「EA SPORTS 総合格闘技」は、全米屈指の総合格闘技STRIKEFORCEと契約、豪華メンバーを多数収録、本物の"格闘技"が体験できる。
直観的なスティック操作、
感覚で遊べるボタン操作。
"関節技"を視覚的にわかりやすく表現。
サブミッションの快感が楽しめる。
キャリアを積んで選手を
育てることができる。
オリジナル選手の作成とオンライン上での
共有が出来るオンライン対戦。
吉田 秀彦、エメリヤーエンコ・ヒョードル、青木 真也、ボブ・サップ、川尻 達也、ヨアキム・ハンセン、アリスター・オーフレイム、ニックディアス、ジョシュバーネット、ジェイソン"メイヘム"ミラーなど総勢約60名を収録！
2010.11.11 発売
http://easports.jp/mma/2010/
PS3 PlayStation 3
XBOX 360
エレクトロニック・アーツ株式会社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-33-4 住友不動産西新宿ビル4号館7F［カスタマーサポート問い合わせ：0570-081800］
"PS"、"PlayStation"は株式会社ソニーコンピュータエンタテインメントの登録商標です。"PS3"は同社の商標です。Xbox360 ロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。マイクロソフト、マイクロソフトゲームスタジオロゴ、Xbox 360ロゴ、Xbox LIVEロゴ等は米国Microsoft Corporationおよび/またはその関連会社の商標です。■掲載のソフト画面は、開発中のものです。■ソフトの内容及び発売日、価格等は改善などのため予告なく変更することがあります。■この印刷物に記載されている社名及び製品名は、各社の商標及び登録商標です。
©2010 Electronic Arts Inc. EA, EA SPORTS and the EA SPORTS logo are trademarks of Electronic Arts Inc. All other trademarks are the property of their respective owners.
携帯サイトはこちら▶
CERO B 12才以上対象

kamipro 2010 152 音楽なくして闘いなし!! NO MUSIC, NO BATTLE

2010年11月6日
発行人／浜村弘一 編集人／斉藤慎一、青柳昌行
発行所／株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
発売元／株式会社角川グループパブリッシング 〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3

enterbrain

特別定価：本体895円＋税

雑誌61972-26 Ⓗ2011.02

Printed in Japan 図書印刷株式会社

ISBN978-4-04-726852-4
C9476 ¥895E

9784047268524

1929476008954